YAMAHA

Clavinova

CVP-79/69/59

取 扱 説 明 書

安全上のご注意　**ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。**

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。
お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器の裏側に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

⚠ **注意** 感電の恐れあり キャビネットをあけるな ⚠	注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、⚠は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠は注意が必要なことを示しています。

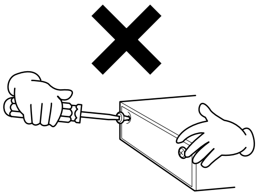
⃠ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

＊お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告　この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
感電や火災、または故障の原因になります。

電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なにおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

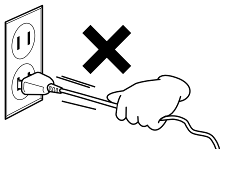
手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

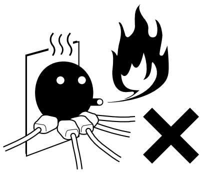
⚠注意　この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

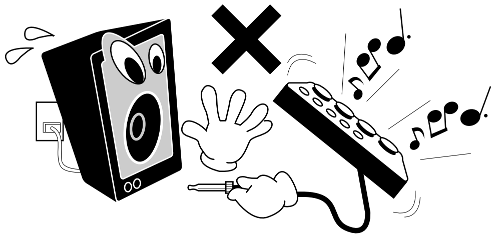


タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



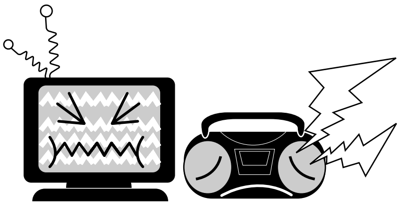
長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。



直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

キーカバーで指などをはさまないように注意する。また、キーカバーのすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。

キーカバーや鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。
感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

本体を壁につけない。
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。

組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

イスについて

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

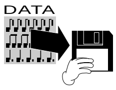
イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

イスにすわったままでイスの高さを調節しない。
イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。

イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。
ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

作成したデータの保存について

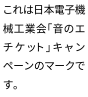
作成したデータはこまめにフロッピーディスクに保存する。
作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、必ずフロッピーディスクに保存することをおすすめします。



不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

このたびは、ヤマハクラビノーバCVP-79/69/59をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。クラビノーバの優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、本書をご活用いただきますようご案内申し上げます。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してくださいますよう、お願い申し上げます。

CVP-79/69/59をご理解いただくために、「クラビノーバミュージックワールド」ビデオ、基本機能「活用ガイド」ブック、取扱説明書(本書)の3点を用意しました。

最初に**「クラビノーバ ミュージックワールド」ビデオ**をご覧ください。CVP-79/69/59の魅力あふれる世界を音と映像で実感していただけます。
次に、取扱説明書(本書)の「安全上のご注意」をお読みいただいたあと**基本機能「活用ガイド」ブック**で、CVP-79/69/59の楽しみ方を発見してください。
取扱説明書(本書)には、CVP-79/69/59のすべての機能と操作法が詳しく説明されています。「活用ガイド」でお楽しみいただきながら、またそのあとでも、必要に応じてご参照ください。

付属品(お確かめください)

ディスクオーケストラ・コレクション
美しいオーケストレーションを持った「自由の大地」やJ-POPバラードのスタンダード「オリビアを聴きながら」など、楽しい曲が入ったディスクとミュージックブックのセットです。クラビノーバで再生させたり、一緒に演奏したり、ガイド機能を使って練習をしたりなどいろいろな方法でお楽しみいただけます。使い方は、基本機能「活用ガイド」のP2〜と取扱説明書のP72〜をご参照ください。

ディスクオーケストラ・コレクション曲目索引
スタンダードやヒット曲、クラシックの名曲など、さまざまな音楽がディスクオーケストラ・コレクションとして別売されています。クラビノーバで再生させたり、弾いてみたい曲を探すのにお使いください。

録音用ディスク
自分の演奏を録音するための空きディスクです。

和文シート
楽器のパネルにのせてお使いください。親しみやすい日本語表示でパネルのボタン名を確認することができます。

ビデオ「クラビノーバ ミュージックワールド」
クラビノーバの魅力あふれる世界を音と映像で実感していただけます。最初にご覧ください。

基本機能「活用ガイド」
実際の楽譜を使ってCVPの主な楽しみ方をご紹介しています。ビデオ「クラビノーバ ミュージックワールド」をご覧になり、取扱説明書の「安全上のご注意」をお読みになったあと、チャレンジしてください。

取扱説明書(本書)

保証書

ご愛用者カード

高低自在椅子BC-25
ご自分の使いやすい高さに調節してご利用いただけます。

CVP-79/69/59の特長と楽しみ方

見やすく操作しやすい
大型LCD画面
(→P19)

リアルで豊かな
響きの192音色
(CVP-69/59では172色)
(→P26)

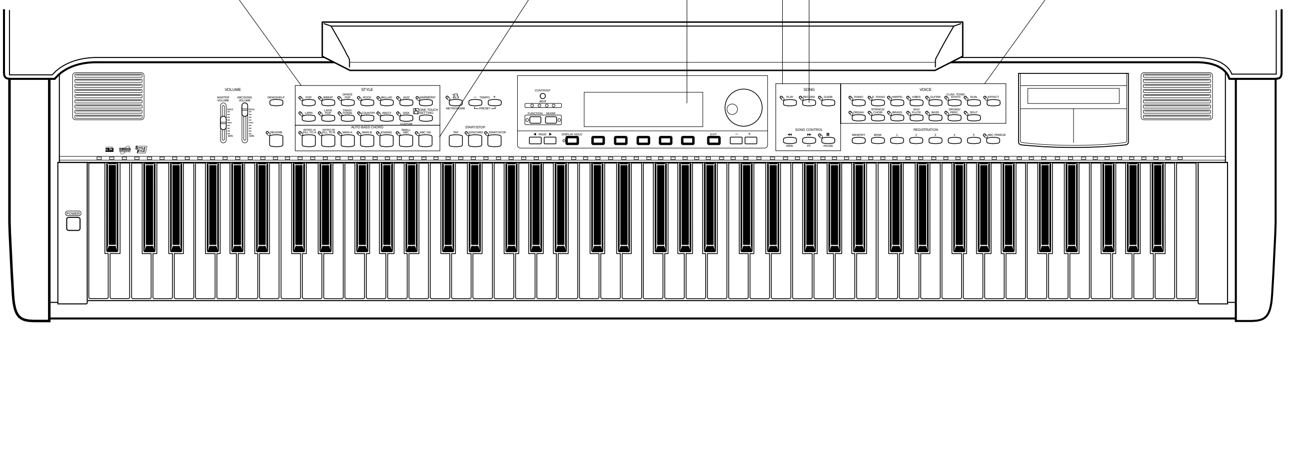
気軽に伴奏付き演奏が
楽しめる自動伴奏
(ABC)機能(→P45)

オーケストラやバンドに
合わせて演奏できる
ディスクオーケストラ・
コレクション(→P72)

多彩な100種類の
伴奏スタイル
(→P38)

自分の演奏を簡単に
録音できる
録音機能(→P82)

他の電子機器と接続して
音楽の世界を拡げる
MIDI機能(→P125)



CVPは、多彩な機能を持った電子ピアノですが、その代表的な3つの楽しみ方をご紹介します。

●ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)が使える(P72)

DOCは、クラビノーバ専用の、ピアノ演奏にオーケストラの伴奏がついた音楽ソフトです。「鑑賞」「オーケストラの自動演奏をバックに自分でピアノパートを演奏」「ガイド機能を使ったピアノパートの独習」ができます。自分のペースで練習し、DOCのレパートリーを増やしていくというのが、CVPの大きな使い方の1つです。付属の1セット(ディスクと楽譜)のほかに、別売でたくさんのタイトルが用意されています。

●自動伴奏(ABC)を使って気軽に伴奏付き演奏が楽しめる(P45)

自動伴奏(ABC)とは、左手で和音を弾くだけで、CVPがお好みの音楽スタイルで伴奏を自動演奏してくれる機能です。それに合わせて右手でメロディを弾くだけで曲ができあがります。メロディにコードがついた楽譜さえあれば、どんな曲でも自動伴奏(ABC)を使って演奏できます。さらに、フルキーボードABCを使うと、ピアノの楽譜を楽譜どおりに弾くだけで、和音を弾かなくてもCVPが伴奏を自動演奏してくれます。自動伴奏(ABC)を使って、お手軽にレパートリーを増やすことができます。

●録音機能が使える(P82)

演奏を録音できますので、自分の演奏を繰り返しチェックでき、レッスンに活用できます。
多重録音機能を使うと、パート別に録音を重ねていって、一人でアンサンブルの曲を作り上げることができます。

この3つについては基本機能「活用ガイド」ブックでも紹介しています。このほかの多彩な機能も合わせて、CVP-79/69/59をお楽しみください。

取扱説明書(本書)の構成

この取扱説明書は大きく「準備と基礎理解編」、「本編」、「資料編」に分かれています。

「準備と基礎理解編」:
ご使用前に必ずお読みください。特に"CVP-79/69/59の基礎理解"と"操作の基本と共通機能"の項目は、一とおりお読みいただきますと、以降の説明が大変理解しやすくなります。

「本編」:
このクラビノーバを実際にお使いいただきながら、必要に応じてわからないところや知りたい機能をお調べください。書いてあるページを見つけるために、"目次"(P7)や"索引"(P158)、また"機能の全体構成一覧"(P11)をご利用ください。

「資料編」:
"CVP-79/69/59の組み立て方"(P150)、"音色リスト"(P143)、"伴奏スタイルリスト"(P148)をはじめとして、お役に立つ資料をまとめてあります。

LCD画面について

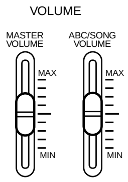
この取扱説明書に使われているLCD画面表示のイラストは、すべてLCD画面が日本語表示になっている場合の例を採用しています。P21～22の"ヘルプ機能と日本語表示の切り替え"の説明を見てLCD画面を日本語表示へ切り換えてください。

■使用しているイラストは説明のための1つの例にすぎません。お使いのクラビノーバの状態によってイラストと異なる画面が出る場合もありますのでご了承ください。

表記上のきまり

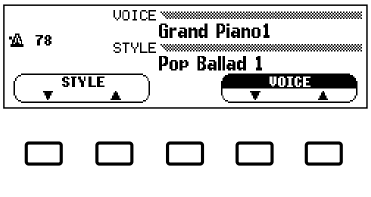
この取扱説明書では、以下に示すようにいくつかのカッコを使ってパネル上のボタンやLCD画面上の表示などを区別しています。

【　　】: パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック(端子)といった言葉は省略されます。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】と示されます。



【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】
パネルの表記　和文シートの表記

[　　]: LCD画面上にある項目やその項目に対応する(すぐ下にある)LCDボタンを示します。たとえば、LCD画面上に表示されている"VOICE"の部分は、[VOICE(ボイス)]と示されます。また、LCD画面上に表示されている"VOICE▲▼"に対応したLCDボタンは[VOICE]▲▼と示されます。



「　　」: LCD画面上に表示されるメッセージを示します。たとえば、「よいですか？(Are you sure?)」のように使われます。

「よいですか？(Are you sure?)」
日本語表示　英文表示

もくじ

準備と基礎理解編

安全上のご注意 .... 巻頭
付属品 3
CVP-79/69/59の特長と楽しみ方 4
取扱説明書(本書)の構成 6
各部の名前 8
CVP-79/69/59の基礎理解 10
フロッピーディスクの取り扱い 13
ご使用前の準備 15
ボリューム調節について 17
- 【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】 17
- 【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】 17
- 【MIXER(ﾐｷｻｰ)】 17
- 【EXP PEDAL】(CVP-79のみ) 18

操作の基本と共通機能 19
- LCD画面(液晶ディスプレイ)とLCDボタン 19
- 【DISPLAY HOLD(画面固定)】 20
- PAGE(画面送り)【◀】【▶】 20
- 【MIXER(ﾐｷｻｰ)】 21
- 【EXIT(戻る)】 21
- 【CONTRAST(ｺﾝﾄﾗｽﾄ)】 21
- ヘルプ機能と日本語表示への切り替え 21
- メモリーバックアップ 23

本編

デモ演奏 24
音色選択 26
- キーボードパーカッションでリズム演奏する 27
  - 鍵盤と同時発音数について 27

デュアル機能(2つの音色をミックスする) 28
- デュアルモードのON/OFF 28
- 第2音色を選ぶ 28
- 2つの音色の音量バランスを設定する 29
- デチューンの深さを設定する 29

スプリット機能(鍵盤を2つのパートに分けて弾く) 30
- スプリットモードのON/OFF 30
- 左領域音色を選ぶ 30
- 左／右領域音色の音量バランスを設定する 31
- スプリットポイントを変更する 32

リバーブ(残響効果をかける) 33
- リバーブのON/OFF 33
- リバーブタイプ(種類)を選ぶ 33
- トータルデプス(全体のリバーブの深さ)を設定する 34
- パートごとにデプス(深さ)を設定する 34

エフェクト(音色効果をかける) 35
- エフェクトのON/OFF 35
- エフェクトタイプ(種類)を選ぶ 35
- エフェクトデプス(エフェクトの深さ)を設定する 36
- プリセットの値(初期値)に戻す 36

ペダルを使う 37
- ダンパーペダル(右のペダル) 37
- ソステヌートペダル(まん中のペダル、CVP-79/69のみ) 37
- ソフトペダル(左のペダル) 37

伴奏スタイル 38
- 伴奏スタイルを選ぶ 38
- テンポ(速さ)を調節する 39
- 伴奏スタイルをスタートする 40
- フィルイン 42
- ブレイク 42
- 伴奏スタイルをストップする 43
- 左のペダルによるコントロール 43
- メトロノームを使う 44

自動伴奏(ABC)を使って演奏する 45
- 自動伴奏の種類(シングルフィンガー、フィンガード、フルキーボード) 45
- 自動伴奏(ABC)全体のボリューム調節 49
- 自動伴奏(ABC)のパート別のボリューム調節 49
- スモールABC 50
- スプリットポイントを変更する 50
- コードアシスト機能 51
- ハーモニー機能 52
- ワンタッチセッティング機能 54

オリジナルの伴奏スタイルを作る(カスタムスタイル機能) 55
- カスタムスタイルに関するその他の機能 61
- カスタムスタイルの再生 63
- カスタムスタイルに関するその他のメッセージ 64

スタイルファイルディスクの読み込み 66
- スタイルファイルの読み込み 66
- 読み込んだスタイルを使う 68

レジストレーション機能を使う(パネル状態の登録) 69
- 登録したパネル状態を呼び出す 71
- ABC (自動伴奏)フリーズ機能を使う 71

ディスクオーケストラ・コレクションとソング再生 72
- 再生手順 72
- 特定のパートの再生 74
- 自分で録音した音楽データのパート割り当て 75
- ソング全体の再生ボリュームの調節 76
- ソングの各パートのボリューム調節と音色選択 76
- ガイド機能を使った右手／左手パートの練習 77
- リピート機能 79
- 再生に関するその他のコントロール 80
- 他の種類の音楽データの再生 81

ソングの録音 82
- クイックレコード 83
- マルチトラック録音(多重録音) 86
  - ■新しいトラックを追加する 88
  - ■パンチイン／アウト録音 88
- コードシーケンス機能 90
  - ■コードシーケンスのその他の機能 92
- 録音に関するその他の機能 93
  - ■トラックミックス機能 93
  - ■トラックデリート機能 94
  - ■トラッククオンタイズ機能 94
  - ■リネーム機能(ソングネームの変更) 95
  - ■イニシャルエディット機能(初期データの変更) 96
  - ■ディスクを使わない録音 98
  - ■再生 98

ファンクション 99
- キーボード 100
- サウンド 101
- ペダル 102
- MIDI 1 103
- MIDI 2 104
- MIDI 3 105
- フォーマット 107
- レジストレーション 108
- トランスフォーム 110
- ソングコピー 111
- ソングデリート 113
- マイクロチューニング 114
- バックアップ 117
- リコール 118
- ポップアップタイム 118
- ソングリストプライオリティ 119
- アラートサウンド 119

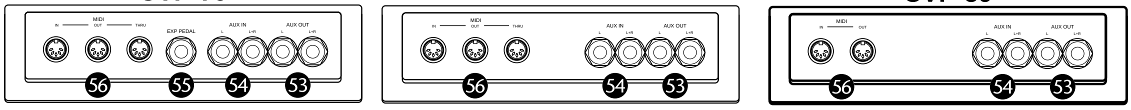
他の機器と接続する 120
メッセージ一覧 121
故障かな?と思ったら 124

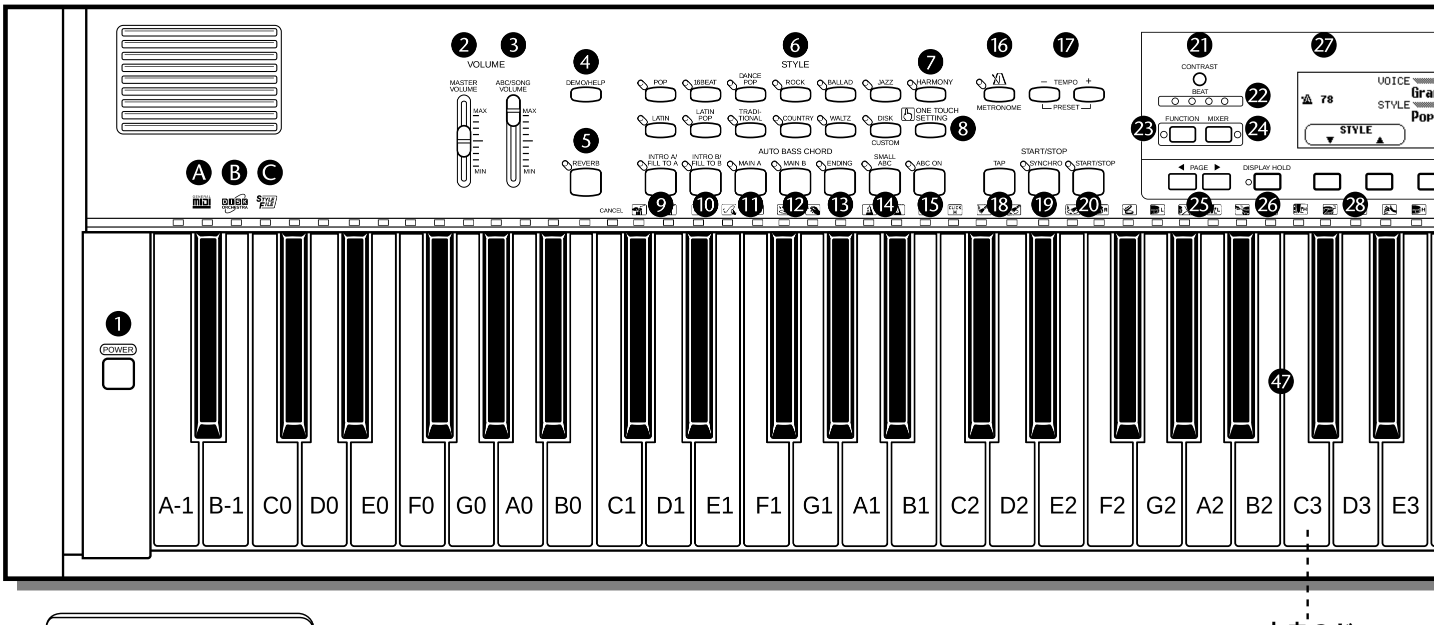
資料編

MIDI及びデータの互換性について 125
MIDIデータフォーマット 131
MIDIインプリメンテーションチャート 142
音色リスト 143
ドラムキットリスト 147
伴奏スタイルリスト 148
バックアップ項目一覧表 149
CVP-79の組み立て方 150
CVP-69の組み立て方 152
CVP-59の組み立て方 154
仕様 156
オプション(別売品)のご紹介 157
索引 158
保証とアフターサービス 161

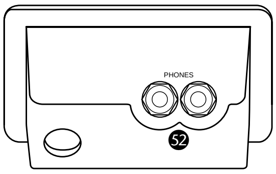
各部の名前

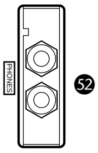
CVP-79
CVP-69
CVP-59





中央のド





CVP-79　　CVP-69/59

Ⓐ GENERAL MIDI

CVP-79/69/59はGM(ｼﾞｪﾈﾗﾙMIDI)規格に対応しています。市販のGM準拠のソングディスクをCVP-79/69/59で再生させることができます。GMについて詳しくはP127をご参照ください。

Ⓑ DISK ORCHESTRA

CVP-79/69/59では、付属および別売のDOC(ﾃﾞｨｽｸｵｰｹｽﾄﾗ・ｺﾚｸｼｮﾝ)ディスクを再生させることができます。DOCの操作についてはP72をご参照ください。

Ⓒ STYLE FILE

CVP-79/69/59では、別売のスタイルファイル(STYLE FILE)ディスクを読み込んで利用することができます。スタイルファイルディスクについてはP66をご参照ください。

❶【POWER(パワー)】 P16

ボリュームセクション

❷【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】 P17
❸【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】 P49

❹【DEMO/HELP(ﾃﾞﾓ/ﾍﾙﾌﾟ)】 P21, 24
❺【REVERB(ﾘﾊﾞｰﾌﾞ)】 P33

伴奏スタイルセクション

❻ STYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタン P38
❼【HARMONY(ﾊｰﾓﾆｰ)】 P52
❽【ONE TOUCH SETTING(ﾜﾝﾀｯﾁｾｯﾃｨﾝｸﾞ)】 P54

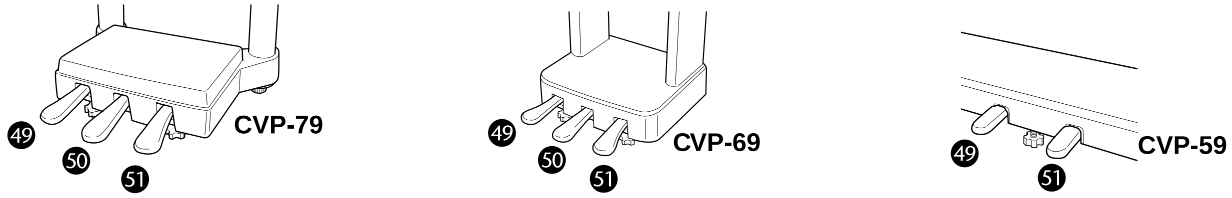
自動伴奏(ABC)セクション

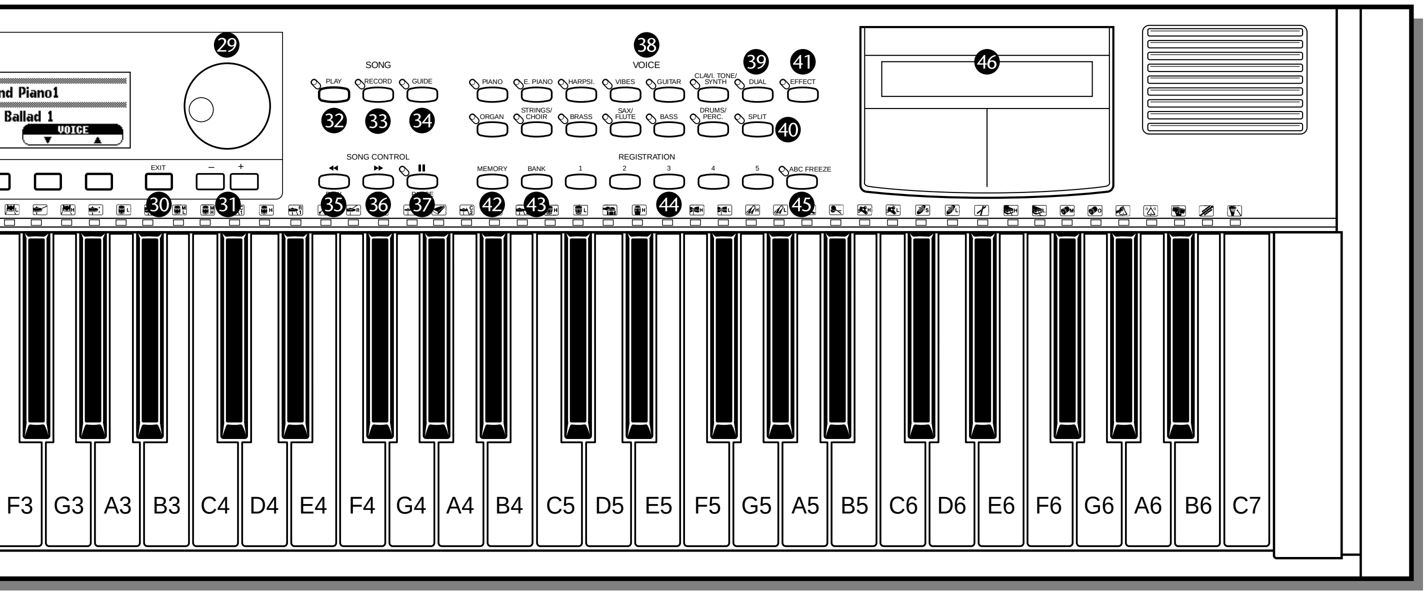
❾【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】 P40, 42
❿【INTRO B/FILL TO B(ｲﾝﾄﾛB/ﾌｨﾙﾄｩｰB)】 P40, 42
⓫【MAIN A(ﾒｲﾝA)】 P40
⓬【MAIN B(ﾒｲﾝB)】 P40
⓭【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】 P43
⓮【SMALL ABC(ｽﾓｰﾙABC)】 P50
⓯【ABC ON(ABCｵﾝ)】 P46

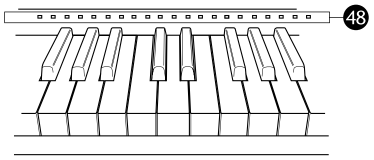
⓰【METRONOME(ﾒﾄﾛﾉｰﾑ)】 P44
⓱ TEMPO(ﾃﾝﾎﾟ)【+】【-】 P39

スタート／ストップセクション

⓲【TAP(ﾀｯﾌﾟ)】 P41
⓳【SYNCHRO(ｼﾝｸﾛ)】 P41
⓴【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】 P40







ディスプレイコントロールセクション

㉑【CONTRAST(ｺﾝﾄﾗｽﾄ)】 P21
㉒【BEAT(ﾋﾞｰﾄ)】 P41
㉓【FUNCTION(ﾌｧﾝｸｼｮﾝ)】 P99
㉔【MIXER(ﾐｷｻｰ)】 P21
㉕ PAGE(画面送り)【◀】【▶】 P20
㉖【DISPLAY HOLD(画面固定)】 P20
㉗ LCD画面(液晶ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ) P19
㉘ LCDボタン P19
㉙【ダイアル】 P19
㉚【EXIT(戻る)】 P21
㉛【+】【-】 P19

ソングセクション

㉜【PLAY(再生)】 P72
㉝【RECORD(録音)】 P82
㉞【GUIDE(ｶﾞｲﾄﾞ)】 P77

ソングコントロールセクション

㉟【REW(巻戻し)】 P80
㊱【FF(早送り)】 P80
㊲【PAUSE(一時停止)】 P80

ボイスセクション

㊳ VOICE(音色)ボタン P26
㊴【DUAL(ﾃﾞｭｱﾙ)】 P28
㊵【SPLIT(ｽﾌﾟﾘｯﾄ)】 P30
㊶【EFFECT(ｴﾌｪｸﾄ)】 P35

レジストレーションセクション

㊷【MEMORY(ﾒﾓﾘｰ)】 P70
㊸【BANK(ﾊﾞﾝｸ)】 P70
㊹ REGISTRATION(ﾚｼﾞｽﾄﾚｰｼｮﾝ)【1】～【5】 P69
㊺【ABC FREEZE(ABC固定)】 P71

㊻ 3.5"フロッピーディスクドライブ P13

㊼ 鍵盤 P8
㊽ 鍵盤ガイドランプ P77

㊾ ソフトペダル P37
㊿ ソステヌートペダル(CVP-79/69) P37
(51) ダンパーペダル P37

(52)【PHONES】 P16
(53) AUX OUT【 R 】【L/L+R】 P120
(54) AUX IN【 R 】【L/L+R】 P120
(55)【EXP PEDAL】(CVP-79) P18
(56)【MIDI IN/OUT/THRU】(THRUはCVP-79/69のみ) P125

CVP-79/69/59の基礎理解

最初に、この取扱説明書をお読みいただく上で知っておいていただきたいいくつかの言葉を説明します。また、CVP-79/69/59の機能の全体構成を紹介します。

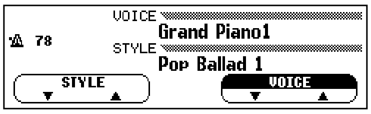
CVP-79/69/59の基礎用語

伴奏スタイル：
自動伴奏を使うときに選ぶ音楽的な意味でのスタイルのことを"伴奏スタイル"と呼びます。いろいろな伴奏スタイルが11個のグループに分かれて用意されています。パネル上の英語表記では"STYLE"となっています。この取扱説明書でも、"伴奏スタイル"を省略して"スタイル"と表現する場合もあります。

モード：
ある機能を実行できる状態を意味します。たとえば、ソングの録音を行ったり、録音に関するいろいろな機能を使える状態を1つにまとめて、ソングレコードモードと呼びます。
また、"種類"、"方式"という意味に使われる場合もあります。たとえば、デモ演奏で、1曲だけ演奏させる(=SINGLE)とか、全曲を続けて演奏させる(=ALL)とかの、演奏のさせ方の方式を選ぶことを"演奏モードを選ぶ"という言い方をします。

初期：
工場出荷時には、CVP-79/69/59の持つさまざまな機能や設定値が標準値や標準の状態に設定されています。これらの設定値や機能の状態を初期値、初期の設定などと呼びます。各機能の初期値は、好みや目的に合わせて変更することができますが、バックアップ機能(P117)の設定によって、電源をOFFにしたあとも変更した値を保持するか、初期値に戻すかを決めることができます。また、"リコール機能"(P118)を使うといつでも初期値に戻すことができます。

基本画面：
電源をONにして、最初に表示される下記のLCD画面を意味します。



ポップアップ：
パネル上のさまざまなボタンを押すと、ある機能を使うための操作画面が表示されますが、これらの画面の中には一時的に表示されるだけで、しばらくするともとの画面に戻るタイプのものがあります。このような画面を"ポップアップ画面"、"ポップアップ表示された画面"などと呼びます。ポップアップ画面の表示時間は初期値で約8秒ですが、P118のポップアップタイムでもっと長くしたり短くすることができます。また、【DISPLAY HOLD(画面固定)】を押して、表示させたままにすることもできます。

CVP-79/69/59の機能の全体構成

CVP-79/69/59の機能は、次の図のように、大きく、基本演奏に関するもの、伴奏スタイルに関するもの、自動伴奏(ABC)に関するもの、ソングの再生／録音に関するものなどに分けられます。

■CVP-79/69/59の基本操作についてはP19をご参照ください。

ここで機能の全体構成を概観しておきましょう。

[機能の全体構成一覧]

基本演奏モード

音色を選んで演奏するモードです。また、2音色を使って演奏したり、音色にさまざまな効果をかけることができます。

音色選択と鍵盤演奏 .... (P26)
キーボードパーカッション .... (P27)
デュアル機能 .... (P28)
スプリット機能 .... (P30)
リバーブ .... (P33)
エフェクト .... (P35)
ペダルの機能 .... (P37)
レジストレーション機能 .... (P69)

伴奏スタイルモード

伴奏スタイルを選んで再生したり、再生されている伴奏スタイルに合わせて鍵盤演奏することができます。また、オリジナルの伴奏スタイルを作成したり、別売のスタイルファイルディスクを読み込んで使用することもできます。

伴奏スタイルの選択 .... (P38)
テンポ調節 .... (P39)
スタート／ストップ .... (P40)
シンクロスタート .... (P41)
メインA/B .... (P40)
イントロ .... (P40)
フィルイン .... (P42)
エンディング .... (P43)
メトロノーム .... (P44)
タップ機能 .... (P41)
カスタムスタイル .... (P55)
スタイルファイルディスクの読み込み機能 .... (P66)

自動伴奏(ABC)モード

いろいろな方法で自動伴奏を楽しむことができます。左手のコード(和音)演奏に合わせて自動伴奏が再生されますので、右手でメロディ演奏することができます。また、右手のメロディに自動的にハーモニーがつけられるハーモニー機能や知りたいコードを探せるコードアシスト機能などがあります。

シングルフィンガー .... (P47)
フィンガード .... (P47)
フルキーボードABC .... (P48)
スモールABC機能 .... (P50)
ハーモニー機能 .... (P52)
ワンタッチセッティング機能 .... (P54)
コードアシスト機能 .... (P51)
パート別のボリュームコントロール機能 .... (P49)

ソングプレイモード

ディスクオーケストラ・コレクションのディスクや自分で録音したソングが入ったディスクを手軽に再生したり、いっしょに演奏して楽しむことができます。ガイド機能やリピート機能を使った効果的な練習方法も用意されています。

ソングの選択 .... (P72)
再生 .... (P72)
ガイド機能と鍵盤ランプ機能 .... (P77)
特定のパートの再生 .... (P74)
リピート機能 .... (P79)
パート別のボリュームコントロール機能 .... (P76)
他の種類の音楽データの再生 .... (P81)

ソングレコードモード

自分の演奏を録音したり、トラック録音やいろいろなエディット機能を使って本格的なソング作りが楽しめます。

クイック録音／再生 .... (P83)
トラック録音／再生 .... (P86)
パンチイン／アウト録音 .... (P88)
コードシーケンス録音 .... (P90)
トラックエディット機能 .... (P93)
イニシャルエディット機能 .... (P96)
フロッピーディスクについて .... (P13)

ファンクションモード

MIDIやディスクに関する機能やCVP-79/69/59をさらに便利に使えるようにするための機能があります。

キーボード .... (P100)
•トランスポーズ
•オクターブシフト
•タッチセンシティビティ
サウンド .... (P101)
•チューン
•パン
ペダル .... (P102)
•レフトペダル
•ダンパーレンジ
•ダンパーモード
MIDI 1 .... (P103)
•送信チャンネル
•ローカルコントロールのON/OFF
•クロック
MIDI 2 .... (P104)
•プログラムのON/OFF
•コントロールのON/OFF
•スタート／ストップのON/OFF
MIDI 3 .... (P105)
•トランスポーズの送／受信
•自動伴奏／ハーモニーの再生データの送信
フォーマット .... (P107)
レジストレーション .... (P108)
•セーブ
•リネーム
•ロード
•デリート
トランスフォーム .... (P110)
ソングコピー .... (P111)
ソングデリート .... (P113)
マイクロチューニング .... (P114)
•セーブ
•リネーム
•ロード
•デリート
バックアップ .... (P117)
リコール .... (P118)
ポップアップタイム .... (P118)
ソングリストプライオリティ .... (P119)
アラートサウンド .... (P119)

デモ演奏モード

デモ曲を再生することができます。デモ曲には伴奏スタイルのデモ11曲、音色のデモ12曲、総合的なデモ2曲の計25曲があります。

ヘルプモード

CVP-79/69/59の各機能の基本的な説明をLCD画面に表示させることができます。説明文の表示は、日本語、英語、フランス語、ドイツ語の中から選ぶことができます。

フロッピーディスクの取り扱い

CVP-79/69/59には「ディスクオーケストラ・コレクション」のディスクや録音用の空きディスクが付属しています。これらのフロッピーディスクは、扱い方を間違えると記録されているデータを失いかねません。フロッピーディスクとディスクドライブユニットをご愛用いただくために、ご使用時には以下のことをお守りください。

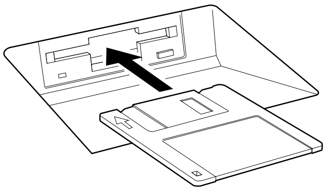
フロッピーディスクの種類

CVP-79/69/59には市販の「3.5インチ2DDまたは2HDマイクロフロッピーディスク」をご使用ください。

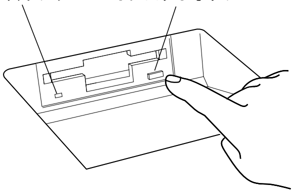
フロッピーディスクの挿入／取り出し

■ **フロッピーディスクの入れ方**

フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、イラストのようにディスク挿入口にカチッと音がするまでていねいに差し込みます。



■ **フロッピーディスクをディスク挿入口から取り出すときのご注意**



ディスク挿入口左下のユーズランプが消えたことを確認した後(ディスクドライブが実行中でないことを確認した後)、イジェクトボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出たことを確認してから取り出してください。
イジェクトボタンを中途半端に押したり、あわてて押すと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなる場合があります。この場合、無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたり、ディスクドライブユニットが故障したりする原因になります。このような場合は、もう一度イジェクトボタンを押しなおすか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、もう一度イジェクトボタンをしっかりと正確に押しなおして取り出してください。

■ 録音中や再生中などは絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスクのデータがこわれるだけでなく、ディスクドライブユニットの故障の原因になります。

■ 電源を切るときは、フロッピーディスクはあらかじめディスクドライブユニットから取り出してください。電源を切った後、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

■ イジェクトボタンを押してディスクが半分出た状態(ディスクを手で抜き取っていない状態)のままで、キーカバーを開閉しないでください。キーカバーとディスクが接触してディスクやディスクドライブユニットが破損するおそれがあります。

磁気ヘッドの定期的なクリーニング

ディスクドライブユニットは高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気ヘッドが汚れてくると、録音や再生(データの書き込みや読み取り)にエラーが生じることがあります。ディスクドライブユニットを良い状態でお使いいただくために、磁気ヘッドを定期的に(1ヵ月に1回程度)クリーニングしていただくことをお勧めします。磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。

フロッピーディスクについてのご注意

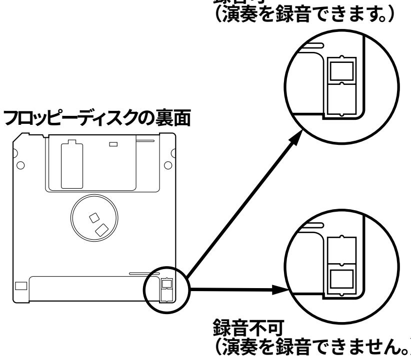
■ フロッピーディスクの取り扱いと保管

フロッピーディスクの中にはデータを記録する磁性体が入っています。磁性体を保護し、さらにフロッピーディスクユニットの磁気ヘッドを防護するために、以下の点にご注意ください：

- ●(持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物を乗せたり折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らないようにしてください。
- ● ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- ● 磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- ● 直射日光の当たる場所や、過度に高温／低温の場所、多湿な場所などに置かないでください。
- ● シャッターやディスク本体が変形しているようなフロッピーディスクは絶対に使用しないでください。
- ● フロッピーディスクにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。また、ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

■ 誤消去防止

フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまうことがないようにライトプロテクトタブが付いています。大切なデータの入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして書き込みができないようにしてください。



■ データのバックアップ

フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータは、バックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをお勧めします。

■ 市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をお確かめの上、お求めください。

■ フロッピーディスクのフォーマット（初期化）

新しいディスクや他の機器で使っていたディスクはそのままでは使うことができません。CVP-79/69/59で使えるように最初にフォーマット(初期化)しておく必要があります。フォーマットのし方についてはP107をご参照ください。

ご使用前の準備

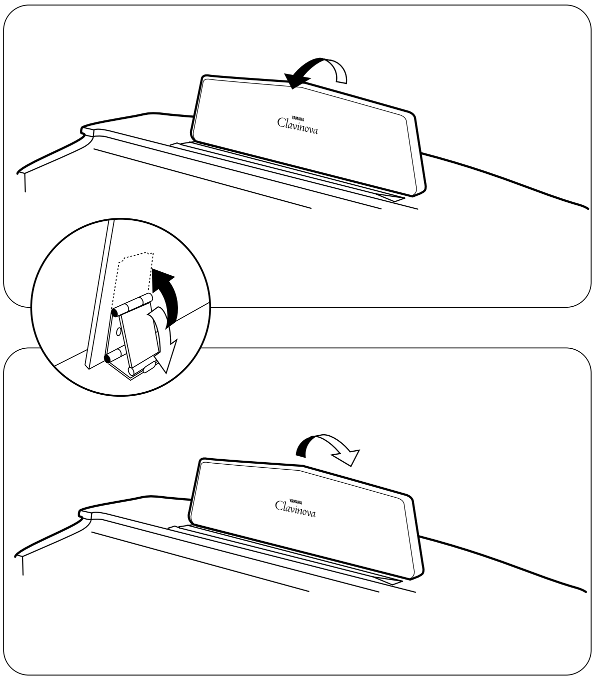
譜面立てについて

立てるとき

1 止まるまで手前に起こす。

2 譜面立て後側の各金具を下向きに開く。
(2つの金具が譜面立てを支えます)

3 固定される位置まで戻す。



倒すとき

1 止まるまで手前に起こす。

2 各金具を上向きに閉じる。

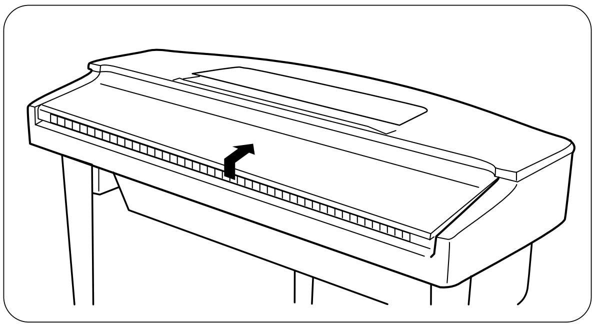
3 手を添えてゆっくり倒す。

キーカバーについて

開けるとき

1 少しだけ持ち上げる。
持ち上げすぎないように、ご注意ください。

2 ガイドレールの上をすべらせて開ける。



閉めるとき

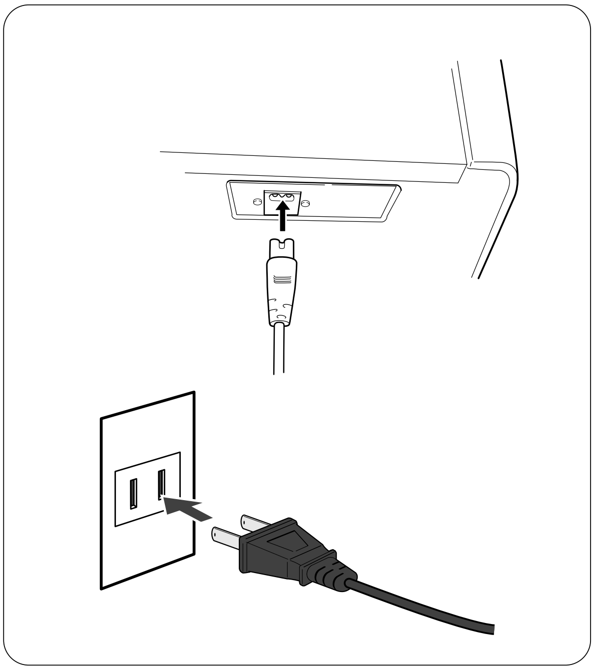
1 ガイドレールに沿って下へすべらせる。

2 手を添えて降ろす。

電源を入れる

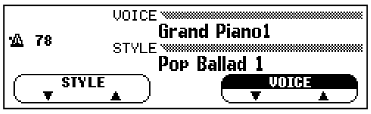
1 **電源コードを接続する。**

本体に電源コードを接続し、家庭用(AC100V)コンセントに電源プラグを差し込みます。

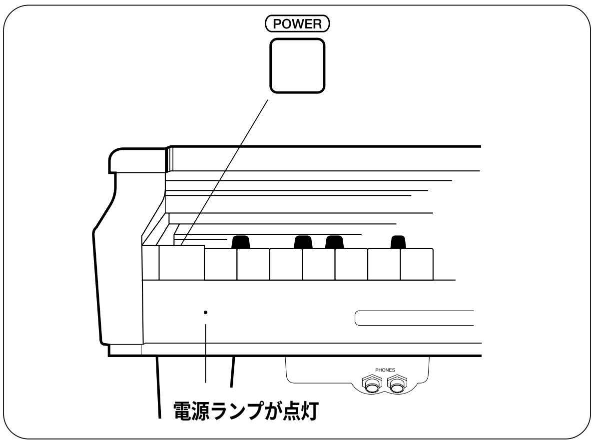


2 **電源を入れる。**

【POWER】を押します。電源を入れると、最初にGrand Piano 1の音色とPop Ballad 1の伴奏スタイルが自動的に選ばれます。

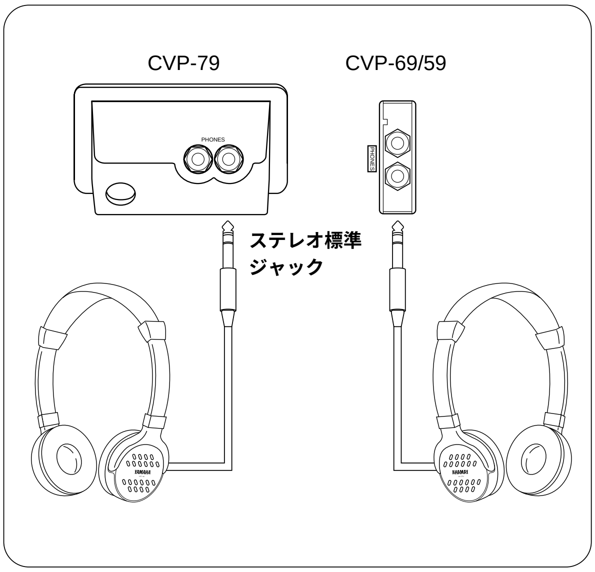


もう一度【POWER】を押すと電源が切れます。



ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォン(別売)を【PHONES】に接続して使います。ヘッドフォンを使うとクラビノーバのスピーカーからは音が出ません。1人で演奏するだけではなく2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

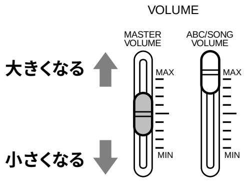


ボリューム調節について

CVP-79/69/59は、パネル上に2つのボリューム調節用のスライダーを持っています。また、自動伴奏(ABC)やソングのパート別の音量を個別に調節する機能も持っています。

【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】

CVP-79/69/59全体のボリュームを調節することができます。

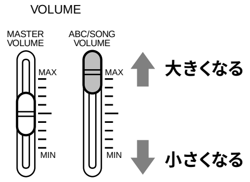


また、【PHONES(ﾌｫｰﾝｽﾞ)】や【AUX OUT】の出力レベルも調節することができます。

【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】

自動伴奏(ABC)やソングの再生ボリュームを調節することができます。

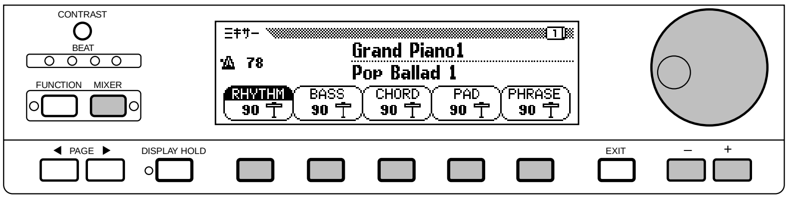
■手弾き音のボリュームには影響しません。



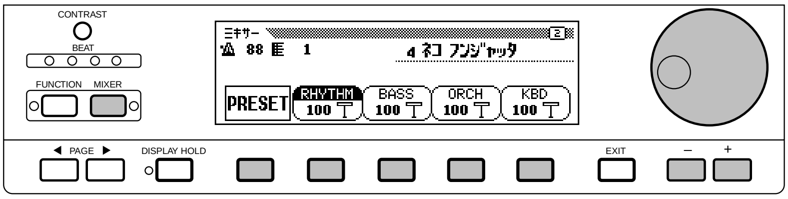
【MIXER(ﾐｷｻｰ)】

【MIXER(ﾐｷｻｰ)】を押すと、LCDに次のようなミキサー(MIXER)画面が表示されます。自動伴奏(ABC)の各パートのボリュームを個別に調節することができます。

■この画面の2ページで手弾き音のボリュームとハーモニー(P76)のボリュームも調節することができます。

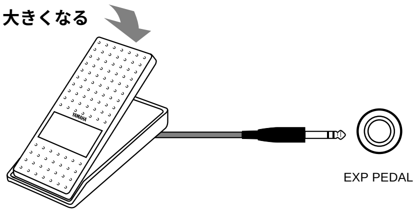


また、ディスクオーケストラ·コレクションの再生時は、別の画面が表示され、ディスクオーケストラの各パートのボリュームを個別に調節することができます。



【EXP PEDAL】(CVP-79のみ)

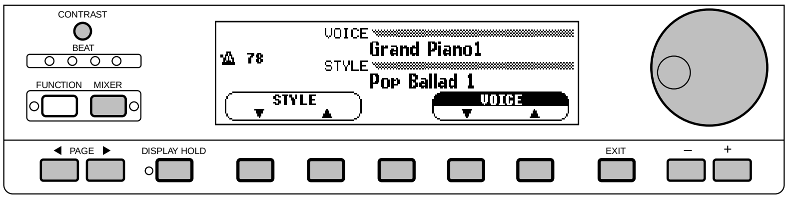
別売のYamaha FC7フットコントローラーをCVP-79の【EXP PEDAL】に差し込んで使用することにより、手弾き音のボリュームをコントロールすることができます。手弾きの音量だけを演奏しながらコントロールできますので、演奏に表情をつけることができます。



■自動伴奏(ABC)やソングの再生音量には影響しません。

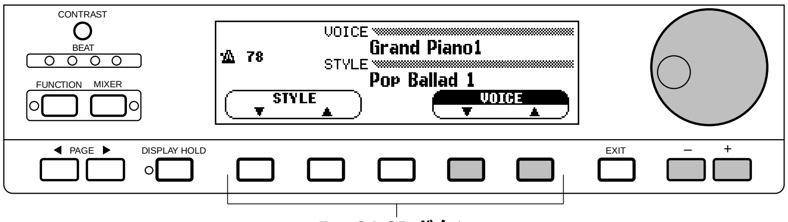
操作の基本と共通機能

CVP-79/69/59では、一度パネルのボタンを押すと、その機能を使うための操作画面が開き、開いたLCD画面(液晶ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ)とその下のいくつかのボタン及びその右横の【ダイアル】や【+】【-】を使ってさまざまな操作をスムーズに行えるしくみが備わっています。これらの操作を一度覚えると、同じ要領で簡単にいろいろな機能を使えるようになります。



LCD画面(液晶ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ)とLCDボタン

LCD画面の下に並んだ5つのボタンをLCDボタンと呼びます。このLCDボタンでLCD画面上に表示された項目を選択したり、数値を変更したりすることができます。
LCDボタンは、表示されている画面に応じてその役割が変化します。たとえば、次のような画面では、右下の[VOICE]表示内に▲▼のマークが示され、各マークに対応した(すぐ下にある)2つのLCDボタンで、音色を選ぶことができます。(以後表記上は、LCD上の表示と対応したボタンを[VOICE]▲▼のように示します。)

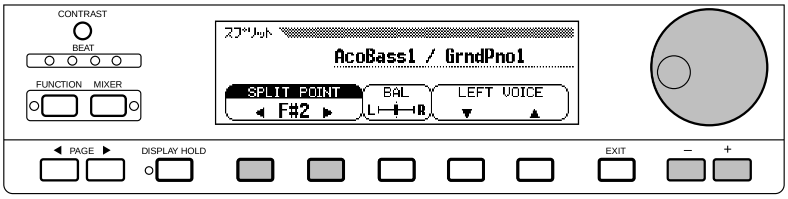


5つのLCDボタン

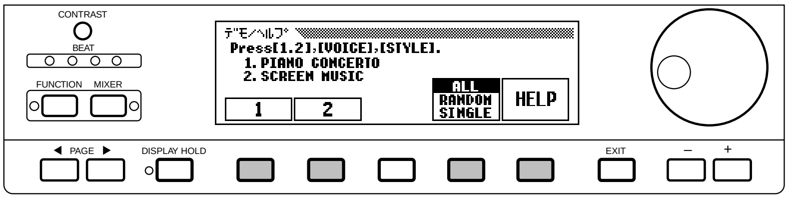
一度どちらかのLCDボタンを押して[VOICE]の部分を反転表示させたあとは【ダイアル】や【+】【-】を使って音色を選ぶこともできます。
LCDボタンは、押すごとに1つずつ項目や数値を選択／変更することができ、押し続けると連続的に選択／変更することができます。【+】【-】は常に1つずつ値を選択／変更させる場合に使用します。

▲と▼、または◀と▶が表示されるLCDボタンでは、多くの場合、両方のボタンを同時に押すことにより、設定されている値を初期値に戻すことができます。また、【+】【-】も同じ要領で使用することができます。設定範囲を持つほとんどの値に対してこの操作は有効です。このようなタイプの項目や数値は、角の丸い囲いで表示されます。

■初期値に戻すことが意味を持たないため、▲と▼、◀と▶、【+】と【-】を同時に押しても初期値に戻らない場面もあります。

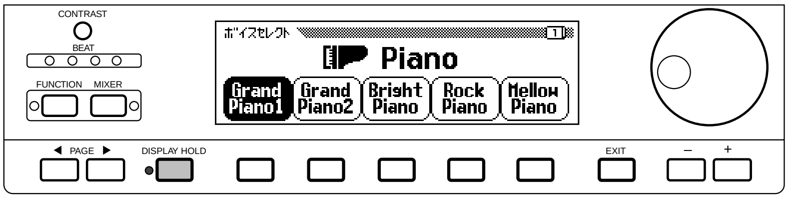


直接選ぶ、あるいはON/OFFを切り替えるだけの項目や機能は、画面上では四角い囲いの表示となります。この場合、LCDボタンは直接選ぶ、あるいは押すごとにON/OFFを切り替えるスイッチとして機能します。このタイプの項目や機能に対しては、【ダイアル】や【+】【-】は使えません。



【DISPLAY HOLD(画面固定)】

VOICE(音色)ボタンやSTYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタンを押して、音色(P26)や伴奏スタイル(P38)を選択すると、選んだ音色／スタイルの画面が数秒間表示され、自動的に元の画面に戻るようになっています。このようなタイプの画面をポップアップ画面と呼びます。ポップアップ画面のときには、【DISPLAY HOLD(画面固定)】のランプが点滅し、数秒後に表示が元に戻ることを知らせます。ここで、【DISPLAY HOLD(画面固定)】を押すとランプが点灯に変わり、画面を表示させ続けることができます。もう一度【DISPLAY HOLD(画面固定)】を押すと、ランプが消え前の画面に戻ります。

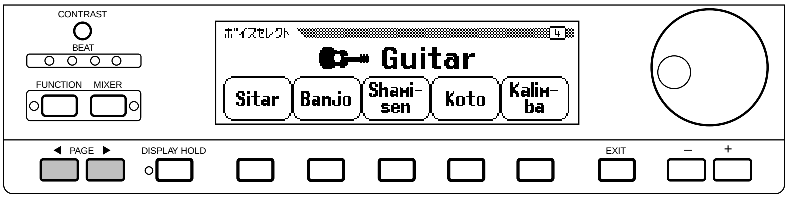


■ポップアップでない画面のときに【DISPLAY HOLD(画面固定)】を押してランプを点灯させると、ポップアップ画面は開かなくなります。

■ポップアップタイム機能で、ポップアップ表示される時間の長さを設定することができます。(P118)

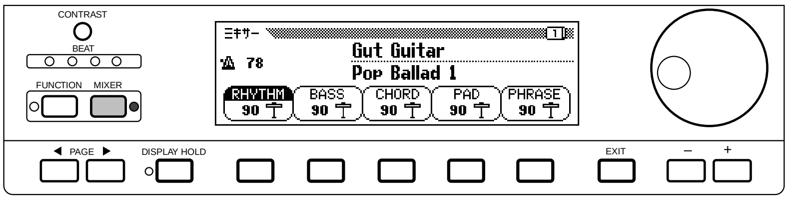
PAGE(画面送り)【◀】【▶】

複数ページの画面で構成される機能もあります。PAGE(画面送り)【◀】【▶】を押すことにより、画面の次ページや前ページを表示させることができます。現在のページとその機能の全体ページ数は、画面右上のページのマークで確認することができます。



【MIXER(ﾐｷｻｰ)】

【MIXER(ﾐｷｻｰ)】を押すと、LCDにミキサー画面が表示されます。ミキサー画面では、自動伴奏(ABC)やディスクオーケストラ・コレクションの各パートのボリュームを個別に調節することができ、好みの音量バランスを作ることができます。もう一度【MIXER(ﾐｷｻｰ)】を押すか、【EXIT(戻る)】を押すと、元の画面に戻ります。詳しくはP49、P76をご参照ください。

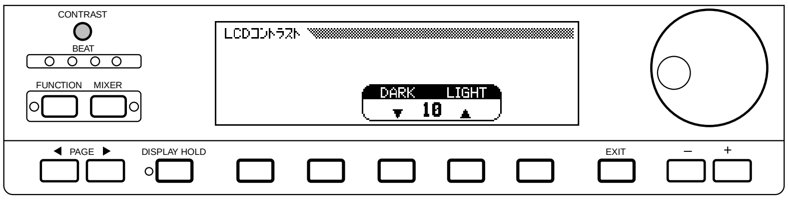


【EXIT(戻る)】

現在のモードから抜けたり、元の画面に戻したい場合は、【EXIT(戻る)】を押します。

【CONTRAST(ｺﾝﾄﾗｽﾄ)】

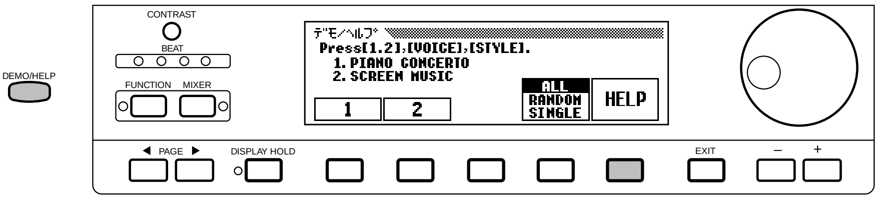
【CONTRAST(ｺﾝﾄﾗｽﾄ)】を押すと、LCDコントラスト(LCD CONTRAST)画面が表示されます。それぞれ[DARK(=暗い)]と[LIGHT(=明るい)]を使って、画面を見やすい明るさに調節することができます。
もう一度【CONTRAST(ｺﾝﾄﾗｽﾄ)】を押すか、【EXIT(戻る)】を押すと、元の画面に戻ります。調節した値は電源をOFFにしたあとも保持されます。



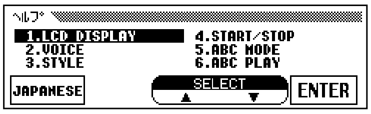
ヘルプ機能と日本語表示への切り替え

各機能の基本的な説明を、いつでもヘルプモードで見ることができます。ヘルプの説明文は日本語で表示させることができます。

【DEMO/HELP(ﾃﾞﾓ/ﾍﾙﾌﾟ)】を押すと、デモ／ヘルプ(DEMO/HELP)画面が表示されます。



ここで[HELP]を押すと、ヘルプモードに入り、ヘルプ(HELP)メニュー画面が表示されます。

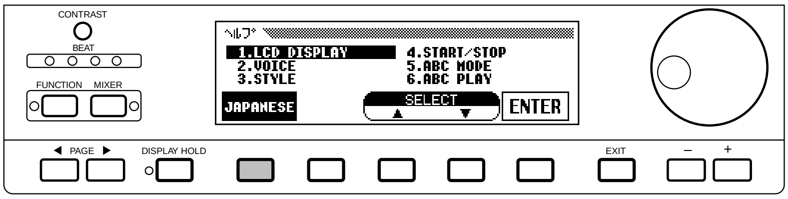


日本語表示への切り替え

ヘルプの説明文を日本語で表示させることができます。ここで日本語表示を選ぶと、ヘルプモード以外の画面でもタイトルやメッセージが日本語で表示されるようになります。

※本書ではすべてのページで日本語表示のLCD画面を使用しています。

ヘルプ(HELP)メニュー画面の一番左のLCDボタンを押して、[JAPANESE]を表示させます。

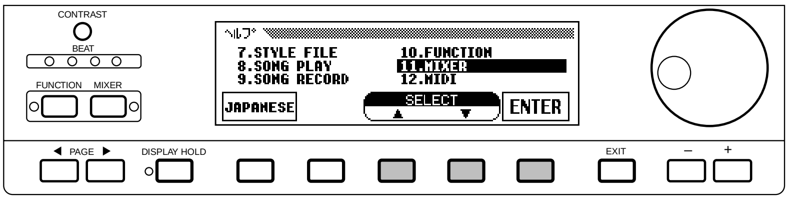


■その他にも必要に応じて[ENGLISH(英語)](初期設定)、[FRENCH(フランス語)]、[GERMAN(ドイツ語)]を選ぶことができます。(FRENCHやGERMANを選んだ場合には、ヘルプの説明文以外の画面では英語表示となります。)

■一度日本語表示へ切り替えると、電源をOFFにしたあとも保持されます。

ヘルプ機能の使い方

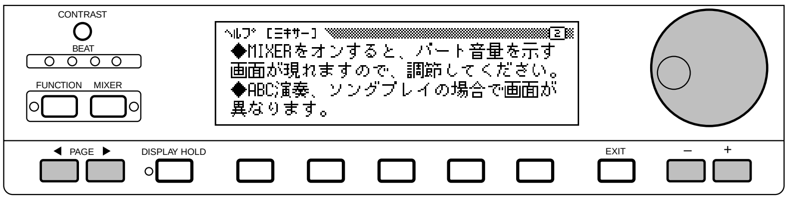
1 **ヘルプ(HELP)メニュー画面の[SELECT]▲▼を押して、説明を見たい項目を(反転表示させ)選択します。以下の12項目が用意されています。**



1.LCD DISPLAY(液晶ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ)	8.SONG PLAY(ｿﾝｸﾞﾌﾟﾚｲ)
2.VOICE(ﾎﾞｲｽ=音色)	9.SONG RECORD(ｿﾝｸﾞﾚｺｰﾄﾞ)
3.STYLE(ｽﾀｲﾙ)	10.FUNCTION(ﾌｧﾝｸｼｮﾝ)
4.START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)	11.MIXER(ﾐｷｻｰ)
5.ABC MODE(ABCﾓｰﾄﾞ)	12.MIDI(ﾐﾃﾞｨ)
6.ABC PLAY(ABC演奏)	
7.STYLE FILE(ｽﾀｲﾙﾌｧｲﾙ)	

[ENTER]を押すと、選択した項目の説明画面が表示されます。

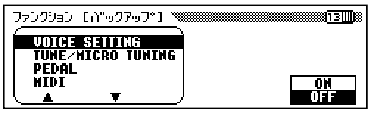
2 PAGE(画面送り)【◀】【▶】、【+】【-】、【ダイアル】を使って、説明画面の次ページや前ページを表示させることができます。



3 【EXIT(戻る)】か【DEMO/HELP(デモ/ヘルプ)】を押すと、ヘルプ(HELP)メニュー画面に戻ります。ヘルプ(HELP)メニュー画面で【EXIT(戻る)】か【DEMO/HELP(デモ/ヘルプ)】を押すと、ヘルプモードを抜け、基本画面に戻ります。

メモリーバックアップ

CVP-79/69/59では、日本語表示やLCDコントラストの設定のほかにも、さまざまな数値や機能の設定内容を、バックアップ機能(P117)の設定によって、電源をOFFにしたあとも保持することができます。バックアップ機能の画面では、バックアップしたい内容を個別に選択することができます。バックアップしない内容は電源をOFFにすると初期値に戻ります。



また、電源をOFFにして約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容も消え、すべての設定内容が初期値に戻ります。したがって、バックアップされている内容を保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

■本書の本編では、バックアップのON/OFFが設定できる項目については、工場出荷時のバックアップのON/OFFの設定について、それぞれの項目の説明で"初期のバックアップ設定：ON(またはOFF)"という形で示しています。また、P149には、バックアップ項目の一覧表があります。

■バックアップをONにしている項目でも、リコール機能(P118)を使えばいつでも初期値に戻すことができます。

デモ演奏

CVP-79/69/59には総合的なデモが2曲、音色紹介用に12曲、スタイル紹介用に11曲、計25曲のデモ演奏が入っています。聞いてみましょう。

1 電源をONにする

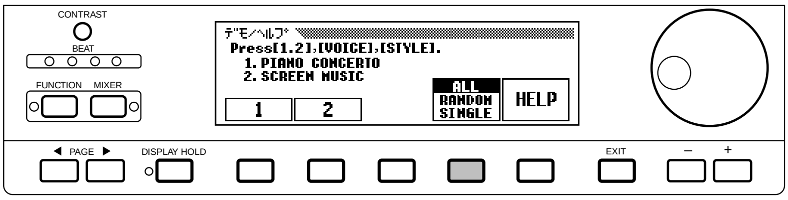
【POWER(ﾊﾟﾜｰ)】を押して電源をONにし、【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】を中程まで上げておきます。

2 デモ演奏モードに入る

【DEMO/HELP(ﾃﾞﾓ/ﾍﾙﾌﾟ)】を押すと、STYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタンとVOICE(ボイス)(音色)ボタンのランプが連続して点滅し、デモ／ヘルプ(DEMO/HELP)画面が表示されます。

3 演奏モードを選ぶ

右から2番めのLCDボタンを押して、演奏モードを選びます。次の3つのモードが用意されています。



[ALL(オール)]：　最初に選んだ曲から順番にすべての曲が続けて演奏されます。ストップするまで繰り返し演奏されます。

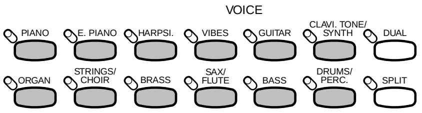
[RANDOM(ランダム)]：最初に選んだ曲からランダム(順不同)にすべての曲が演奏されます。ストップするまで繰り返し演奏されます。

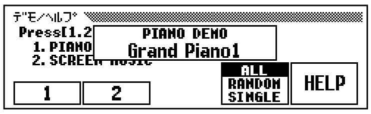
[SINGLE(シングル)]：　選んだ曲を1回だけ演奏します。演奏が終わると自動的にストップします。

4 曲を選んで演奏をスタートする

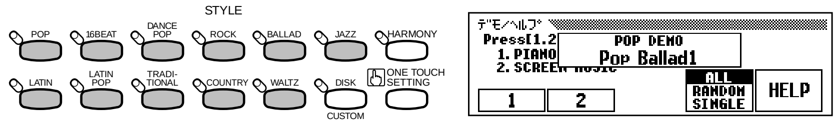
曲を選ぶと現在の演奏モードでデモ演奏がスタートします。次の3つの方法があります。

(A)音色紹介用の1曲を聞きたい場合は、聞きたい音色のVOICE(ボイス)(音色)ボタンを押します。選んだ音色のデモ曲からデモ演奏がスタートします。演奏中のVOICE(ﾎﾞｲｽ)ボタンのランプが点滅します。

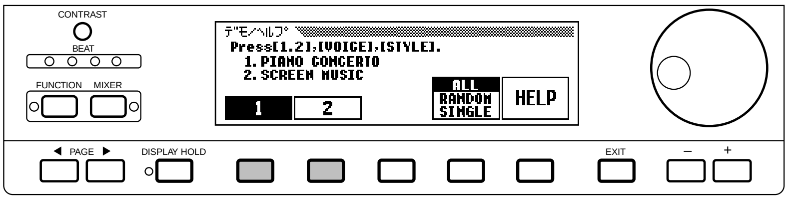




(B)伴奏スタイル紹介用の1曲を聞きたい場合は、聞きたいスタイルのSTYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタンを押します。選んだスタイルのデモ曲からデモ演奏がスタートします。演奏中のSTYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタンのランプが点滅します。



(C)総合的なデモを聞きたい場合は、画面上の[1]または[2]のLCDボタンを押します。演奏中は、画面上の曲の番号が反転表示されます。



【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押しても、デモ演奏をスタートすることができます。

■デモ演奏のデータは【MIDI OUT】から出力されません。

5 ボリュームを調節する

【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】でボリュームを調節します。

■デモ演奏のテンポは変更できません。

6 デモ演奏をストップする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】か、演奏中のVOICE(音色)ボタン／STYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタン／LCDボタン[1][2]を押すと演奏が一時的に止まります。

【DEMO/HELP(ﾃﾞﾓ/ﾍﾙﾌﾟ)】か【EXIT(戻る)】を押すと演奏が止まり、デモ演奏モードを抜けます。

■演奏中に別の曲に変更したいとき…別の曲のVOICE(音色)ボタンやSTYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタンを押すと、その曲の演奏に切り換わります。演奏モードが[ALL]や[RANDOM]の場合はその曲まで先送りされ、そこから演奏を続けます。

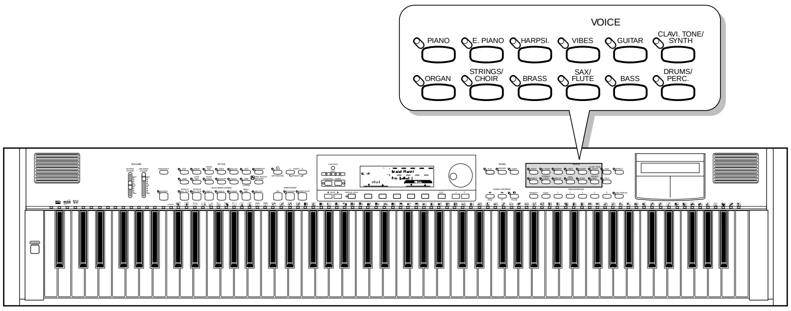
デモ曲一覧表

	邦題	作曲者
総合的なデモ		
1曲め：	ピアノ協奏曲第1番第1楽章	P.I.チャイコフスキー
2曲め：	ホールニューワールド(映画「アラジン」より)	A.メンケン
音色紹介用デモ		
Piano：	ポロネーズ第6番変イ長調「英雄」	F.F.ショパン
Harpsi.：	ソナタハ長調L.104(K.159)	D.スカルラッティ
Vibes：	ワンダーランド	藤田広明
Guitar：	アランフェス協奏曲第2楽章	J.ロドリゴ
Clavi.Tone/Synth：	ただあこがれを知る者だけが	P.I.チャイコフスキー
Organ：	トッカータとフーガ　ニ短調	J.S.バッハ
Strings/Choir：	交響曲第5番「運命」第1楽章	L.v.ベートーベン
Brass：	組曲「王宮の花火の音楽」より「歓喜」	G.F.ヘンデル
Sax/Flute：	想い出のサンフランシスコ	G.コリー
伴奏スタイル紹介用デモ		
Pop：	マイウェイ	J.ルボー、C.フランソワ、G.チボー
Latin：	サボールアミー	A.カリロ
Latin Pop：	イパネマの娘	A.C.ジョビン
Traditional：	踊りあかそう	F.ローウェ
Waltz：	テネシーワルツ	P.W.キング、R.スチュワート

抜粋や編曲により、原曲通りでないものがあります。上記に記載されていないデモ曲はオリジナルです。

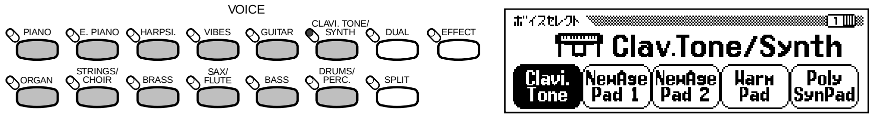
音色選択

CVP-69/59は合計172種類、CVP-79は合計192種類の音色を持っています。また、キーボードパーカッション機能を使って、ドラムやパーカッション音色を鍵盤で演奏することもできます。

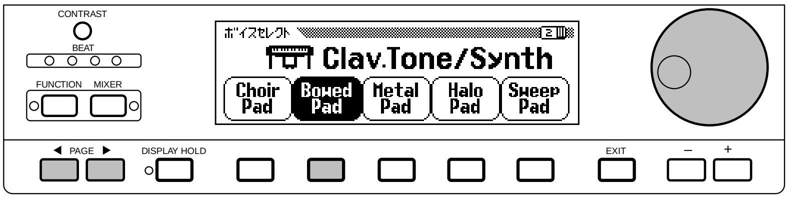


1 音色を選ぶ

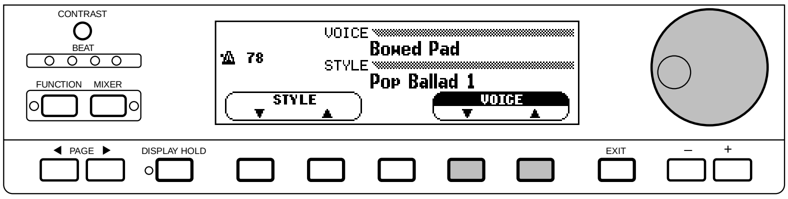
CVP-79/69/59の各音色は12グループに分けられ、各音色グループはパネル上のVOICE(音色)ボタンに割り当てられています。
VOICE(音色)ボタンを押して音色グループを選ぶと、次のようなポップアップ画面が現れます。



選んだグループが複数ページから構成されている場合は、PAGE【◀】【▶】ボタンを使って、同じグループの中の他の音色を表示させることができます。
LCDボタンを押して、使いたい音色を選びます。【ダイアル】や【+】【-】を使うこともできます。



また、次のように基本画面に戻ったあとでも[VOICE]▼▲で現在のグループの中で他の音色を選ぶことができます。一度[VOICE]の項目が選ばれ反転したあとは、【ダイアル】や【+】【-】も使えます。



■ポップアップ画面は、数秒後に元の画面に戻ります。ディスプレイホールド機能を使って、画面を表示させたままにすることもできます。(P20)

■各グループの中で最後に選ばれた音色は、バックアップ機能(P117)の設定をONにすると、電源をOFFにしたあとも保持されます。

■電源をONにしたときは自動的にGRAND PIANO 1(ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾋﾟｱﾉ1)の音色が選ばれます。ただし、バックアップ機能(P117)の設定をONにすると、前回最後に選ばれていた音色が選ばれます。

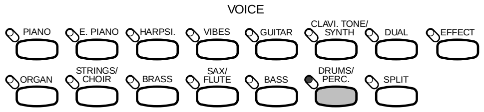
■P143に全音色のリストが掲載されていますのでご参照ください。

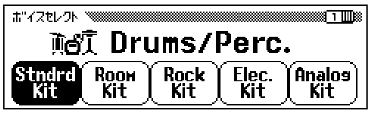
2 ボリュームを調節して演奏する

【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】を調節して演奏してください。

キーボードパーカッションでリズム演奏をする

【VOICE】ボタンの【DRUMS/PERC.(ﾄﾞﾗﾑｽ/ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ)】グループの中には8つのドラムキットが含まれています。ドラムキットを選択すると、各打楽器音(72種類)が鍵盤に割り当てられます。それらの鍵盤をたたいてリズム演奏が行えます。STANDARD KIT(ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞｷｯﾄ)の各打楽器のイラストが、割り当てられている鍵盤の上のパネルに描かれています。





各ドラムキット打楽器音の種類については、P147のドラムキットリストをご参照ください。

鍵盤と最大同時発音数について

CVP-79の最大同時発音数は64音、CVP-69/59では32音ですが、デュアルやスプリット機能を使用したり、自動伴奏(ABC)やディスクを再生したりといった状況によって、鍵盤で演奏できる発音数は異なってきます。また、ステレオ音色や2つのエレメント(音の要素)によって作られている音色では、発音数が半分になります。各音色のエレメント数などについてはP143をご参照ください。
また、CVP-79/69/59の鍵盤は、アコースティックピアノの鍵盤のようにタッチの強弱によって、さまざまな音のニュアンスを表現することができます。ただし、選んでいる音色やタッチセンシティビティ(P101)の設定によって、鍵盤タッチの感度が異なってきます。

■エクスプレッション・ペダルについて…
CVP-79では別売のフットコントローラーFC7で演奏しながら演奏音のボリュームをコントロールし、演奏に表情をつけることもできます。（P18）

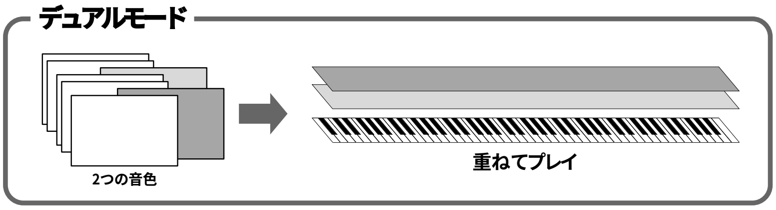
■各音色の推奨音域…
CVP-79/69/59で演奏するときに、各音色にはそれぞれ音楽的に推奨される音域があります。(P143)

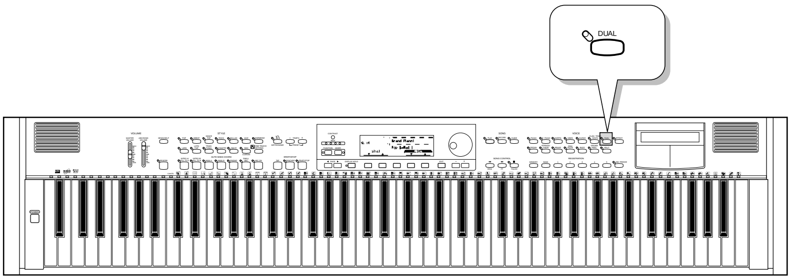
■ドラムキットを選択しているときは、パネルのイラストに対応した鍵盤のみが発音します。

■トランスポーズ(P100)、チューン(P101)、オクターブシフト(P100)はドラムキットには効きません。

デュアル機能(2つの音色をミックスする)

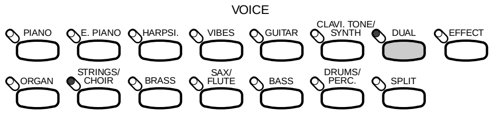
1つの音色を選んで演奏するだけでなく、2つの音色を重ねて演奏することもできます。ソロやサビなどで厚みのある音がほしいときなどたいへん効果的です。また、2つの音色の音量バランスやデチューン(2つの音色の音程を微妙にずらし、音に厚みを出すための効果)の深さも変えられます。

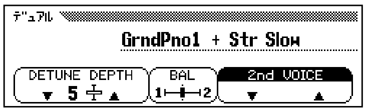




デュアルモードのON/OFF

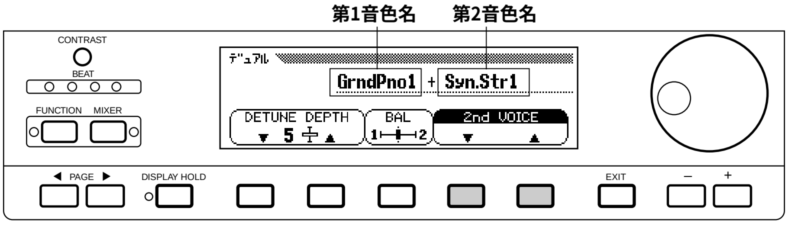
デュアルモードでは2つの音色を重ねて演奏しますので、まずデュアルモードをONにする前に、通常の操作で第1音色を選んでおきます。
【DUAL(ﾃﾞｭｱﾙ)】を押すとランプが点灯し、デュアルモードがONになります。
デュアル(DUAL)画面がポップアップ表示されます。
もう一度【DUAL(ﾃﾞｭｱﾙ)】を押すとランプは消え、デュアルモードはOFFになります。





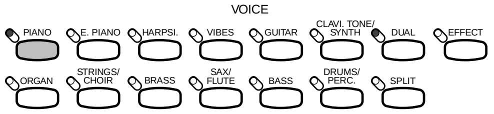
第2音色を選ぶ

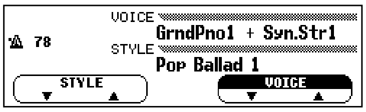
ポップアップ表示されたデュアル(DUAL)画面の[2nd VOICE]▼▲で、第2音色を選びます。(すべての音色グループの中から選ぶことができます。)一度、[2nd VOICE]の項目が選ばれ反転したあとは、【ダイアル】や【+】【-】を使って選択することもできます。



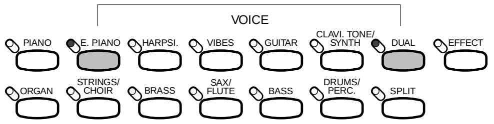
デュアル(DUAL)画面がポップアップ表示されている間は、現在選ばれている第2音色のグループのVOICE(音色)ボタンのランプが点灯しています。また、直接VOICE(音色)ボタンを押して、第2音色の音色グループを切り換えることもできます。

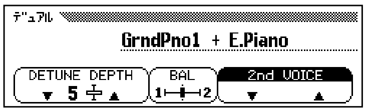
デュアル(DUAL)画面が消えて、基本画面に戻ったあとも両方の音色名が表示されています。この状態で、通常の方法で第1音色を変更することもできます。また、この時ランプが点灯しているVOICE(音色)ボタンは、現在の第1音色のグループを示しています。





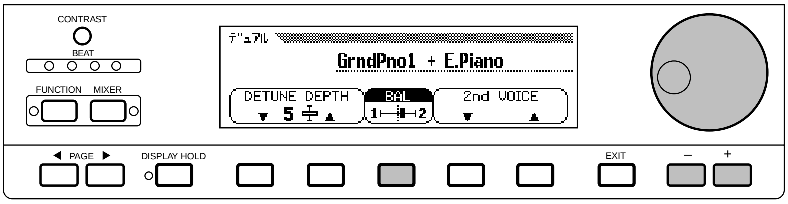
一度、基本画面に戻ったあとでも、簡単にデュアル(DUAL)画面をポップアップ表示させることができます。【DUAL(ﾃﾞｭｱﾙ)】を押しながら、第2音色にしたいVOICE(音色)ボタンを押します。





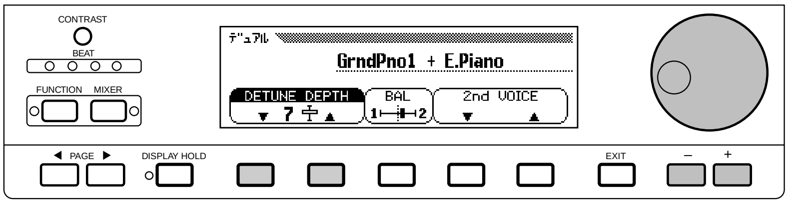
2つの音色の音量バランスを設定する

(ポップアップ表示されている)デュアル(DUAL)画面上の[BAL]LCDボタンを押して反転表示させます。このあと、【ダイアル】か【+】【-】を使って2つの音色の音量バランスを調節することができます。
[BAL]を押し続けると、第2音色の音量だけが上がります。また、【+】【-】を同時に押すと同音量のバランスに戻ります。



デチューンの深さを設定する

2つの音色の音程を微妙にずらすと、音に厚みが出ます。[DETUNE DEPTH]▼▲を押して調節します。一度[DETUNE DEPTH]を反転表示させたあとは、【ダイアル】や【+】【-】も使えます。数値が大きくなるほど、デチューンが深くなります。また、[DETUNE DEPTH]▼▲LCDボタンを同時に押すと初期値の"5"になります。



■VOICE(音色)ボタンのランプについて…
デュアル(DUAL)画面がポップアップ表示されている間は、第2音色のVOICE(音色)ボタンのランプだけが点灯します。また、基本画面に戻ったあとは、第1音色のVOICE(音色)ボタンのランプだけが点灯します。

■第2音色…
設定範囲　：すべてのボイス
初期値　　：Strings Slow
初期のバックアップ設定：OFF

■音量バランス…
初期値：同音量
初期のバックアップ設定：OFF

■音量バランスの設定は、どの音色の組み合わせにも共通して働きます。したがって、組み合わせごとに異なる音量バランスを設定することはできません。

■デチューンの深さ…
設定値の範囲：0～10
初期値：5
初期のバックアップ設定：OFF

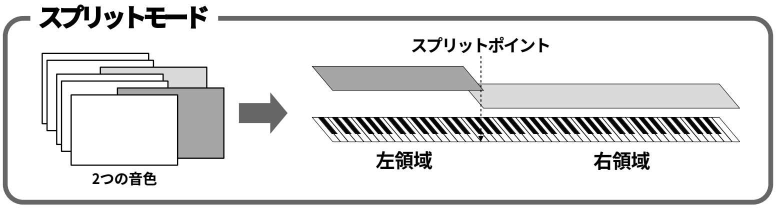
■デチューンの深さの設定は、どの音色の組み合わせにも共通して働きます。したがって、組み合わせごとに異なるデチューンの深さを設定することはできません。

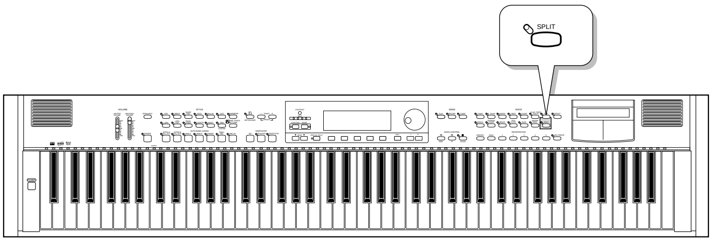
■オクターブシフト機能(P100)を使って、第1音色と第2音色の音程を別々に1オクターブ上げたり下げたりすることができます。

■デュアルモードとスプリットモード(P30)を同時に使うことはできません。

スプリット機能(鍵盤を2つのパートに分けて弾く)

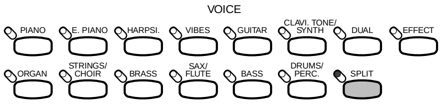
鍵盤を好きな位置で左側と右側の領域に分け、別々の音色を演奏することができます。たとえば、左手でベース音色を、右手でピアノ音色を演奏することができます。

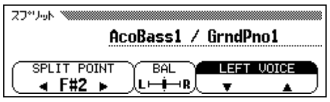




スプリットモードのON/OFF

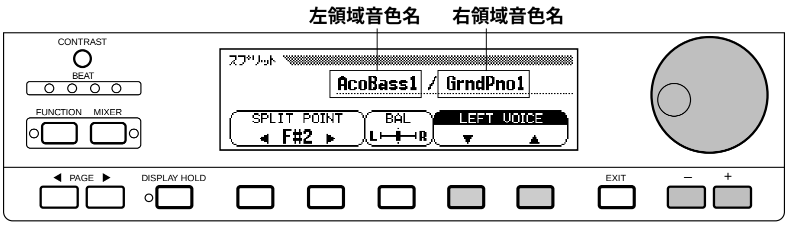
スプリットモードでは2つの音色を使って演奏しますので、まずスプリットモードをONにする前に、通常の操作で右領域で使いたい音色を選んでおきます。
【SPLIT(ｽﾌﾟﾘｯﾄ)】を押すとランプが点灯し、スプリットモードがONになります。スプリット(SPLIT)画面がポップアップ表示されます。
もう一度【SPLIT(ｽﾌﾟﾘｯﾄ)】を押すとランプは消え、スプリットモードはOFFになります。
スプリットポイント(左右の領域の境界となる鍵盤位置)の初期値はF♯2です。また、左領域にはAcoustic Bass 1(アコースティックベース1)の音色が割り当てられます。





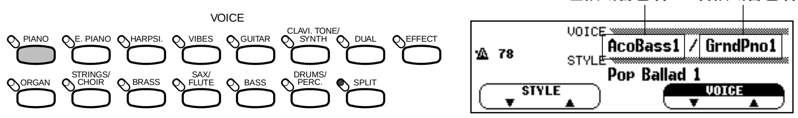
左領域音色を選ぶ

ポップアップ表示されたスプリット(SPLIT)画面の[LEFT VOICE](レフトボイス)▼▲で、左手で演奏する音色を選択します(すべての音色グループの中から選ぶことができます)。一度、[LEFT VOICE](レフトボイス)の項目が選ばれ反転したあとは、【ダイアル】や【+】【-】を使って選択することもできます。

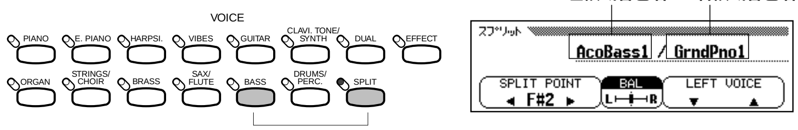


スプリット(SPLIT)画面がポップアップ表示されている間は、現在選ばれている左領域音色の音色グループのVOICE(ボイス)(音色)ボタンのランプが点灯しています。また、直接VOICE(ボイス)(音色)ボタンを押して、左領域音色の音色グループを切り換えることもできます。

スプリット(SPLIT)画面が消えて、基本画面に戻ったあとも両方の音色名が表示されています。この状態で、通常の方法で右領域音色を変更することもできます。また、この時ランプが点灯しているVOICE(音色)ボタンは、現在の右領域音色の音色グループを示しています。

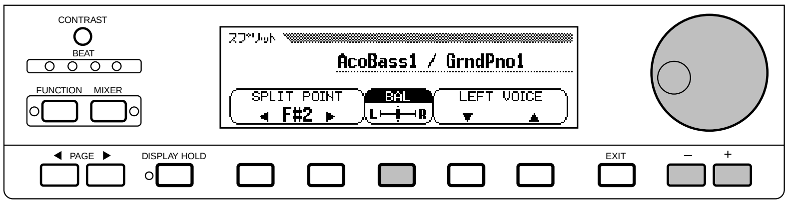


一度、基本画面に戻ったあとでも、簡単にスプリット(SPLIT)画面をポップアップ表示させることができます。【SPLIT(ｽﾌﾟﾘｯﾄ)】を押しながら、左領域音色にしたいVOICE(音色)ボタンを押します。



左／右領域音色の音量バランスを設定する

(ポップアップ表示されている)スプリット画面上の[BAL]を押して反転表示させます。このあと、【ダイアル】か【+】【-】を使って2つの音色の音量バランスを調節することができます。
[BAL]を押し続けると、右領域音色の音量だけが上がります。また、【+】【-】を同時に押すと同音量のバランスに戻ります。



■VOICE(音色)ボタンのランプについて…
スプリット(SPLIT)画面がポップアップ表示されている間は、左領域音色のVOICE(音色)ボタンのランプだけが点灯します。また、基本画面に戻ったあとは、右領域音色のVOICE(音色)ボタンのランプだけが点灯します。

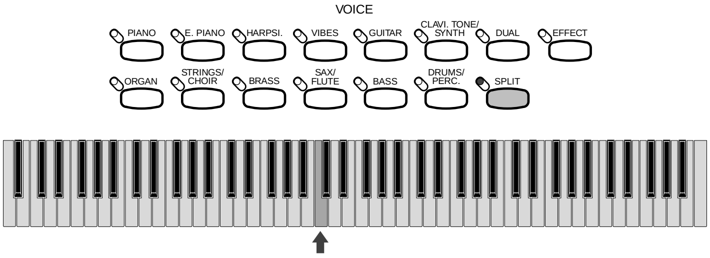
■左領域音色…
設定範囲：すべての音色
初期値：Acoustic Bass1
初期のバックアップ設定：OFF

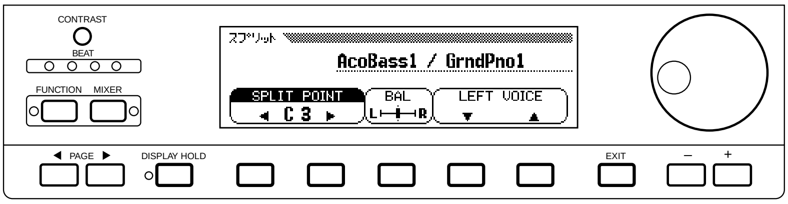
■音量バランス…
初期値：同音量
初期のバックアップ設定：OFF

■音量バランスの設定は、どの音色の組み合わせにも共通して働きます。したがって、組み合わせごとに異なる音量バランスを設定することはできません。

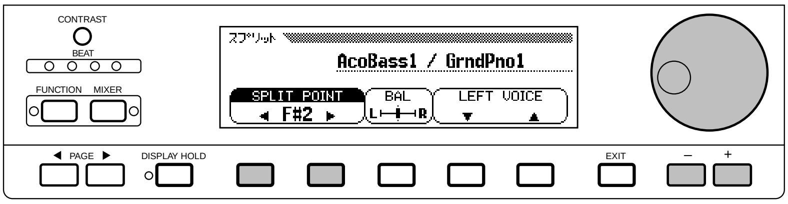
スプリットポイントを変更する

右領域と左領域は好きな位置(鍵盤)で分けることができます。【SPLIT(ｽﾌﾟﾘｯﾄ)】を押しながら、スプリットポイントにしたい鍵盤を押して設定します。(スプリットポイントの鍵盤は左領域に含まれます)。設定されたスプリットポイントの鍵盤ガイドランプが点灯し、鍵盤名が画面上の[SPLIT POINT]に表示されます。





また、スプリットポイントは、[SPLIT POINT]◀▶、【ダイアル】、【+】【-】を使って設定することもできます。[SPLIT POINT]◀▶を同時に押すと初期値の"F♯2"に戻ります。



■スプリットポイント…
設定範囲：すべての鍵盤
初期値：F♯2
初期のバックアップ設定：OFF

■スプリットポイントの設定は、どの音色の組み合わせにも共通して働きます。したがって、組み合わせごとに異なるスプリットポイントを設定することはできません。

■ダンパーレンジ機能(P102)を使って、ダンパーペダルの効く範囲を右領域だけ、左領域だけ、両方、の中から選ぶことができます。初期の設定では右領域にだけダンパーペダルが効くようになっています。

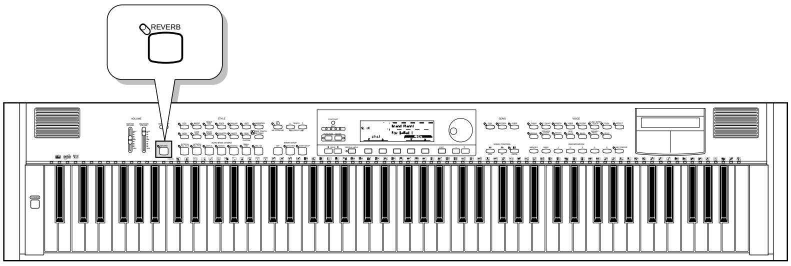
■オクターブシフト機能(P100)を使って、右領域音色と左領域音色の音程を別々に1オクターブ上げたり下げたりすることができます。

■自動伴奏(ABC)のシングルフィンガー、フィンガード(P45)とスプリット機能を同時に使って演奏することもできます。この場合、自動伴奏音といっしょに左領域音色がコード和音で鳴ります。

■スプリット機能とデュアル機能(P28)を同時に使うことはできません。

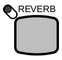
リバーブ(残響効果をかける)

リバーブとは残響のことで、コンサートホールなどで演奏しているような臨場感を味わうことができます。CVP-79/69/59ではいろいろな種類のリバーブ効果を好みの深さ(効果の度合)でかけることができます。



リバーブのON/OFF

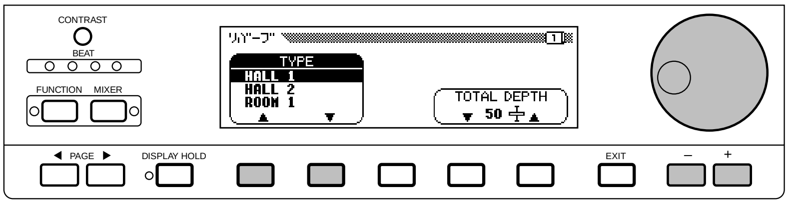
【REVERB(ﾘﾊﾞｰﾌﾞ)】を押すとランプが点灯し、リバーブがONになります。リバーブ(REVERB)画面がポップアップ表示され、現在設定されているリバーブタイプ(種類)とデプス(深さ)が示されます。(最初に電源をONにしたときは、自動的にリバーブがONになっていますので、リバーブ(REVERB)画面を表示させるには、一度【REVERB(ﾘﾊﾞｰﾌﾞ)】を押してOFFにし、もう一度【REVERB(ﾘﾊﾞｰﾌﾞ)】を押してONにしてください。)



もう一度【REVERB(ﾘﾊﾞｰﾌﾞ)】を押すとランプは消え、リバーブはOFFになります。

リバーブタイプ(種類)を選ぶ

ポップアップ表示されたリバーブ(REVERB)画面の[TYPE]▼▲で、リバーブタイプを選択します。一度、[TYPE]の項目が選ばれ反転したあとは、【ダイアル】や【+】【-】を使って選択することもできます。



リバーブタイプリスト

HALL 1 (ホール1)	コンサートホールで弾いたときのような響きになります。
HALL 2(ホール2)	
ROOM1(ルーム1)	部屋の中で弾いたときのような響きになります。
ROOM2(ルーム2)	
ROOM3(ルーム3)	
STAGE1(ステージ1)	ソロ楽器向きの響きです。
STAGE2(ステージ2)	
PLATE(プレート)	金属的な響きを持ったリバーブです。
WHITE ROOM(ホワイトルーム)	独特の短いリバーブです。
TUNNEL(トンネル)	トンネルの中で演奏しているような長い響きになります。
CANYON(キャニオン):CVP-79のみ	大峡谷の響きをイメージした長い幻想的なリバーブです。
BASEMENT(ベースメント)	地下室にいるような短い反射音を持った響きになります。

■リバーブのON/OFF…
初期値:ON
初期のバックアップ設定:OFF

■リバーブタイプ…
設定範囲:リバーブタイプリストを参照
初期値:HALL 1
初期のバックアップ設定:OFF

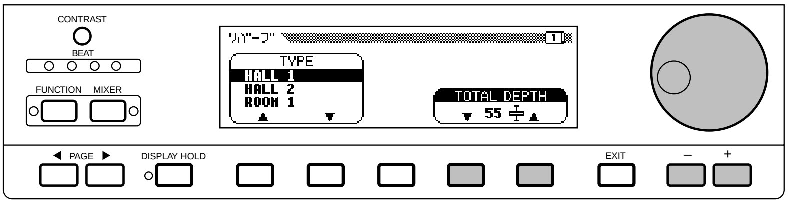
■リバーブタイプの設定は、どの音色にも共通して働きます。したがって、音色ごとに異なるリバーブタイプを設定することはできません。

■リバーブタイプOFFのメッセージをMIDIで受信した場合、画面上に[OFF]が表示されます。

■ちょっと覚えておこう…
同じリバーブタイプを選んでいても、音色によって効果が深く(強く)感じたり、浅く(弱く)感じたりする場合があります。なお、AUX IN【R】【L/L+R】から入力した音には効果はかかりません。

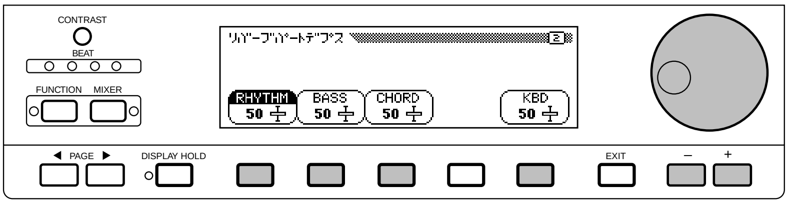
トータルデプス(全体のリバーブの深さ)を設定する

トータルデプスを変更することにより、全体としての効果のかかり具合を設定することができます。[TOTAL DEPTH]▼▲で設定します。一度、[TOTAL DEPTH]の項目が選ばれ反転したあとは、【ダイアル】や【+】【-】を使って設定することもできます。値は"5"ずつ変化させることができます。[TOTAL DEPTH]▼▲か【+】【-】を同時に押すと初期値の"50"に戻ります。



パートごとにデプス(深さ)を設定する

自動伴奏(ABC)のリズム、ベース、コードの各パートと、鍵盤の手弾き音に対して、それぞれ異なるリバーブデプスを設定することができます。
PAGE(画面送り)【◀】【▶】を使って、ポップアップ画面の2ページめのリバーブパートデプス(REVERB PART DEPTH)画面を開きます。
リバーブパートデプス(REVERB PART DEPTH)画面の[RHYTHM]、[BASS]、[CHORD]、[KBD(鍵盤)]でパートを選択します。反転表示されたパートのリバーブデプスを【ダイアル】や【+】【-】を使って設定することができます。値は"5"ずつ変化させることができます。
[RHYTHM]、[BASS]、[CHORD]、[KBD(鍵盤)]をそれぞれ押し続けると、押したパートのリバーブデプスを深くすることだけできます。【+】【-】を同時に押すと初期値の"50"に戻ります。



■トータルデプス…
設定範囲：0(効果なし)～100(最大)
初期値：50
初期のバックアップ設定：OFF

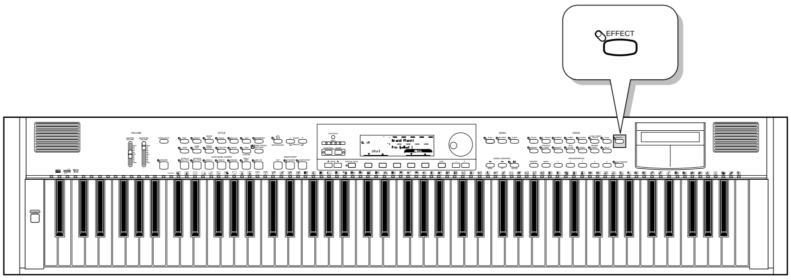
■トータルデプスの設定は、どの音色にも共通して働きます。したがって、音色ごとに異なるトータルデプスを設定することはできません。
パート単位で別々のリバーブデプス(次項参照)を設定することはできます。

■各パートのリバーブデプス…
設定範囲：各パートとも0(効果なし)～100(最大)
初期値：各パートとも50
初期のバックアップ設定：OFF

■実際のリバーブデプスは、各パートのリバーブデプスとトータルデプスを総合したものになります。したがって、どちらかの設定が"0(効果なし)"になっている場合は、もう一つの設定が"100"になっていたとしても効果はかかりません。

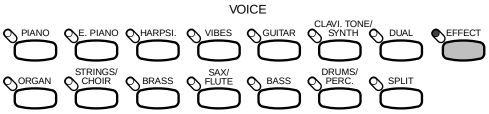
エフェクト(音色効果をかける)

CVP-79/69/59には、リバーブのほかに音に広がりや奥行きを与えたり、特殊な効果を演出する、いろいろな種類のエフェクト(音色効果)が用意されています。各エフェクトは好みの深さ(効果の度合)でかけることができます。



エフェクトのON/OFF

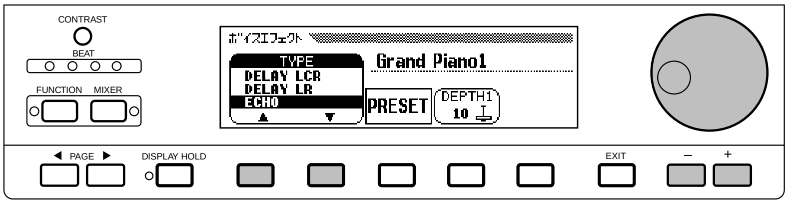
【EFFECT(ｴﾌｪｸﾄ)】を押すとランプが点灯し、エフェクトがONになります。ボイスエフェクト(VOICE EFFECT)画面がポップアップ表示され、現在設定されているエフェクトタイプ(種類)とデプス(深さ)が示されます。
もう一度【EFFECT(ｴﾌｪｸﾄ)】を押すとランプは消え、エフェクトはOFFになります。



■エフェクトのON/OFF
初期値：音色ごとの設定
初期のバックアップ設定：OFF

エフェクトタイプ(種類)を選ぶ

ポップアップ表示されたボイスエフェクト(VOICE EFFECT)画面の[TYPE(タイプ)]▼▲で、エフェクトタイプを選択します。一度、[TYPE(タイプ)]の項目が選ばれ反転したあとは、【ダイアル】や【+】【-】を使って選択することもできます。[TYPE(タイプ)]▼▲や【+】【-】を同時に押すと初期のエフェクトタイプに戻ります。



エフェクトタイプリスト

CHORUS 1 (コーラス1)	豊かで暖かみのある広がりをつけます。
CHORUS 2(コーラス2)	
CHORUS 3(コーラス3)	
CELESTE(セレステ)	音にうねりと広がりを与えます。
DETUNE(デチューン)：CVP-79のみ	音程をわずかにずらした付加音で音に広がりをつけます。
FLANGER(フランジャー)	ジェットサウンドのようなうねりを付加します。
SYMPHONIC(シンフォニック)	豊かで奥行きのある響きを作り出します。
AUTO PAN(オートパン)	音が左右に揺れ動くような効果が得られます。
DELAY L,C,R (ディレイL,C,R)	左、中央、右の3つのポジションで独立したディレイ効果が得られます。
DELAY L,R(ディレイL,R)	左右のポジションで独立したディレイ効果が得られます。
ECHO(エコー)	「こだま」のようなディレイ効果が得られます。

CROSS DELAY(クロスディレイ)	音が左右に飛び交うようなディレイ効果が得られます。
TREMOLO(トレモロ)	音量が周期的に変化する"トレモロ"効果を作り出します。
ROTARY FAST (ロータリーファスト)	ロータリースピーカー(回転スピーカー)を使っているようなビブラート感(速い)が得られます。オルガン音色によく合います。
ROTARY SLOW (ロータリースロー)	ロータリースピーカー(回転スピーカー)を使っているようなビブラート感(遅い)が得られます。オルガン音色によく合います。
PHASER(フェーザー)	サウンドに金属的なうねりをつけます。
AUTO WAH(オートワウ)	ギター等の音を周期的に変化させるために用いられる、いわゆる"ワウ"効果です。
TOUCH WAH(タッチワウ)：CVP-79のみ	鍵盤タッチの強弱に応じてワウ効果のかかり具合が変化します。
COMPRESSOR (コンプレッサー)：CVP-79のみ	大きい音と小さい音の粒をそろえて、音のダイナミックスを均一化します。
BOOST HL(ブーストHL)	周波数の高い音と低い音のレベルを上げ、メリハリのある響きになります。

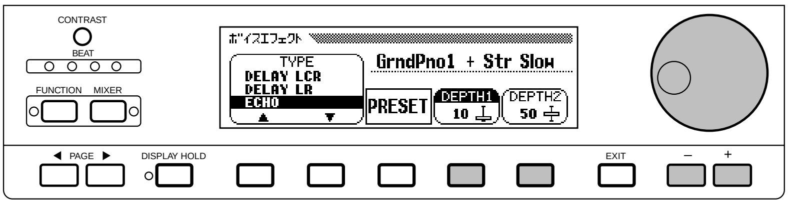
＊ディレイとは、信号を遅らせて作り出す音の遅延効果の総称で、エコーと呼ばれることもあります。

■タイプ…
設定範囲：エフェクトタイプリストを参照
初期値：音色ごとの設定
初期のバックアップ設定：OFF

■他のエフェクトタイプやOFFのメッセージをMIDIで受信した場合、画面上に[OTHERS(その他)]や[OFF]が表示されます。

エフェクトデプス(エフェクトの深さ)を設定する

エフェクトデプスを変更することにより、現在選ばれているエフェクトタイプの効果のかかり具合を設定することができます。[DEPTH 1]を押して反転表示させ、【ダイアル】や【+】【-】を使って設定します。
また、デュアル／スプリットモードのときは、第1音色／右領域音色用の[DEPTH 1(R)]と第2音色／左領域音色用の[DEPTH 2(L)]が表示され、それぞれ別のエフェクトデプスを設定することができます。[DEPTH1(R)]または[DEPTH 2(L)]を押して反転表示させ、【ダイアル】や【+】【-】を使って設定します。値は"5"ずつ変化させることができます。[DEPTH1(R)]、[DEPTH 2(L)]を押し続けると、各エフェクトデプスを深くすることだけできます。【+】【-】を同時に押すと、それぞれの初期値(デプス2 の場合は"50")に戻ります。



■エフェクトデプス…
設定範囲：0(効果なし)〜100(最大)
初期値(DEPTH 1)：音色ごとの設定
初期値(DEPTH 2)：50
初期のバックアップ設定：OFF

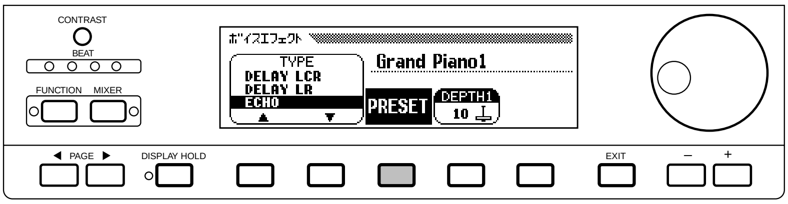
■第1音色／右領域音色のエフェクトタイプが、第2音色／左領域音色にも共通して働きます。

■いくつかのエフェクトタイプでは、[DEPTH 1(R)]と[DEPTH 2(L)]の値が、それぞれ"100"や"0"に自動的に固定されることがあります。その値は変更することができません。

■[DEPTH 2(L)]の設定は、どの音色にも共通して働きます。したがって、音色ごとに異なる値を設定することはできません。[DEPTH 1(R)]の値は音色単位で個別に設定することができます。

プリセットの値(初期値)に戻す

画面上の[PRESET]を押すと、現在の音色に設定されている[TYPE]と[DEPTH 1(R)]の値をワンタッチで初期値に戻すことができます。[DEPTH 2]の値は変わりません。

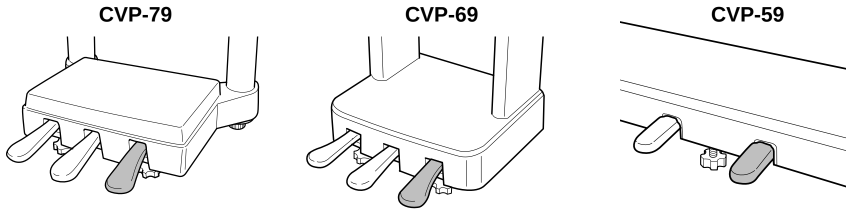


ペダルを使う

CVP-79/69には3本、CVP-59には2本のペダルがついています。

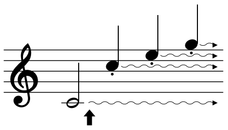
ダンパーペダル(右のペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。



■CVP-79のダンパーペダルは連続可変式(踏み込むほど余韻が長くなる)になっています。これをダンパーモード機能(P102)で、ON/OFFスイッチ式にすることもできます。

■ダンパーペダルは、DRUMS/PERC.(ドラムス／パーカッション)の中で、ダンパー機能に適さない音色には機能しません。

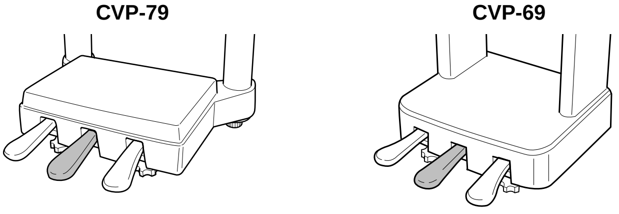


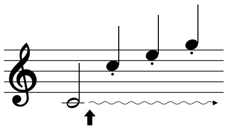
ここでダンパーペダルを踏むと、
このとき押さえていた鍵盤とその
あと弾いた音すべてに余韻がつく

ソステヌートペダル(まん中のペダル、CVP-79/69のみ)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。

■ソステヌートペダルは、DRUMS/PERC.(ドラムス／パーカッション)の中で、ソステヌート機能に適さない音色に機能しません。

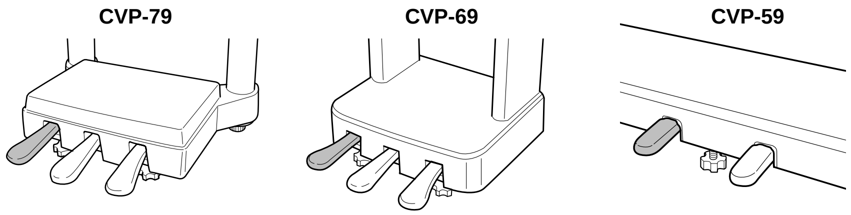




ここでソステヌートペダルを踏む
と、このとき押さえていた鍵盤の音
だけに余韻がつく

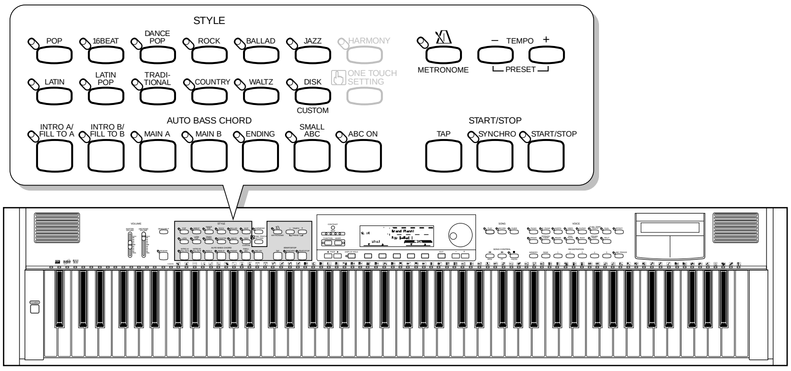
ソフトペダル(左のペダル)

このペダルを踏むと、音量がわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。このペダルは、その他にも自動伴奏をスタート／ストップしたり、フィルインを入れるスイッチとして使うなど、いろいろな機能を割り当てて使うことができます。詳しくはP102をご参照ください。



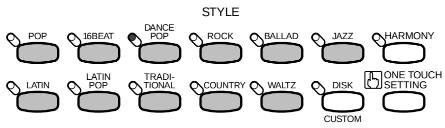
伴奏スタイル

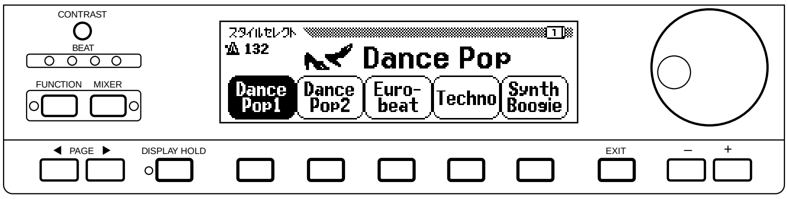
CVP-79/69/59には100種類の伴奏スタイルが用意されています。各スタイルはリズム、ベース、コードなどのパートから構成されています。リズムだけを鳴らしたり、後で述べるの自動伴奏(ABC)機能(P45)を使って楽しむことができます。



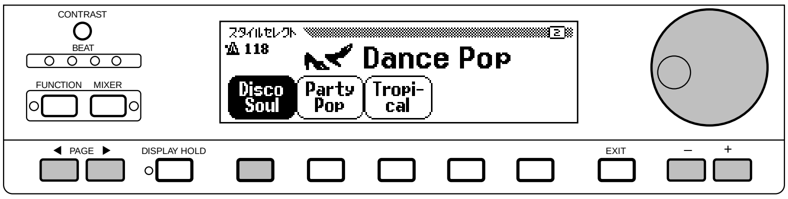
伴奏スタイルを選ぶ

CVP-79/69/59の100種類の伴奏スタイルは11グループに分けられ、各スタイルグループはパネル上のSTYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタンに割り当てられています。
STYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタンを押してグループを選ぶと、スタイルセレクト(STYLE SELECT)画面がポップアップ表示されます。



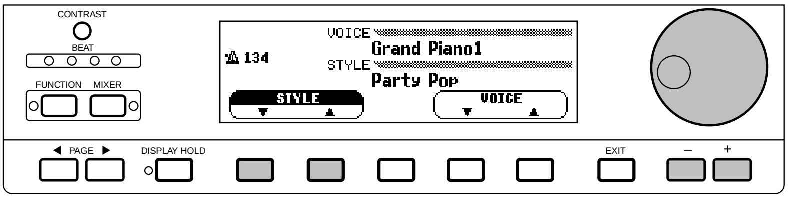


PAGE(画面送り)【◀】【▶】を使って、同じグループの中の他のスタイルを表示させることができます。
LCDボタンを押して、スタイルを選択します。【ダイアル】や【+】【-】も使うことができます。



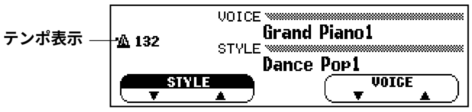
■伴奏スタイルの再生…
自動伴奏(ABC)を使って再生すると、スタイルのすべてのパートを鳴らすことができます。自動伴奏を使わずに再生するとリズムパートだけが鳴ります。自動伴奏については次の章(P45)で説明しますので、自動伴奏を使ってスタイルをお楽しみください。

また、次のように基本画面に戻ったあとでも、[STYLE]▼▲で現在のグループの中で他のスタイルを選ぶことができます。一度[STYLE]の項目が選ばれ反転したあとは、【ダイアル】や【+】【-】も使えます。

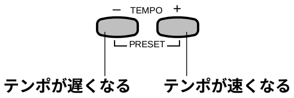


テンポ(速さ)を調節する

スタイルを選ぶと、スタイルごとに設定されているテンポの初期値が自動的にセットされ、画面に表示されます。(スタイル再生中に切り換えた場合は、テンポはその時のままになります。)



TEMPO(テンポ)【+】【-】でテンポを調節することができます。TEMPO(テンポ)【+】【-】を押すごとに値が1つずつ変わり、押し続けると連続して変わります。



■ポップアップ画面は、数秒後に元の画面に戻ります。ディスプレイホールド機能を使って、画面を表示させたままにすることもできます。(P20)

■各グループの中で最後に選ばれたスタイルは、バックアップ機能(P117)の設定をONにすると、電源をOFFにしたあとも保持されます。

■電源をONにしたときは自動的にPop Ballad 1のスタイルが選ばれます。ただし、バックアップ機能(P117)の設定をONにすると、前回最後に選ばれていたスタイルが選ばれます。

■P148に全スタイルのリストが掲載されていますので、ご参照ください。

■【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】について…

別売のスタイルファイルディスク(P66)のスタイルや自分で作ったオリジナルのスタイル(P55)を使うために、【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】のボタンも用意されています。

■スタイルのボリュームは【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】で調節します。

■テンポ…

設定範囲：32～280
初期値：スタイルごとの設定
初期のバックアップ設定：OFF

■各スタイルのテンポの初期値に戻す…

TEMPO(テンポ)【+】【-】を同時に押すと、今選ばれているスタイルのテンポの初期値になります。

伴奏スタイルをスタートさせる

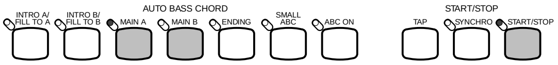
スタイルをスタートさせるにはいくつかの方法があります。

■ 基本的なスタートの方法

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押します。ランプが点灯し、スタートします。

各スタイルはメインAとメインBの2つのバリエーションパターンを持っています。各パターンは【MAIN A(ﾒｲﾝA)】【MAIN B(ﾒｲﾝB)】を押して選ぶことができます。ランプが点灯している方が現在選ばれているパターンです。(通常はメインAが選ばれています。)メインAはそのスタイルの基本パターンで、メインBはそれにアレンジを加えた展開パターンです。同じ曲の中でこれらを使い分けることで曲調を変えることができます。また、後で説明するフィルインと一緒に使うとより効果的な演出ができます。

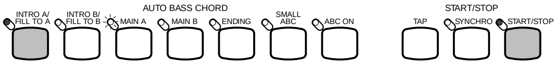
スタイルの再生中に、パターンを小節の2拍め以降で切り換えた場合、次の小節から新しいパターンに切り換わります。



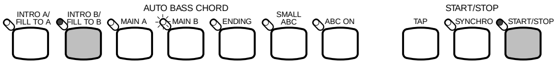
■ イントロからのスタート

イントロにもイントロAとイントロBの2つのバリエーションパターンがあります。

【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】を押すとランプが点灯し、同時に【MAIN A(ﾒｲﾝA)】のランプが点滅します。これは、イントロAでスタートし、イントロのあと自動的にメインAに移行することを示しています。【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すとスタートします。イントロAからメインAに移行すると、【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】のランプは消え、【MAIN A(ﾒｲﾝA)】のランプが点灯に変わります。



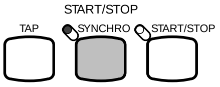
【INTRO B/FILL TO B(ｲﾝﾄﾛB/ﾌｨﾙﾄｩｰB)】の場合は、【MAIN B(ﾒｲﾝB)】と連動します。



スタート前に【MAIN A(ﾒｲﾝA)】、【MAIN B(ﾒｲﾝB)】、【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】を押すと、イントロスタートは解除されます。

■シンクロスタート

鍵盤を弾くと同時にスタイルをスタートさせることができます。
【SYNCHRO(ｼﾝｸﾛ)】を押すとランプが点灯し、同時に【BEAT(ﾋﾞｰﾄ)】の1拍めがテンポに合わせて点滅します。これでシンクロスタートがスタンバイされます。(もう一度【SYNCHRO(ｼﾝｸﾛ)】を押すと、ランプが消えシンクロスタートが解除されます。)



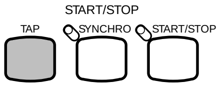
【MAIN A(ﾒｲﾝA)】、【MAIN B(ﾒｲﾝB)】、【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】、【INTRO B/FILL TO B(ｲﾝﾄﾛB/ﾌｨﾙﾄｩｰB)】を押してスタート時のパターンを選びます。
このあと、鍵盤を弾くと同時にスタイルがスタートします。

■スタイル再生中に【SYNCHRO(ｼﾝｸﾛ)】を押すと、スタイル再生がストップし、同時にシンクロスタートがスタンバイされます。

■スプリットのとき自動伴奏(P45)を使っているときは、左領域の鍵盤を弾いたときにスタートします。

■ タップスタート

タップ機能を使うと、1回の操作でテンポを指定すると同時に、スタイルをスタートさせることができます。
【TAP】を指で数回たたくと、そのタイミングのテンポで選ばれているスタイルがスタートします。2拍子、4拍子、6拍子のスタイルの場合は4回、3拍子の場合は3回、5拍子の場合は5回たたきます。



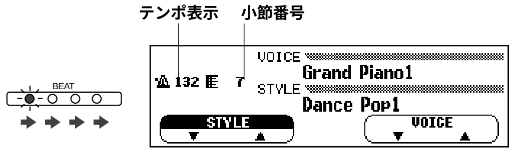
4拍子の曲の場合
4回たたく

■スタイルの再生中にも【TAP】を2回たたくとそのタイミングのテンポに変えることができます(この場合、【TAP】をたたいた時のクリック音は鳴りません)。

■【TAP】を、選ばれているスタイルの拍子に必要な回数(たとえば、3拍子の場合は3回)たたかなかった場合、数秒後にタップ機能は解除されます。

■【BEAT(ﾋﾞｰﾄ)】

スタイル再生中はビートランプが左から順に1拍ごとに点滅します(1拍めは赤で点灯し、2拍め以降は緑色で点滅します)。また、LCD画面には現在のテンポと小節番号が表示されます。



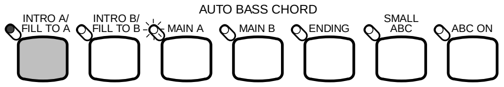
フィルイン

スタイル再生中にフィルイン(フレーズの変わりめで使われるパターン)を入れることができます。フィルインには4つのバリエーションパターンがあります。

● 【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】

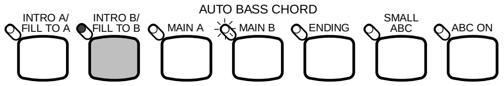
スタイル再生中に【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】を押すと、1小節のフィルインが入り、そのあと自動的にメインAが続きます。メインAの再生中にこの機能を使った場合(メインA→フィルイン→メインA)と、メインBの再生中にこの機能を使った場合(メインB→フィルイン→メインA)とで、2つのバリエーションパターンがあります。

FILL TO A(ﾌｨﾙﾄｩｰA)再生中は【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】のランプが点灯し、あとに続く【MAIN A(ﾒｲﾝA)】のランプが点滅します。



● 【INTRO B/FILL TO B(ｲﾝﾄﾛB/ﾌｨﾙﾄｩｰB)】

【INTRO B/FILL TO B(ｲﾝﾄﾛB/ﾌｨﾙﾄｩｰB)】の場合は、【MAIN B(ﾒｲﾝB)】と連動します。メインBの再生中にこの機能を使った場合(メインB→フィルイン→メインB)と、メインAの再生中にこの機能を使った場合(メインA→フィルイン→メインB)とで、2つのバリエーションパターンがあります。



【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】または【INTRO B/FILL TO B(ｲﾝﾄﾛB/ﾌｨﾙﾄｩｰB)】を押し続けると、その間フィルインが繰り返されます。フィルインの再生中にもう一度同じボタンを押すと、フィルインは解除され、元のパターンの再生に戻ります。

ブレイク

ファンクションモードのレフトペダル機能で[BREAK(ﾌﾞﾚｲｸ)]を選んでおくと、左のペダルを使って、ブレイク(一時的にスタイル再生を止めて空白を作る効果)を入れることができます。

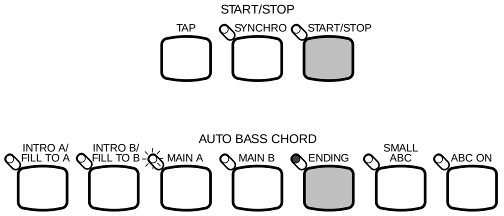
スタイル再生中に左ペダルを踏むと、踏んでいる間だけブレイクを入れることができます。ペダルから足を離すと、次の小節の頭から元の再生に戻ります。

ブレイク中にもう一度左のペダルを踏むと、ブレイクが解除され元の再生に戻ります。

レフトペダル機能の設定についてはP102をご参照ください。

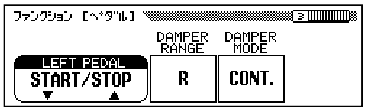
伴奏スタイルをストップする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと、スタイルの再生をストップすることができます。
【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】を押すと、エンディングが再生されたあと、自動的にストップします。
エンディングの再生中にもう一度【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】を押すと、再生がリタルダンドして(だんだん遅くなって)終了します。
メインAからエンディングに入った場合とメインBからの場合とで、2つのバリエーションパターンがあります。(エンディングの再生中は、【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】のランプが点灯し、メインAから入った場合には【MAIN A(ﾒｲﾝA)】の、メインBから入った場合には【MAIN B(ﾒｲﾝB)】のランプが点滅します)。【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】を小節の2拍め以降で押した場合は、次の小節からエンディングに切り換わります。



左のペダルによるコントロール

ファンクションモードのレフトペダル機能を使って、左のペダルの機能をSTART/STOP(スタート／ストップ)やBREAK(ブレイク)に設定すると、左のペダルでスタイルをスタート／ストップしたり、ブレイクを入れたりすることができます。また、イントロやフィルイン、エンディングを入れるペダルとして利用することもできます。このようにすると、両手を使って演奏しながらスタイルをフットコントロールすることができ、たいへん便利です。
レフトペダル機能の設定についてはP102をご参照ください。

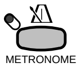


メトロノームを使う

正確なテンポで演奏したいとき、CVP-79/69/59のメトロノームをお使いください。

■ メトロノームのスタート／ストップ

【METRONOME(ﾒﾄﾛﾉｰﾑ)】を押すとランプが点灯し、現在のテンポでメトロノームが鳴り出します。スタイルの再生中でも使うことができます。もう一度【METRONOME(ﾒﾄﾛﾉｰﾑ)】を押すとランプが消え、メトロノームはストップします。



■ メトロノームのテンポとボリューム調節

スタイルのテンポ調節と同じようにTEMPO(テンポ)【+】【-】で32～280の範囲で設定することができます。メトロノームのボリュームも、スタイルのボリュームと同じように【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞ ﾎﾞﾘｭｰﾑ)】で調節します。

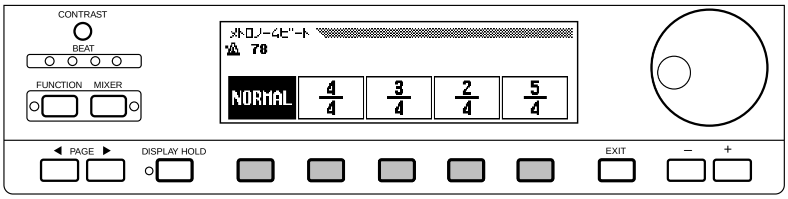
■ 拍子の選択

【METRONOME(ﾒﾄﾛﾉｰﾑ)】を押して、メトロノームをスタートしたときにポップアップ表示されるメトロノームビート(METRONOME BEAT)画面で、拍子を選択することができます。

[NORMAL(ノーマル)]を選ぶと、特定の拍子はつきません。

[4/4]、[3/4]、[2/4]、[5/4]を選ぶと、各小節の頭でアクセント音が鳴るようになります。

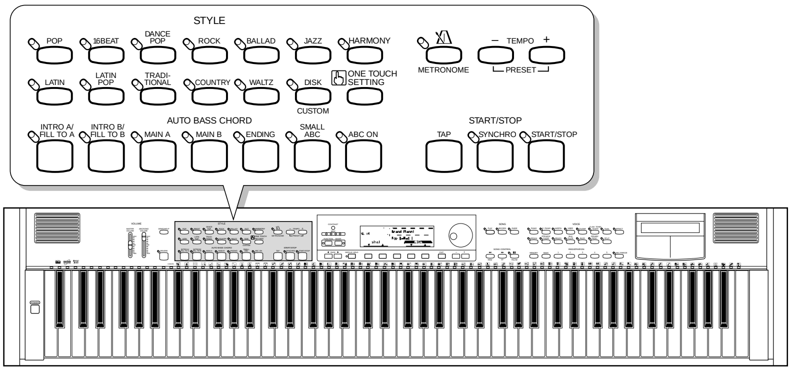
メトロノームをスタイルといっしょに鳴らした場合はアクセント音は鳴りません。



■スタイルとメトロノームをいっしょに使うとき…
メトロノームを鳴らしているときに【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと、スタイルもスタートし、スタイルとメトロノームがいっしょに鳴ります。
メトロノームとスタイルをいっしょに鳴らしているときに、【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと、メトロノームとスタイルが同時にストップします。

自動伴奏(ABC)を使って演奏する

CVP-79/69/59では、100種類のスタイルで、リズム、ベース、コードなどから構成される自動伴奏をつけながら、いっしょに演奏を楽しむことができます。いろいろな方法が用意されています。



■自動伴奏の再生データは、通常は【MIDI OUT】から出力されませんが、"ファンクション"の"MIDI3"の"自動伴奏/ハーモニーの送信"(P106)の設定により、出力することもできます。

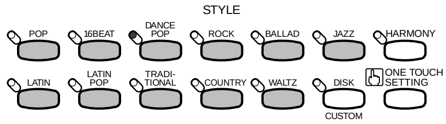
自動伴奏の種類
(シングルフィンガー、フィンガード、フルキーボード)

"シングルフィンガー"の演奏法では、左領域内(鍵盤ガイドランプで示されるスプリットポイント以下)のいくつかの鍵盤を簡単なルールに従って押さえるだけでメジャー、セブンス、マイナー、マイナーセブンスのコードを使った自動伴奏をつけることができます。
"フィンガード"の演奏法では、左領域内(スプリットポイント以下)でコード(和音)のとおりに鍵盤を押さえるだけで自動伴奏をつけることができます。
"フルキーボード"の演奏法では、ピアノ両手演奏をするだけで、コードを押さえなくても弾いたフレーズに応じて自動伴奏をつけることができます。鍵盤のどこを弾いても自動伴奏が演奏されます。

■"シングルフィンガー"、"フィンガード"、"フルキーボード"の演奏方法について詳しくは、P47〜48で説明します。

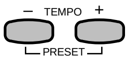
1 伴奏スタイルを選ぶ

使いたいスタイルを選びます。(P38)



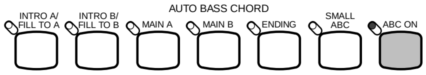
2 テンポを設定する

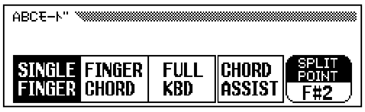
演奏する曲や好みに合わせて、テンポを設定します。(P39)



3 自動伴奏(ABC)機能をONにする

【ABC ON(ABC ｵﾝ)】を押すと、ランプが点灯し、ABC機能がONになります。また、ABCモード(ABC MODE)画面がポップアップ表示されます。もう一度【ABC ON(ABC ｵﾝ)】を押すと、ランプが消え、ABC機能がOFFになります。

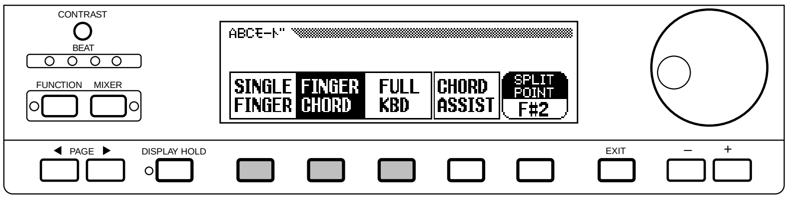




4 ABCの種類を選ぶ

ABCモード(ABC MODE)画面がポップアップ表示されている間に、[SINGLE FINGER(シングルフィンガー)]、[FINGER CHORD(フィンガードコード)]、[FULL KBD(フルキーボード)]のいずれかを押して、使いたいABCの種類を選びます。初期の設定では、自動的にシングルフィンガーが選ばれますが、一度選んだABCの種類は、電源をOFFにしたあとも保持されます。

■ABCの種類…
初期値：シングルフィンガー
初期のバックアップ設定：ON



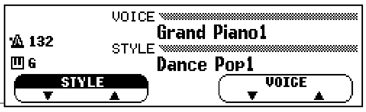
■ABCモード画面に表示されている[CHORD ASSIST(コードアシスト)]と[SPLIT POINT(スプリットポイント)]についてはそれぞれP51とP50で説明します。

5 自動伴奏をスタートする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄｽﾄｯﾌﾟ)】を押すか、シンクロスタート(P41)で演奏をスタートします。

● シングルフィンガー

左領域(スプリットポイント以下)の鍵盤を下記のルールに従って1つ〜3つ押さえるだけで、スタイルに合ったアレンジで自動伴奏が再生されます。
検出されたコード名がLCD画面に表示されます。
自動伴奏に合わせて右領域の鍵盤でメロディを弾いてください。

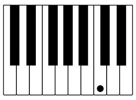


検出されたコード名

シングルフィンガーのコードの押さえ方

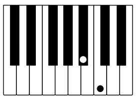
シングルフィンガーでは下記の4種類のコードで演奏できます。

●メジャー



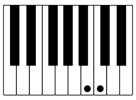
コードのルート音の鍵盤を押します。
例) C(シー)を出す場合

●マイナー



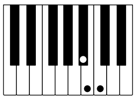
コードのルート音とそれより左側の黒鍵を同時に押します。
例) Cm(シーマイナー)を出す場合

●セブンス



コードのルート音とそれより左側の白鍵を同時に押します。
例) C7(シーセブンス)を出す場合

●マイナーセブンス



コードのルート音とそれより左側の白鍵と黒鍵を同時に押します。
例) Cm7(シーマイナーセブンス)を出す場合

コードのルート音(CDEFGAB)がどの鍵盤に対応しているかは、下記のように覚えましょう。

● フィンガード

左領域(スプリットポイント以下)の鍵盤でコード(和音)を押さえると、自動伴奏が再生されます。自動伴奏に合わせて右領域の鍵盤でメロディを弾いてください。
押さえたコードが、CVP-79/69/59で検出できなかった場合、LCD画面のコード名の部分に"＊"が表示されます。

■同じようなコードが連続した場合(たとえばあるマイナーセブンスコードに続けて同じルートの

マイナーコードが続いた場合など)、自動伴奏が変化しないことがあります。

フィンガードコードについて

フィンガードでは下記のコードで演奏できます(「活用ガイド」P74にCコードの押さえ方一覧表が用意されています)。

●メジャー
●シックス[6]
●メジャーセブンス[M7]
●メジャーセブンスフラットファイブ[M7(♭5)]
●メジャーセブンスシャープイレブンス[M7(♯11)]
●アッドナインス[add9]
●メジャーセブンスナインス[M7(9)]
●シックスナインス[6(9)]
●フラットファイブ[♭5]
●オーギュメント[aug]
●セブンスオーギュメント[7(♯5)]
●メジャーセブンスオーギュメント[M7(♯5)]
●マイナー[m]
●マイナーシックス[m6]
●マイナーセブンス[m7]
●マイナーセブンスフラットファイブ[m7(♭5)]
●マイナーアッドナインス[madd9]
●マイナーセブンスナインス[m7(9)]
●マイナーセブンスイレブンス[m7(11)]
●マイナーメジャーセブンスフラットファイブ[mM7(♭5)]
●マイナーメジャーセブンス[mM7]
●マイナーメジャーセブンスナインス[mM7(9)]
●マイナーフラットファイブ[m(♭5)]
●ディミニッシュセブンス[dim7]
●セブンス[7]
●セブンスサスフォー[7sus4]
●セブンスナインス[7(9)]
●セブンスシャープイレブンス[7(♯11)]
●セブンスアッドサーティーンス[7(13)]
●セブンスフラットファイブ[7(♭5)]
●セブンスフラットナインス[7(♭9)]
●セブンスアッドフラットサーティーンス[7(♭13)]
●セブンスシャープナインス[7(♯9)]
●サスフォー[sus4]

"オンベース"コードも検出されます。
鍵盤を2つしか押さえなかった場合、前のコードから適当なコードが検出されます。
連続した3つの鍵盤(たとえば、C、C♯、D)を押さえると、コードなしとなります。リズムだけを鳴らす場合などに利用します。この場合、LCD画面のコード名の部分には"---"が表示されます。

■コードの押さえ方について…
左領域の鍵盤でコードを押さえたあと指を離しても、次のコードを押さえるまでは同じコードの伴奏が続きます。また、コードを変えるとき、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。一度指を離してから次のコードを押さえてください。

● フルキーボード

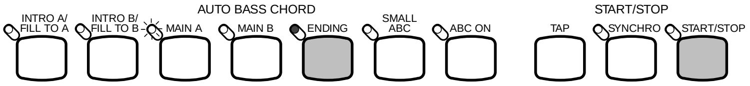
全鍵域で通常のピアノ両手演奏をするだけで、コードを押さえなくても自動伴奏が再生されます。特定のコードの弾き方にとらわれず、鍵盤のどこで演奏してもリズム、ベース、コードやフレーズによる自動伴奏がつきます。検出されたコード名がLCD画面に表示されます。(曲のアレンジによっては、フルキーボードでの演奏に合わない場合もあります。)

■フルキーボードでは、小節のはじめからだいたい8分音符間隔でコードが検出されます。この間隔以内で弾かれた短いコードは検出されません。

■ちょっと覚えておこう…
自動伴奏といっしょに、スプリット(P30)やデュアル(P28)機能も使えます。

6 自動伴奏をストップする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄｽﾄｯﾌﾟ)】または【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】でストップします。



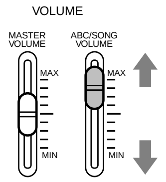
自動伴奏(ABC)機能をOFFにするときは、【ABC ON(ABC オン)】を押してランプを消します。

■【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】、【INTRO B/FILL TO B(ｲﾝﾄﾛB/ﾌｨﾙﾄｩｰB)】、【MAIN A(ﾒｲﾝA)】、【MAIN B(ﾒｲﾝB)】、【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】も"伴奏スタイル"の章のP40〜P43で説明したとおりに使えます。

■自動伴奏パートの録音について…
シングルフィンガー、フィンガードでは自動伴奏パートをあらかじめ録音しておくと、それを再生させながらメロディだけ弾くという方法で簡単に楽しめます。"クイック録音"(P83)"コードシーケンス機能"(P90)をご参照ください。

自動伴奏(ABC)全体のボリューム調節

【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】を使って自動伴奏全体のボリュームを調節することができます(手弾きの音量には影響しません)。このボリューム調節により、自動伴奏の音量と手弾きの音量のバランスを取ることができます。
全体のボリュームは【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】で調節します。



自動伴奏(ABC)のパート別のボリューム調節

自動伴奏は、次のようにリズム、ベース、コード、パッド、フレーズの5つの伴奏パートから構成されています。

リズム： 伴奏の中心となるリズムパートです。通常、ドラムキットのいずれかが使われます。

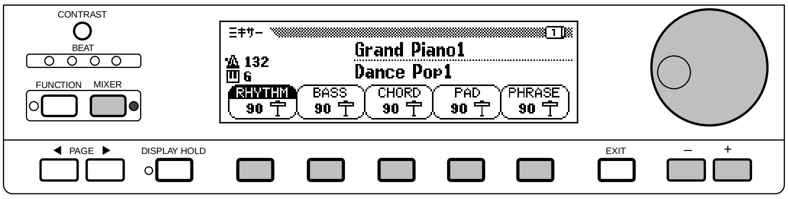
ベース： ベースラインの伴奏パートです。アコースティックベース、シンセベースなど、各スタイルに合ったベース音が使われます。

コード： ピアノやギターなどの音で作られるリズミカルなコードの伴奏パートです。

パッド： ストリングス、オルガン、クワイアなどの音を使った長いコードの響きをつけるパートです。

フレーズ： パンチのきいたブラスセクションやコードアルペジオなど、さまざまな装飾音をつけるパートです。

ミキサー機能を使うと、これら5つの伴奏パートのボリュームを個別に調節することができます。【MIXER(ﾐｷｻｰ)】を押すとランプが点灯し、ミキサー(MIXER)画面が表示されます。[RHYTHM]、[BASS]、[CHORD]、[PAD]、[PHRASE]を押してパートを選び、【ダイアル】や【+】【-】を使って設定します。値は"2"ずつ変化させることができます。複数のパートを選んで同時にボリューム調節することもできます。また、【+】【-】を同時に押すと、それぞれの初期値の"90"に戻ります。もう一度【MIXER(ﾐｷｻｰ)】を押すか、【EXIT(戻る)】を押すとランプが消え、元の画面に戻ります。



■この機能を利用して、あるパートのボリュームを0にして鳴らさないようにし、鳴らすパートの組み合わせを変えると、いろいろなタイプの伴奏になります。

■スタイルによっては5つの伴奏パートを全部使っていないものもあります。

■各パートのボリューム…
設定範囲：0～100(最大)
初期値：KBD(=手弾きの音量)は100、
それ以外の各パートは90
初期のバックアップ設定：OFF

■各ボリュームの関係…
【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】は【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】と連動しています。

■自動伴奏(ABC)の各パートのボリュームは、【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏／ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】と連動しています。

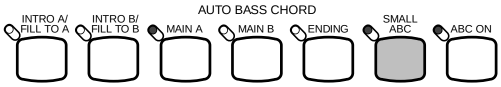
■KBD(手弾きの音量)は、【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】と連動しています。

■ハーモニーパートのボリュームは、KBD(手弾きの音量)と連動しています。

PAGE(画面送り)【◀】【▶】を使って、ミキサー画面の2ページめを開くと、手弾きの音量やハーモニー機能(P52)の音量を調節することができます。[KBD(=手弾きの音量)]、[HARMONY]を押してパートを選び、【ダイアル】や【+】【-】を使って設定します。
画面左下にある[PRESET]を押すと、すべてのパートのボリュームを初期値に戻すことができます。

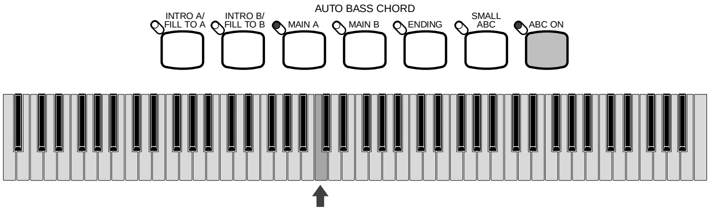
スモールABC

【SMALL ABC(ｽﾓｰﾙABC)】を押すとランプが点灯し、現在の自動伴奏(ABC)を構成するパートのうち、いくつかのパートがミュート(消音)され、オーケストレーションがシンプルになります(音数が減って簡単なアレンジの伴奏になります)。
もう一度【SMALL ABC(ｽﾓｰﾙABC)】を押すとランプが消え、通常の自動伴奏(ABC)に戻ります。

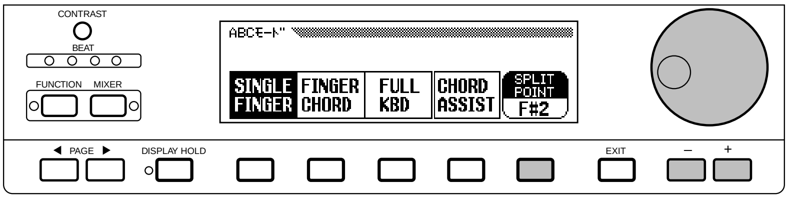


スプリットポイントを変更する

自動伴奏(ABC)機能時の右領域と左領域は好きな位置(鍵盤)で分けることができます。【ABC ON(ABC オン)】を押しながら、スプリットポイントにしたい鍵盤を押して設定します。(スプリットポイントの鍵盤は左領域に含まれます)。設定されたスプリットポイントの鍵盤ガイドランプが点灯します。



また、スプリットポイントは、ABCモード(ABC MODE)のポップアップ画面で[SPLIT POINT]、【ダイアル】、【+】【-】を使って設定することもできます。【+】【-】を同時に押すと初期値の"F♯2"に戻ります。



■【SMALL ABC(ｽﾓｰﾙABC)】をONにしていても、【ABC ON(ABCオン)】がOFFになっていると、自動伴奏音は鳴りません。

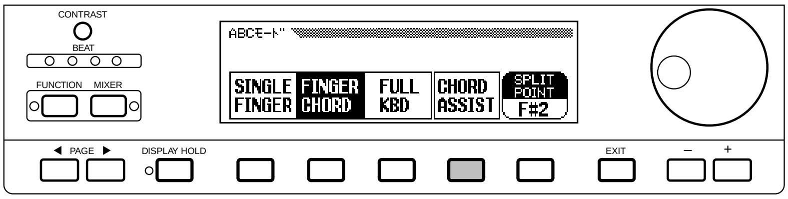
■スプリットポイント…
設定範囲：すべての鍵盤
初期値：F♯2
初期のバックアップ設定：OFF

コードアシスト機能

コードアシスト機能を使うと、自動伴奏(ABC)のフィンガード演奏をしながらコードの押さえ方を簡単に知ることができます。知りたいコードをLDC画面上で指定するだけで、押さえる鍵盤のガイドランプが点灯しますので、コードを確認したり、覚えるために利用することができます。

1 コードアシスト機能をONにする

ポップアップ表示されているABCモード(ABC MODE)画面の[CHORD ASSIST]を押すと、コードアシスト機能がONになります。

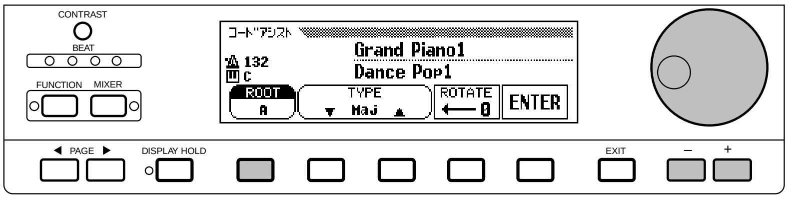


2 自動伴奏(ABC)をスタートする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すか、シンクロスタート(P41)で、自動伴奏をスタートします。

3 コードのルート音を指定する

[ROOT]を押すか、一度押して反転させたあと、【ダイアル】か【+】【-】を使って、知りたいコードのルート音を指定します。



4 コードのタイプを指定する

[TYPE]▼▲を押して、コードのタイプを指定します。また、一度[TYPE]を反転させたあと、【ダイアル】や【+】【-】を使って指定することもできます。

5 指定したコードを入力する

指定したコードは、鍵盤ガイドランプによって、押さえる位置が示されます。そのとおり鍵盤を押さえると実際に自動伴奏音がそのコードで鳴ります。あるいは、鍵盤を押さずにLCD画面上の[ENTER]を押しても、指定したコードを入力し、自動伴奏をそのコードの響きで再生させることができます。

6 転回コードを表示させる

LCD画面上の[ROTATE]を押すと、コードを押さえる鍵盤の位置が変わると共にコードの転回形が変わります。[ROTATE]を押すごとに、次の転回形に変わります。[ROTATE]に転回形の番号が表示されます。

■以下のコードの種類をLCD画面上で指定することができます。
メジャー[Maj]
セブンス[7]
マイナー[m]
マイナーセブンス[m7]
マイナーセブンスフラットファイブ[m7(♭5)]
シックス[6]
マイナーシックス[m6]
メジャーセブンス[M7]
サスフォー[sus4]
オーギュメント[aug]
マイナーフラットファイブ[m(♭5)]
セブンスサスフォー[7sus4]
セブンスオーギュメント[7(♯5)]
ディミニッシュセブンス[dim7]
フラットファイブ[♭5]
セブンスフラットファイブ[7(♭5)]
マイナーメジャーセブンス[mM7]

また、鍵盤からはすべてのフィンガードのコードを入力することができます。

■LCD画面上で指定したコードのルート音とタイプは、それぞれ[ROOT]と[TYPE]に表示されますが、実際に鍵盤で押さえた(あるいは[ENTER]で入力した)コード名は、通常通り画面左側のキーボードマークの横に示されます。

■鍵盤ガイドランプが点滅している音は、そのコードを押さえるときに省略してもよい音です。

7 自動伴奏(ABC)をストップする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】または【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】でストップします。

■コードアシスト機能をONにしているときは、スプリットポイントは鍵盤ガイドランプでは表示されません。

■スプリットポイントがF♯2より下に設定されているときは、自動的にF♯2になります。

8 コードアシスト機能をOFFにする

【ABC ON(ABC ｵﾝ)】を押すと、ランプが消え、コードアシスト機能がOFFになり、自動伴奏(ABC)機能もOFFになります。

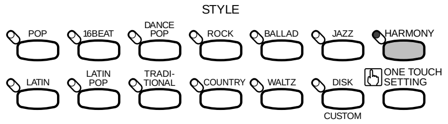
ハーモニー機能

ハーモニー機能を使うと自動伴奏(ABC)に加えて、右領域の鍵盤で演奏しているメロディにハーモニーや装飾音(最大3音まで)が付け加えられます。付け加えられる音は、自動的に自動伴奏(ABC)によって演奏されているコードに合ったものになります。

1 ハーモニー機能をONにする

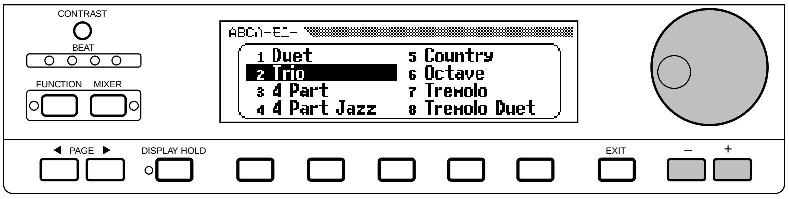
【HARMONY(ﾊｰﾓﾆｰ)】を押すとランプが点灯し、ハーモニー機能がONになります。また、ABCハーモニー(ABC HARMONY)画面がポップアップ表示されます。

■自動伴奏(ABC)の演奏方法がフルキーボードのときは、ハーモニー機能をONにすることはできません。



2 ハーモニーの種類を選ぶ

ポップアップ表示されているABCハーモニー(ABC HARMONY)画面で、【ダイアル】、【+】【-】を使って、ハーモニーの種類を選びます。16種類のハーモニーが用意されています。



ハーモニーの種類

Duet(デュエット)	Tremolo Oct.(トレモロオクターブ)
Trio(トリオ)	Strumming(ストラミング)
4 Part(4パート)	Trio Delay(トリオディレイ)
4 Part Jazz(4パートジャズ)	Vibes & J.Gtr(バイブ&ジャズギター)
Country(カントリー)	Add Trp & Sax(アッドトランペット&サックス)
Octave(オクターブ)	Backing Vocal(バッキングボーカル)
Tremolo(トレモロ)	Add Strings(アッドストリングス)
Tremolo Duet(トレモロデュエット)	Forest(フォレスト)

■ハーモニーの種類によって、現在選ばれている音色とは違う音色が、ハーモニーで使われるものもあります。

3 自動伴奏(ABC)をスタンバイする

伴奏スタイル、テンポ、ABCの演奏方法(フルキーボード以外)を設定し、自動伴奏(ABC)をスタンバイします。

■自動伴奏(ABC)がOFFのときでもハーモニーはONにできますが、ハーモニーはオクターブの音程でだけ加わります。

4 自動伴奏(ABC)をスタートする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すか、シンクロスタート(P41)で自動伴奏をスタートします。

5 ハーモニー演奏する

左領域の鍵盤でコードを押さえ(シングルフィンガー、フィンガード)、右領域の鍵盤でメロディを弾いてください。メロディにハーモニーや装飾音が加わります。なお、右領域の鍵盤で和音を演奏した場合は一番あとに弾かれた音に対してハーモニーが加わります。

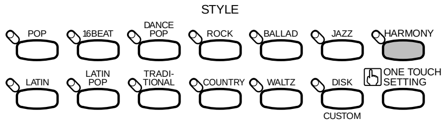
6 自動伴奏(ABC)をストップする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】または【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】でストップします。

7 ハーモニー機能をOFFにする

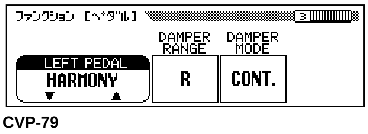
もう一度【HARMONY(ﾊｰﾓﾆｰ)】を押すと、ランプが消え、ハーモニー機能がOFFになります。

■ハーモニー機能は演奏中にもON/OFFすることができますので、盛り上げたいフレーズにだけハーモニーを付けたりすることもできます。



ペダルによるコントロールの方法

レフトペダルの機能をHARMONY ON/OFF(ハーモニーオン／オフ)に設定すると(P102)、レフトペダルを踏んでいる間だけ、右領域での演奏にハーモニーや装飾音をつけることができます。この方法を使うと、両手で鍵盤を弾きながらフットコントロールによってハーモニー機能がON/OFFできますので、曲の途中で必要なフレーズにだけハーモニーをつけたりするのに便利です。



CVP-79

■ハーモニー機能そのものがOFFのとき(【HARMONY(ﾊｰﾓﾆｰ)】のランプが消えているとき)は、レフトペダルによるハーモニーのON/OFFは機能しません。

ワンタッチセッティング機能

各スタイルには、それぞれの特徴を生かした音色やエフェクトなどのパネルの設定状態がプログラムされており、ワンタッチセッティング機能によって、いつでも簡単に呼び出すことができます。CVP-79ではスタイルごとに4種類、CVP-69では3種類、CVP-59では1種類の設定状態を持っています。

ワンタッチセッティングの設定項目

■音色に関する項目

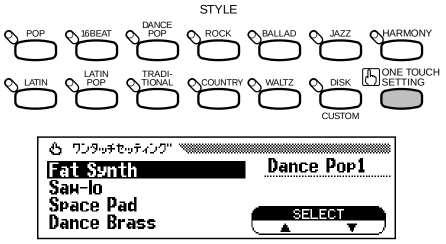
音色	リバーブの深さ(トータル、リズム、ベース、コード、キーボード)
キーボードボリューム	エフェクトのオン／オフ
デュアル機能のオン／オフ	エフェクトの種類
スプリット機能のオン／オフ	エフェクトの深さ(第1音色、デュアル音色、スプリット音色)
デュアル時の音色	右領域／第1音色オクターブシフト
スプリット時の音色	左領域オクターブシフト
デュアルバランス	第2音色オクターブシフト
スプリットバランス	右領域／第1音色パン
デュアルデチューンの深さ	左領域パン
リバーブのオン／オフ	第2音色パン
リバーブの種類	

■伴奏スタイルに関する項目

自動伴奏(ABC)は必ずON	リズムボリューム
スモールABCのオン／オフ	ベースボリューム
ハーモニー機能のオン／オフ	コードボリューム
ハーモニーの種類	パッドボリューム
ABC/SONG(自動伴奏／ソング)ボリューム	フレーズボリューム
メインA/Bの設定	ハーモニーボリューム
テンポ	

1 ワンタッチセッティングの呼び出し

ワンタッチセッティングの設定状態は、スタイルの再生中でも、スタイルをスタートさせる前でも、【ONE TOUCH SETTING(ﾜﾝﾀｯﾁｾｯﾃｨﾝｸﾞ)】を押すだけで呼び出すことができます。また、CVP-79/69では、ポップアップ表示されるワンタッチセッティング(ONE TOUCH SETTING)画面で、SELECT[▼][▲]を使って他の種類の設定状態を呼び出すこともできます。



CVP-79/69

呼び出した設定状態は、必要に応じて自由に変更することができます。それをレジストレーション機能(P69)を使って登録しておくこともできます。

■【ONE TOUCH SETTING(ﾜﾝﾀｯﾁｾｯﾃｨﾝｸﾞ)】を押すと、自動的に自動伴奏(ABC)機能もONになります。

■スタイルをスタートさせる前に【ONE TOUCH SETTING(ﾜﾝﾀｯﾁｾｯﾃｨﾝｸﾞ)】を押した場合は、自動的にシンクロスタートがスタンバイされます。

■【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】が選ばれているときは、ワンタッチセッティング機能は使えません。

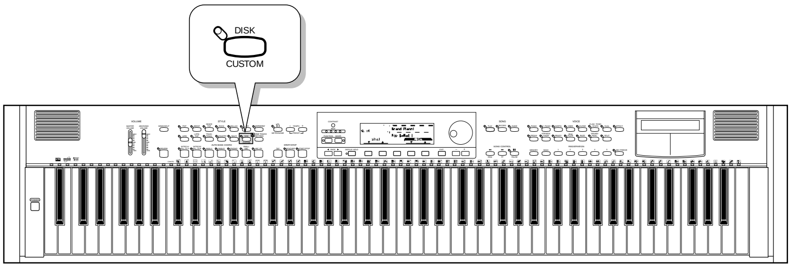
■スタイルを切り換えると【ONE TOUCH SETTING(ﾜﾝﾀｯﾁｾｯﾃｨﾝｸﾞ)】を押す前のパネル設定に戻すことができます。(ただし、自動伴奏(ABC)はオフには戻りません。)

■伴奏スタイルごとのワンタッチセッティング設定の種類の選択は、バックアップ機能(P117)の[STYLE SETTING(スタイルセッティング)]項目をONにしておくと、電源を切ったあともメモリーされます。こうしておくと次回からは、【ONE TOUCH SETTING(ﾜﾝﾀｯﾁｾｯﾃｨﾝｸﾞ)】を押すだけで、呼び出したい種類のワンタッチセッティングの設定状態を再現することができます。(CVP-79/69)

■自動伴奏(ABC)の演奏方法がフルキーボードのときには、ワンタッチセッティングに、"ハーモニー機能ON"の設定が含まれていた場合でも、ハーモニー機能はONになりません。

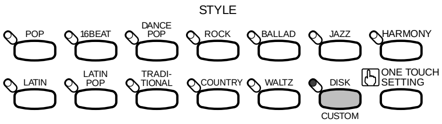
オリジナルの伴奏スタイルを作る（カスタムスタイル機能）

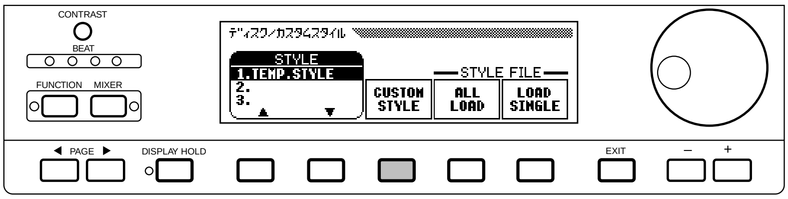
カスタムスタイル機能を使って、オリジナルのスタイルを作ることができます。作ったスタイルは、【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】に記憶させてパネルのスタイルと同様に使えます。また、フロッピーディスクに保存しておき、必要な時に読み込んで使用することもできます。



1 カスタムスタイル機能をONにする

【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】を押すとランプが点灯し、ディスク／カスタムスタイル(DISK/CUSTOM STYLE)画面が表示されます。画面上の[CUSTOM STYLE(カスタムスタイル)]を押すと、「元になるスタイルを選んで下さい。(Please select a source STYLE.)」のメッセージが表示され、数秒後にカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の1ページへ移行します。また、同時に現在【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】に記憶されているスタイルが再生されます。





2 元になる伴奏スタイルを選ぶ

パネルのスタイルの中から、作成しようとしているスタイルに似ているものを元のスタイルとして選びます。通常の選択方法(P38)で選ぶことができます。

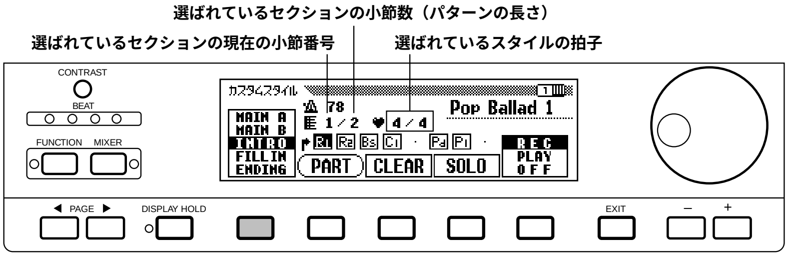
元のスタイルとしてカスタムスタイルを使いたい場合は、もう一度【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】を押し、[STYLE(スタイル)]▼▲、【ダイアル】、【+】【-】を使って、使いたいスタイルを選びます。

■カスタムスタイルのデータは、電源をOFFにすると消えてしまいます。したがって、作成したデータは電源をOFFにする前に必ずフロッピーディスクに保存してください。(P63)

■電源をONにしたときはいつでも、あらかじめプログラムされた仮のスタイルが1つ、【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】に入っています。

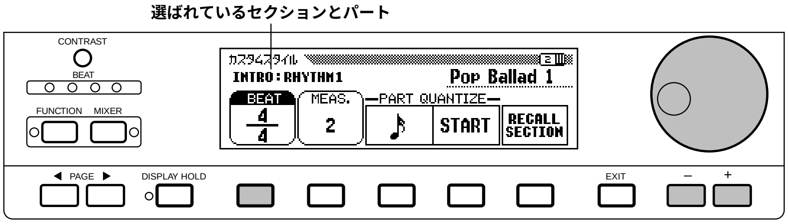
3 録音したいセクションを選ぶ

カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)の1ページの画面で、一番左側のLCDボタンを押して、MAIN A、MAIN B、INTRO、FILL IN、ENDINGの中から最初に作りたいセクションを反転表示させて選びます(画面を開いたときはMAIN Aが選ばれています)。



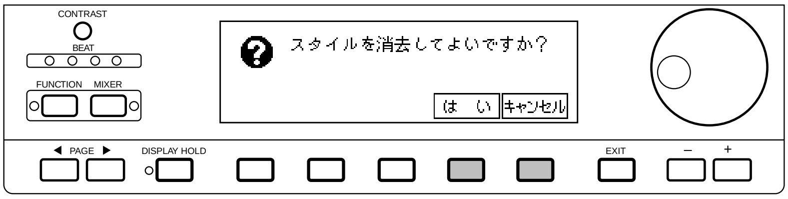
4 拍子や小節数を変更する

元になるスタイルとは異なる拍子のスタイルを作りたい場合や選んでいるセクションの小節数(パターンの長さ)を変更したい場合は、PAGE(画面送り)【◀】【▶】でカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の2ページを表示させます。拍子や小節数を変更する必要がなければ、次の手順5に進んでください。



[BEAT]を押すか、一度[BEAT]を反転させたあと、【ダイアル】、【+】【-】を使って拍子を選びます。まず、拍子を変更しようとすると、LCD画面には「スタイルを消去してもよいですか？(Clear STYLE?)」のメッセージが表示されます。(拍子を変えて録音する場合、スタイルそのものを消去して最初から録音し直す必要があるからです。)

消去してよい場合は[はい(OK)]を、中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。スタイルを消去したあとは、2/4、3/4、4/4、5/4の拍子の中から新しい拍子を選ぶことができます。

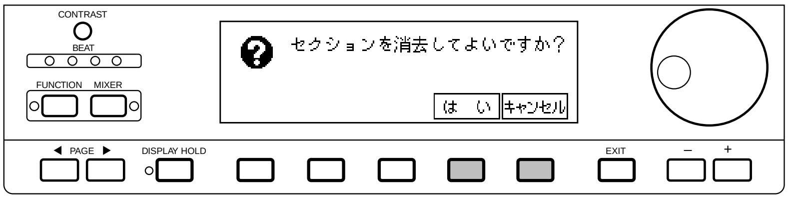


■セクションとパートについて…
カスタムスタイルでは、MAIN A、MAIN B、INTRO、FILL IN、ENDINGを、一つの伴奏スタイルを構成する"セクション"と表現します。RHYTHM1/2、BASS、CHORD1/2、PAD、PHRASE1/2を"パート"と表現します。

■カスタムスタイルで作成できるイントロ、フィルイン、エンディングは、それぞれ1パターンずつになります。

■カスタムスタイル機能をONにしたときにメインAとメインBのどちらが選ばれていたかによって、元になるイントロ、フィルイン、エンディングのパターンのバリエーションが決まります。
（フィルインについては、"メインA→フィルイン→メインA"のパターンか、"メインB→フィルイン→メインB"のパターンが使われます。）

現在選んでいるセクションの小節数を変更したい場合は、[MEAS(小節)]を押すか、一度[MEAS(小節)]を反転させたあと、【ダイアル】、【+】【-】を使って小節数を選びます。まず、小節数を変更しようとすると、LCD画面には「セクションを消去してもよいですか？(Clear SECTION?)」のメッセージが表示されます。(小節数を変えて録音する場合、セクションそのものを消去して最初から録音し直す必要があるからです。)
消去してよい場合は[はい(OK)]を、中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。セクションを消去したあとは、1〜8小節の中から新しい小節数を選ぶことができます。ただし、FILL INセクションの小節数は1小節と決められていますので、消去しても1小節しか選ぶことができません。

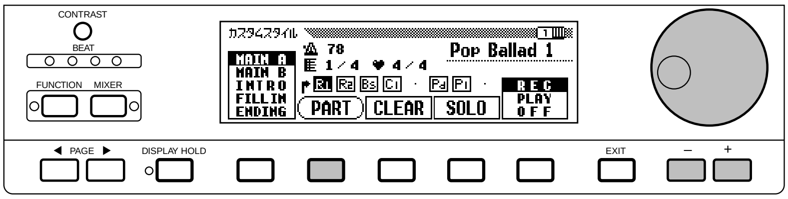


拍子や小節数を決めたら、PAGE(画面送り)【◀】でカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の1ページに戻ってください。

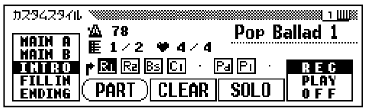
5 録音するパートと音色を選ぶ

[PART]、【ダイアル】、【+】【-】を使って録音したいパートを選びます。次のように8つのパートの中から選ぶことができます。

R1:	Rhythm 1(リズム1)
R2:	Rhythm 2(リズム2)
Bs:	Bass(ベース)
C1:	Chord 1(コード1)
C2:	Chord 2(コード2)
Pd:	Pad(パッド)
P1:	Phrase 1(フレーズ1)
P2:	Phrase 2(フレーズ2)

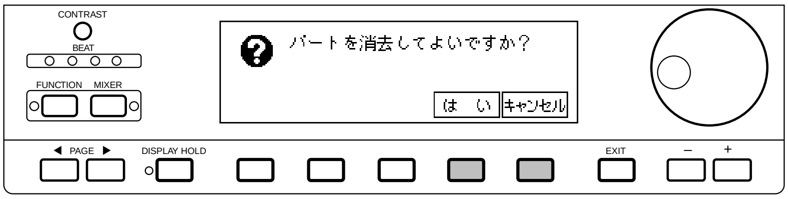


最初は自動的にR1(リズム1)パートが選ばれ、録音状態(反転表示)になっています。選ばれているパートには下線が表示されます。

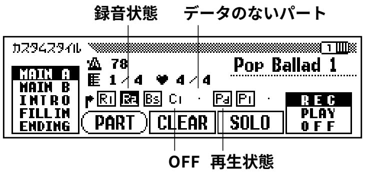


選択したパートは、一番右側のLCDボタンを押して[REC(録音)]を反転させることにより、録音状態にすることができます。

元になるスタイルがパネルのスタイル、または別売のスタイルファイルディスクから読み込んだスタイルの場合、R1(リズム1)、R2(リズム2)以外のパートは、消去してからでないと録音できないことになっています。したがって、これらのパートを録音状態にしようとすると、まず「パートを消去してもよいですか？(Clear Part ?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、そのパートが録音状態になります。キャンセルしたいときは[キャンセル(CANCEL)]を押します。



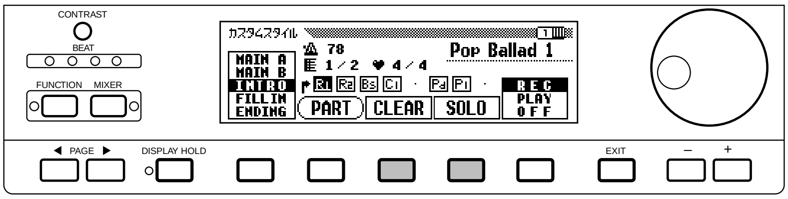
一度に録音状態にできるのは1パートだけです。あるパートを録音状態にすると、次の図のようにその他のパートは再生状態(パート表示が四角い枠で囲まれている状態)、またはOFFの状態(パート表示だけの状態)になります。録音データが何もないパートは、パート表示の代わりにドット(・)表示になります。



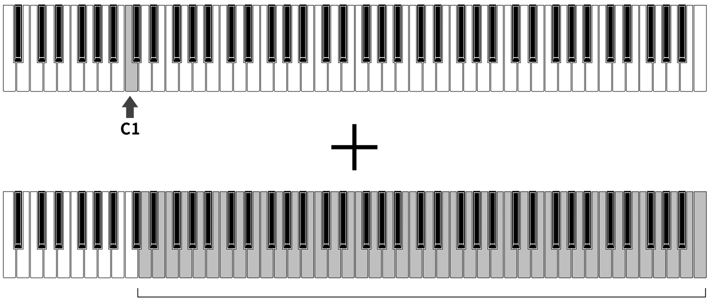
また、この時点で録音に使いたい音色を選ぶことができます。(最初は、選んだパートで元もと使われている音色が自動的に選ばれます。)
R1(リズム1)パートでは、【DRUMS/PERC.(ドラムス/パーカッション)】の音色だけ、R2(リズム2)パートでは、ドラムキットだけを使うことができます。また他のパートではそれ以外の音色を使用することができます。

6 選んだパートへ録音する

鍵盤を弾くと選んだパートへ新しい音が録音されます。すでにデータが録音されているパートの場合、鍵盤を弾いたタイミングで新しい音が追加される形で録音されます(カスタムスタイルではCメジャーセブンス[CM7]のパターンとして録音されますので、ここではCメジャーセブンス[CM7]のパターンとして弾いてください)。
何もデータがない状態から新しく録音を始めたい場合は、録音を始める前に[CLEAR]を押して、そのパターンを消去してください。なお、R1(リズム1)、R2(リズム2)パートを両方とも消去した場合、タイミングをとるためのガイドとしてメトロノームの音が鳴ります(このメトロノーム音は録音されません)。



また、R1(リズム1)、R2(リズム2)パートへドラムキットの音色を録音しているときは、各ドラム音色単位で不要な音を消去することもできます。"CANCEL"の鍵盤(C1)を押さえながら、消したいドラム音色の鍵盤を押します。



[SOLO]を押して反転させると、選ばれているパートの音だけが鳴り、他のパートの音はミュート(消音)されますので、1つのパートだけを聞いて確認する場合に便利です。もう一度[SOLO]を押すと、通常通りに音が鳴ります。

■C1の鍵盤を押さえながら、メトロノーム(A1の鍵盤)をクリアすれば、タイミングのガイドを消すことができます。

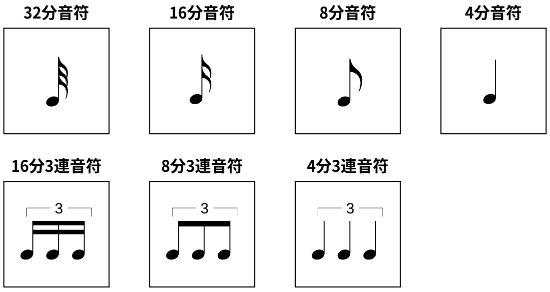
■【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すことにより、作成中のスタイルの再生をストップしたり、再びスタートさせることができます。再生がストップしているときは鍵盤を弾いても録音されません。

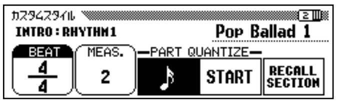
■すべてのパートで、パターンの終わりのポイント(繰り返しの切れめ)では、音が自動的にOFFされます。したがってパターンの繰り返しの切れめをまたいで録音しないよう、ご注意ください。

7 録音したパートにクオンタイズをかける

パートクオンタイズ機能を使って、一度録音したパートの音のずれを特定の音符のタイミングに合わせて修正することができます。たとえば、録音した音符を正確に8分音符や16分音符のタイミングに合わせて並べることができます。

PAGE(画面送り)【◀】【▶】でカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の2ページめを表示させます。音符のイラストがついたLCDボタンを押して、次の中からタイミングを合わせたい音符の長さを選びます。





音符の長さを選んだら、[START(スタート)]を押します。クオンタイズが実行され、[START(スタート)]が[UNDO(取り消し)]の表示に変わります。

クオンタイズの結果が期待どおりでない場合は、この[UNDO(取り消し)]を押すことにより、データをクオンタイズをかける前の状態に戻すことができます。一度クオンタイズをかけたあと、他のボタンを操作してしまうと、[UNDO(取り消し)]は使えなくなります。

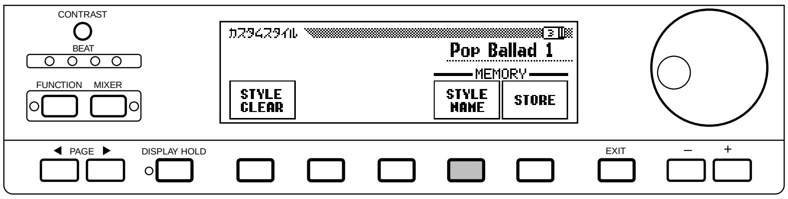
■常に録音状態になっているパートに対してクオンタイズがかかります。録音状態になっていないパートを選んでクオンタイズをかけることはできません。また、どのパートも録音状態になっていない場合はクオンタイズは機能しません。

8 他のパートやセクションを録音する

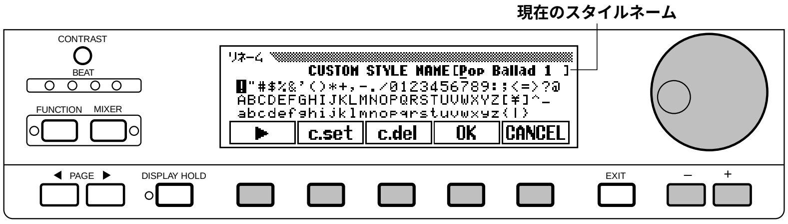
上記の手順3〜7を繰り返して、その他のパートや別のセクションを選んで録音していきます。

9 作成したカスタムスタイルに名前をつける

カスタムスタイルが完成したら、PAGE(画面送り)【◀】【▶】でカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の3ページめを表示させます。[STYLE NAME]を押すと、リネーム(RENAME)画面が表示され、作成したカスタムスタイルに名前をつけることができます。



画面右上に現在のスタイルネームが表示されます。[▶]を押すと、下線が移動し、スタイルネームの文字位置を一つずつ選択することができます(スタイルネームは最大12文字でつけることができます)。
【ダイアル】、【+】【-】を使って入力したい文字や記号を反転させます。[c.set]を押すと、選んだ文字や記号がスタイルネームの下線の位置に入力されます。同じ要領で別の文字位置に下線を移動して、文字や記号を入力していきます。入力を間違ったときは、[c.del]を押します。下線が一つ前の文字位置に戻り、その位置の文字を消去します。



[OK]を押すと、入力したスタイルネームがそのカスタムスタイルの名前として登録されます。作業を中止したい場合は[CANCEL]を押します。

■カスタムスタイルの録音中は、ミキサー(MIXER)画面によるボリューム調節は機能しません。

10 カスタムスタイルを本体内にストア(保存)する

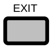
カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の3ページにある[STORE(ストア)]を押すと、作成したカスタムスタイルを本体内のメモリーに保存する画面に変わり、「******** をストアしますか？(Store********?)」のメッセージが表示されます。(********のところには実際のスタイルネームが入ります。)[MEMORY No.(メモリーナンバー)]▼▲でストア先のメモリーナンバーを1〜8の中から選びます。[はい(OK)]を押すと、カスタムスタイルが選んだメモリーナンバーに保存されます。中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

■カスタムスタイルをストアしたときのテンポの値が、そのスタイルの初期テンポ値になります。

■選んだメモリーナンバーにすでにスタイルがストアされていた場合、そのスタイルネームがナンバーの横に表示されます。そのナンバーにストアを実行すると、元のスタイルは新しいスタイルに置き換えられます。

11 カスタムスタイルの作成を終了する

【EXIT(エグジット)(戻る)】を押すと、カスタムスタイルの作成を終了し、通常の演奏状態に戻ります。



■カスタムスタイルのデータは、電源をOFFにすると消えてしまいます。したがって、作成したデータは、電源をOFFにする前に必ずフロッピーディスクに保存してください。(P63)

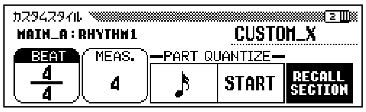
カスタムスタイルに関するその他の機能

カスタムスタイルには、そのほかにもいくつかの機能が用意されています。

■リコールセクション機能

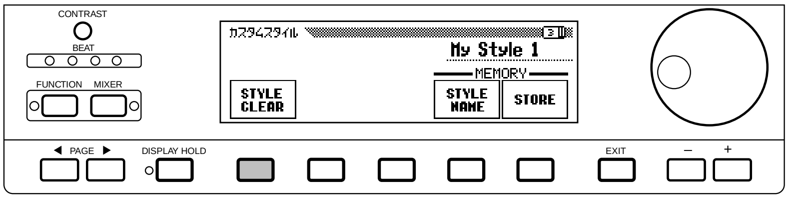
この機能を使うと、録音中のセクションを最後にストアしたときのデータに戻すことができます。(そのセクションの全パートが同時に戻ります。)

カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の2ページにある[RECALL(リコール) SECTION(セクション)]を押すと、リコールセクション機能が実行されます。拍子を変更している場合は、「リコールできません！(Can't recall)」のメッセージが表示され、リコールセクション機能は実行できません。このような場合、[はい(OK)]を押すと前の画面に戻ります。



■ スタイルのクリア(消去)

カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の3ページにある[STYLE CLEAR]を押すと、現在のカスタムスタイルそのものを消去することができます。「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示され、[はい(OK)]を押すと実行されます。中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。



■ ボリュームとエフェクト

カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の4ページでは、各セクションのパート単位でボリューム、リバーブ、エフェクト、パンを設定することができます。これらの値をうまく設定することにより、各パートのバランスが取れたクオリティの高いスタイルに仕上げることができます。

[SECT.]、[PART]でセクションやパートを選びます。("ALL"を表示させると、セクション全体またはパート全体を選択することができます。)

真ん中のLCDボタンで、選んだセクション／パートに対して設定したい機能を[VOLUME][REVERB][EFFECT][PAN]の中から選びます。[VALUE](または[DEPTH])で値を設定します。なお、[VOLUME]は、すべてのセクションに共通の設定となるため[VOLUME]を選ぶと[SECT.]は"ALL"に固定されます。また、[EFFECT]を選んだ場合、[TYPE]の項目も表示され、エフェクトのタイプ(種類)を選ぶことができます。各機能で設定できる値は次のとおりです。

VOLUME：-50〜0〜+50(元になるスタイルに設定されているボリュームに対しての相対値です。)

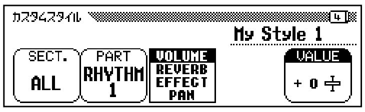
REVERB：0(効果なし)〜100(効果最大)

EFFECT：0(効果なし)〜100(効果最大)

エフェクトタイプ

CHORUS 1 (コーラス1)
CHORUS 2(コーラス2)
CHORUS 3(コーラス3)
CELESTE1(セレステ1)
CELESTE2(セレステ2)
CELESTE3(セレステ3)
FLANGER1(フランジャー1)
FLANGER2(フランジャー2)
SYMPHONIC(シンフォニック)：CVP-79のみ
PHASER(フェーザー)：CVP-79のみ
OFF(オフ)

PAN(音の定位)：L10(左端)〜C(真ん中)〜R10(右端)

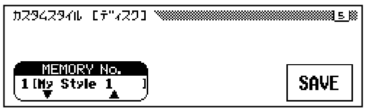


■通常、選んだセクション/パートに初期設定されている各機能の値が最初に選ばれますが、[PART]に"ALL"を選んでいるときは、R1(リズム1)のパートに設定されている値が表示されます。また、[SECT.]に"ALL"を選んでいるときは、MAIN A(メインA)のセクションに設定されている値が表示されます。

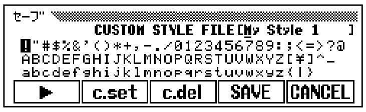
■元のスタイルで使われているエフェクトタイプが、ここで選択できるタイプ以外の場合は、エフェクトの[TYPE]に"OTHERS"が表示されます。

■フロッピーディスクへのセーブ(保存)

カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の5ページには、作ったカスタムスタイルをフロッピーディスクへセーブする機能があります。カスタムスタイルは個別にセーブしたり、8つまとめて1セットとしてセーブすることもできます。



フロッピーディスクドライブにフォーマット済みのディスクが正しく差し込まれていることを確認したあと(P13,107)、[MOMORY NO.]▼▲を使ってセーブしたいカスタムスタイルを選びます。8つのカスタムスタイルをまとめて1セットとしてセーブしたい場合は、"ALL"を選びます。それから[SAVE]を押してセーブを始めます。カスタムスタイルに名前をつけたときと同様の画面(P60)が現れますので、同じ要領でディスクにセーブするファイルとしての名前をつけます。それから[SAVE]を押します。セーブ先のディスクにすでに同じ名前のスタイルファイルが存在する場合は、「同じ名前のファイルがあります。入れ替えますか？(Same name! Overwrite?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、セーブが実行され元のファイルは新しいファイルに置き換えられます。中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。



カスタムスタイルはディスクにセーブする前に、必ず本体内のメモリーにストアされている必要があります(前に述べたP61の手順10をご参照ください)。したがって、ストアされていないカスタムスタイルをディスクへセーブしようとすると、「ディスクセーブの前にストアして下さい。(Please store before saving.)」のメッセージが表示されます。この場合は[はい(OK)]を押して、ストア機能があるカスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の3ページに戻り、ストアしたあともう一度セーブを行ってください。

【EXIT(戻る)】を押すと、カスタムスタイルの機能がOFFになり、通常の演奏状態に戻ります。

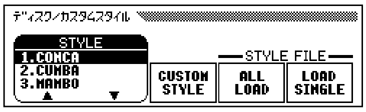
ディスクドライブのイジェクトボタンを押してディスクを取り出します。

■セーブしたカスタムスタイルファイルは、あとで、スタイルファイルディスクの読み込み機能(P66)を使って本体に読み込み、使うことができます。

■一つのフロッピーディスクには最大60個のソングファイル(P82)と60個のスタイルファイルを記録することができます。(ただし、合計では約110個のファイルまでとなります。)

カスタムスタイルの再生

【DISK/CUSTOM(ディスク/カスタム)】を押すとランプが点灯し、ディスク／カスタムスタイル(DISK/CUSTOM STYLE)画面が表示されます。[STYLE]▼▲、【ダイアル】、【+】【-】を使って、使いたいスタイルを選びます。選んだスタイルは、パネルのスタイルと同じように再生スタート/ストップでき、自動伴奏(ABC)に使用することができます。(P45)

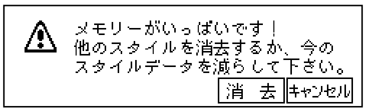


■カスタムスタイルでは、作成できるイントロ、フィルイン、エンディングは、それぞれ1パターンずつになります。したがって再生時にも、パターンのバリエーションはありません。

カスタムスタイルに関するその他のメッセージ

カスタムスタイルについての、その他のメッセージを説明します。

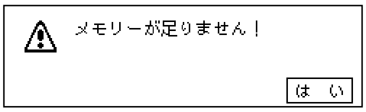
■ ストアするためのメモリーが不十分な場合



ストアするのにメモリーが足りない場合に表示されます。この場合、不要なスタイルをカスタムスタイルのメモリーから消去するか、今ストアしようとしているスタイルのデータ量を減らす必要があります。データ量を減らす場合は、いったん[キャンセル(CANCLE)]を押して、カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の1ページに戻り、スタイルのパートをクリアするなどしてデータを減らします。
不要なスタイルを消去する場合は[デリート(DELETE)]を押します。デリートスタイル(Delete STYLE)画面が表示されますので、[MEMORY NO.]▼▲で不要なスタイルを選び、[はい(OK)]で消去を実行することができます。中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

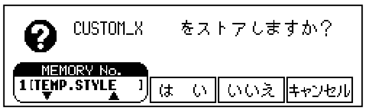
■スタイルが使用しているメモリー容量がおおよそのキロバイト(KB)で、画面に表示されます。カスタムスタイルのメモリー全体が160KBですので、どのスタイルを消去するかを決める目安にしてください。

■ 録音中にメモリーがいっぱいになった場合



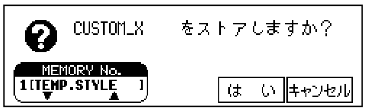
録音中にメモリーがいっぱいになった場合、このメッセージが表示されます。この場合は[はい(OK)]を押して、カスタムスタイル(CUSTOM STYLE)画面の1ページに戻り、現在録音中のスタイルのパートをクリアするなどしてデータを減らしてください。

■ ストアする前にカスタムスタイル機能を終了しようとした場合



ストアする前に、【EXIT(戻る)】を押してカスタムスタイル機能を終了しようとした場合に、このメッセージが表示されます。
[MEMORY No.]▼▲でストア先のメモリーナンバーを選び、[はい(YES)]を押すと、ストアされたあとカスタムスタイル機能が終了します。[いいえ(NO)]を押すと、ストアされずにカスタムスタイル機能が終了します。終了せずにもう一度カスタムスタイルの画面に戻る場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

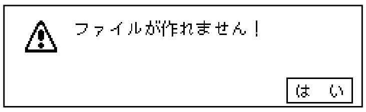
■ ストアする前に別のスタイルを選択しようとした場合



ストアする前に、別のスタイルを元になるスタイルとして選択しようとした場合に、このメッセージが表示されます。[MEMORY NO.]▼▲でストア先のメモリーナンバーを選び、[はい(OK)]を押すと、現在のカスタムスタイルがストアされ、元になるスタイルを新たに選択することができます。[キャンセル(CANCEL)]を押すと元のカスタムスタイルの画面に戻ります。

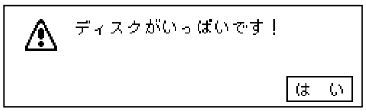
■現在のカスタムスタイルをストアせずに、元になるスタイルを新たに選択したい場合は、すぐ前で述べた"ストアする前にカスタムスタイル機能を終了しようとした場合"のやり方で、一度ストアせずにカスタムスタイル機能を終了します。それから新たにカスタムスタイル機能をONにしてやり直します。

■ ファイル数が多すぎる場合



一つのフロッピーディスクに記録できるファイル数は最大60個までです。それ以上の数のスタイルファイルをセーブしようとした場合、このメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと画面が消えます。それから新しいディスク(または空きスペースのあるディスク)を用意して、スタイルをセーブしてください。

■ ディスクがいっぱいになった場合

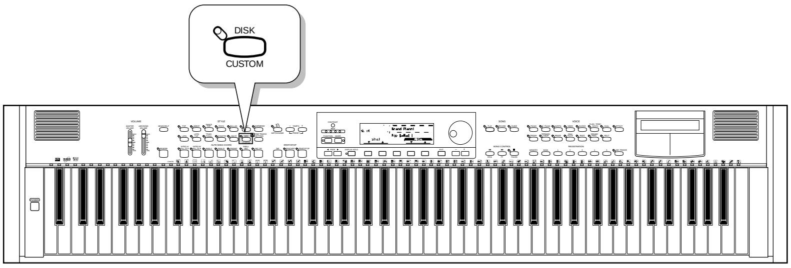


セーブ中にディスクの容量がいっぱいになった場合、このメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと画面が消えます。それから不要なソングファイルを消去するか、新しいディスク(または空き容量のあるディスク)を用意して、スタイルをセーブしてください。

■ディスクからスタイルファイルを消去することはできません。

スタイルファイルディスクの読み込み

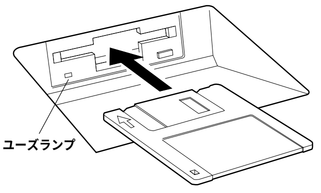
別売の「Style File Format（スタイルファイルフォーマット）」のディスクや自分で作ったカスタムスタイルを保存したディスクからスタイルファイルを読み込んで使用することができます。ディスクから読み込んだスタイルファイルは【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】に記憶させてパネルのスタイルと同様に使えます。



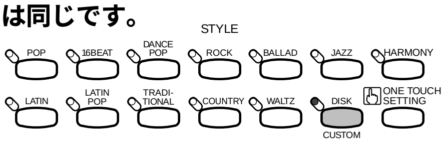
スタイルファイルの読み込み

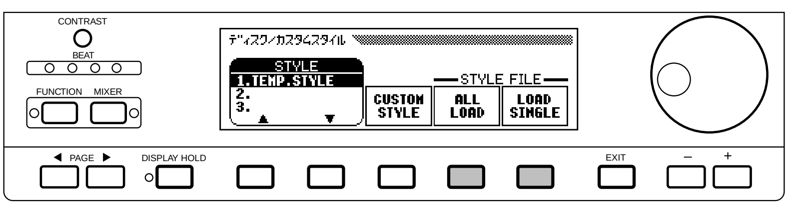
1 スタイルファイルディスクをディスクドライブに入れる

スタイルファイルディスクを図のような正しい向きと方向でディスクドライブの挿入口にしっかりと入れます。CVP-79/69/59がディスクを読み込んで認識するまで、ユーズランプが点灯します。スタイルファイルディスクが挿入されると、スタイルファイルロード(STYLE FILE LOAD)画面(手順2の画面)が表示されます。



すでにスタイルファイルディスクが差し込まれていて、スタイルファイルロード(STYLE FILE LOAD)画面が表示されていない場合は、【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】を押してディスク／カスタムスタイル(DISK/CUSTOM STYLE)画面を表示させ、[LOAD SINGLE（ロードシングル）]を押してください。これでスタイルファイルロード(STYLE FILE LOAD)画面が表示されます。
なお、カスタムスタイルのセーブ機能の"ALL(オール)"(P63)を使って、8つのファイルを1セットで保存したものを一括して読み込む場合は、[LOAD SINGLE（ロードシングル）]ではなく[ALL LOAD（オールロード）]を押してください。
以下はロードシングルでの操作例を使っていますが、オールロードでの手順も基本的には同じです。





■ディスク取り扱い上の注意について…
"フロッピーディスクの取り扱い"(P13)をお読みください。

■Style File Format（スタイルファイルフォーマット）とは･･･
スタイルファイルフォーマットとは、ヤマハの自動伴奏機能のノウハウを集大成した伴奏スタイルデータの統一フォーマットです。パネルの100スタイルやカスタムスタイルもスタイルファイルフォーマットに準拠しています。また、スタイルファイルフォーマットのスタイルデータ(スタイルファイル)を収めた"スタイルファイルディスク"が別売されており、この機能を使って楽しむことができます。

■読み込んだスタイルファイルは電源をOFFにすると消えます。

■電源をONにしたときはいつでも、あらかじめプログラムされた仮のスタイルが1つ、[DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)]に入っています。

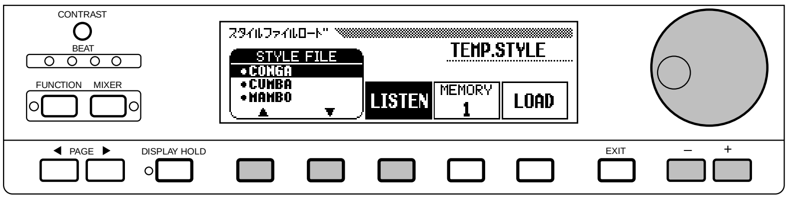
■ディスクが差し込まれていない場合は、「ディスクがありません！(No disk!)」のメッセージが表示されます。

■差し込んだディスクにスタイルファイルが入っていない場合は、「ファイルがありません！(No file!)」が表示されます。

■差し込んだディスクにスタイルファイルとソングファイルが入っている場合は、自動的にソングプレイモードになります。この場合、一度ソングプレイモードをOFFにするために【PLAY（プレイ）(再生)】を押してランプを消し、あらためてDISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】を押してください。

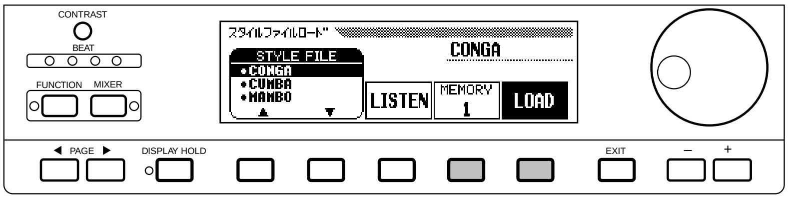
2 スタイルファイルを選ぶ

[STYLE FILE]▼▲、【ダイアル】、【+】【-】を押して、読み込みたいスタイルファイルを選びます。
また、[LISTEN]を押すと、現在選択されているスタイルファイルが再生され、読み込む前に試聴することができます。もう一度[LISTEN]を押すか、【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと、再生がストップします(手順1で[ALL LOAD]を選択した場合は、[LISTEN]はありません)。



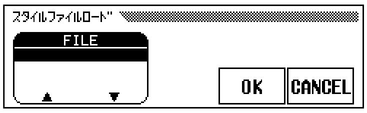
3 メモリーナンバーを選んでスタイルファイルを読み込む

[MEMORY]を押して、選んだスタイルファイルを記憶するメモリーナンバーを選びます(1～8の中で選ぶことができます)。
[LOAD]を押すと、選んだスタイルファイルが読み込まれ、選んだメモリーナンバーに記憶されます。

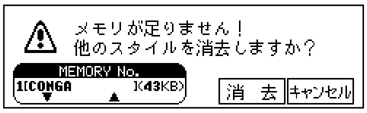


手順の2と3を繰り返して、必要なスタイルファイルを各メモリーナンバーに記憶することができます。

また、手順の1で[ALL LOAD]を押した場合、次のような画面が表示されます。この場合、メモリーナンバーを選択する必要はありません。[OK]を押すだけで、すべてのスタイルファイルが読み込まれ、1～8の各メモリーナンバーに記憶されます。[CANCEL]を押すと、スタイルファイルの読み込みがキャンセルされます。



スタイルファイルを読み込むためのメモリーが十分確保できない場合は、「メモリが足りません。他のスタイルを消去しますか？(Not enough memory! Delete an unneeded STYLE?)」のメッセージが表示されます。この場合、[MEMORY No.]▲▼を使って不要なスタイルを選択し、[DELETE]を押して消去することができます。消去したくない場合は、[CANCEL]を押すと、元の画面に戻ります。



■スタイルファイルを読み込む前にテンポを変更すると、そのテンポがそのスタイルの初期テンポとなります。

■スタイルファイルによっては、ファイルサイズが大きすぎるため[LISTEN]が使えない場合があります。このような場合、「データが大きすぎて[LISTEN]は効きません。[LOAD]を押してロードして下さい。(Too much data for listen! Please [LOAD])」というメッセージが表示されます。その場合は手順3で直接データを読み込んでください。

■[LOAD SINGLE]を押すと、自動的に自動伴奏(ABC)機能がONになります。また、[LISTEN]を押すと、選んでいるスタイルファイルがCメジャーのコードで再生されます。このとき、自動伴奏の演奏方法でコードを変えたりメロディを弾いてみたりすることもできます。

■スタイルファイルを読み込むメモリーと、カスタムスタイル(P55)のメモリーは共通です。

■選んだメモリーナンバーにすでにスタイルファイルがある場合、そのスタイルネームが画面右上に表示されます。そのナンバーに読み込みを実行すると、元のスタイルは新しいスタイルに置き換えられます。

■オールロードを実行した場合は、1～8すべてのメモリーの内容が新しいデータに置き換わります。

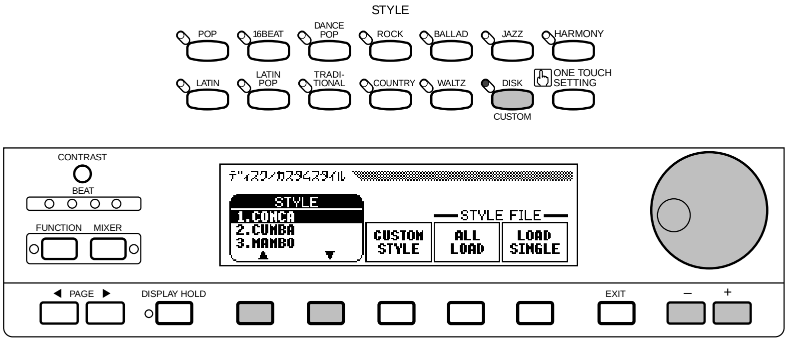
■スタイルが使用しているメモリー容量が、おおよそのキロバイト(KB)で画面に表示されます。スタイルファイルのメモリー全体が160KBですので、どのスタイルを消去するかを決める目安にしてください。

4 スタイルファイルディスクを取り出す

【EXIT(戻る)】かSTYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタンを押すと基本画面に戻ります。ディスクドライブのイジェクトボタンを押してディスクを取り出します。

読み込んだスタイルを使う

【DISK/CUSTOM(ﾃﾞｨｽｸ/ｶｽﾀﾑ)】を押すとランプが点灯し、ディスク／カスタムスタイル(DISK/CUSTOM STYLE)画面が表示されます。[STYLE]▼▲、【ダイアル】、【+】【-】を使って、使いたいスタイルを選びます。選んだスタイルは、パネルのスタイルと同じようにに再生スタート/ストップでき、自動伴奏(ABC)に使用することができます。(P45)

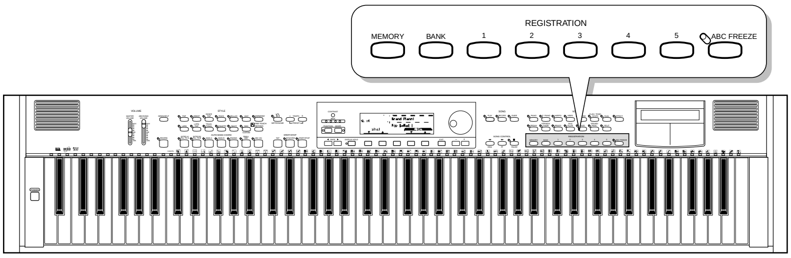


■かならず守って…
ユーズランプが点灯しているときはディスクを取り出さないでください。

■[LISTEN]、[LOAD]、【EXIT(戻る)】、STYLE(ｽﾀｲﾙ)ボタンはスタイルファイルの読み込み中(ユーズランプ点灯中)は使えません。

レジストレーション機能を使う
(パネル状態の登録)

現在のパネル上の設定状態をそのまま登録しておき、好きな時に呼び出すことができます。CVP-79/69では25種類(5バンク×5メモリー)、CVP-59では15種類(3バンク×5メモリー)の設定状態を登録することができます。



1 パネル状態を設定する

登録したいパネルの設定状態を作ります。レジストレーション機能によって登録できる内容は次のとおりです。

登録される内容

●音色に関する設定項目

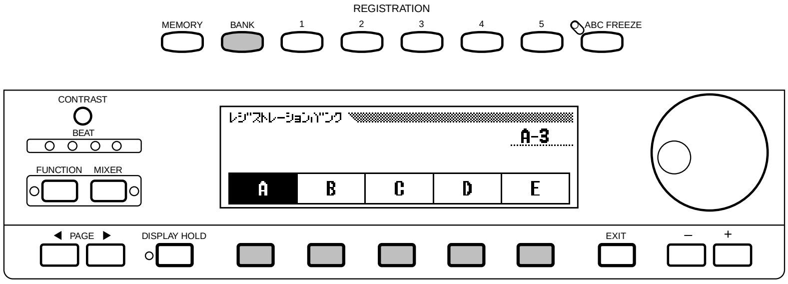
・音色の選択
・手弾きのボリューム
・スプリットポイント
・デュアル／スプリット機能のON/OFF
・デュアル／スプリット時の音色
・デュアル／スプリット時の2音色の音量バランス
・デュアル時のデチューンデプス
・リバーブのON/OFF
・リバーブタイプ
・リバーブデプス(トータル、リズム、ベース、コード、手弾き)
・エフェクトのON/OFF
・エフェクトタイプ
・エフェクトデプス(右領域／第1音色、左領域/第2音色)
・タッチセンシティビティ
・レフトペダル機能
・右領域／第1音色オクターブシフト
・左領域／第2音色オクターブシフト
・右領域／第1音色パン
・左領域／第2音色パン
・トランスポーズ
・ダンパーレンジ
・ダンパーモード(CVP-79のみ)

●伴奏スタイルに関する設定項目

・自動伴奏(ABC)のON/OFF
・自動伴奏(ABC)の種類
・スモールABCのON/OFF
・ハーモニーのON/OFF
・ハーモニータイプ
・ABC/Song(自動伴奏/ｿﾝｸﾞ)ボリューム
・伴奏スタイルの選択
・MAIN A/B(メインA/B)の選択
・テンポ
・リズムボリューム
・ベースボリューム
・コードボリューム
・パッドボリューム
・フレーズボリューム
・ハーモニーボリューム

2 レジストレーションバンクを選ぶ

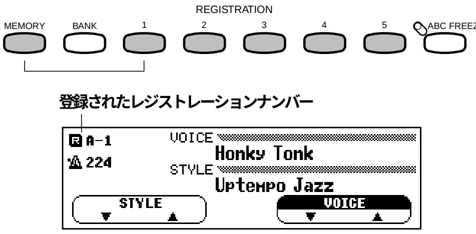
【BANK(ﾊﾞﾝｸ)】を押すと、レジストレーションバンク(REGISTRATION BANK)画面が表示されます。
CVP-79/69の場合は、[A]～[E]の5つのバンクの中からどれか1つを選びます。CVP-59の場合は、[A]～[C]の3つのバンクの中からどれか1つを選びます。



CVP-79/69

3 パネル状態を登録する

【MEMORY(ﾒﾓﾘｰ)】を押しながら、REGISTRATION(ﾚｼﾞｽﾄﾚｰｼｮﾝ)【1】～【5】のどれか1つを押して登録します。押したボタンに以前に登録されていた設定内容が消え、新しい設定内容が登録されます。また、登録されたレジストレーションナンバー(バンク／ボタンのナンバー)がLCD画面の左上に表示されます。たとえば、手順の2でバンクのAを選んで、【1】のボタンに登録した場合は、次のようにRマークの横に"A-1(Aバンクの1)"と表示されます。

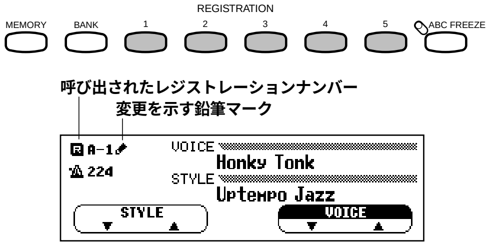


■レジストレーション...
設定範囲：バンク:A～E(CVP-79/69)、A～C(CVP-59)
ボタン:1～5
初期値：すべてのレジストレーションナンバーにあらかじめプログラムされた設定が入っています。
初期のバックアップ設定：ON

■25種類または15種類のレジストレーションデータを1セットにして、フロッピーディスクにセーブ(保存)しておき、必要なときに読み込んで使用することができます。(P108)

登録したパネル状態を呼び出す

前に述べたの手順2の要領で【BANK(ﾊﾞﾝｸ)】を押し、呼び出したいパネル状態が登録されているバンクを選びます。あとは、目的のREGISTRATION(ﾚｼﾞｽﾄﾚｰｼｮﾝ)【1】～【5】を押すだけで、登録されているパネル状態が呼び出されます。呼び出されたレジストレーションナンバー(バンク／ボタンのナンバー)がLCD画面の左上に表示されます。また、呼び出したあとにパネルのボタンや設定を変更すると、ナンバーの右横に鉛筆マークが表示され、パネル状態が呼び出したレジストレーションの設定から変更されたことを示します。



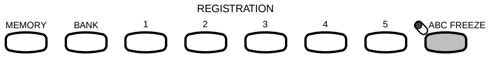
■別のバンクに切り換えても、その時点で別のパネル状態が呼び出されることはありません。REGISTRATION(ﾚｼﾞｽﾄﾚｰｼｮﾝ)【1】～【5】を押したときだけ、別のパネル状態が呼び出されます。

■レフトペダル機能(P102)を"Registration+"に設定しておくと、左ペダルを踏むごとに次のレジストレーションナンバーに登録されているパネル状態を呼び出すことができます。

ABC(自動伴奏)フリーズ機能を使う

登録したパネル状態を呼び出すときに、ABC(自動伴奏)フリーズ機能をONにしておくと、手順1で述べた伴奏スタイルに関する設定項目の内容を、元のままに固定しておくことができます。この機能により、自動伴奏(ABC)を使った演奏中に別のパネル状態を呼び出しても､突然スタイルが変更されたり音量が変わったりなど､しないようにすることができます。

【ABC FREEZE(ABC固定)】を押してランプを点灯させると、ABC(自動伴奏)フリーズ機能がONになります。もう一度【ABC FREEZE(ABC固定)】を押してランプを消すと、ABC(自動伴奏)フリーズ機能がOFFになります。

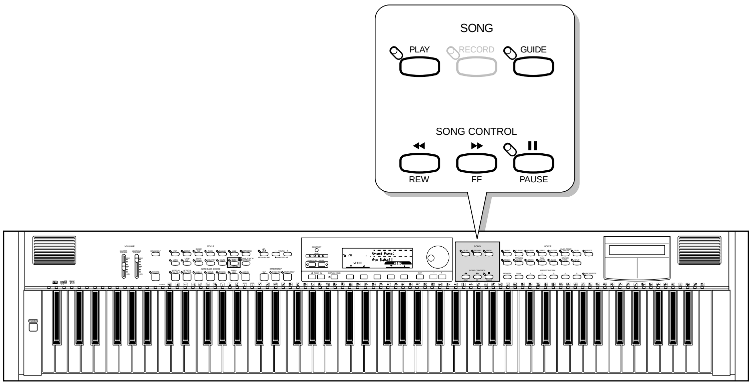


■自動伴奏(ABC)フリーズ機能は、同じバンク内だけでなく、他のバンクに切り換えた場合も有効です。

ディスクオーケストラ・コレクションとソング再生

CVP-79/69/59では、ソングの録音機能(P82)を使って録音した自分の演奏を再生したり、クラビノーバ専用音楽ソフト「ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)」でいろいろなジャンルの音楽を再生したり、それらの再生している音楽といっしょに演奏することができます。
「ディスクオーケストラ・コレクション」は、付属品として、楽譜とディスクが1セットついていますが、他にもたくさんのタイトルが発売されています。
また、あるパートの再生だけを消してそのパートを練習したり、ガイド機能(P77)やリピート機能(P79)を使って練習するなど、いろいろなソング再生の機能を持っています。

再生する音楽データの種類によって、LCD画面の表示が異なることがありますが、どのデータの場合も基本的な操作手順は以下の説明どおりです。なお、P81の「他の種類の音楽データの再生」もあわせてご参照ください。



■ディスクの取り扱いについて、"フロッピーディスクの取り扱い"(P13)をお読みください。

■再生される音楽データは、【MIDI OUT】から出力されません。

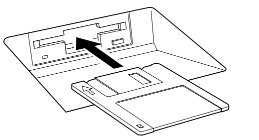
■CVP-79/69/59では、自分で演奏を録音した音楽データや、DOCなどの曲のデータを指して"ソング"と呼びます。

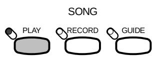
■いろいろなディスクの再生…
「ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)」や自分で録音したソング以外にも、「ピアノプレーヤ・ソフト」「ESEQ」「スタンダードMIDIファイル(フォーマット0と1)」などのディスクを同様に再生することができます。
"他の種類の音楽データの再生"(P81)をご参照ください。
また、P157に"CVP-79/69/59とソフトの対応一覧"が掲載されていますので、参考にしてください。

再生手順

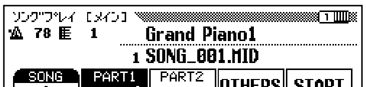
1 ソングプレイモードに入る

ディスクドライブに音楽データの入ったディスクを挿入すると、自動的にソングプレイモードになります。「ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)」のディスクや録音した演奏データが入っているディスクを図のような正しい向きと方向でディスクドライブの挿入口にしっかりと入れます。
CVP-79/69/59がディスクを読み込んで認識するまで、ユーズランプが点灯します。正しいディスクが挿入されると、ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面(ソングプレイの1ページ)が表示され、【PLAY(再生)】のランプが点灯します。
すでにディスクが差し込まれていて、ソングプレイモードに入っていない場合は、【PLAY(再生)】を押してください。ランプが点灯し、ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面が表示されます。





DOCの場合

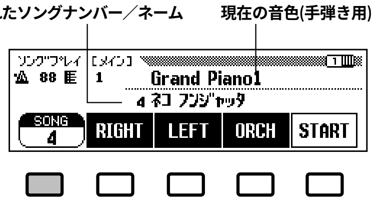


自分で録音したソングの場合

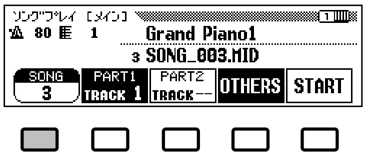
2 ソングナンバーを選ぶ

[SONG]、【ダイアル】、【+】【-】を使って、再生させたいソングナンバーを選びます。選ばれたソングのソングナンバーとネーム、また現在のテンポが表示されます。
また、[ALL]を選ぶと、ディスクに入っているすべてのソングが順番に再生されます。[RANDOM]を選ぶと、ディスクに入っているすべてのソングがランダム(順不同)に再生されます。どちらの場合もストップするまで繰り返し再生されます。

選ばれたソングナンバー／ネーム　現在の音色(手弾き用)

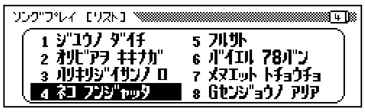


DOCの場合



自分で録音したソングの場合

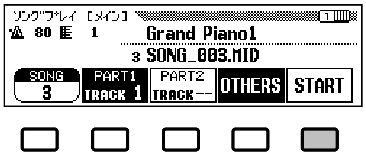
4ページのソングプレイ[リスト](SONG PLAY[LIST])画面では、ディスクに入っているソングネームを一覧表示させることができます。再生させたいソングを【ダイアル】、【+】【-】を使って簡単に選ぶことができます。ディスクに8曲以上入っている場合、9曲め以降を選ぶと画面がスクロールして次の8曲のソングネームが表示されます。



3 再生をスタート／ストップする

ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面の[START]を押すか、パネルの【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと、選んだソングの再生がスタートします。[ALL]や[RANDOM]を選んでいるとき以外は、ソングが最後まで再生されると自動的にストップします。再生中は現在の小節番号とテンポがLCD画面に表示されます。
ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面の[STOP]を押すか(一度再生をスタートすると、[START]の表示が[STOP]に変わります)、パネルの【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】をもう一度押すと、ソングの再生がストップします。
【PLAY(再生)】を押してランプを消すか、【EXIT(戻る)】を押すと、ソングプレイモードから抜け、元の画面に戻ります。

DOCの場合



自分で録音したソングの場合

■ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面で[ALL]を選んだあと、4ページのソングプレイ[リスト](SONG PLAY[LIST])画面でソングを選ぶと、選んだ曲からすべてのソングを順番に繰り返し再生させることができます。

■ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面、または4ページのソングプレイ[リスト](SONG PLAY[LIST])画面でソングを選び、2ページのソングプレイ[リピート](SONG PLAY[REPEAT])画面で[1 SONG]を選ぶと、選んだ曲だけをストップするまで繰り返し再生させることができます。

■ディスクオーケストラ・コレクションの再生中は、通常の音色選択の方法(P26)で右手パートや左手パートの音色を変えることができます(右手パートと左手パートを別の音色に設定することはできません)。また、選んだ音色がソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面に表示され、手弾き用の音色にもなります。ただし、曲の途中で音色の切り換えのデータが入っていると、その設定音色になります。また、ソングナンバーを変えた場合も元の設定音色にもどります。

■自分で録音したソングを再生しているときは、手弾き用の音色だけを変更することができます。(再生音色を変更することはできません。)手弾き用の音色がソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面に表示されます。

■[START]または【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押してから、実際にソングがスタートするまで少し時間がかかる場合があります。

■ソングによっては、カウントインのクリックが鳴ったあと再生がスタートするものもあります。

■ソングの再生テンポは、いつでも変更することができます。また、TEMPO(テンポ)【+】【-】を同時に押すと、選んだソングの初期テンポに戻すことができます。

■ソングによっては、LCD画面に表示される小節番号と楽譜の小節番号がずれて表示されることがあります。

■ディスクオーケストラ・コレクションのソングには、テンポ表示が行われないものもあります。このような場合、LCD画面のテンポ表示には[---]が示され、その場合にはLCD画面上に表示されている小節番号は、小節番号ではなく曲の進行を示す目安となります。

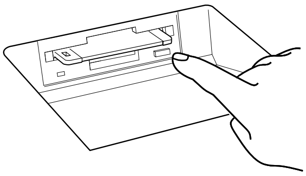
■鍵盤ガイドランプを消したいとき…

再生中、右手／左手パート(またはパート1/2)の再生音に合わせて、鍵盤ガイドランプがつきますが、3ページのソングプレイ[ガイド](SONG PLAY[GUIDE])画面の[LAMP]を押してOFFにすると、ランプを消すことができます。

■リズムの入っていない曲などで、ビートランプが点滅しないものもあります。

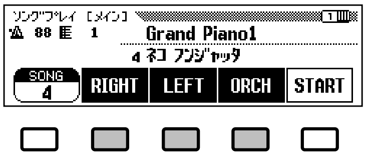
4 ディスクを取り出す

ソング再生が終了したら、ディスクドライブのイジェクトボタンを押してディスクを取り出します。LCD画面は基本画面に戻ります。

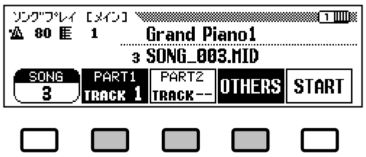


特定のパートの再生

[RIGHT(=右手)]、[LEFT(=左手)]、[ORCH(=伴奏)]を押すことによって、ディスクオーケストラの各パートの再生をそれぞれON/OFFすることができます。各パートのボタンが、反転しているときが再生できる状態(ON)です。たとえば、右手や左手のパートの再生をOFFにして、そのパートの手弾き練習をすることができます。
また、自分で録音したソングの場合は、[PART 1]、[PART 2]、[OTHERS(その他)]を押すことによって、同様に各パートの再生をON/OFFすることができます。[PART 1]、[PART 2]を押すことによって、各ボタンに割り当てられている特定のトラックをON/OFFすることができます。各ボタンへのトラックの割り当ては、6ページのソングプレイ[パートアサイン](SONG PLAY[PART ASSIGN])画面(P75)で行います。割り当ての初期設定は、[PART 1]がTRACK 1、[PART 2]がTRACK--(OFF)となっています。



DOCの場合



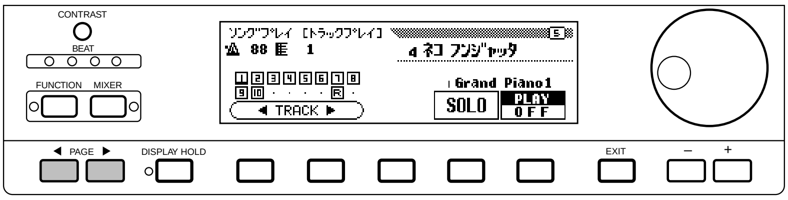
自分で録音したソングの場合

■ 伴奏パートを個別にON/OFFする

通常、[ORCH(=伴奏)](または[OTHERS(=その他)])を押すことにより、すべての伴奏パート(TRACK3〜10とRHYTHM)、またはパート1/2以外のすべてのパートが一度にON/OFFされます。5ページのソングプレイ[トラックプレイ](SONG PLAY[TRACK PLAY])画面を使って、これらのパートを個別にON/OFFすることもできます。

1 ソングプレイ[トラックプレイ]画面を開く

PAGE(画面送り)【◀】【▶】で5ページのソングプレイ[トラックプレイ](SONG PLAY[TRACK PLAY])画面を開きます。そのソングのデータのあるトラックが[TRACK]◀▶の上に表示されます。再生できるトラックはナンバーが四角い枠で囲まれた状態になっています。データが何も入っていないトラックはドット(・)で表示されます。



■ペダルによるスタート／ストップ…
ファンクションモード3ページのファンクション[ペダル](FUNCTION[PEDAL])画面(P102)でレフトペダル機能の[START/STOP]を選んでおくと、レフトペダルが【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】と同様に機能します。

■かならず守って…
ユーズランプが点灯しているときやソングの再生中はディスクを取り出さないでください。

■演奏中でもパートのON/OFFを切り替えることができます。

■ソングの再生音と手弾き音の音量調節…
【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏／ソングボリューム)】(P76)で調節します。

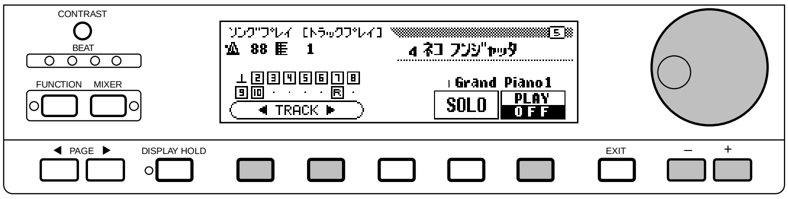
■鍵盤ガイドランプを消したいとき…
3ページのソングプレイ[ガイド](SONG PLAY[GUIDE])画面で[LAMP]を押してOFFにします。

■ピアノプレーヤ・ソフトの場合は、画面には[RIGHT(=右手)]の項目だけ、または[RIGHT(=右手)]と[LEFT(=左手)]の項目だけが現れます。

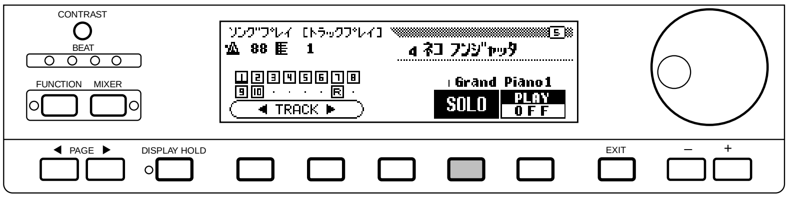
■CVP-79/69/59で録音したものではないスタンダードMIDIファイルデータ(P129)の場合は、トラックにデータが含まれているかいないかに関らず、すべてのトラックのナンバーが表示されます。

2 再生するトラックを選ぶ(プレイ/OFF、ソロ)

[TRACK]◀▶、【ダイアル】、【+】【-】を使ってトラックを選びます。選ばれているトラックには下線が表示されます。
選択したトラックは、一番右側のLCDボタンを押して[PLAY(再生)]、または[OFF]を反転させることにより、再生できる状態、または再生OFFの状態にすることができます。再生をOFFにしたトラックは、トラック表示の枠囲いが消え、ナンバーだけの表示となります。同時に複数トラックの再生をOFFにすることもできます。現在選ばれているトラックの再生時の音色が[PLAY/OFF]の上に表示されます。

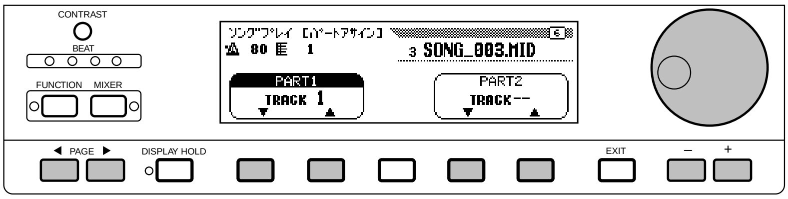


トラックを選んだあと、[SOLO]を押して反転させると、ソロ機能がONになり、選んだトラックだけを再生させることができます。もう一度[SOLO]を押すと、ソロ機能は解除されます。



自分で録音したソングのパート割り当て

自分で録音したソングを再生するときは、特定のトラックをソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面の[PART 1]、[PART 2]にそれぞれ割り当て、各トラックの再生をON/OFFすることができます。
PAGE(画面送り)【◀】【▶】で6ページのソングプレイ[パートアサイン](SONG PLAY[PART ASSIGN])画面を開きます。[PART 1]▼▲、[PART 2]▼▲を使って、[PART 1]、[PART 2]にそれぞれトラックを割り当てます。一度[PART 1]、または[PART 2]を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使ってトラックを選ぶこともできます。



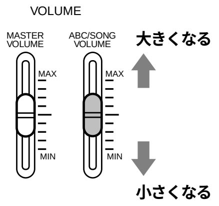
割り当ての初期設定は、[PART 1]がTRACK 1、[PART 2]がTRACK--(OFF)となっています。どちらにもトラック1～16のいずれかを割り当てることができます。[PART 2]はさらにTRACK--(OFF)も割り当てることができます。同じトラックを両方のパートに割り当てることはできません。

■ディスクオーケストラ・コレクションやピアノプレーヤ・ソフトを再生しているときは、ソングプレイ[パートアサイン](SONG PLAY[PART ASSIGN])画面は表示されません。

■パート割り当て…
初期のバックアップ設定：OFF

ソング全体の再生ボリュームの調節

【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞ ﾎﾞﾘｭｰﾑ)】を使って、ソング全体の再生ボリュームを調節することができます。なお、最初にソングを選んだ時点では、【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞ ﾎﾞﾘｭｰﾑ)】の位置に関わりなく、いつもボリュームの標準値(=MAXの位置の値)が、ソングの再生ボリュームとして呼び出されるようになっています。



■自動伴奏(ABC)を使わずに録音したソングの再生中には、自動伴奏(ABC)機能をONにすることができます。その場合、【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞ ﾎﾞﾘｭｰﾑ)】はソングの再生ボリュームではなく、自動伴奏(ABC)のボリュームに対して機能するようになります。

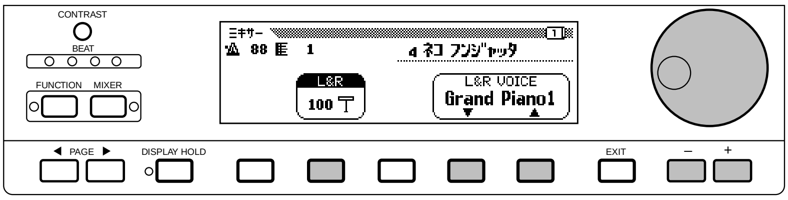
■ディスクオーケストラ・コレクションや自動伴奏(ABC)を使って録音したソングを再生しているときは、自動伴奏(ABC)機能を使うことはできません。

ソングの各パートのボリューム調節と音色選択

ソングプレイモード時に【MIXER(ﾐｷｻｰ)】を押してミキサー(MIXER)画面を表示させると、ソングの各パートの再生ボリュームを個別に調節できます。ディスクオーケストラ・コレクションの場合は、右手パートと左手パートの再生時の音色を個別に選ぶこともできます。ディスクオーケストラ・コレクションのソングを再生している場合と、自分で録音したソングを再生している場合では、LCD画面の表示やページ数が異なります。

■ ディスクオーケストラ・コレクションの再生時

ディスクオーケストラ・コレクションを再生しているときは、ミキサー(MIXER)画面は2ページで構成されます。1ページの画面では、[L&R(=左手&右手)]を押して反転させ、【ダイアル】、【+】【-】を使って左手／右手パートのボリュームを調節することができます。また、[L&R VOICE(=左手&右手 音色)]▼▲を使って左手／右手パートの音色を選ぶことができます。一度表示を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使うこともできます。

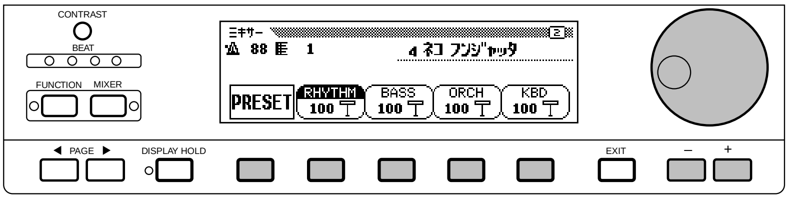


■ピアノプレーヤ・ソフトを再生しているときは、[L&R VOICE(左手&右手音色)]だけが表示されます。

■左手／右手パートの音色を変更しても、鍵盤の手弾き音色は変わりません。ただし、パネルのVOICE(ボイス)(音色)ボタンを使って音色を変更した場合、左手／右手パートと鍵盤の手弾き音色は同じ音色になります。

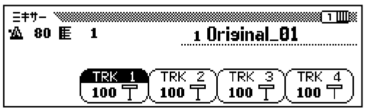
2ページの画面では、各パートのボリュームを個別に調節することができます。[RHYTHM(リズム)]、[BASS(ベース)]、[ORCH(オーケストラ)]、[KBD(キーボード)(=手弾きの音量)]を押してパートを選び、【ダイアル】、【+】【-】を使って調節します。複数のパートのボタンを同時に押して反転させ、選んだパートを同時にボリューム調節することもできます。値は"2"ずつ変化させることができます。【+】【-】を同時に押すと、それぞれの初期値の"100"に戻ります。また、[PRESET]を押すと、全パートのボリュームを一度に初期値の"100"に戻すことができます。

■別のソングを選択すると、ボリュームや音色の設定は初期値に戻ります。



■ 自分で録音したソングの再生時

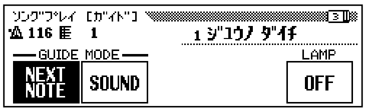
自分で録音したソングを再生しているときは、ミキサー(MIXER)画面は5ページで構成されます。1〜4ページの画面では、各トラックのボリュームを個別に調節することができます。各トラックの表示を押してトラックを選び、【ダイアル】、【+】【-】を使って調節します。



5ページの画面では[KBD(=手弾きの音量)]を【ダイアル】、【+】【-】を使って調節することができます。また、[PRESET]を押すと、全トラックのボリュームを一度に初期値の"100"に戻すことができます。

ガイド機能を使った右手／左手パートの練習

CVP-79/69/59には、鍵盤ガイドランプに合わせて練習できるガイド機能があります。鍵盤ガイドランプによって押さえる鍵盤が示され、その鍵盤を押さえるまで伴奏が待ってくれますので、マイペースで練習することができます。鍵盤ガイドランプは必要に応じてON/OFFすることができます。次の2種類のガイドモードが用意されています。



● NEXT NOTE

このモードでは、実際に弾くタイミングの前に、次に弾く鍵盤を示す鍵盤ガイドランプが点灯します。鍵盤を押さえるタイミングがくると、鍵盤ガイドランプが点滅し始め、正しい鍵盤を押さえるまで伴奏が待ってくれます。このガイドモードが初期設定になっています。

● SOUND

このモードでは、鍵盤ガイドランプと音を使って、次に弾くフレーズを示します。鍵盤ガイドランプが、次に弾くフレーズの鍵盤の位置に点灯したあと、CVP-79/69/59が、そのフレーズを再生します。正しい鍵盤を演奏するまでフレーズは繰り返し再生され、伴奏も待ってくれます。

■自動伴奏(ABC)を使わずに録音したソングの再生中に、自動伴奏(ABC)機能をONにすると、ミキサー(MIXER)画面はソングの各トラックのボリュームではなく、自動伴奏(ABC)の各パートのボリュームとして機能するようになります。

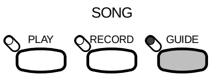
■ガイドモード…
初期のバックアップ設定：OFF

■ディスクを使わずに本体に録音したデータ(P98)やスタンダードMIDIファイル･フォーマット1のデータ(P129)を再生しているときは、LCD画面のGUIDE MODE表示が[---]に変わり、NEXT NOTEやSOUNDモードは使えません。この場合、鍵盤ガイドランプが現在の音だけを示すガイドになります。

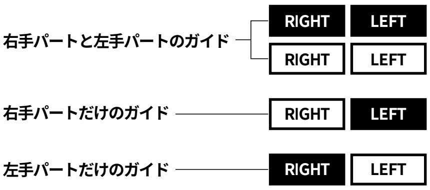
■再生中にガイドモードを変更することはできません。

■ディスクオーケストラ･コレクションの曲の中には、ソングプレイ[ガイド](SONG PLAY[GUIDE])画面で、[NEXT NOTE]も[SOUND]も反転しない曲があります。そのまま再生をスタートすると、鍵盤ガイドランプの点灯だけによるガイドモードで再生します。再生をスタートする前に[NEXT NOTE]や[SOUND]を選んで反転させておくと、選んだモードで再生します。なお、曲の途中やフレーズリピート／A-Bリピート機能をONにしているときは、ガイドモードを選び直すことはできません。

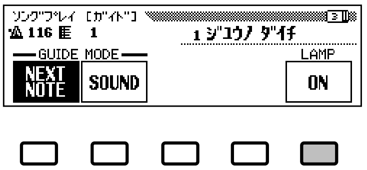
【GUIDE(ｶﾞｲﾄﾞ)】を押すとランプが点灯し、ガイド機能がONになります。同時にガイド画面がポップアップ表示されます。



すでにガイド機能がONになっている場合は、PAGE(画面送り)【◀】【▶】で3ページのソングプレイ[ガイド](SONG PLAY[GUIDE])画面を開いてください。[NEXT NOTE]または[SOUND]を押して、ガイドモードを選びます。
1ページのソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面での右手／左手パート(またはパート1/2)の選び方によって、ガイドされるパートが決まります。



ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面の[START]を押すか、パネルの【START/STOP(スタート／ストップ)】を押すと、選んだソングの再生がスタートし、選んだガイドモードに従って、選んだパートのガイドが始まります。
鍵盤ガイドランプは､ガイド中でも必要に応じてソングプレイ[ガイド](SONG PLAY[GUIDE])画面の[LAMP]を押すことにより､ON/OFFすることができます。



ソングが最後まで再生されると自動的にストップします。また、ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面の[STOP]を押すか、パネルの【START/STOP(スタート／ストップ)】を押すと、ソングの再生がストップします。もう一度【GUIDE(ｶﾞｲﾄﾞ)】を押すとランプが消え、ガイド機能がOFFになります。

■ガイド機能がOFFになっていても、ソングプレイ[ガイド](SONG PLAY[GUIDE])画面で[LAMP]をOFFにしていない限り、鍵盤ガイドランプは、左手／右手パートの鍵盤を示します。[SOUND]が選ばれていれば、再生に合わせて点灯します。[NEXT NOTE]が選ばれていれば、再生されている音を点滅で、次に再生される音を点灯で示します。このとき、左手／右手パートが両方ともONまたはOFFになっていると、左手／右手両パートの鍵盤を示し、どちらかのパートがOFFになっているときは、OFFになっているパートの鍵盤を示します。[NEXT NOTE]が選ばれていて左手／右手パートが両方ともONになっているときは、点灯だけです。

■ソングの再生中に、ガイド機能、ガイドランプ、ガイドされるパートをON/OFFすることもできます。

■ソングの再生テンポは、ソングを選んだあとに、TEMPO(ﾃﾝﾎﾟ)【+】【-】を使って変更することができます。

■トランスポーズ機能(P100)によって、鍵盤の音程を変更していても鍵盤ガイドランプの示す位置は変わりません。

■ガイド機能を使用したソング再生中には、【PAUSE(一時停止)】、【REW(巻き戻し)】、【FF(早送り)】は機能しません。

■右手／左手パートを独立して鳴らせるように作っていないソフトの場合、ガイド機能が効果的に機能しないことがあります。

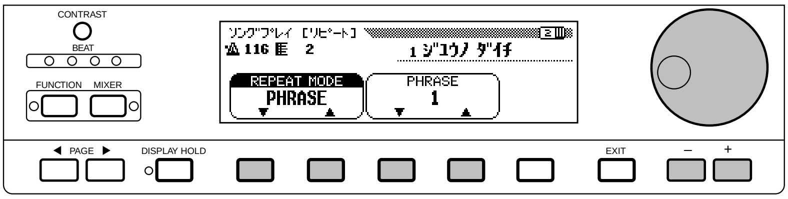
■ガイド機能のSOUNDモードでは、CVP-79/69/59が自動的にガイドのフレーズの長さを決めますので、音楽的なフレーズとしては、ちょうどよい長さにならないこともあります。また、右手／左手パートを両方ともガイドさせている場合は、ガイドのフレーズが短めになります。

リピート機能

CVP-79/69/59では、リピート機能を使って、1つのソングやソング内のある範囲を繰り返し再生させることができます。難しいフレーズを繰り返して練習するときなどに便利です。
用途に合わせて使えるリピートモードが3種類用意されており、2ページのソングプレイ[リピート](SONG PLAY[REPEAT])画面で使いたいモードを選ぶことができます。[REPEAT MODE]▼▲、【ダイアル】、【+】【-】を使って、OFF(リピート機能OFF)、PHRASE(フレーズリピート)、1 SONG(1ソングリピート)、A-B REPEAT(A-Bリピート)の中から選びます。

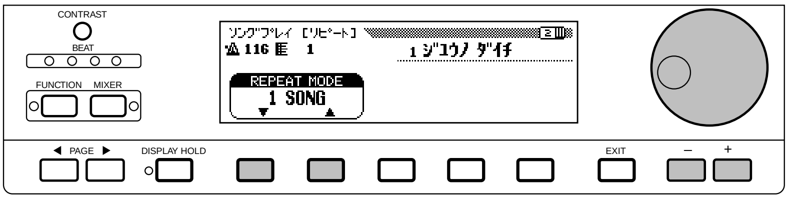
■フレーズリピート(ディスクオーケストラ・コレクションのみ)

ディスクオーケストラ・コレクションの楽譜に書いてあるフレーズナンバーを指定して、そのフレーズだけ繰り返して練習することができます。
[REPEAT MODE]で[PHRASE]を選ぶと、その右側にフレーズナンバーを指定するための[PHRASE]表示が現れます。[PHRASE]▼▲でフレーズナンバーを選びます。一度表示を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使うこともできます。
ソングの再生をスタートすると、指定されたフレーズが、ストップするまで繰り返し再生されます。



■1ソングリピート

[REPEAT MODE]で[1 SONG]を選んでいるときは、現在選ばれているソングを繰り返して再生させることができます。一度ソングの再生をスタートすると、ストップするまで繰り返し再生されます。



■ディスクオーケストラ・コレクションでフレーズナンバーがない曲では、フレーズリピートはできません。

■いずれかのリピートモードを選ぶと、ソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面で[ALL]や[RANDOM]を選んでいた場合、それらの再生機能は解除されます。

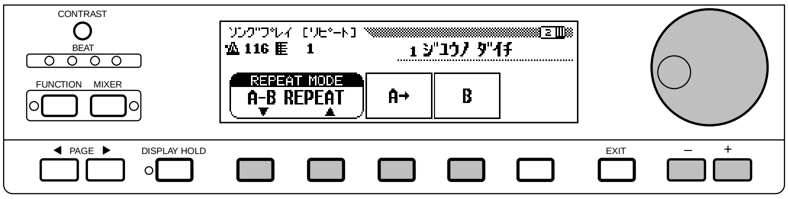
■他のソングに切り換えると、リピートモードは"OFF(リピート機能OFF)"に戻ります。

■演奏中でもパートのON/OFFを切り換えることができます。

■ガイド機能も同時に使えます。

■ A-Bリピート

ソング内のある特定の範囲(A点とB点)を指定して、繰り返し練習することができます。
[REPEAT MODE]で[A-B REPEAT]を選ぶと、その右側にA点とB点を指定するための[A→]と[B]が現れます。
ソングの再生中に[A→]を一度だけ押すと、範囲の開始位置としてA点が指定されます。それから[B]を押すと、範囲の終了位置としてB点が指定され、A点からB点までの繰り返し再生がスタートします。一度指定したA点からB点までの範囲は、別のソングや別のリピートモードに切り換えるまで保持されます。【START/STOP(スタート／ストップ)】を使って、同じ範囲を何度でも繰り返し再生させることができます。



■指定したA点からB点までの範囲は、別のソングや別のリピートモードに切り換えると解除されます。

■通常、フレーズリピートやA-Bリピートが開始されるときに、1小節のカウントインが入ります。なお、再生しているソングがリズムトラックを含んでいない場合や1ソングリピートが開始されるときには、カウントインは入りません。

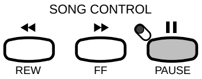
■A点からB点までの範囲が指定されているときに、[B]を押してOFFにするとB点が解除され、A点からソングの最後までの繰り返し再生となります。

■A点からB点までの範囲が指定されているときに、[A→]を押すとA点もB点も解除されます。同じ曲の中で、別のA点B点の指定ができます。

再生に関するその他のコントロール

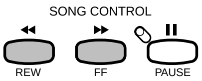
■ 一時停止

ソングの再生中に【PAUSE(一時停止)】を押すと、一時的にストップします。
もう一度【PAUSE(一時停止)】を押すか、【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】(または1ページの画面の[START])を押すと、停止していた位置から再スタートします。



■ 巻き戻しと早送り

【REW(巻戻し)】と【FF(早送り)】を使って、ソングの再生位置を戻したり進めたりすることができます。



● ソングの停止中や一時停止中は、【REW(巻戻し)】や【FF(早送り)】を押すごとに1小節ずつ戻したり進めたりすることができます。どちらのボタンも押し続けると連続的に移動させることができます。

● ソングの再生中に、【REW(巻戻し)】や【FF(早送り)】を押し続けると、すばやくソングの位置を戻したり進めたりすることができます。この場合、【REW(巻戻し)】を押している間は、音が鳴りません。

■ガイド機能を使ったソング再生中は、【REW(巻戻し)】、【FF(早送り)】、【PAUSE(一時停止)】が機能しません。

■【REW(巻戻し)】を使うと、音色、テンポ、ボリュームが変わることがあります。

他の種類の音楽データの再生

CVP-79/69/59では、ディスクオーケストラ・コレクションや自分で録音したソング以外に、市販のピアノプレーヤ・ソフト、ヤマハESEQファイルやスタンダードMIDIファイル(フォーマット0と1)などのソングデータが入っているディスクを再生することができます。
また、CVP-79/69/59の内蔵音源は、再生データに応じてGM規格(GMシステムレベル1)またはヤマハのDOC音色配列に自動的に切り換えて対応します。
（ただし、パネル上で選ばれる音色配列は変わりません。）

■スタンダードMIDIファイル・フォーマット1のソング再生時は、【REW(巻戻し)】、【FF(早送り)】が機能しません。

■他のクラビノーバ(CVP-55/65/75/83/85/87/89)で録音されたソングデータ(ESEQファイル)は、通常、適切な音色で再生されるようになっていますが、その他のデータに関しては、CVP-79/69/59の音色配列に合うように、それらのデータの音色ナンバーを変更する必要がある場合があります。

■どのようなタイプの音楽データを再生する場合でも、CVP-79/69/59では、3.5インチ2DD(720KBフォーマット)、または3.5インチ2HD(1.44MBフォーマット)のフロッピーディスクだけ使用することができます。

■1ページのソングプレイ[メイン](SONG PLAY[MAIN])画面、5ページのソングプレイ[トラックプレイ](SONG PLAY[TRACK PLAY])画面、ミキサー(MIXER)画面の表示は、再生する音楽データの種類によって異なります。また、6ページのソングプレイ[パートアサイン](SONG PLAY[PART ASSIGN])画面は、ディスクオーケストラ・コレクションやピアノプレーヤ・ソフト再生時には表示されません。

ソングの録音

CVP-79/69/59には、フロッピーディスクに自分の演奏を録音するソングレコード機能があります。簡単な操作で録音できる"クイック録音"(P82)と、1人でアンサンブルの曲を録音できる"トラック録音"(P86)があります。
トラック録音では16個のトラックが用意されており、最大16種類の楽器の演奏をパート別に重ねて録音し、ひとつの曲として仕上げることができます。
録音してできた曲をソングと言い、1枚のフロッピーディスクに60ソングまで保存しておくことができます(1ソングのデータが大きい場合は、60ソングより少なくなってしまうこともあります)。なお、ソングを録音するにはフォーマット済みのフロッピーディスクが必要です(P107)。

■ディスクの取り扱い上の注意について"フロッピーディスクの取り扱い"(P13)をお読みください。

ソングの構成について

一例として、次の図のようにトラックごとに各パートを録音してソングを構成することができます。

トラック 1	ピアノ（右手）パート
2	ピアノ（左手）パート
3	ベースパート
4	ストリングスパート
⋮	⋮
9	リズムパート
10	リズムパート
⋮	⋮
16	****パート

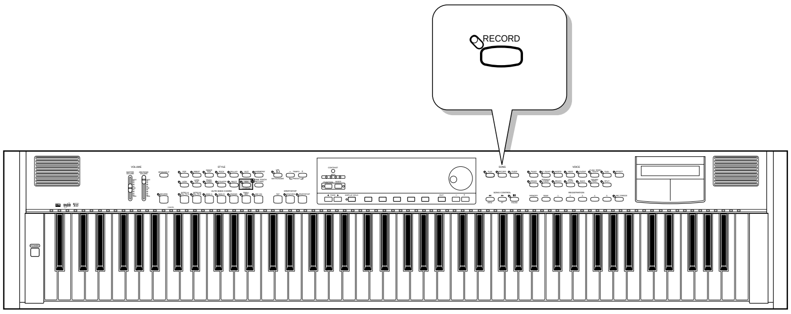
（最大16トラックまで）

操作中には、確認、警告、エラーなどのメッセージがLCD画面に表示されることがあります。各メッセージについては、P121にメッセージ一覧が載っていますので、ご参照ください。

■ソングは、スタンダードMIDIファイル(フォーマット0)で録音されます。また、録音に使用されるCVP-79/69/59の内蔵音源(=パネル上の音色配列)はGM(ジェネラルMIDI)システムレベル1を包含した配列です。配列については、P143の音色リストをご参照ください。

■CVP-79/69/59で録音したデータ以外のデータには、録音やエディットはできません。

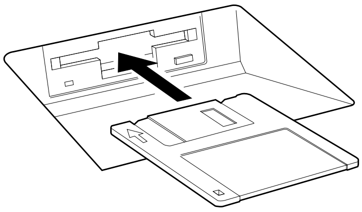
■録音したソングデータは、再生時[MIDI OUT]からは出力されません。

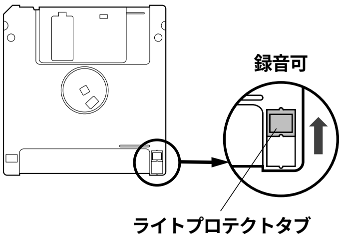


クイック録音

1 フォーマット済みのディスクを入れる

ライトプロテクトタブが"録音可"の位置になっていることを確認して、フォーマット済みのディスクを正しい向きと方向でディスク挿入口にカチッと音がするまでていねいに差し込みます。また、フォーマットをしていない場合は、P107を参照してディスクをフォーマットしてください。



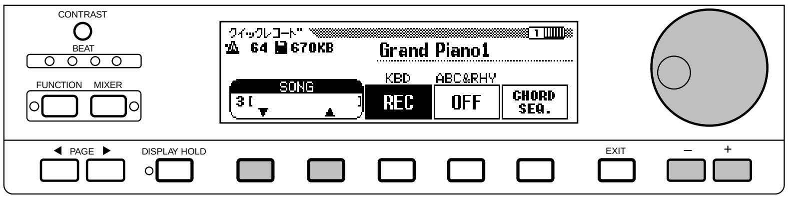


2 レコードモードに入る

【RECORD(録音)】を押すとランプが点灯し、レコードモードの1ページめのクイックレコード(QUICK RECORD)画面が現れます。【RECORD(録音)】のランプが点灯していて、クイックレコード(QUICK RECORD)画面が表示されていない場合は、PAGE(画面送り)【◀】【▶】を使って、1ページめの画面を開いてください。

3 ソングナンバーを選ぶ

[SONG]▼▲、【ダイアル】、【-】【+】を使ってソングナンバーを選びます。1〜60の中から選ぶことができ、それぞれが別々のソングを録音する場所になります。選んだソングナンバーの横にソングネームが表示されているものは、すでにデータが録音されていることを示しています。この場合、他のナンバーを選んでください。



■フォーマットされていないディスクを入れた場合…
ユーズランプがしばらく点灯し、自動的に「ディスクをフォーマットしますか？(Start disk format?)」のメッセージが表示されます。フォーマットする場合は[はい(OK)]を、中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

■内部的にプロテクトがかかっているディスク(ディスクオーケストラ・コレクションなど)は、フォーマットすることができません。

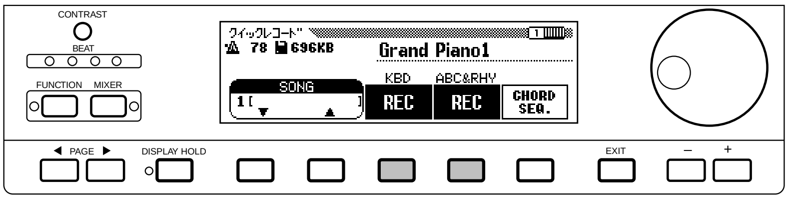
■レコードモードに入ったときに、自動伴奏(ABC)がONになっていた場合、[ABC&RHY(自動伴奏＆リズム)]トラックが自動的に[REC(録音)]表示になります。

■いずれかのトラックを[REC(録音)]表示にすると、ディスクの記憶残容量がテンポ表示の横にKB(キロバイト)単位で示されます。2DD/2HDディスクの容量は、何も録音されていないときで約696KB/1407KBです(およそ50,000音/100,000音分ですが、機能をたくさん使うと減ります)。録音をスタートすると、この記憶残容量表示は小節番号表示に変わります。

4 録音トラックを選ぶ

クイックレコードの録音方法では、鍵盤の手弾き演奏パートと自動伴奏(ABC)＆リズムパートの2トラックの録音ができます。LCD画面上では、3番めと4番めのLCDボタンを押すことによって、[KBD(鍵盤の手弾き)]トラックと[ABC&RHY(自動伴奏＆リズム)]トラックを[REC(録音できる状態)]や[OFF(録音も再生もされない状態)]に切り換えることができます。

レコードモードに入ったとき、最初に選ばれているソングにデータがなかった場合は、自動的に[KBD(鍵盤)]トラックが[REC(録音)]に、[ABC&RHY(自動伴奏＆リズム)]トラックが[OFF]になります。これは、鍵盤の手弾きトラックだけが録音できる状態であることを示しています。ここで、自動伴奏＆リズムのパートも録音したい場合は[ABC&RHY(自動伴奏＆リズム)]を押してください。パネルの【ABC ON(ABCｵﾝ)】を押しても、[ABC&RHY(自動伴奏＆リズム)]トラックを自動的に[REC(録音)]表示することができます。



すでに録音されているソングナンバーを選んだときは、録音されているトラックの表示を[PLAY(再生)]にすることができます。この場合、このトラックを再生させて、その演奏を聞きながら別のトラックに録音することができます。すでに録音されている演奏を鳴らしたくない場合は、そのトラック表示のLCDボタンを押して[OFF]表示にしてください。

どちらかのトラックが[REC(録音できる状態)]に設定されると自動的に、シンクロスタートでの録音スタンバイ状態になります。シンクロスタートは解除することもできます。

5 音色を選ぶ

通常の音色選択の方法で(VOICE(音色)ボタンやLCD画面を使って)、録音する音色を選びます。(選んだ音色を、録音の前に鍵盤を弾いて確認してみたい場合は、一度【SYNCHRO(ｼﾝｸﾛ)】を押して、シンクロスタートのスタンバイ状態を解除してください。)

[ABC&RHY(自動伴奏＆リズム)]トラックを録音する場合は、伴奏スタイルを選び、弾きやすいテンポに調節しておきます。(ここで、【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと録音がスタートしてしまいますので、スタイルやテンポを再生して確認しておきたい場合は、レコードモードに入る前にしておきます。)

6 録音をスタートする

鍵盤を弾いて演奏を始めると、自動的に録音がスタートします(シンクロスタートの場合)。

録音は、パネルの【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押してスタートすることもできます。

■ハーモニー機能を使ってハーモニーの演奏データを録音したり、デュアルやスプリット機能を使って2つのパートを録音することもできます(この場合、内部的には鍵盤の手弾きパートに2つのトラックを使用します)。

■[ABC&RHY(自動伴奏＆リズム)]トラックを[REC(録音)]表示にすると、シンクロスタートでの録音スタンバイ状態になり、タイミングをとるためのガイドとしてのメトロノームが鳴り出します。また、[ABC&RHY(自動伴奏＆リズム)]トラックを[PLAY(再生)]表示にして、[KBD]トラックを[REC(録音)]表示にしたときも、同じようにメトロノームが鳴り出し、シンクロスタートでの録音スタンバイ状態になります。(シンクロスタートを解除するとメトロノームは鳴りません。)

■自動伴奏(ABC)の録音トラック構成は、トラック9〜10にリズム、トラック11にベース、トラック12〜16にコードとなっています。

■自動伴奏(ABC)の録音方法にはインテンポで弾かずに録音できるコードシーケンス(P90)もあります。

■スタイルファイルディスクを使うときは録音のディスクを入れる前に、スタイルファイルディスクの読み込み(P66)の手順でスタイルを読み込んでください。

■自動伴奏(ABC)を録音するときには、イントロ(INTRO)やフィル(FILL)、エンディング(ENDING)も録音できます。イントロ(INTRO)は、演奏を始める前に、フィル(FILL)は演奏の途中で、エンディング(ENDING)は演奏を終わるときにそれぞれのボタンを押します。エンディング(ENDING)を押すと、エンディングパターンを演奏したあと、自動的にストップします。

■メトロノームにあわせて録音するとき…

1. 音色を選んだあと【METRONOME(メトロノーム)】を押し、メトロノームビート(METRONOME BEAT)画面で拍子を選びます。
2. 演奏と同時に録音が始まります。(このとき、メトロノーム音は録音されません。)

■リズムといっしょに録音するとき…

自動伴奏(ABC)を使わずに、リズムだけを鳴らして録音したいときは、トラックレコード機能(P86)を使います。

■ディスクを入れていないとき…

短い曲であればそのまま本体に録音することができます(最大約2500音符[25KB]ですが、機能をたくさん使うと減ります)。ただし、電源を切ったり別の曲が読み込まれた時点で消えてしまいます。詳しくは、ディスクを使わない録音(P98)をご参照ください。

7 録音をストップする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと、録音がストップします。録音をストップすると、データがディスクに書き込まれ、録音されたトラックの表示が、自動的に[PLAY(再生)]に変わります。

8 録音したものを聞いてみる

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと、いま録音したデータが再生されます。再生中は、P80で示したように【REW(巻戻し)】、【FF(早送り)】、【PAUSE(一時停止)】を使って再生をコントロールしたり、TEMPO(ﾃﾝﾎﾟ)【-】【+】でテンポを変更することができます。再生に合わせて鍵盤を弾くこともできます。
最後まで再生すると自動的にストップします。または、もう一度【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押して再生をストップすることもできます。
【RECORD(録音)】を押してランプを消すか、【EXIT(戻る)】を押すと、ソングレコードモードから抜け、クイックレコードを終了します。

■録音をストップしてもディスクにデータを書き込むまで、少し時間がかかります。ディスクドライブのユーズランプが点灯しているときは、絶対にディスクを取り出さないでください。

■録音したソングには、一時的に[SONG ***.MID](***はナンバー)のようなソングネームが自動的に付けられます。ソングネームは好きなものに変えることができます(P95)。

■録音中は【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】やミキサー(MIXER)画面が、録音される自動伴奏(ABC)や手弾きのパートのボリューム調節用として機能します。

■ソングの現在の小節位置が、【REW(巻戻し)】、【FF(早送り)】などで変更されてソングの先頭にない場合は、[REC]は選べません。

■録音中は鍵盤ガイドランプは点灯しません。

■自動伴奏(ABC)やハーモニー機能を使って録音をした場合、録音をストップすると、【ABC ON(ABCｵﾝ)】や【HARMONY(ﾊｰﾓﾆｰ)】のランプは自動的に消えます。

■録音をストップすると、【EFFECT(ｴﾌｪｸﾄ)】のランプは自動的に消えます(ただし、録音されたエフェクトは有効です)。

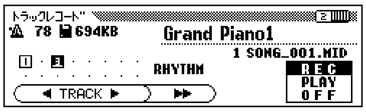
トラック録音(多重録音)

1 録音の準備をする

トラック録音の最初の手順は、クイック録音の手順1〜3と全く同じです。フォーマット済みのディスクをセットし、【RECORD(録音)】を押してレコードモードに入り、録音するソングナンバーを選んでください。

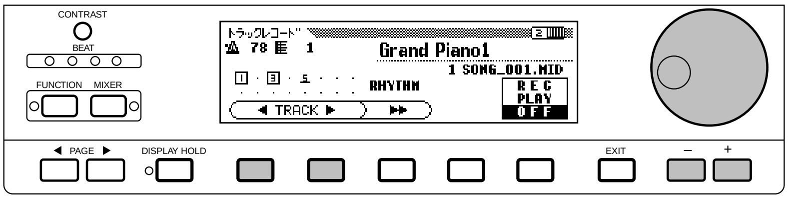
2 トラックレコード(TRACK RECORD)画面を開く

PAGE(画面送り)【◀】【▶】を使って、2ページめのトラックレコード(TRACK RECORD)画面を開きます。各トラックが[TRACK]◀▶の上に表示されます。再生できるトラックはナンバーが四角い枠で囲まれた状態になっています。また録音するトラックはナンバーが反転表示されます。データが何も入っていないトラックはドット(・)で表示されます。



3 トラックモードを選ぶ

[TRACK]◀▶、【ダイアル】、【+】【-】を使ってトラックを選びます。選ばれているトラックには下線が表示されます。
選択したトラックは、一番右側のLCDボタンを押して[REC(録音)]、[PLAY(再生)]、[OFF]を反転させることにより、録音できる状態、再生できる状態、または録音／再生OFFの状態にすることができます。データが録音されているトラックのみ[PLAY(再生)]を選ぶことができます。再生をOFFにしたトラックは、トラック表示の枠囲いが消え、ナンバーだけの表示となります。



鍵盤の手弾き演奏を録音するトラックは同時に2つまで選ぶことができます。

- 1つの音色を選んで、鍵盤の手弾き演奏を録音する場合は、手弾き用の録音トラックは1つ選びます。
- デュアル／スプリット機能により2音色を使う演奏を録音する場合は、手弾き用の録音トラックは2つ選ぶ必要があります。

また、自動演奏やハーモニーを録音する場合は、自動的にその録音トラックが決まります。

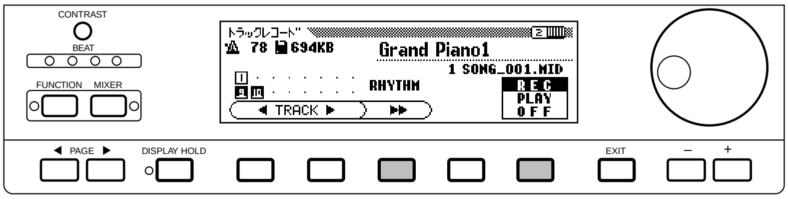
- 自動伴奏(ABC)機能をONにした場合、自動的にトラック9〜16が同時に録音状態になります(それらのトラックには自動伴奏のデータが録音されます)。
- ハーモニー機能をONにした場合、自動的にトラック6〜8が同時に録音状態になります(それらのトラックにはハーモニーのデータが録音されます)。

■フォーマットされていないディスクを入れた場合…
ユーズランプがしばらく点灯し、自動的に[ディスクをフォーマットしますか？(Start disk format?)]のメッセージが表示されます。フォーマットする場合は[はい(OK)]を、中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

■選んだソングナンバーの横にソングネームが表示されているものは、すでにデータが録音されています。他のソングナンバーを選ぶか、ソングデリート(P113)で、データを消してから録音してください。

■デュアルまたは、スプリット モードをONにしてからでないと、手弾き演奏を録音するトラックは2つ選べません。

[TRACK]▶▶を押すと、リズムトラックとしてトラック9と10が同時に選ばれます。一番右側のLCDボタンを使って、トラック9、10の[REC(録音)]、[PLAY(再生)]、[OFF]を選びます。リズム音だけを録音したいときに使います。



4 演奏の準備をする

録音するトラックを選んだら、音色や伴奏スタイルを選択し、テンポ調節やリバーブなど、演奏に必要な設定を行います。

5 録音をスタートする

シンクロスタートか【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】で録音を始めます。(リズム、ABC、またはハーモニーが録音状態にされると、シンクロスタートが自動的にスタンバイされますが、解除することもできます。)
録音中は現在の小節位置がLCD画面に表示されます。
音のデータ以外にも実際には次のようなさまざまなデータが同時に録音されています(演奏方法や設定のし方によって異なります)。

トラック単位で個別に録音される内容

- ノート(音符)
- 音色
- ボリューム(初期値は最大)
- エクスプレッションペダル(CVP-79のみ)
- パン
- ダンパーペダル
- ソフトペダル
- ソステヌートペダル
- リバーブデプス
- エフェクトデプス

ソング全体に録音される内容

- テンポ
- リバーブタイプ
- リバーブデプス
- エフェクトタイプ*
- 伴奏スタイル
- イントロ
- メインA/B
- フィルイン
- エンディング

*エフェクトに関しては、最後に録音されたトラックのエフェクトが優先されます。

その他の録音内容

伴奏スタイルのデータについては、上記に示したもの以外に次の内容が記録されます。

- パート単位のボリューム
- モジュレーション
- ピッチベンド
- ピッチベンドセンシティビティ

■トラック10は(場合によりトラック9も)、伴奏スタイルのリズム音を録音するためにだけ使われ、鍵盤の手弾きパートの録音用には使えません。また、ハーモニーや自動伴奏(ABC)の録音トラックは決められていますので、ハーモニーや自動伴奏を録音する場合には、それ以外のトラックに鍵盤の手弾きパートを録音する必要があります。

■自動伴奏(ABC)、スタイル、ハーモニーをONにすると、自動的にシンクロスタートでの録音スタンバイ状態になります。

■リズムトラック(9と10)を[REC(録音)]表示にすると、シンクロスタートでの録音スタンバイ状態になり、タイミングをとるガイドとしてメトロノームが鳴り出します。また、リズムトラック(9と10)を[PLAY(再生)]表示にして、その他のトラックを[REC(録音)]表示にしたときも、同じようにメトロノームが鳴り出し、シンクロスタートでの録音スタンバイ状態になります。

■自動伴奏(ABC)やハーモニーをONにした状態で、トラック録音の画面を開いた場合、自動的にそれぞれの録音に必要なトラックが選ばれ、シンクロスタートでの録音スタンバイ状態になります。

■演奏を間違えたときは、間違えたところだけを録音し直すことができます。詳しくはパンチイン/アウト録音(P88)を参照してください。

■バックアップのお勧め…
ある程度データを録音したら、別のソングナンバーにコピーをとっておくことをお勧めします(コピーの操作については111ページを参照してください)。録音中に誤ってデータを消してしまったときでも、バックアップがあれば安心です。

6 録音をストップする

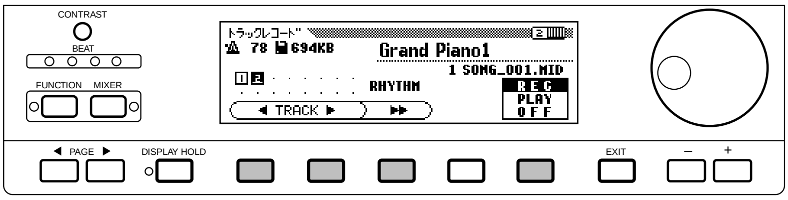
【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと、録音がストップします。

■CVP-79/69/59の伴奏スタイルを使って、リズムトラック9と10に録音すると、LCD画面のRHYTHMの横に■マークが表示されます。

■ 新しいトラックを追加する

録音をストップすると、データがディスクに書き込まれ、録音されたトラックの表示が、自動的に[PLAY(再生)]に変わります。【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すと、いま録音したデータが再生されます。

あるいは、先ほどの手順の3〜6を繰り返して、別の録音トラックや音色を選び、新しいパートを録音していきます。必要に応じて、録音済みのトラックを再生させながら録音します。この操作を繰り返して1つのソングを完成します。



【RECORD(録音)】を押してランプを消すか、【EXIT(戻る)】を押すと、ソングレコードモードから抜け、マルチトラック録音を終了します。

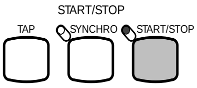
■すでに録音されているトラックを選んで録音すると、元の内容が消え、新しく録音された内容が上書きされます。

■ パンチイン／アウト録音

パンチイン／アウト録音を使えば、演奏を間違えた場所だけを部分的に録音し直すことができます。録音済みのトラックを再生させて、録音をやり直したい位置から録音をスタート(パンチイン)し、好きな位置で録音をストップ(パンチアウト)することができます。それ以外の部分は元のまま残すことができます。パンチイン／アウト録音は、3ページめのパンチイン／アウト(PUNCH IN/OUT)画面で行えます。

1 ソングを再生する

ソングを再生させ、録音をやり直したい場所(パンチインする場所)まで進めます。

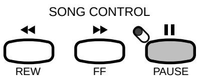


■ディスクがディスクドライブに差し込まれていないときは、パンチイン／アウト録音することはできません。

■パンチイン／アウト(PUNCH IN/OUT)画面を開いているときは、【REW(巻戻し)】、【FF(早送り)】は使えません。

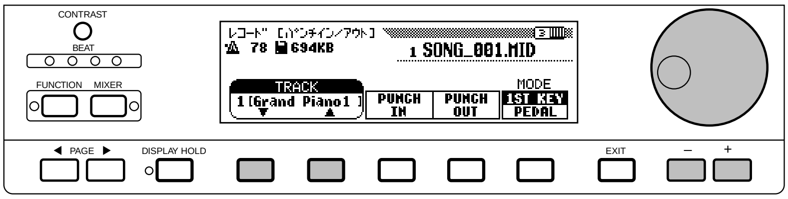
2 パンチインの位置で一時停止する

パンチインする場所の少し手前で【PAUSE(一時停止)】を押し、一時停止させます。パンチインする場所の1、2小節前で止めておくと、タイミングが合わせやすくて便利です。



3 トラックを選ぶ

[TRACK]▼▲、【ダイアル】、【+】【-】を使って録音トラックを選びます。そのトラックに使われている音色が表示されます。



■パンチインすることができるトラックだけが表示され、選べます。すなわち、自動伴奏(ABC)、リズム、ハーモニーが録音されているトラックや何も録音されていないトラックは選ぶことができません。

4 パンチインモードを選ぶ

[MODE]を押して、パンチインのモードを選びます。次の2種類のモードがあります。

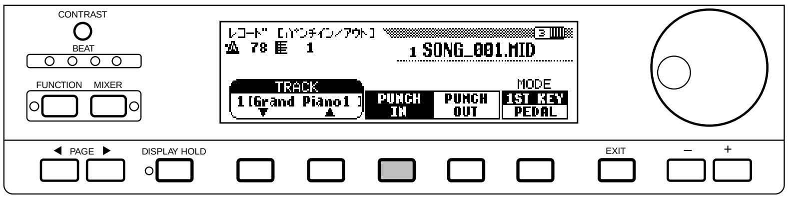
1ST KEY： 一度[PUNCH IN]が押されたあと、最初に弾かれた鍵盤の音から録音が始まる方法です。

PEDAL： 一度[PUNCH IN]が押されたあと、左のペダルが踏まれたときから録音が始まる方法です。

■パンチインモードのPEDALを選んだときは、左のペダルはパンチインの機能にだけ使用することができます(通常の機能はキャンセルされます)。

5 パンチインのスタンバイ状態にする

[PUNCH IN]を押すと反転し、パンチインのスタンバイ状態になります。



■PEDALのモードを選んでいるとき・・・

- 【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】や【PAUSE(一時停止)】を押して再生をスタートしなくても、直接左のペダルを踏んで録音をスタートすることもできます。
- 左のペダルを踏んで録音をストップ(パンチアウト)することもできます。パンチアウトの位置以降の録音済みのデータは元のまま残ります。
- 一時停止中に直接左のペダルを踏んで録音をスタートし、【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】で録音をストップした場合、録音をスタートした位置以降の元のデータはすべて消去されます(もし、[PUNCH OUT]か、左ペダルを使って録音をストップした場合は、パンチインからパンチアウトの位置までのデータだけが消去されます)。

6 再生と録音をスタートする

【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】を押すか、【PAUSE(一時停止)】押すと先ほど一時停止していた位置から再生がスタートします。
1ST KEYのモードを選んでいるときは、録音を開始したい位置で鍵盤を弾くと、パンチイン録音がスタートします。
PEDALのモードを選んでいるときは、録音を開始したい位置で左のペダルを踏むと、パンチイン録音がスタートします。

7 録音をストップする

パンチアウトしたい場所で、[PUNCH OUT]を押すと、録音はストップします。パンチアウトした位置以降の録音済みのデータは元のまま残ります。また、【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】で録音をストップした場合、録音をストップした位置以降の元のデータはすべて消去されます。

【RECORD(録音)】を押してランプを消すか、【EXIT(戻る)】を押すと、ソングレコードモードから抜け、パンチイン／アウト録音を終了します。

■【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】や【PAUSE(一時停止)】を押して再生をスタートしても、鍵盤を演奏せずに【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】や[PUNCH OUT]を押してストップすれば、元のデータが消えることはありません。

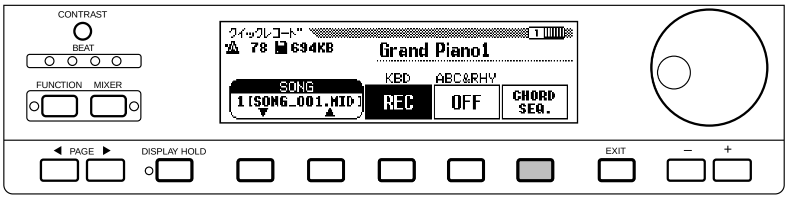
コードシーケンス機能

コードシーケンス機能を使えば、リズムに合わせて弾かなくても、自動伴奏パートを1ステップずつ入力して録音することができます。

1 コードシーケンス機能をONにする

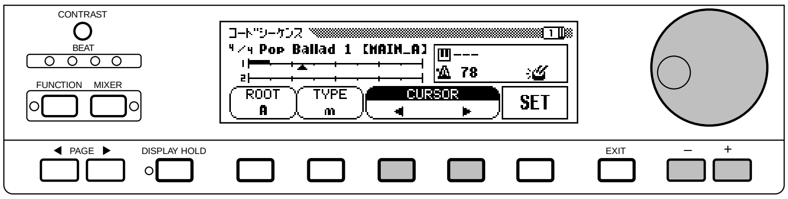
1ページめのクイックレコード(QUICK RECORD)画面で、録音したいソングナンバーを選んだあと、[CHORD SEQ.]を押します。

コードシーケンス(CHORD SEQUENCE)画面が現れ、自動伴奏(ABC)機能がONになります。そのときフルキーボードの演奏法が選ばれていた場合、フィンガードに切り換わります。



2 入力位置にカーソルを移動する

LCD画面上には、8分音符単位で区切られた小節バーが示されます。[CURSOR]◀▶を使って、三角形のカーソル(▲)をコードやスタイルチェンジを入力したい位置に合わせます。一度表示を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使うこともできます。



3 コード／スタイルチェンジを入力し、録音する

左領域の鍵盤(ABCのスプリットポイント以下の鍵盤)で、現在の自動伴奏(ABC)の演奏方法に従ってコードを押さえるか、LCD画面の[ROOT]、[TYPE]を使ってコードを入力します。一度[ROOT]や[TYPE]を反転させたあと、【ダイアル】、【+】【-】を使って入力することもできます。鍵盤でコードを押さえた場合も、[ROOT]、[TYPE]に入力されたコードが表示されます。

録音したいスタイルチェンジ(スタイル、パターン、テンポ)を通常の方法で選びます。

■ディスクがディスクドライブに差し込まれていないときは、コードシーケンス機能を使うことはできません。

■フォーマットされていないディスクを入れた場合…

ユーズランプがしばらく点灯し、自動的に「ディスクをフォーマットしますか？(Start disk format?)」のメッセージが表示されます。フォーマットする場合は[はい(OK)]を、中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

■選んだソングナンバーの横にソングネームが表示されているものは、すでにデータが録音されています。他のソングナンバーを選ぶか、ソングデリート(P113)で、データを消してから録音してください。

■スタイルファイルディスクを使うときは録音のディスクを入れる前に、スタイルファイルディスクの読み込み(P66)の手順でスタイルを読み込んでください。

■クイックレコードやマルチトラック録音で、録音した自動伴奏(ABC)やリズムトラックのデータがあった場合は、コードシーケンスでの録音によっても上書きされます。

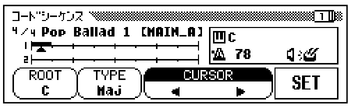
■コードシーケンス機能を使って、最大999小節まで録音することができます。

■コード入力の最小単位は、現在選ばれている伴奏スタイルによって自動的に決められます。たとえば、現在のスタイルが3/4、4/4、5/4の拍子である場合、8分音符や8分3連音符単位でのコード入力となります。また、それ以外の拍子を持つスタイルの場合、1小節単位でのコード入力となります。

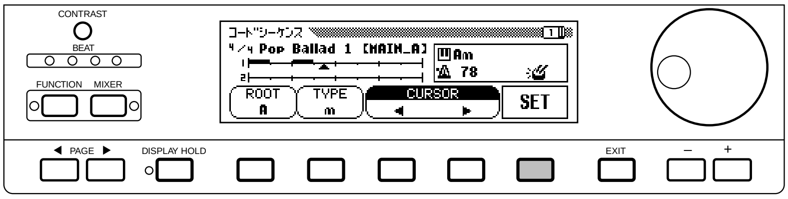
■1つのスタイル／パターンチェンジ(フィルインやブレイクは除く)は、各小節の先頭の位置にだけ入力することができます。それ以外の位置に入力しようとすると、「いま、このボタンは使えません！小節の先頭に入れてください。(Button not valid! Enter at top of measure.)」が表示され入力できません。

■コードシーケンス機能をONにしている間は、自動伴奏(ABC)機能を解除することはできませんが、【ABC ON(ABCｵﾝ)】を押して表示されるポップアップ画面を使って、フィンガードとシングルフィンガーの演奏方法を切り換えることは可能です。また、同様にスプリットポイントを変更することもできます。

■ミキサー(MIXER)画面で自動伴奏(ABC)のパート単位のボリューム調節を行うと、画面右側のボックスにボリュームマークが表示され、コードシーケンス(CHORD SEQUENCE)画面で[SET]を押すと、現在の位置にボリューム情報が録音されます(ソングの開始位置には、自動的にボリューム情報が録音されています)。ボリューム情報をうまく使えば、ソングの途中で自動的に自動伴奏(ABC)の音量が変化するような演出が行えます。



コードやスタイルチェンジを選んだら、[SET]を押します。現在カーソルが置かれている位置に入力した内容のデータが録音され、小節バー上に黒い長方形のボックスで示されます。また、録音されたスタイルの拍子、スタイルネーム、パターンがLCD画面の左上に表示され、録音されたコード、テンポ、リズムON/OFF(後述参照)マークが右側のボックスに表示されます。



同じ要領で、別の位置にカーソルを移動し、必要なコード／スタイルチェンジを次々に録音していきます。コードシーケンス機能によって録音されるデータは以下のとおりです。

コードシーケンス機能によって録音されるデータ

- 伴奏スタイル
- パターン(メインA/B、イントロ、エンディング、フィルイン、ブレイク)
- コード
- 自動伴奏(ABC)のパートごとのボリューム(ミキサー画面での設定)
- テンポ
- リズムON/OFF
- ABC/SONG(自動伴奏／ソング)ボリューム(初期ボリューム値としてのみ)

4 録音をストップする

すべての録音が終わったら、コードシーケンス(CHORD SEQUENCE)画面の2ページを開き、[END MARK]を押して、終わりの位置を決めるエンドマークを入力します。LCD画面の右側のボックスにエンドマークが表示されます。
続けて、コードシーケンス(CHORD SEQUENCE)画面の3ページを開き、[END]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、録音された内容がセーブされ、コードシーケンス機能が自動的に終了します。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。
【EXIT(戻る)】を押すか、【RECORD(録音)】を押してランプを消して、終了することもできます。その場合、セーブされていない状態だった場合には「作成したデータをセーブしますか？(Save recorded data?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、録音された内容がセーブされ、コードシーケンス機能が終了します。[いいえ(NO)]を押すと、録音された内容がセーブされず、コードシーケンス機能が終了します。キャンセルして作業を続けたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

■コードシーケンス機能を使って入力できるコードの種類は、P48のフィンガードコードのリストに載っているものと同じです。また、[TYPE]を"---"表示にして録音すれば、コードを空白のまま録音することができます。リズムだけを鳴らしたい場合などに使用します。鍵盤からは、オンベースコードも入力することができます。

■小節バーの左側にそれぞれの小節番号が示されます。

■コードシーケンス機能にはその他にもさまざまな編集機能があります。このあとの2、3ページめの画面の説明をご参照ください。

■コードを空白のまま録音し([TYPE]を"---"表示にして録音し)、リズムON/OFF機能(後述参照)でリズムをOFFにすることにより、ブレイクを作ることができます。(左ペダルでのブレイク(P102)は入力できません。)

■その前の位置に録音されたコード(LCD画面の右側のボックスに示されているコード)と同じコードは、[SET]を押しても録音されません。

■カーソルを次の入力位置に移動して、コードを入力せず、スタイルやパターンだけを変更して(このとき[ROOT]と[TYPE]は空白になります)[SET]を押せば、コード以外のデータだけが入力されます。

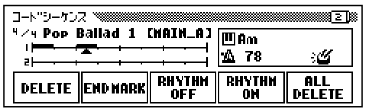
■一連のコードを入力したあとに異なる拍子のスタイルに変更すると、小節内のコード位置が変わります。

■コードシーケンス機能を使って録音したデータは、トラック9～16に録音されます。通常の方法で再生したり、トラック録音の方法でその他のトラックに録音を加えたり、自動伴奏のパートにオリジナルのフレーズを上書き録音したり、自由に取り扱うことができます。

■コードシーケンス機能によって録音されたソングは、あとでまたコードシーケンスの画面に入って修正することができます。ただし、その場合一度通常のトラック録音の方法で、自動伴奏のパートにオリジナルのフレーズを上書き録音したデータは、プリセットの伴奏スタイルのデータに書き換えられることになります。(たとえば、ベースパートを上書き録音しても、コードシーケンスの画面でデータ修正を行うと元のベースパターンに戻ってしまいます。)

■ コードシーケンスのその他の機能

コードシーケンス(CHORD SEQUENCE)画面の2ページめ、3ページめには、コード入力をさらに効率よく行えるよう、いくつかの機能が用意されています。



[DELETE]

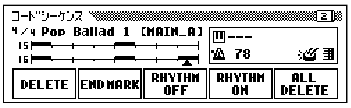
[DELETE]を押すと、現在カーソルが置かれている位置のデータを削除することができます。「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示され、[はい(YES)]を押すとデリートが実行されます。キャンセルしたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

[END MARK]

[END MARK]を押すと、現在カーソルが置かれている位置にエンドマークを入力することができます。エンドマークはソングの終了位置を示すデータで、曲を意図どおりの位置で終わらせるために必要です。(エンディングパターンで終了する場合は不要です。)エンドマークを入力すると、それ以降の小節にカーソルを移動することはできなくなります。エンドマークも通常のデータと同様に、[DELETE]を使って削除することができます。

■エンドマークを入力しなかったソングは、最後のデータがある小節の次の小節で終了します。エンディングパターンが入力されている場合はエンディングの最後の小節で終了します。

■エンドマークを入力すると、LCD画面の右側のボックスに次のようなマークが表示されます。



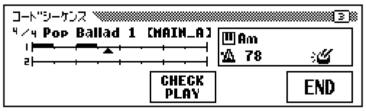
[RHYTHM OFF]と[RHYTHM ON]

[RHYTHM OFF]と[RHYTHM ON]を使ってリズム音をON/OFFすることができます。リズムOFFを入力した位置からリズム音が鳴らなくなり、リズムONを入力した位置からリズム音が鳴るようになります。

■リズムON/OFFの状態はLCD画面の右側のボックスで確認することができます。

[ALL DELETE]

[ALL DELETE]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、すべてのコード／スタイルチェンジデータが削除されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。



[CHECK PLAY]

[CHECK PLAY]を押すと、コードシーケンス機能で録音したデータが最初から最後まで再生されます。録音したデータを実際に再生して確認できます。もう一度[CHECK PLAY]を押すと再生はストップします。

[END]

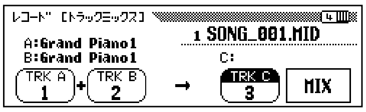
[END]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、作成したデータをディスクに保存してコードシーケンス機能を終了することができます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

録音に関するその他の機能

レコードモードには、その他にもクオリティの高いソングを作成するためにいろいろな機能が用意されています。

■トラックミックス機能

特定の2つのトラックのデータをミックスして、別のトラックにコピーすることができます。トラックミックスは、4ページめのトラックミックス(TRACK MIX)画面で行えます。



1 ミックスする2つのトラックを選ぶ

[TRK A]、[TRK B]を使ってミックスしたい2つのトラックのナンバーを選びます。一度[TRK A]、[TRK B]を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使って選ぶこともできます。選んだトラックで使われている音色が、LCD画面の左側のA:/B:の横にそれぞれ表示されます。

2 ミックス先のトラックを選ぶ

[TRK C]を使ってミックス先のトラックのナンバーを選びます。一度[TRK C]を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使って選ぶこともできます。選んだトラックにすでにデータが入っている場合、ミックス後は上書きされて消去されることになります。

3 トラックミックスを実行する

[MIX]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、トラックミックスが実行されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。
トラックミックスを実行すると、[MIX]の表示が[UNDO(取り消し)]の表示に変わります。トラックミックスの結果が期待通りでなかった場合に、[UNDO(取り消し)]を押すと、トラックミックスを実行する前の状態に戻すことができます。
【EXIT(戻る)】を押すか、【RECORD(録音)】を押してランプを消すと、トラックミックス機能を終了します。

■ディスクがディスクドライブに差し込まれていないときは、トラックデリート機能、トラッククオンタイズ機能、イニシャルエディット機能、リネーム機能を使うことはできません。

■ディスクにライトプロテクトがかかっていた場合「ディスクが書き込み禁止になっています！(Protected disk!)」が表示されます。

■[TRK A]、[TRK B]には、データが録音されているトラックだけが表示され、選べるようになっています。また、[TRK B]には、"---"(トラックを選ばない状態)も選択できるようになっています。これを選ぶと、結果として[TRK A]で選んであるトラックが、単純に[TRK C]にコピーされることになります。

■トラックミックスでは、[TRK A]で選ばれていたトラックの音色、ボリューム情報など(音符以外のすべてのデータ)が、ミックス後のトラックで有効になります。

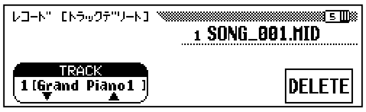
■トラックミックス実行中はLCD画面にバーグラフが表示されます。

■[UNDO(取り消し)]を行う前に、【START/STOP】を押して再生をスタート／ストップし、トラックミックスの結果を聞いてみることができます。

■UNDOは、他のトラックを選んだりこのモードを抜けると、できなくなります。

■トラックデリート機能

特定のトラックのデータを削除することができます。トラックデリートは、5ページめのトラックデリート(TRACK DELETE)画面で行えます。



1 デリートするトラックを選ぶ

[TRACK]▲▼、【ダイアル】、【+】【-】を使ってデリートしたいトラックを選びます。

■データが録音されているトラックだけが表示され、選べるようになっています。

2 デリートを実行する

[DELETE]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、トラックデリートが実行されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

トラックデリートを実行すると、[DELETE]の表示が[UNDO(取り消し)]の表示に変わります。結果が期待どおりでなかった場合に、[UNDO(取り消し)]を押すと、トラックデリートを実行する前の状態に戻すことができます。

【EXIT(戻る)】を押すか、【RECORD(録音)】を押してランプを消すと、トラックデリート機能を終了します。

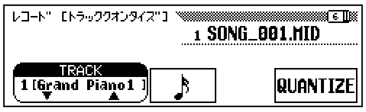
■トラックデリート実行中はLCD画面にバーグラフが表示されます。

■[UNDO(取り消し)]を行う前に、【START/STOP】を押して再生をスタート／ストップし、トラックデリートの結果を聞いてみることができます。

■UNDOは、他のトラックを選んだり、このモードを抜けると、できなくなります。

■トラッククオンタイズ機能

一度録音したトラック内の音のタイミングのずれを特定の音符のタイミングに合わせて修正することができます。たとえば、録音した音符を正確に8分音符や16分音符のタイミングに合わせて並べることができます。トラッククオンタイズは、6ページめのトラッククオンタイズ(TRACK QUANTIZE)画面で行えます。



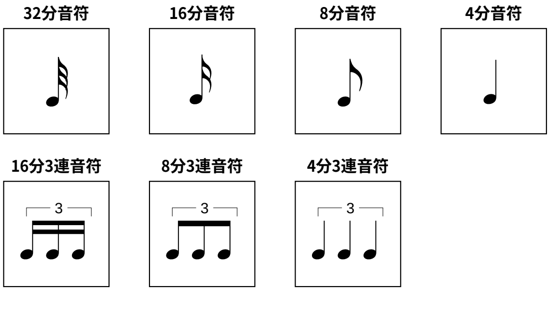
1 クオンタイズするトラックを選ぶ

[TRACK]▲▼、【ダイアル】、【+】【-】を使ってクオンタイズしたいトラックを選びます。

■データが録音されているトラックだけが表示され、選べるようになっています。

2 クオンタイズの長さを選ぶ

音符のイラストがついたLCDボタンを押して、次の中からタイミングを合わせたい音符の長さを選びます。



3 クオンタイズを実行する

[QUANTIZE]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、クオンタイズが実行されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。
トラッククオンタイズを実行すると、[QUANTIZE]の表示が[UNDO(取り消し)]の表示に変わります。クオンタイズの結果が期待通りでなかった場合に、[UNDO(取り消し)]を押すと、クオンタイズを実行する前の状態に戻すことができます。
【EXIT(戻る)】を押すか、【RECORD(録音)】を押してランプを消すと、トラッククオンタイズ機能を終了します。

■ノートデータと音色データだけクオンタイズされます。

■クオンタイズ実行中はLCD画面にバーグラフが表示されます。

■[UNDO(取り消し)]を行う前に、【START/STOP】を押して再生をスタート／ストップし、トラッククオンタイズの結果を聞いてみることができます。

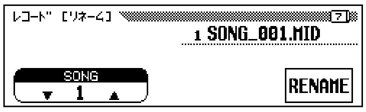
■UNDOは、他のトラックを選んだり、このモードを抜けると、できなくなります。

■リネーム機能(ソングネームの変更)

CVP-79/69/59で録音されたソングファイルの名前を付けたり、変更することができます。リネームは、7ページめのリネーム(RENAME)画面で行えます。

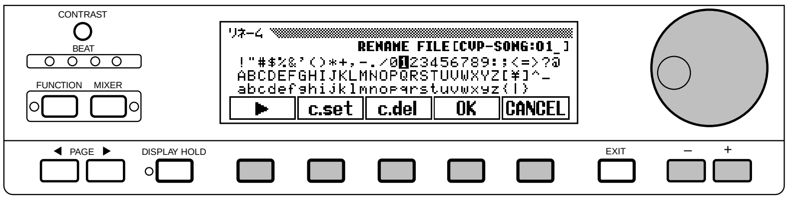
1 ネームを変更するソングを選ぶ

[SONG]▲▼、【ダイアル】、【+】【-】を使ってリネームしたいソングを選び、[RENAME]を押します。名前を付ける画面が現われます。



2 ネームを入力する

画面右上に現在のソングファイルネームが表示されます。[▶]を押すと、下線が移動し、ファイルネームの文字位置を一つずつ選択することができます(ファイルネームは最大12文字でつけることができます)。【ダイアル】、【+】【-】を使って入力したい文字や記号を反転させます。[c.set]を押すと、選んだ文字や記号がファイルネームの下線が置かれている位置に入力されます。同じ要領で別の文字位置に下線を移動して、文字や記号を入力していきます。入力を間違ったときは、[c.del]を押します。下線が一つ前の文字位置に戻り、その位置の文字を消去します。

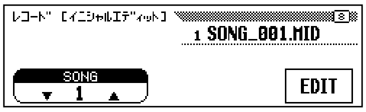


3 ネームを登録する

ソングファイルネームが完成したら、[OK]を押して登録します。新しい名前が現在のソングファイルネームとして登録されます。中止したい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。【EXIT(戻る)】を押すか、【RECORD(録音)】を押してランプを消すと、リネーム機能を終了します。

■イニシャルエディット機能(初期データの変更)

録音が終わったあとで、各トラックのボリューム値を変更したり、ソング全体に設定されている初期データを変更(イニシャルエディット)することができます。イニシャルエディットは、8ページめのイニシャルエディット(INITIAL EDIT)画面で行えます。



1 エディットするソングを選ぶ

[SONG]▲▼、【ダイアル】、【+】【-】を使ってエディット(編集)したいソングを選び、[EDIT]を押します。イニシャルエディットモードに入り、1ページめのイニシャルエディット[ソング](INITIAL EDIT [SONG])画面が開きます。

2 各値をエディットする

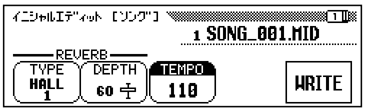
イニシャルエディットモードには3ページの画面があります。PAGE(画面送り)【◀】【▶】で各ページを開き、エディットしたい項目を選んで値を変更します。エディット中に【START/STOP】を押して再生をスタート／ストップし、エディットの状態を試聴することもできます。

■エディット中の再生時に【REW(巻戻し)】【FF(早送り)】を使うと、正確に再生されない場合があります。

●イニシャルエディット[ソング](INITIAL EDIT[SONG]) 1ページめ

この画面には、リバーブタイプ／デプス、テンポの項目があります。これらの値は、ソング全体に影響します。エディットしたい項目をLCDボタンで選び、【ダイアル】、【+】【-】を使って値を変更します。リバーブタイプ／デプスについて詳しくはP33を、テンポについてはP39をご参照ください。

■イニシャルエディットモードに入っているときは、エディットできる値に関係したパネル上のボタンは、使えません。



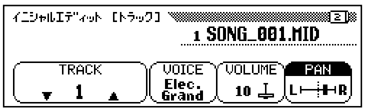
●イニシャルエディット[トラック](INITIAL EDIT[TRACK]) 2ページめ

この画面には、トラックごとに設定できる音色、ボリューム、パンの項目があります。[TRACK]▼▲でエディットしたいトラックを選び、LCDボタンで各項目を選択し、【ダイアル】、【+】【-】を使って値を変更します。音色について詳しくはP26,143を、パンについてはP101をご参照ください。

■データが録音されているトラックだけが表示され、選べるようになっています。

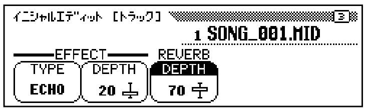
■ボリュームは最初に録音したときの音量が100で表示され、これより大きくすることはできません。

■自動伴奏、リズム、ハーモニーのデータが録音されているトラックの音色は変更することができません。



●イニシャルエディット[トラック](INITIAL EDIT[TRACK])3ページめ

この画面は2ページめの画面からの続きで、トラックごとに設定できるエフェクトタイプ／デプス、リバーブデプスの項目があります。2ページめの[TRACK]▼▲でエディットしたいトラックを選び、このページを開きます。LCDボタンで各項目を選択し、【ダイアル】、【+】【-】を使って値を変更します。エフェクトタイプ／デプスについて詳しくはP35を、リバーブデプスについてはP34をご参照ください。



3 エディット結果を書き込む

必要なエディットが終わったら、1ページめのイニシャルエディット[ソング](INITIAL EDIT[SONG])画面に戻り、[WRITE]を押します。「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、すべてのエディット結果が書き込まれます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

[WRITE]を押すと、その表示が[UNDO(取り消し)]の表示に変わります。エディットの結果が期待通りでなかった場合に、[UNDO(取り消し)]を押すと、エディットを実行する前の状態に戻すことができます。

4 終了する

【EXIT(戻る)】を押すか、【RECORD(録音)】を押してランプを消すと、イニシャルエディット機能を終了します。また、書き込みを実行していない状態でこれらの操作を行うと、「エディットしたデータを書き込みますか？(Write edited data?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、エディット内容が書き込まれ、イニシャルエディット機能が終了します。[いいえ(NO)]を押すと、エディット内容が書き込まれず、イニシャルエディット機能が終了します。キャンセルして作業を続けたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

■エフェクトタイプとデプスの設定は期待したとおりの結果が得られない場合もあります。また、他のトラックにも影響する場合もあり、エフェクトタイプは、最後に設定されたトラックのものが優先されます。

■自動伴奏(ABC)、リズム、ハーモニーのデータが録音されているトラックのエフェクトタイプは、変更することができません。

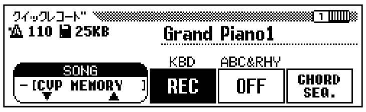
■1ソング内のエディットされたすべてのトラックの内容が、1度の[WRITE]を押す操作で書き換えられます。

■[UNDO(取り消し)]を行う前に、【START/STOP】を押して再生をスタート／ストップし、イニシャルエディットの結果を聞いてみることができます。

■UNDOは、エディットの新たな操作をしたり、イニシャルエディットモードを抜けると、できなくなります。

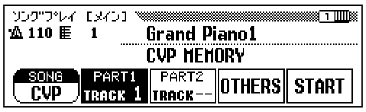
■ ディスクを使わない録音

CVP-79/69/59には約25KBのRAMが内蔵されており、ディスクを使わなくても約2500音程度の録音は行えるようになっています。ディスクを入れずにソングレコードモードへ入ると、次のように[SONG]に[CVP MEMORY]が表示され、クイック録音、トラック録音の方法で録音することができます。



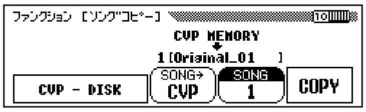
内蔵RAMを使って録音を行うときのクイックレコードの画面

また、内蔵RAMにソングを録音したあと、ソングプレイモードへ入ると、次のように[SONG]に[CVP]が表示され、通常の方法で再生することができます。



内蔵RAMのソングを再生するときのソングプレイ[メイン]の画面

内蔵RAMへ録音したソングデータは、ディスクオーケストラ・コレクション、ピアノプレーヤ・ソフト、スタイルファイルのディスクやCVP-79/69/59以外の機器で制作されたソングファイルの入ったディスクを差し込んだり、電源をOFFにすると消えてしまいます。あるいは、自分で録音したソングのディスクを差し込んで、ソングを選んだときも消えます。したがって、そのデータが必要であれば、ソングコピー機能(P111)を使ってフロッピーディスクへセーブしてください。



■ 再生

録音したソングは、通常の方法で再生することができます。

■コードシーケンス機能を使って、内蔵RAMへ録音することはできません。ディスクを入れずにコードシーケンス機能を使おうとすると、「いま、このボタンは使えません！(Button not valid!)」が表示されます。

■パンチイン／アウト録音、トラックミックス機能、トラックデリート機能、トラッククオンタイズ機能、イニシャルエディット機能、リネーム機能は内蔵RAMで録音したデータに対しては使用できません(フロッピーディスクを入れずにソングレコードモードにしているときは、画面が2ページめまでしか開けません)。

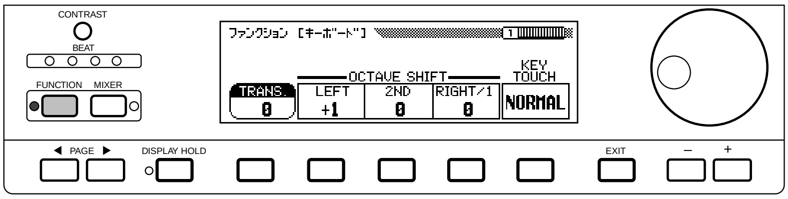
ファンクション

ファンクションモードには、MIDIやディスクに関する機能やCVP-79/69/59をさらに便利に使えるようにするための機能がたくさん用意されています。これらの機能を目的に応じて使い分けることで、CVP-79/69/59をより身近な楽器、より高度な楽器としてご利用いただけます。

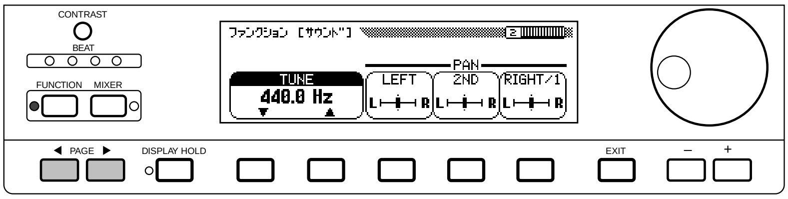
■ 各機能の選択と設定操作

各機能は、以下の手順で選択したり設定することができます。

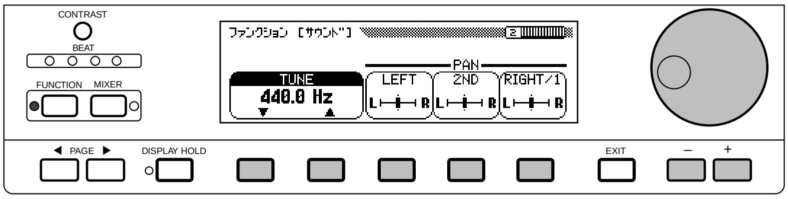
1 【FUNCTION(ﾌｧﾝｸｼｮﾝ)】を押すとランプが点灯し、ファンクションモードの画面が表示されます。



2 PAGE(画面送り)【◀】【▶】で使いたい機能の画面を開きます。ファンクションモードには全部で17ページの画面があります。

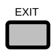


3 LCDボタン、【ダイアル】、【+】【-】を使って値を設定したり、さまざまな機能を実行します。

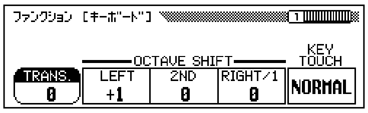


■【ダイアル】、【+】【-】は、一度LCDボタンを押して選ばれた(反転された)、角の丸い囲いの項目に対して機能します。

4 終了したら、【EXIT(戻る)】を押すか、もう一度【FUNCTION(ﾌｧﾝｸｼｮﾝ)】を押してランプを消してください。



キーボード(KEYBOARD) 1ページめの画面



■トランスポーズ[TRANS.]

弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さにキーを合わせたり、演奏している曲を移調することができます。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。たとえば、トランスポーズ量を"+5半音"に設定すると、ドを弾いたときにファの音が出ることになり、言い換えればハ長調の弾き方でヘ長調の演奏ができることになります。

■トランスポーズ…
設定範囲：-24半音(-2オクターブ)
〜0(標準音程)
〜+24半音(+2オクターブ)
初期値：0(標準音程)
初期のバックアップ設定：OFF

■標準の音程に戻すには…
【+】【-】を同時に押します。

■トランスポーズをかけた場合の発音域について…
トランスポーズによって､元の88鍵の最高音(C7)より高くなる音は1オクターブ下の音で､元の88鍵の最低音(A-1)より低くなる音は1オクターブ上の音で発音します。

■ドラムキット音色にはトランスポーズはかかりません。

■ オクターブシフト[OCTAVE SHIFT]

スプリットモード時の左領域、デュアルモード時の第2音色、右領域／第1音色の音をそれぞれ1オクターブ、シフトアップ／ダウンさせることができます。

■オクターブシフト…
レフト
[LEFT(左領域)]の設定範囲：
-1(1オクターブダウン)、
0(オクターブシフト無し)、
+1(1オクターブアップ)
初期値： +1(1オクターブアップ)
初期のバックアップ設定：OFF

セカンド
[2ND(第2音色)]の設定範囲：
-1(1オクターブダウン)、
0(オクターブシフト無し)、
+1(1オクターブアップ)
初期値： 0(オクターブシフト無し)
初期のバックアップ設定：OFF

ライト/1
[RIGHT/1(右領域／第1音色)]の設定範囲：
-1(1オクターブダウン)、
0(オクターブシフト無し)、
+1(1オクターブアップ)
初期値： 0(オクターブシフト無し)
初期のバックアップ設定：OFF

■オクターブシフトした場合の発音域について…
オクターブシフトによって、元の88鍵の最高音(C7)より高くなる音は1オクターブ下の音で、元の88鍵の最低音(A-1)より低くなる音は1オクターブ上の音で発音します。

■通常の1音色での演奏時には、[RIGHT/1(右領域/第1音色)]の設定だけが有効です。

■ タッチセンシティビティ[KEY TOUCH]

弾く強さに対する音の出かた(音の強弱の変化の度合い)を、5種類の中から選ぶことができます。演奏する曲や好みによって使い分けてください。

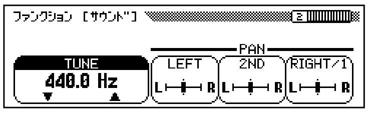
設定できる値:

SOFT 2(ソフト2): SOFT 1(ソフト1):	軽いタッチで大きな音を出すことができます。比較的音のつぶがそろいやすいタッチです。SOFT2の方がSOFT1よりさらにソフトになっています。
NORMAL(ノーマル):	標準的なタッチです。
HARD 1(ハード1): HARD 2(ハード2):	強いタッチで弾かないと大きな音が出しにくい設定です。ピアニッシモからフォルティッシモまでダイナミックな演奏ができます。HARD 2の方がHARD 1よりさらにハードになっています。

■タッチセンシティビティ…
初期値：NORMAL(ノーマル)
初期のバックアップ設定：OFF

■鍵盤自体の重さは変わりません。

サウンド(SOUND) 2ページめの画面



■チューン[TUNE]

音程(ピッチ)を微調整することができます。合奏のときなどに他の楽器と音程を正確に合わせることができます。±約26ヘルツ(±約100セント)の範囲を約0.2セントきざみで設定することができます。(100セント=半音)。
[TUNE]にラの音(A3)の周波数(Hz:ヘルツ)が表示されます。

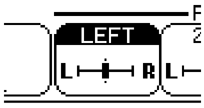
■チューン…
設定範囲：-26ヘルツ(=約414ヘルツ)
～0(標準音程=440ヘルツ)
～+26ヘルツ(約466ヘルツ)
初期値：440ヘルツ(標準音程)
初期のバックアップ設定：OFF

■標準の音程に戻すには…
[TUNE]▼▲を同時に押します。

■ドラムキット音色には、チューンは効きません。

■ パン[PAN]

演奏音が左右のどのあたりから聞こえるようにするか、パン(音像定位)を設定することができます。スプリットモード時の左領域、デュアルモード時の第2音色、右領域／第1音色の音に対して、それぞれ個別に設定することができます。[LEFT(左領域)]、[2ND(第2音色)]、[RIGHT/1(右領域／第1音色)]を押して、設定したい項目を反転させ、【ダイアル】、【+】【-】を使ってパンの位置を設定します。



左寄りになる　中央　右寄りになる

いくつかの音色では、初期設定がキースケールパン(低い音ほど左寄りから、高い音ほど右寄りから聞こえる設定)になっています。(P143の音色リストをご参照ください。)
ドラムキット音色は、楽器音ごとに特定のパンが設定されています。
この機能でのパンの設定は音色ごとの初期設定の位置からの相対的な左右への移動になります。

■パン…
設定範囲：[L(左端)]～中央～[R(右端)]
初期値：音色ごとの設定値(中央、キースケールパン、ドラムキット用パン)
＊ただし、どの音色の場合でも画面上では初期値が中央の位置で表示されます。
初期のバックアップ設定：OFF

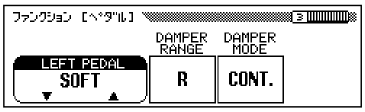
■初期値に戻すには…
【+】【-】を同時に押します。

■この機能でのパンの設定は、すべての音色に共通して影響します。

■パンの設定は、鍵盤の手弾き音にだけ影響します。

■通常の演奏時(1音色での演奏時)には、[RIGHT/1(右領域／第1音色)]のパン設定が有効です。

ペダル(PEDAL)..........................3ページめの画面



CVP-79

■レフトペダル機能[LEFT PEDAL]

左のペダルに、いろいろな機能を割り当てることができます。

設定できる機能と内容：

SOFT (ソフト)：ソフトペダルになります(初期設定)。(P37)

START/STOP(スタート／ストップ)：【START/STOP(ｽﾀｰﾄ/ｽﾄｯﾌﾟ)】と同じ機能になります。(P40)

HARMONY ON/OFF(ハーモニーON/OFF)：ハーモニー機能がONのとき、左ペダルを踏んでいる間だけ、ハーモニーをつけることができます。(P52)

REGISTRATION+(レジストレーション+)：左ペダルを押すごとに次のレジストレーションナンバーに登録されているパネル状態を呼び出すことができます。(P69)

INTRO A/FILL TO A(イントロA/フィルトゥーA)：【INTRO A/FILL TO A(ｲﾝﾄﾛA/ﾌｨﾙﾄｩｰA)】と同じ機能になります。(P42)

INTRO B/FILL TO B(イントロB/フィルトゥーB)：【INTRO B/FILL TO B(ｲﾝﾄﾛB/ﾌｨﾙﾄｩｰB)】と同じ機能になります。(P42)

ENDING/RIT.(エンディング/リタルダンド)：【ENDING(ｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ)】と同じ機能になります。(P43)

BREAK(ブレイク)：スタイル再生中に左ペダルを踏むと、踏んでいる間だけブレイクを入れることができます。ペダルから足を離すと、次の小節からもとの再生に戻ります。(P42)

SOSTENUTO(ソステヌート) (CVP-59のみ)：CVP-79/69のソステヌートペダルと同じ機能になります。(P37)

■レフトペダル機能…
初期値：SOFT(ソフト)
初期のバックアップ設定：OFF

■左ペダルをREGISTRATION+(レジストレーション)に設定している場合、レジストレーションに設定されているレフトペダル機能は呼び出されません。

■ダンパーレンジ[DAMPER RANGE]

スプリットモード時のダンパーペダルが効く範囲を、右領域、左領域、右／左の両領域、の中から選ぶことができます。

■ダンパーレンジ…
設定できる値：
R(右領域だけに効く設定)、
L(左領域だけに効く設定)、
R&L(右／左の両領域に効く設定)
初期値：R(右領域だけに効く設定)
初期のバックアップ設定：OFF

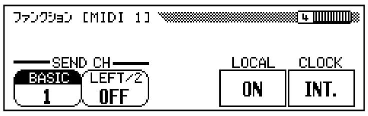
■ダンパーモード[DAMPER MODE](CVP-79のみ)

ダンパーペダルを連続可変式(踏み込むほど余韻が長くなる)で使うか、ON/OFFスイッチ式で使うか選択できます。ソングの録音時などはON/OFFスイッチ式で使用すると、連続可変式で使用した場合に比べてメモリーを節約することができます。

■ダンパーモード…
設定できるモード：
CONT.(コンティニュアス)(連続可変式)、
SWITCH(スイッチ)(ON/OFFスイッチ式)
初期値：CONT.(コンティニュアス)(連続可変式)
初期のバックアップ設定：OFF

MIDI 1 ....4ページめの画面

この4ページめの画面から6ページめの画面まではMIDI(Musical Instrument Digital Interface)に関する機能です。MIDIを使えば、CVP-79/69/59の鍵盤を使って他のシンセサイザーを演奏したり、コンピューターやシーケンサーでCVP-79/69/59をコントロールしたりなど、CVP-79/69/59の使い方が大きく広がります。P125の資料編にはMIDIについての基礎知識を含め、実際にCVP-79/69/59のMIDI機能を使ってどんなことができるのか、といったことがまとめてあります。



■ 送信チャンネル[SEND CH]

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1〜16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここではCVP-79/69/59からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。[LEFT/2](レフト/2)で、スプリット／デュアルモード時の左領域／第2音色のMIDI送信チャンネルを、[BASIC](ベーシック)で、それ以外の演奏データのMIDI送信チャンネルを設定します。

■送信チャンネル…
[BASIC](ベーシック)の設定範囲：
OFF(送信しない)、
1〜16チャンネル
初期値：　1チャンネル
初期のバックアップ設定：OFF

[LEFT/2](レフト/2)の設定範囲：
OFF(送信しない)、
1〜16チャンネル
初期値：　OFF(送信しない)
初期のバックアップ設定：OFF

MIDI受信について

CVP-79/69/59の音源部は"マルチティンバー"と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から別々のMIDIチャンネルによって送信されるデータをチャンネルごとに異なる音色で同時に鳴らすことができます。たとえば、コンピューターやMIDIシーケンサーを使ってCVP-79/69/59でアンサンブル演奏をさせるこができます。

■ ローカルコントロールのON/OFF [LOCAL]

通常、クラビノーバをはじめシンセサイザーなどでは、鍵盤を弾いて内蔵されている音源をコントロールし、音を出すしくみになっています。この状態はローカルコントロールONと呼ばれます。また、ローカルコントロールをOFFにすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもCVP-79/69/59からは音が出なくなります。CVP-79/69/59から音が出なくなっても、鍵盤を弾いた演奏情報はMIDI出力されますので、CVP-79/69/59では音を鳴らさずにMIDIで他の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをOFFにします。

■ローカルコントロールのON/OFF…
設定範囲：OFF、ON
初期値：ON
初期のバックアップ設定：OFF

■ クロック[CLOCK]

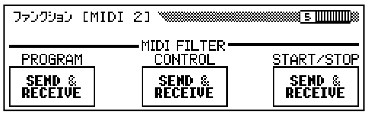
通常、ソング、ディスクオーケストラ、自動伴奏(ABC)などは、CVP-79/69/59で指定したテンポに従い、内部クロック(INT.)によって演奏されます。このクロックを外部(EXT.)に設定することによって、CVP-79/69/59のテンポを外部のシーケンサーやリズムマシンからコントロールすることができます。たとえば、外部のシーケンサーのテンポに合わせてCVP-79/69/59の自動伴奏(ABC)を演奏させることができます。

■クロック…
設定範囲：
INT.(内部クロック)、
EXT.(外部クロック)
初期値：INT.(内部クロック)
初期のバックアップ設定：OFF

■クロックが、EXT.(外部クロック)に設定されていて、外部からのMIDIクロック情報を受信していないときは、自動伴奏(ABC)や伴奏スタイルなどに関する操作は行えません。

MIDI 2 ....5ページめの画面

この画面には、どのタイプのMIDIデータを送信したり、受信したりできるようにするか、を設定するMIDI FILTERの機能があります。



■ プログラムのON/OFF[PROGRAM]

MIDIでは、プログラムチェンジを使って送信側の機器から受信側の機器の音色ナンバーを切り換えることができます。たとえば、外部MIDIシーケンサーからプログラムチェンジがCVP-79/69/59に送信されると、CVP-79/69/59で受信するMIDIの演奏データの音色が切り換わります。(このとき鍵盤での手弾き音は切り換わりません)。また、CVP-79/69/59からプログラムチェンジを送信すると外部MIDI機器の音色を切り換えることができます。(CVP-79/69/59のパネル上で音色を切り換えたときにプログラムチェンジが送信されます。)
いろいろなMIDIシステムを組んでいくと、このプログラムチェンジの送／受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合とがあります。
他の機器と音色切換を連動させたくない場合は、[PROGRAM]をOFFにしてください。
CVP-79/69/59の各音色のプログラムナンバーについては(P143)の音色リストを参照してください。

■プログラムのON/OFF…
設定範囲：
SEND&RECEIVE(送／受信できる状態)、
OFF(送／受信できない状態)
初期値：SEND&RECEIVE(送／受信できる状態)
初期のバックアップ設定：OFF

■ コントロールのON/OFF[CONTROL]

MIDIでは、コントロールチェンジを使って、ダンパーペダルの操作やエフェクトやボリュームなどの演奏表現を送信側の機器から受信側の機器に伝えることができます。たとえば、外部MIDIシーケンサーからコントロールチェンジがCVP-79/69/59に送信されると、CVP-79/69/59で受信するMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音には影響しません)。また、CVP-79/69/59から、外部へコントロールチェンジを送信すると、外部MIDI機器の演奏をコントロールすることができます。(CVP-79/69/59でダンパーペダルなどの操作をしたときにコントロールチェンジが送信されます。)コントロールチェンジを送／受信したくない場合は、[CONTROL]をOFFにしてください。CVP-79/69/59がコントロールチェンジとして扱える情報は、P126,131に詳しくまとめてあります。

■コントロール…
設定範囲：SEND&RECEIVE(送／受信できる状態)、OFF(送／受信できない状態)
初期値：SEND&RECEIVE(送／受信できる状態)
初期のバックアップ設定：OFF

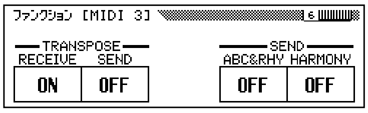
■ スタート／ストップON/OFF[START/STOP]

MIDIでは、スタート／ストップコマンドを使って、送信側の機器から受信側の機器のリズムや演奏をスタート／ストップすることができます。たとえば、外部MIDIシーケンサーからスタート／ストップコマンドをCVP-79/69/59に送信し、自動伴奏(ABC)やソングなどの演奏をスタート／ストップすることができます。また、CVP-79/69/59で自動伴奏(ABC)などのスタート／ストップ操作をしたときに、外部へスタート／ストップコマンドを送信しますので、この操作で外部MIDIシーケンサーやリズムマシンの演奏をスタート／ストップすることができます。スタート／ストップコマンドを送／受信したくない場合は、[START/STOP]をOFFにしてください。

■スタート／ストップ…
設定範囲：SEND&RECEIVE(送／受信できる状態)、OFF(送／受信できない状態)
初期値：SEND&RECEIVE(送／受信できる状態)
初期のバックアップ設定：OFF

MIDI 3 ....6ページめの画面

この画面には、トランスポーズの設定(P100)をCVP-79/69/59で送／受信しているMIDIの演奏データに対しても有効にするかどうか、また自動伴奏(ABC)／リズム、ハーモニーの演奏データを外部へ送信するかどうか、を設定する機能があります。



■トランスポーズの送／受信[TRANSPOSE]

[RECEIVE]をONにすると、P100のトランスポーズの設定が、CVP-79/69/59で受信するMIDIの演奏データに対して有効になります。[SEND]をONにすると、P100のトランスポーズの設定が、CVP-79/69/59から送信されるMIDIの演奏データに対して有効になります。この機能を使えば、トランスポーズの設定を外部への音や外部からの音にも影響させることができますので、一つのMIDIシステム全体を移調したいときなどに便利です。

■トランスポーズの送／受信…
[RECEIVE]の設定値：
ON(有効)、OFF(無効)
初期値：ON(有効)
初期のバックアップ設定：OFF

[SEND]の設定値：
ON(有効)、OFF(無効)
初期値：OFF(無効)
初期のバックアップ設定：OFF

■CVP-79/69/59のトランスポーズは、MIDIコントロールチェンジRPN(レジスタードパラメーター)のコースチューンデータを使用しており、実際に送受信されているMIDIノートナンバーには影響を与えません。

■自動伴奏/ハーモニーの再生データの送信

[ABC&RHY]をONにすると、自動伴奏(ABC)やリズムの再生時に、再生音がMIDIデータとして【MIDI OUT】から送信されます。この場合、MIDIチャンネルの9〜16を使って送信されます。

[HARMONY]をONにすると、ハーモニー機能を使用しているときのハーモニー(付加されている装飾音など)の再生音がMIDIデータとして【MIDI OUT】から送信されます。この場合、MIDIチャンネルの6〜8を使って送信されます。

これらの機能を使えば、自動伴奏(ABC)やハーモニーを、コンピューターや外部シーケンサーなどで録音することができます。

■送信

[ABC&RHY]の設定値：

9-16ch(送信する)、OFF(送信しない)

初期値：OFF(送信しない)

初期のバックアップ設定：OFF

[HARMONY]の設定値：

6-8ch(送信する)、OFF(送信しない)

初期値：OFF(送信しない)

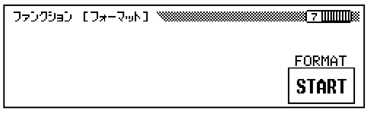
初期のバックアップ設定：OFF

■自動伴奏(ABC)やハーモニーデータをMIDIで送信するときは、手弾きの演奏データの送信チャンネル(P103)を設定する際、自動伴奏(ABC)の送信に使われる送信チャンネル9〜16やハーモニーの送信に使われる送信チャンネル6〜8と重ならないようにしておきましょう。そうしないと、手弾き音と自動伴奏やハーモニーの音色が同じになってしまうなどの不都合が生じる場合があります。

■[ABC&RHY]、[HARMONY]のどちらかがONになっていれば、送信チャンネル(P103)の[BASEC]がOFFになっていても、自動伴奏やハーモニーの再生データはMIDI送信されます。

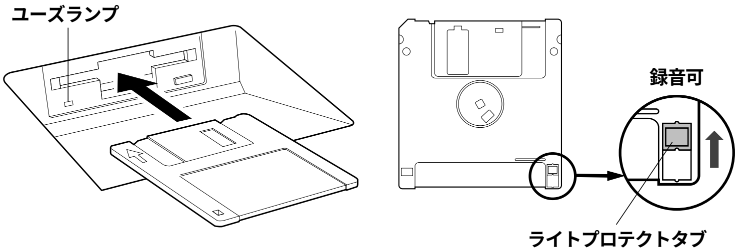
フォーマット(FORMAT) 7ページめの画面

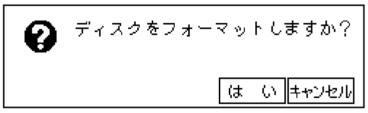
(何もデータの入っていない)新しいディスクや他の機器で使っていたディスクをそのままCVP-79/69/59で使うことはできません。CVP-79/69/59で使えるように最初にフォーマット(初期化)しておく必要があります。この画面では、ディスクをCVP-79/69/59で使えるようにフォーマット(初期化)することができます。市販の「3.5インチ2DDまたは2HDマイクロフロッピーディスク」をご使用ください。(CVP-79/69/59には、2DDの新しいディスク(録音用ブランクディスク)が1枚ついています)。



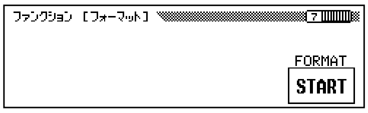
1 フォーマットするディスクを入れる

ライトプロテクトタブが"録音可"の位置になっていることを確認して、新しいフロッピーディスクを正しい向きと方向でディスク挿入口にカチッと音がするまでていねいに差し込みます。フォーマットされていないディスクを入れると、ユーズランプがしばらく点灯し、自動的に次の画面が現われ、「ディスクをフォーマットしますか?(Start disk format?)」のメッセージが表示されます。7ページめのファンクション[フォーマット](FUNCTION[FORMAT])画面を開いていなくても、(フォーマットされていない)新しいディスクを入れたときは、必ずこの画面が現われます。フォーマットする場合は[はい(OK)]を、中止する場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。





すでにディスクを挿入した状態で、7ページめのファンクション[フォーマット](FUNCTION[FORMAT])画面を開いた場合は、画面上の[START(スタート)]を押します。



■使用中のディスクをフォーマットすると、それまでディスクに記録されていたデータは全部消えてしまいます。ご注意ください。

■「ディスクが書き込み禁止になっています!(Protected disk!)」が表示された場合は、ライトプロテクトタブが書き込み禁止の位置になっています。書き込み可の位置にしてからフォーマットの操作を行ってください。また、内部的にプロテクトがかかっているディスク(ディスクオーケストラ・コレクションなど)もフォーマットできません。同じメッセージが表示されます。

■「ディスクがありません!(No disk!)」が表示された場合は、ディスクが挿入されていないことを示しています。

■2DDのディスクは720KB、2HDのディスクは1.44MBにフォーマットされます。

■ソングレコード/プレイモードでフォーマット操作を実行すると、ソングレコード/プレイモードから自動的に抜けます。

2 フォーマットを実行する

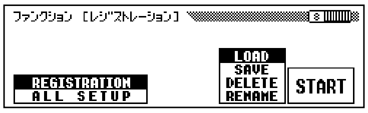
次のように「よいですか？(Are you sure?)」と確認を求める画面が現われますので、フォーマットを実行する場合は[はい(YES)]を、中止する場合は[いいえ(NO)]を押します。

フォーマット中はLCD画面にバーグラフが表示され、フォーマットの経過を示します。フォーマットが完了すると、そのディスクにソングを録音したり、コピーしたり、その他のデータをセーブ(保存)することができるようになります。

レジストレーション(REGISTRATION) 8ページめの画面

この画面では、レジストレーション機能で登録した各パネルの状態をフロッピーディスクにセーブ(保存)したり、ディスクに保存してあるレジストレーションデータをロード(読み込み)したり、ディスクからデリート(削除)したり、リネーム(名前を変更)したりすることができます。

これらのファイル操作を行う前に、正しいディスク(レジストレーションデータが入っているもの、またはセーブするためのディスク)がディスクドライブにセットしてあるかどうか確認してください。また、ソングレコード／プレイモードがONになっているときは、これらの操作は行えません。



■ソングレコード／プレイモードがONになっているときに、これらの操作を実行しようとしても、「いま、このボタンは使えません！(Button not valid!)」が表示され実行できません。このような場合、一度ソングレコード／プレイモードを抜けてください。

■レジストレーション機能によって登録されているパネル状態の内容については、P69をご参照ください。

基本操作手順

1 ファイルの種類を選ぶ

左から1番め／2番めのLCDボタンで、ロード／セーブ／デリート／リネーム操作の対象となるファイルの種類を選びます。

REGISTRATION(レジストレーション)：25種類(CVP-79/69)、または15種類(CVP-59)のレジストレーションメモリーに含まれる内容を1セットにしたファイル

ALL SETUP(オールセットアップ)：レジストレーションファイルの内容も含め、P149のリストに載っているすべてのパネルのセッティングを含んだ内容を1セットにしたファイル

2 ファイル操作を選ぶ

右から2番めのLCDボタンで、実行したいファイル操作を[LOAD](読み込み)、[SAVE](保存)、[DELETE](削除)、[RENAME](名前を変更)の中から選びます。

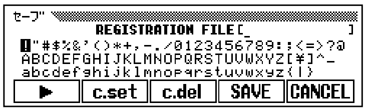
3 [START]を押す

[START]を押すと､選んだファイル操作を実行する画面が表示されます。これから先の手順は、選んだファイル操作によって異なります。以下の各ファイル操作の説明をご参照ください。

各ファイル操作説明

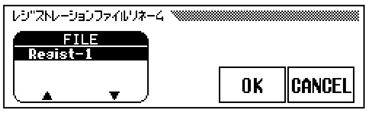
■ [SAVE]（保存）

[SAVE]を選んだ場合、セーブ画面が表示されます。



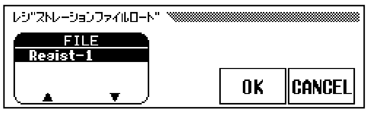
まずセーブするファイルの名前をつけます。画面右上にファイルネームを入力する位置が空白で表示されます。[▶]を押すと、下線が移動し、ファイルネームの文字位置を一つずつ選択することができます(ファイルネームは最大12文字でつけることができます)。【ダイアル】、【+】【-】を使って入力したい文字や記号を反転させます。[c.set]を押すと、選んだ文字や記号がスタイルネームの下線が置かれている位置に入力されます。同じ要領で別の文字位置に下線を移動して、文字や記号を入力していきます。入力を間違ったときは、[c.del]を押します。下線が一つ前の文字位置に戻り、その位置の文字を消去します。
ファイルネームが完成したら、[SAVE]を押してセーブを実行します。中止したい場合は[CANCEL]を押します。セーブを実行したときにセーブ先のディスクにすでに同じ名前のファイルが存在する場合は、「同じ名前のファイルがあります。入れ替えますか？(Same name! Overwrite?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、既存のファイルに上書きでセーブが実行されます。キャンセルしたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

■ [RENAME]（名前を変更）



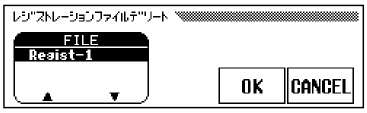
[RENAME]を選んだ場合、リネーム画面が表示されます。まず、名前を変更したいファイルを選びます。[FILE]▲▼でファイルを選び、[OK]を押します。前述のセーブ時と同じような名前を付ける画面が現われますので、先ほどと同じ方法で新しいファイルネームを入力します。[OK]を押すと新しい名前に変更されます。中止したい場合は[CANCEL]を押します。[OK]を押したとき、ディスクにすでに同じ名前のファイルが存在する場合は、「同じ名前のファイルがあります。入れ替えますか？(Same name! Overwrite?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、名前を変更したファイルが、既存のファイルに上書きされます。キャンセルしたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

■ [LOAD]（読み込み）



[LOAD]を選んだ場合、ロード画面が表示されます。まず、読み込みたいファイルを選びます。[FILE]▲▼でファイルを選び、[OK]を押します。「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、選んだファイルが読み込まれます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

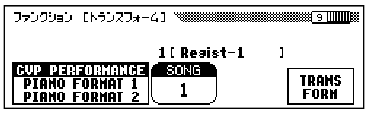
■ [DELETE](削除)



[DELETE]を選んだ場合、デリート画面が表示されます。まず、削除したいファイルを選びます。[FILE]▲▼でファイルを選び、[OK]を押します。「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、選んだファイルが削除されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

トランスフォーム(TRANSFORM) 9ページめの画面

この画面では、CVP-79/69/59で録音したソングデータ(ディスク上のデータファイル)を他のクラビノーバやピアノプレーヤで再生できるように変換することができます。
これらのファイル操作を行う前に、正しいディスク(変換したいソングが入っている2DDのディスク)がディスクドライブにセットしてあるかどうか確認してください。また、ソングレコードモードがONになっているときは、これらの操作は行えません。



操作手順

1 変換形式を選ぶ

左から1番め／2番めのLCDボタンで、どの楽器用にデータ変換をするのかを決めるために変換形式を選びます。次の3種類の変換形式が用意されています。

CVP PERFORMANCE(CVPパフォーマンス)：この変換形式を選ぶと、CVP-50/70/55/65/75/83/85/87/89、CLP-705、DOM-30、DOU-10で再生することができるようになります。

PIANO FORMAT 1(ピアノフォーマット1)：この変換形式を選ぶと、SXシリーズ、RFシリーズ、HG、HQ、HQ Grandで再生することができるようになります。

PIANO FORMAT 2(ピアノフォーマット2)：この変換形式を選ぶと、MXシリーズで再生することができるようになります。

2 変換するソングを選ぶ

[SONG]、【ダイアル】、【-】【+】で変換したいソングを選びます。

3 変換を実行する

[TRANSFORM]を押すと、選んだソングのデータ変換が始まります。変換が終了すると、「SONG No.**に入りました。(Completed! SONG No.**)」が表示され、変換されたソングがどのソングナンバーにセーブされたかを示します。変換されたソングは自動的にソングナンバーが決まります。また、CVP PERFORMANCE(CVPパフォーマンス)の変換形式によって変換を行った場合は、元の名前の最初に"C)"が付けられ、PIANO FORMAT 1/2の変換形式によって変換を行った場合は、元の名前の最初に"P)"が付けられます。

■2DDのディスクに入っているソングデータのみ変換することができます。2HDのディスクでこの操作を実行しようとすると、「2HDディスクは使えません！2DDディスクにコピーしてください。(2HD disk is not valid! Please copy to 2DD disk.)」が表示されます。このような場合、まず、ソングコピー機能(P111)を使って、変換したいソングデータを2DDのディスクにコピーし、そのディスクを使ってここでの操作を実行してください。

■ソングレコードモードがONになっているときに、この操作を実行しようとしても、「いま、このボタンは使えません！(Button not valid!)」が表示され実行できません。このような場合、一度ソングレコードモードを抜けてください。

■CVP-79/69/59で録音されたディスクに入っているソングデータだけ変換することができます。CVP-79/69/59の内蔵RAM上にあるソングデータは一度ディスクにセーブしてからでないと変換できません。

■ディスクオーケストラ・コレクションのディスクからコピーされたデータは、変換することができません。

■データ変換後も変換前のソングデータは、そのまま残ります。

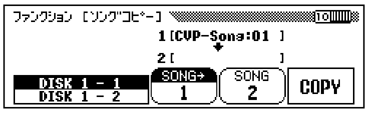
■PIANO FORMAT1(ピアノフォーマット1)、PIANO FORMAT2(ピアノフォーマット2)で変換したデータは、CVPシリーズや、DOM-30、DOU-10では1、2トラックが再生されなくなります。

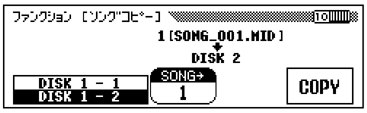
■変換後のソングには録音やエディットはできません。

ソングコピー(SONG COPY) 10ページめの画面

この画面では、CVP-79/69/59で録音したソングデータ(ディスク上のデータファイル)を、同じディスク上の別のソングナンバーにコピーしたり、別のディスクにコピーすることができます。
この操作を行う前に、ソングレコードモードがONになっているときは、ソングレコードモードを抜けてください。

■ソングレコードモードがONになっているときに、この操作を実行しようとしても、「いま、このボタンは使えません！(Button not valid!)」が表示され実行できません。このような場合、一度ソングレコードモードを抜けてください。





操作手順

1 コピーの準備をする

コピー元のソングが入ったディスクをディスクドライブに差し込み、ソングコピー(SONG COPY)画面を開きます。左から1番め／2番めのLCDボタンで、コピーの方法を選びます。次の2種類の方法が用意されています。

DISK 1-1(ディスク1-1)：ソングを同じディスク内の別のソングナンバーにコピーする方法です。
DISK 1-2(ディスク1-2)：ソングを別のディスクへコピーする方法です。

■CVP-79/69/59の内蔵RAMにソングデータが入っている場合は、自動的に[CVP-DISK]の方法が選ばれます。この方法では内蔵RAMのデータをディスクにコピーすることができます(P112)。この場合、[DISK 1-1]、[DISK 1-2]の方法は選べません。したがって、[DISK 1-1]、[DISK 1-2]の方法を使いたい場合は、まず内蔵RAMのデータを(必要であれば)ディスクにコピーし、ソングデリート機能(P113)を使って削除したあと、改めて[DISK 1-1]、[DISK 1-2]を選んでください。

■CVP-79/69/59で録音したソングデータ、ディスクオーケストラ･コレクションの右手/左手以外のパートだけ、この機能を使ってコピーすることができます。

■ディスクオーケストラ･コレクション、ピアノプレーヤ･ソフト、プロテクトがかかったディスクへコピーすることはできません。

2 コピー元のソングを選ぶ

[SONG→]を使ってコピー元となるソングを選びます。一度[SONG→]を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使って選ぶこともできます。選んだソングネームがLCD画面の上段に表示されます。

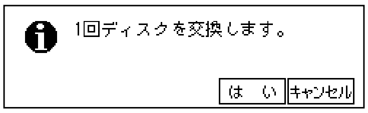
3 コピー先のソングナンバーを選ぶ(DISK 1-1のとき)

この操作はコピーの方法として[DISK 1-1]を選んでいるときに必要な手順です。コピーの方法として[DISK 1-2]を選んでいるときは手順4に進んでください。

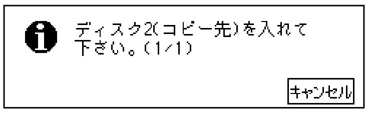
[SONG]を使ってコピー先となるソングナンバーを選びます。一度[SONG]を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使って選ぶこともできます。選んだソングナンバーにすでにソングが入っている場合、ソングネームがLCD画面の中段に表示されます。また、この場合コピーを実行すると、コピー元のソングが上書きされコピー先のソングは消えます。

4 コピーを実行する

[COPY]を押すと、コピーが始まります。同じディスクにコピーを行う場合、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、コピーが続きます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。
別のディスクにコピーを行う場合、「回ディスクを交換します。(No. of disk exchanges (**))」が表示され、コピーを完了するまでに何回コピー元とコピー先のディスクを入れ換える必要があるかが示されます。[はい(OK)]を押すと、コピーが続きます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。**

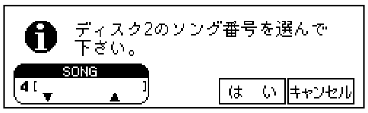


コピーを続けた場合、次のようなLCD画面の指示に従ってコピー元とコピー先のディスクを入れ換えながら、コピー作業を進めます。



最初にコピー先のディスクを入れたときは、次のLCD画面が表示されますので、[SONG]▼▲、【ダイアル】、【+】【-】を使ってコピー先のソングナンバーを選びます。選んだソングナンバーにすでにソングが入っている場合、ソングネームがLCD画面に表示されます。また、この場合コピーを実行すると、コピー元のソングが上書きされコピー先のソングは消えます。[はい(OK)]を押すと、コピーが続きます。キャンセルしたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。コピー実行中の画面には、ディスクの入れ換え残り回数も表示されます。

■同じディスク内でコピーを行う場合に、コピー元を選んだあと、同じソングナンバーをコピー先として選んでも、コピーは実行されません。このような操作をした場合、「いま、このボタンは使えません！(Button not valid!)」が表示されます。



●ディスクオーケストラ・コレクションのコピー(右手/左手以外のパート)

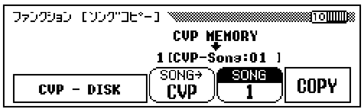
ディスクオーケストラ・コレクションのデータは、右手／左手パート以外のパートを、[DISK 1-2]の方法を選んで通常の手順でコピーすることができます。(右手/左手パートは自動的にはずしてコピーされます。)ただし、一度コピーしたディスクをさらに別のディスクにコピーすることはできません。

■コピーしたディスクオーケストラ・コレクションのデータの右手／左手パート(1/2トラック)には演奏を録音することができますが、その他のパートに追加で録音することはできません。また、コピーしたディスクオーケストラ・コレクションのデータでは、フレーズリピート(P79)はできません。

●CVP-79/69/59の内蔵RAMのデータのコピー

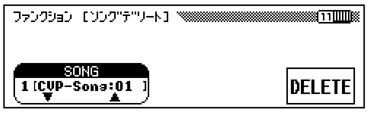
ディスクを入れずにソングを録音した場合、CVP-79/69/59本体の内蔵RAMにソングデータが入っています。このデータをディスクへコピーする場合、まずフォーマットされたディスクを差し込み、ソングコピー画面を開きます。コピー先のソングナンバーを選んで、通常のコピー操作を行います。[CVP-DISK]の方法が自動的に選ばれます。これにより、内蔵RAMのデータがコピー元となり、ディスクにコピーすることができます。

■内蔵RAMにデータがある場合、[DISK 1-1]、[DISK 1-2]の方法は選べません。



ソングデリート(SONG DELETE) ... 11ページめの画面

この画面では、CVP-79/69/59にロードした(読み込んだ)ディスクから不要なソングをデリート(削除)することができます。
この操作を行う前に、ソングレコードモードがONになっているときは、ソングレコードモードを抜けてください。



操作手順

1 ソングデリートの準備をする
デリートしたいソングが入ったディスクをディスクドライブに差し込み、ソングデリート(SONG DELETE)画面を開きます。

2 デリートするソングを選ぶ
[SONG]▼▲を使ってデリートしたいソングナンバーを選びます。【ダイアル】、【+】【-】を使って選ぶこともできます。また、CVP-79/69/59の内蔵RAMにあるソングデータをデリートすることもできます。この場合ソングナンバーの代わりに[CVP]を選びます(内蔵RAMにソングデータがあるときにだけ[CVP]が表示されます)。

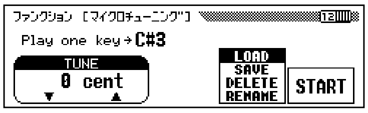
3 デリートを実行する
[DELETE]を押すと、「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、選んだソングが削除されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

■ソングレコードモードがONになっているときに、この操作を実行しようとしても、「いま、このボタンは使えません！(Button not valid!)」が表示され実行できません。このような場合、一度ソングレコードモードを抜けてください。

■CVP-79/69/59で録音したソングデータだけこの機能を使ってデリートすることができます。

マイクロチューニング(MICRO TUNING)..12ページめの画面

この画面では、鍵盤ごとに音程(ピッチ)を微調整できます。CVP-79/69/59は、工場出荷時にはそれぞれの音色に合わせた調律カーブに設定されていますが、この機能を使って好みの調律を作ることができます。また、作った調律をディスクにセーブしたり、必要なときにロードして使うこともできます。

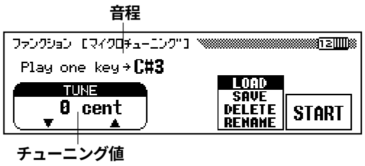


1 マイクロチューニング機能を選ぶ

マイクロチューニング(MICRO TUNING)画面を開きます。

2 鍵盤を選ぶ

チューニングを行いたい鍵盤を押します。押した鍵盤の音名とその鍵盤の現在のチューニング値がLCD画面に表示されます。



3 チューニングする

[TUNE]▼▲を使って選んだ鍵盤の音程をチューニングします。【ダイアル】、【+】【-】を使ってチューニングすることもできます。チューニングしている鍵盤を弾いて音を確認しながら調節してください。[TUNE]▼▲を同時に押すと、その鍵盤の標準値である"±0"に戻すことができます。

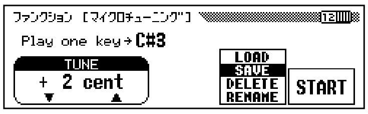
設定できる範囲:各鍵盤単位で-100セント(-半音)〜0(標準値)〜+100セント(+半音)
初期値:すべての鍵盤が0(標準値)
初期のバックアップ設定:OFF

4 上記の2と3の操作を繰り返す

上記の2と3の操作を繰り返して、他の鍵盤のチューニングを行います。

各ファイル操作説明

作った調律は、名前を付けて1つのチューニングファイルとして、ディスクにセーブすることができます。また、必要なときにロードして使ったり、不要であれば簡単にデリートすることができます。
これらのファイル操作を行う前に、正しいディスク(マイクロチューニングデータが入っているもの、またはセーブするためのディスク)がディスクドライブにセットしてあるかどうか確認してください。また、ソングレコード/プレイモードがONになっているときは、これらの操作は行えません。



1 ファイル操作を選ぶ

右から2番めのLCDボタンで、実行したいファイル操作を[LOAD](読み込み)、[SAVE](保存)、[DELETE](削除)、[RENAME](名前を変更)の中から選びます。

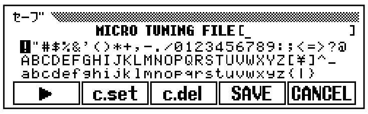
2 [START]を押す

[START]を押すと、選んだファイル操作を実行する画面が表示されます。

これから先の手順は、選んだファイル操作によって異なります。以下の各ファイル操作の説明をご参照ください。

■ [SAVE](保存)

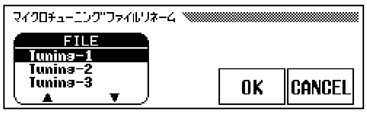
[SAVE]を選んだ場合、セーブ画面が表示されます。



まずセーブするファイルの名前をつけます。画面右上にファイルネームを入力する位置が空白で表示されます。[▶]を押すと、下線が移動し、ファイルネームの文字位置を一つずつ選択することができます(ファイルネームは最大12文字でつけることができます)。【ダイアル】、【+】【-】を使って入力したい文字や記号を反転させます。[c.set]を押すと、選んだ文字や記号がスタイルネームの下線が置かれている位置に入力されます。同じ要領で別の文字位置に下線を移動して、文字や記号を入力していきます。入力を間違ったときは、[c.del]を押します。下線が一つ前の文字位置に戻り、その位置の文字を消去します。
ファイルネームが完成したら、[SAVE]を押してセーブを実行します。中止したい場合は[CANCEL]を押します。セーブを実行したときにセーブ先のディスクにすでに同じ名前のファイルが存在する場合は、「同じ名前のファイルがあります。入れ替えますか?(Same name! Overwrite?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、既存のファイルに上書きでセーブが実行されます。キャンセルしたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

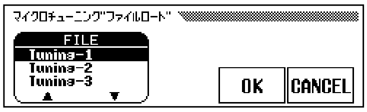
■ソングレコード／プレイモードがONになっているときに、これらの操作を実行しようとしても、「いま、このボタンは使えません！(Button not valid!)」が表示され実行できません。このような場合、一度ソングレコード／プレイモードを抜けてください。

■ [RENAME](名前を変更)



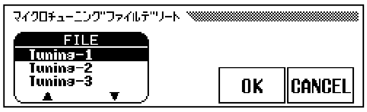
[RENAME]を選んだ場合、リネーム画面が表示されます。まず、名前を変更したいファイルを選びます。[FILE]▲▼でファイルを選び、[OK]を押します。前述のセーブ時と同じような名前を付ける画面が現われますので、先ほどと同じ方法で新しいファイルネームを入力します。[OK]を押すと新しい名前に変更されます。中止したい場合は[CANCEL]を押します。[OK]を押したとき、ディスクにすでに同じ名前のファイルが存在する場合は、「同じ名前のファイルがあります。入れ替えますか？(Same name! Overwrite?)」のメッセージが表示されます。[はい(OK)]を押すと、名前を変更したファイルが、既存のファイルに上書きされます。キャンセルしたい場合は[キャンセル(CANCEL)]を押します。

■ [LOAD](読み込み)



[LOAD]を選んだ場合、ロード画面が表示されます。まず、読み込みたいファイルを選びます。[FILE]▲▼でファイルを選び、[OK]を押します。「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、選んだファイルが読み込まれます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

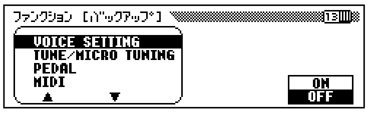
■ [DELETE](削除)



[DELETE]を選んだ場合、デリート画面が表示されます。まず、削除したいファイルを選びます。[FILE]▲▼でファイルを選び、[OK]を押します。「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、選んだファイルが削除されます。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。

バックアップ(BACKUP)............. 13ページめの画面

この画面では、さまざまな機能の設定内容が、電源をOFFにしたあとも(初期値に戻らないで)保持されるよう、グループごとにバックアップのON/OFFを設定することができます。
最初に左から1番め／2番めのLCDボタン、【ダイアル】、【+】【-】を使ってバックアップさせたいグループを選び、一番右のLCDボタンで選んだグループのバックアップON/OFFを設定します。グループ名の前にアスタリスク("＊")が付いているものは、現在そのグループのバックアップの設定がONになっていることを示しています。バックアップの設定をOFFにしているグループの内容は、電源をOFFにすると初期値に戻ります。



次のグループが用意されています。
- VOICE SETTING(音色に関する設定)
- TUNE/MICRO TUNING(チューン／マイクロチューニング)
- PEDAL(ペダルの設定)
- MIDI
- STYLE SETTING(伴奏スタイルに関する設定)
- ABC MODE(自動伴奏に関する設定)
- SONG SETTING(ソングに関する設定)
- REGISTRATION(レジストレーション)
- POPUP&ALERT(ポップアップ＆アラート)

各グループ内の設定項目については、P149に一覧表が用意されていますので、ご参照ください。

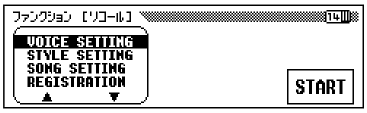
バックアップの設定をONにしていても、電源をOFFにして約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が初期値に戻ります。したがって、バックアップされている内容を保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

■各グループのうち、ABC MODE(自動伴奏の種類)、REGISTRATION(レジストレーション)、POPUP&ALERT(ポップアップとアラート)については、初期のバックアップ設定がONになっています。その他のグループはすべて初期のバックアップ設定はOFFになっています。

■ヘルプやLCD画面タイトルの言語、LCDコントラストの設定、このバックアップON/OFFの設定自体については、常にバックアップされるようになっています。

リコール(RECALL) 14ページめの画面

この画面では、さまざまな機能の設定内容をグループ単位、またはすべての内容を同時に、初期値に戻すことができます。
左から1番め／2番めのLCDボタン、【ダイアル】、【+】【-】を使って初期値に戻したいグループを選び、[START]を押します。「よいですか？(Are you sure?)」のメッセージが表示されます。[はい(YES)]を押すと、選んだグループの内容が初期値に戻ります。中止したい場合は[いいえ(NO)]を押します。



次のグループが用意されています。

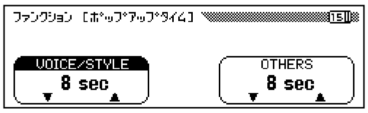
- •VOICE SETTING(音色に関する設定)
- •STYLE SETTING(伴奏スタイルに関する設定)
- •SONG SETTING(ソングに関する設定)
- •REGISTRATION(レジストレーション)
- •MIDI
- •ALL SETUP(すべての設定)

各グループ内の設定項目については、P149に一覧表が用意されていますので、ご参照ください。

■ヘルプやLCD画面タイトルの言語、LCDコントラストの設定、バックアップON/OFFの設定については、このリコール機能を使っても初期値に戻りません。
これらの設定も含めてCVP-79/69/59本体を完全に工場出荷時と同じ状態に戻したい場合は、一番右側の鍵盤(C7)を押しながら【POWER】をONにします。英語のメッセージ"Back up data erased and replaced by Factory data"が表示され、バックアップされていたデータが消え、工場出荷時の状態になったことを示します。このあと基本画面が表示されます。

ポップアップタイム(POPUP TIME) 15ページめの画面

この画面では、CVP-79/69/59の各種ポップアップ画面の表示時間を設定することができます。音色／伴奏スタイル選択のポップアップ画面表示時間についてはその他のポップアップ画面とは異なる時間を設定することができます。
[VOICE/STYLE(音色／伴奏スタイル)]▼▲を使って音色／伴奏スタイル選択のポップアップ画面の表示時間を設定します。また、[OTHERS(その他)]▼▲を使って、その他のポップアップ画面の表示時間を設定します。一度各項目を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使って設定することもできます。各項目の▼▲を同時に押すと、それぞれの標準値である"8秒"に戻すことができます。



■ポップアップタイム…
[VOICE/STYLE(音色／伴奏スタイル)]の設定範囲：
1sec(1秒)〜20sec(20秒)
初期値：8sec(8秒)
初期のバックアップ設定：ON

[OTHERS(その他)]の設定範囲：
1sec(1秒)〜20sec(20秒)
初期値：8sec(8秒)
初期のバックアップ設定：ON

ソングリストプライオリティ(SONG LIST PRIORITY) 16ページめの画面

GM(ジェネラルMIDI)/SMF(スタンダードMIDIファイル)とDOC(ディスクオーケストラ･コレクション)のファイルがいっしょに入っているディスクを再生するとき、どちらのファイルを再生させるかを決めることができます。（片方のタイプのファイルだけが再生されます。）
[GM]、[DOC]を押して再生させたい方を反転させます。

■ソングリストプライオリティ…
初期値：DOC
初期のバックアップ設定：OFF

アラートサウンド(ALERT SOUND) .. 17ページめの画面

この画面では、エラーなどを知らせる警告音を、6種類の警告音の中から選び、そのボリュームを設定することができます。
[VOICE]▼▲を使って、警告音を選びます。一度[VOICE]を反転させたあとは、【ダイアル】、【+】【-】を使って設定することもできます。選択時に警告音が発音されるので、選びながら音を確認することができます。また、[VOLUME]を押して反転させ、【ダイアル】、【+】【-】を使って警告音のボリュームを設定します。また、【+】【-】を同時に押すと、ボリュームを初期値の"50"に戻すことができます。

■アラートサウンド…
設定できる警告音：Steel Drums、Agogo、Wood Block、Timpani、Celesta 4ft、 Kalimba
初期値：Steel Drums
初期のバックアップ設定：ON

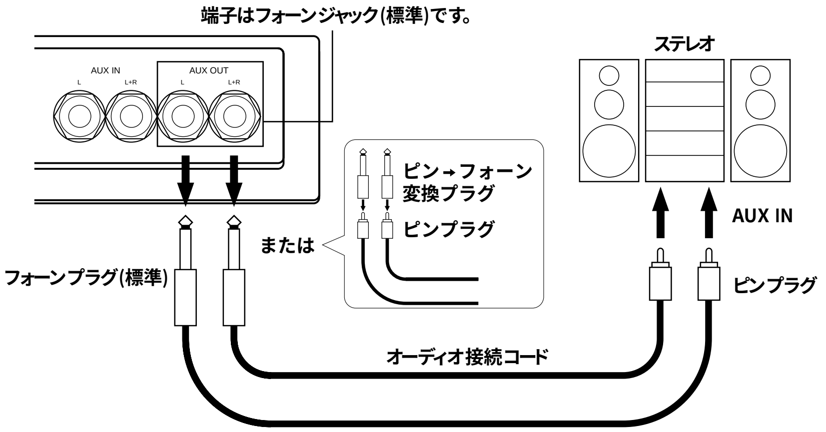
ボリュームの設定範囲：0〜100
初期値：50
初期のバックアップ設定：ON

他の機器と接続する

CVP-79/69/59は他のオーディオ機器と接続して使用することもできます。なお、ヘッドフォン端子についてはP16、EXP PEDAL(CVP-79)についてはP18、MIDI端子についてはP125をご覧ください。

AUX OUT【 R 】【L/L+R】を使う

オーディオ接続コードを使って下図のように接続すると、ステレオなどからより大きな音を出したり、演奏を録音したりできます。ステレオに接続したときは、【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量調節してください。

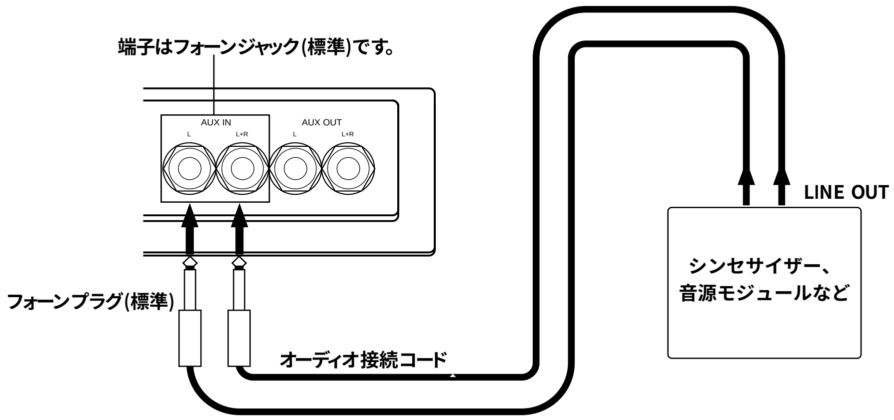


■注意…
AUX OUT【 R 】【L/L+R】から出力した音を、決してAUX IN【 R 】【L/L+R】に戻さないでください。

■オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

AUX IN【 R 】【L/L+R】を使う

オーディオ接続コードを使って下図のように接続すると、他の楽器や機器の音をCVP-79/69/59のスピーカーから出すことができます。

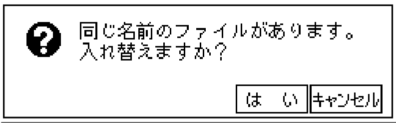


■ちょっと覚えておこう…
AUX IN【 R 】【L/L+R】から入力した外部機器の音も、CVP-79/69/59の音と一緒にAUX OUT【 R 】【L/L+R】から出力されますが、CVP-79/69/59のボリュームコントロールやリバーブは効きません。

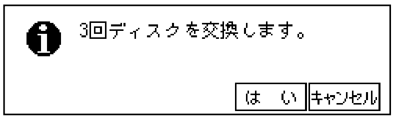
■オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

メッセージ一覧

ディスクがありません！	ディスクを必要とする場面でディスクが挿入されていない場合に表示されます。
ソングがありません！	ソングをリネームするときやコピーするときにもとになるソングがない場合などに表示されます。
ファイルがありません！	レジストレーション、マイクロチューンなどのファイル操作をするときに、該当するデータのファイルが存在しないとき表示されます。
ディスクをフォーマットしますか？ [はい] [キャンセル]	未フォーマットのディスクやクラビノーバのフォーマット以外のディスクが挿入されたときに表示されます。
ディスクが書き込み禁止になっています！	ライトプロテクトのかかったディスクで録音などをしようとすると表示されます。
ソングが書き換えできません！	CVP79/69/59以外で作成されたソングに対して、録音やエディットをしようとした場合に表示されます。
いま、このボタンは使えません！	ソングプレイモードに入っていないときに【GUIDE(ｶﾞｲﾄﾞ)】を押した場合など、機能が使えない状態のときにそのボタンが押された場合に表示されます。
ディスクヘッドが汚れています！清掃して下さい。 [はい]	市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」を使用してディスクヘッドを清掃してください。(P14)
ディスクのエラーです！ [はい]	データのディスクへの書き込み中やディスクからの読み込み中に、データ上のエラーが発生したときに表示されます。もう一度操作し直してください。それでもエラーが起こる場合はディスクが壊れているかディスクドライブユニットの故障が考えられます。ディスクドライブユニットの故障と考えられる場合はお買い上げの楽器店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点(P161)に修理をご依頼ください。
終わりました。	フォーマットなど、時間のかかる作業が終わったときに表示されます。
ディスクを抜かないで下さい！ 0% 50% 100%	クラビノーバ本体とディスクとの間でデータの処理が行われているときに表示されます。この間はディスクを抜かないでください。
よいですか？ [はい] [いいえ]	ソングデリートなどいろいろな操作の中で、処理実行の確認のために表示されます。
ディスクがいっぱいです！ [はい]	差し込まれているディスクに、これ以上データを入れることができない場合に表示されます。[はい]をクリックしたあと、ディスク上にある不要なデータを削除するか、空き容量のある別のディスクを用意してもう一度操作してください。ソングの録音中にこのメッセージが表示された場合(この場合[OK]は現れません)は、録音がストップし、その時点までの録音データは自動的にセーブされます。
ファイルが作れません！ [はい]	61個以上の同じタイプ(ソング、スタイル、レジストレーションなど)のデータファイルを1枚のディスクに作ろうとしたときに表示されます。[はい]をクリックしたあと、ディスク上にある不要なファイルを削除するか、空きスペースのある別のディスクを用意してもう一度操作してください。(スタイルファイルはディスクから削除することはできません。)

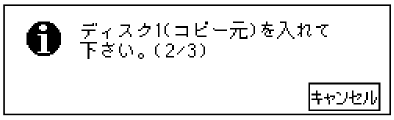


セーブする際に、入力したファイル名と同じ名前のファイルがすでに存在する場合に表示されます。

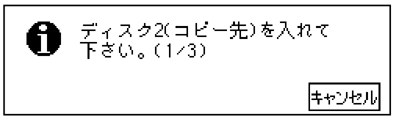


別のディスクへのコピーが始まる前に何回ディスクを交換する必要があるか知らせます。(P111)

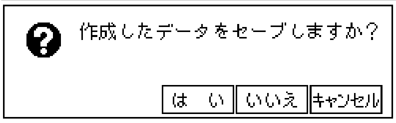
別のディスクへのコピーが始まって、最初にコピー先のディスクを挿入したときにこの画面が表示され、コピー先の曲番号を選ぶように促します。(P112)



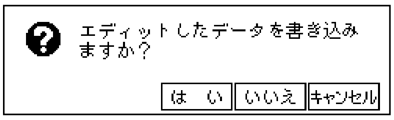
別のディスクのコピーでコピー元のディスクの挿入を促すとき表示されます。(P112)



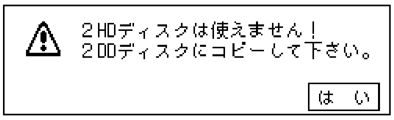
別のディスクのコピーでコピー先のディスクの挿入を促すとき表示されます。(P112)



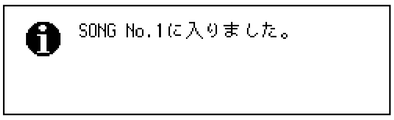
コードシーケンスでデータを録音中に【EXIT(戻る)】を押すと表示されます。(P91)



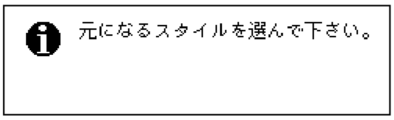
レコードモードのイニシャルエディットでデータを変更した後、[WRITE]を押さずに【EXIT(戻る)】を押したときに表示されます。(P97)



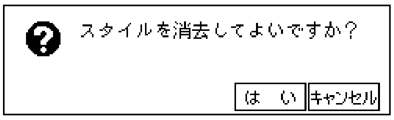
ソングデータの変換(トランスフォーム)を2HDのディスクで行おうとすると表示されます。(P110)



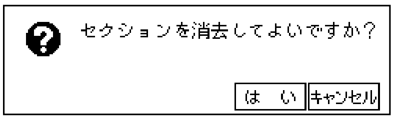
ソングデータの変換(トランスフォーム)が終了したときに表示されます。変換したデータの入った曲番号が示されます。(P110)



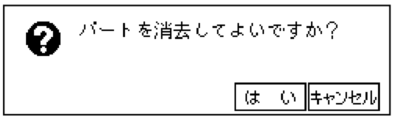
カスタムスタイル機能をONにすると表示されます。(P55)



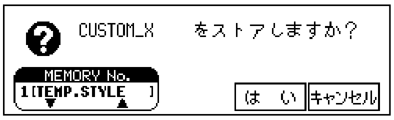
カスタムスタイルモードで拍子を変更しようとすると表示されます。(P56)



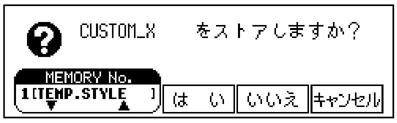
カスタムスタイルモードでセクションの小節数を変更しようとすると表示されます。(P57)



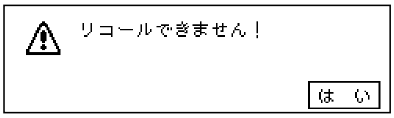
カスタムスタイルモードでR1、R2以外のパートを録音しようとしているとき、元のスタイルがパネルのスタイルか別売のスタイルファイルディスクから読み込んだスタイルの場合は、一度パートを消去してからでないと録音できません。したがって、このようなときにこのメッセージが表示されます。(P58)



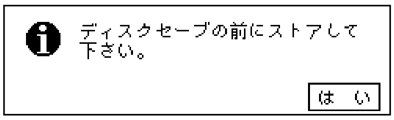
カスタムスタイルモードで[STORE]を押したときに、確認のために表示されます。また、新たに元になるスタイルを選択したとき、作成中のスタイルデータをセーブするように促すために表示されます。(P61,65)



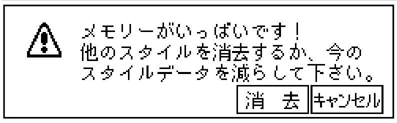
カスタムスタイルモードでストアする前に【EXIT(戻る)】(エグジット)を押したときに、作成中のスタイルデータをセーブするように促すために表示されます。(P64)



カスタムスタイルモードで【RECALL SECTION】(リコールセクション)を押した際、拍子が変えられていたため、リコールできない場合に表示されます。(P61)

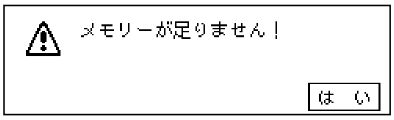


カスタムスタイルモードで本体のメモリーにストアする前に、ディスクにセーブしようとすると表示されます。(P63)

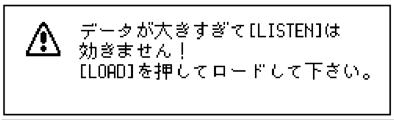


カスタムスタイルモードで作成しているスタイルをストアしようとしたときに、メモリーが足りなくなった場合に表示されます。(P64)

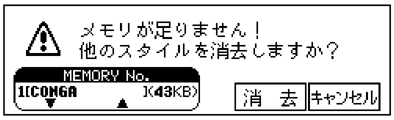
上記の画面で[消去]を押すと表示されます。(P64)



カスタムスタイルモードで録音中に、作業用のメモリーエリアに入らなくなったときに表示されます。(P64)
ソングの録音中にこのメッセージが表示された場合(この場合[OK]は現れません)は、録音がストップし、その時点までの録音データは自動的にセーブされます。

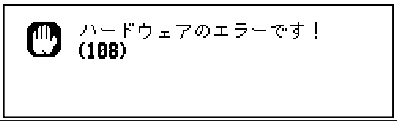


スタイルファイルのロード画面でメモリーが足りずに[LISTEN](リッスン)が使えないときに表示されます。(P67)



スタイルファイルディスクの読み込みで本体のメモリーが足りなくなったときに表示されます。(P67)

約1週間以上電源をONにしないと、バックアップのデータが消えてしまいます。(P23)
その状態で電源をONにすると、工場出荷時の状態に戻り、英語でこのメッセージが表示されます。
一番右端の鍵盤(C7)を押しながら【POWER】(パワー)を押して、工場出荷時の設定に戻した場合(P118)にも、このメッセージが表示されます。



電源をONにしたときに、ハードウェアシステム上でエラーが起きた場合に表示されます。その場合は、お買い上げの楽器店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点(P161)までご連絡ください。

故障かな?と思ったら

現象	原因	解決法
CVP-79/69/59の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていない(本体側と家庭側)。	電源プラグを、本体と家庭用(100V)コンセントに確実に差し込んでください。(P16)
電源スイッチをONまたはOFFにした時、「カチ」と音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
LCD画面が明るすぎる(暗すぎる)。	周囲の温度によって明るさが変化するため。	【CONTRAST(ｺﾝﾄﾗｽﾄ)】を押して調節してください。(P21)
ポップアップ画面が開かない。	【DISPLAY HOLD(画面固定)】(ディスプレイホールド)のランプが点灯している。	【DISPLAY HOLD(画面固定)】(ディスプレイホールド)を押してランプを消してください。(P20)
鍵盤で弾く音が、自動伴奏やディスクの再生音に比べて小さい。	手弾き音のボリュームが下がっている。	ミキサー画面で手弾き音のボリュームを上げてください。(P49,76)
自動伴奏やディスクの再生音が鍵盤で弾く音に比べて小さい。	【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】が下がっている。	【ABC/SONG VOLUME(自動伴奏/ｿﾝｸﾞﾎﾞﾘｭｰﾑ)】を上げてください。(P49)
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】が下がっている。 ヘッドフォンを接続している。 ローカルコントロールOFFになっている。	【MASTER VOLUME(ﾏｽﾀｰﾎﾞﾘｭｰﾑ)】を上げてください。 ヘッドフォンのプラグを抜いてください。 ローカルコントロールをONにしてください。(P104)
自動伴奏やディスクの再生がスタートしない。	MIDIクロックが外部(EXT.)になっている。	MIDIクロックを内部(INT.)にしてください。(P104)
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	最大同時発音数を越えている。	前の音を消して、後の音を優先的に鳴らすしくみになっています。最大同時発音数については、P27をご参照ください。
自動伴奏が再生されない。	自動伴奏(ABC)機能の状態になっていない。	【ABC ON(ABCｵﾝ)】を押して自動伴奏の状態にしてください。
自動伴奏で思ったとおりの和音が出ない。	指を離さないうちに、次のコードにしようとしている。	鍵盤から一度指を離してから、次の鍵盤を押すようにしてください。
	正確に押さえていない。	「活用ガイド」のCコードの押さえ方一覧表(P74)を参考にしてください。
	ABCの種類に合った押さえ方をしていない。	ABCの種類を確認し、選んだ種類に合った押さえ方をしてください。
60ソングまで録音できない。	1曲の演奏時間が長かったり、たくさんの機能を使ったため、記憶容量がいっぱいになった。	不要な曲を削除する(P113)か、新しいディスクに録音してください。
ソングやディスクオーケストラ・コレクションの再生時、再生されないトラックがある。	そのトラックが再生OFFになっている。	OFFになっているトラックを再生ONにしてください。(P74,75)
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。

＊電源をON にしたときに、「ハードウェアのエラーです! (Hardware Error!)」がLCD画面に表示された場合は、内部に異常がありますので、お買い上げの楽器店か、ヤマハ電気音響製品サービス拠点(P161)までご連絡ください。

MIDI及びデータの互換性について

MIDI

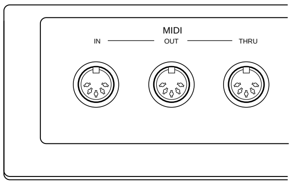
CVP-79/69/59はいろいろなMIDI機能を持っています。MIDIを使えば、CVP-79/69/59の鍵盤を使って他のシンセサイザーを演奏したり、コンピューターやシーケンサーでCVP-79/69/59をコントロールしたりなど、CVP-79/69/59の使い方が大きく広がります。
ここでは、MIDIについての基本知識を含め、実際にCVP-79/69/59のMIDI機能を使ってどんなことができるのか、といったことをまとめてあります。

MIDIについての基本的なことがら

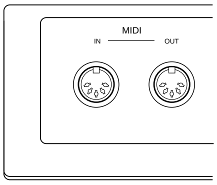
MIDI(Musical Instrument Digital Interface)は、世界中の電子楽器の間で、メーカーや機種の違いを越えて自由に演奏情報を伝達し合うことができる統一規格です。たとえば、Aという国の人がBという国の人と言葉のコミュニケーションをとる場合、もしA国とB国の共通言語のようなものがあるなら、お互い身ぶり手ぶりではなく直接会話を持つことができます。これと同じようにMIDIは電子楽器どうしが直接同じ言葉で理解し合えるように作られた世界共通語のようなものと考えてください。このMIDIという世界共通語のおかげで、生まれ育った環境の異なる電子楽器どうしでも簡単にコミュニケートすることができるのです。

MIDIでは、さまざまな演奏の動作や状態を「メッセージ」と呼ばれるデジタルデータ(数値に置き換えたデータ)を用いて伝達します。メッセージはチャンネルメッセージとシステムメッセージの2つに大別することができます。チャンネルメッセージは、主に鍵盤で弾いたノート(音符)や演奏表現(ダンパーペダルやボリュームなど)に関するデータで、特定のMIDIチャンネルごとにそれらの情報を送受信することができます。また、システムメッセージは、複数の楽器をリンクさせて1つのMIDIシステムとして機能させるために使われるデータです。

CVP-79/69/59には、これらのメッセージを他のMIDI機器へ送り出すための【MIDI OUT】と他のMIDI機器からのメッセージを受け取るための【MIDI IN】が装備されています。また、その他にCVP-79/69には【MIDI THRU】という端子が装備されています。これは【MIDI IN】を通じて受信したあるMIDI機器からのメッセージを、ダイレクトに別のMIDI機器に送信するために用意されたもので、3台以上のMIDI機器を接続する場合などに使われます。各【MIDI IN】/【MIDI OUT】/【MIDI THRU】はMIDI専用ケーブルを使って接続します。



CVP-79/69



CVP-59

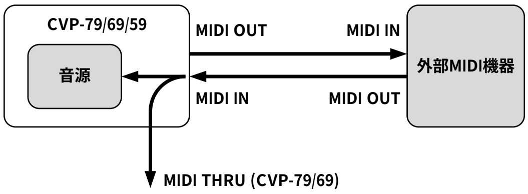
●MIDI IN：MIDI信号を受ける端子です。
●MIDI OUT：MIDI信号を出力する端子です。
●MIDI THRU：MIDI INに入ってきたMIDI信号をそのまま出力します。

■MIDIケーブルは電子楽器を扱っている楽器店で購入することができます。30cmから15mくらいまで、用途に応じていろいろな長さのものがあります。

■ MIDIの接続

MIDI端子の5本のピンの向きを確かめて、まっすぐ差し込みます。MIDI信号を出力しようとする機器のMIDI OUTとMIDI信号を受けようとする機器のMIDI INをつなぎます。さらに増やす場合は、MIDI THRUを使います。

■MIDI機器は、それぞれ機種ごとに扱えるMIDIデータの内容が異なっており、接続しているMIDI機器間で共通の機能だけコントロールすることができます。この共通の機能を調べるには、MIDIインプリメンテーションチャート(P.142)を使います。



■ CVP-79/69/59のMIDI機能

先ほど述べたように、MIDIのメッセージはチャンネルメッセージとシステムメッセージに分けることができますが、CVP-79/69/59ではその中のどのような情報を送受信できるのかを一般的なMIDI情報の解説と合わせて見てみましょう。

CVP-79/69/59からMIDIデータを送受信するためには、ファンクションモードの4ページ(P103)、5ページ(P104)、6ページ(P105)の画面にあるさまざまなMIDI機能を設定する必要があります。各メッセージに関する操作や設定方法については、必要に応じてそれぞれ参照ページを設けてあります。

チャンネルメッセージ

CVP-79/69/59では次のようなチャンネルメッセージを送受信することができます。チャンネルメッセージを送受信するためには、外部のMIDI機器とCVP-79/69/59のMIDI送受信チャンネル(P103)を合わせておく必要があります。

■ キー情報

演奏に関わる最も重要な情報で、CVP-79/69/59の鍵盤を弾いたときにこれらのメッセージが送信されます。また、他のキーボードやシーケンサーなどからこれらの情報を送信してCVP-79/69/59を演奏させることができます。

ノートオン：
このキーを押した、ということを示す情報です。弾いた音の高さを表すために半音ごとに割り当てられた0～127のノートナンバーが内部的には用いられています。演奏時にノートナンバーを意識する必要はありませんが、CVP-79/69/59のまん中のド(C3)の鍵盤を弾いたときにノートナンバー60が送信されるようになっています。

ベロシティ：
鍵盤を弾いたときのタッチの強弱を示す情報です。

ノートオフ：
鍵盤を放した、ということを示す情報です。

CVP-79/69/59からキー情報を正しく送信するためには、ファンクションモードの4ページの画面(P103)でMIDI送信チャンネルを送信先の外部MIDI機器と合わせる必要があります。

■ プログラムチェンジ

音色を切り換えるための情報です。CVP-79/69/59ではボイス(音色)ボタンを押したときに、それぞれのボタンに割り当てられている番号が送信されます。また、他のキーボードやシーケンサーなどからこれらのメッセージを送信してCVP-79/69/59で受信するMIDIの演奏データの音色を切り換えることができます。
プログラムチェンジを送受信するためには、ファンクションモードの5ページの画面(P104)で[PROGRAM(プログラム)]の設定を[SEND&RECEIVE(送／受信できる状態)]にしておきます。

■CVP-79/69/59の音色とプログラムナンバーの対応についてはP143の音色リストをご参照ください。

■ コントロールチェンジ

ダンパーペダルなどの操作を伝えたり、エフェクトやボリュームなど、演奏表現を高めるために使われる情報です。各機能はコントロールナンバーによって区別され、それぞれのコントロール値を一般的に0～127の可変範囲で送信することができます。CVP-79/69/59では、主に以下のコントロールチェンジを送受信することができます。

Ctrl.No.001 モジュレーション：
ビブラートなどの深さを調節するために使われます。

Ctrl.No.007 ボリューム：
音量を調節するために使われます。

Ctrl No.010 パン：
左右の音像定位を調節するために使われます。

Ctrl No.011 エクスプレッション：
演奏表現としての音量調節に使われます。CVP-79ではエクスプレッションペダルを使って送信することができます。

Ctrl No.064 ダンパーペダル：
ダンパーペダルを踏んだときの効果に使われます。CVP-79/69/59のダンパーベダルを使って送信することができます。

Ctrl No.66 ソステヌートペダル：
ソステヌートペダルを踏んだときの効果に使われます。CVP-79/69のソステヌートペダルを使って送信することができます。また、CVP-59では左のペダルにこの機能を割り当てて使うことができます(P102)。

Ctrl No.67 ソフトペダル：
ソフトペダルを踏んだときの効果に使われます。CVP-79/69/59のソフトペダル(左のペダル)を使って送信することができます。

Ctrl No.91リバーブデプス：
シンセサイザー等のMIDI音源に内蔵されているエフェクト(リバーブ)の深さを調節するために使われます。

コントロールチェンジを送受信するためには、ファンクションモードの5ページの画面(P104)で[CONTROL]の設定を[SEND&RECEIVE(送／受信できる状態)]にしておきます。

■CVP-79/69/59で扱えるコントロールチェンジについて詳しくはP131のリストをご参照ください。

■ピッチベンド

シンセサイザーなどには、音程を変化させるピッチベンドホイールが装備されていますが、このホイールを動かしたときに送信される情報です。CVP-79/69/59の音源部はこのピッチベンド情報を受信します。

システムメッセージ

CVP-79/69/59では次のようなシステムメッセージを送受信することができます。システムメッセージは、MIDIチャンネルに関係なく送受信されます。

■リアルタイムメッセージ

複数のMIDI機器を同期させるために使われる情報です。CVP-79/69/59ではパネルの【START/STOP】を押してリズムマシンやシーケンサーなどをスタート／ストップしたり、MIDIクロックによって同期演奏させることができます。

スタート／ストップ情報を送受信するためには、ファンクションモードの5ページの画面(P104)で[START/STOP]の設定を[SEND&RECEIVE(送／受信できる状態)]にしておきます。また、同期演奏に関する設定はファンクションモードの4ページの画面のクロック[CLOCK](P103)で設定します。

■エクスクルーシブメッセージ

主に機器固有のシステムや音色関係のデータをやり取りするために使われる情報です。CVP-79/69/59では、エクスクルーシブメッセージを使って、パネルの状態などをシーケンサーやコンピューター等の外部機器に送信して保存／管理したり、逆にシーケンサーやコンピューター等を使って、CVP-79/69/59のエフェクトを変化させたりすることができます。

エクスクルーシブメッセージに関して詳しくは、P133をご参照ください。

MIDI活用法

今ではMIDIの使用法も各MIDI機器やミュージシャンの個性によって使い分けられる時代となりました。ここではCVP-79/69/59をMIDIシステムの中で活用する場合のヒントとして、簡単な例をご紹介します。あとは、ご自分のアイデアで自由にCVP-79/69/59のMIDI機能をご活用ください。

■コンピューターミュージックでの活用法

パーソナルコンピューターの存在によって、MIDIを中心とした音楽制作が一般的になりつつあります。

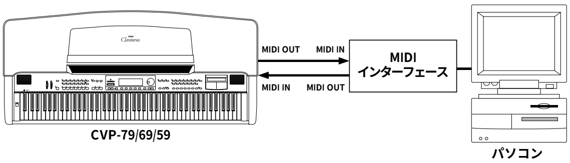
MIDIを使った音楽制作の現場では、パーソナルコンピューターとシーケンスソフト、そして最大同時発音数やパート数(同時に演奏できるチャンネル数)が多いMIDI音源を使うという形が一般的になっています。特に、音源については、制作したMIDIデータの受け渡しがコンピューターどうしで比較的簡単に行えることから、CVP-79/69/59でも対応しているGM(General MIDI)と呼ばれる音色などに関する共通フォーマットなどのような、再生時の互換性の高いものが選ばれる傾向にあります。また、メーカーや機種の異なる環境でMIDIデータの受け渡しを行う場合、SMF (Standard MIDI File)というシーケンスデータの共通フォーマットを利用することが多くなっています。SMFフォーマットで保存されたMIDIデータであれば、世界中の多くのシーケンサーで再生することが可能です。もちろん、CVP-79/69/59もSMFフォーマットのMIDIデータを再生することができますから、外部のMIDIシステムで作られたMIDIデータ(SMF)を読み込んで再生することができます。(そのデータがGMに準拠していれば、音色の再現性も確保されます。)

■市販されているMIDIデータの多くはSMFフォーマットのものです。また、その中の多くがGM規格に準拠しています。

次の図は、そんなコンピューターやMIDIを使った音楽制作システムの中でCVP-79/69/59をマスターキーボードとして使う場合の接続例を示しています。

CVP-79/69/59には、さまざまなMIDIデータを送受信する機能がありますので、使用するシーケンスソフトの機能と合わせていろいろな活用法が考えられます。

CVP-79/69/59をいわゆる打ち込み(MIDIデータを入力していくこと)用のマスターキーボードとして利用し、コンピューター上のシーケンスソフトを使ってMIDIデータを制作します。



■接続には、お使いのコンピューターに合ったMIDIインターフェースとシーケンスソフトが必要になります。また、MIDIインターフェースは、パソコン本体に直接セットできる場合もあります。

また、DTMによる音楽制作では、各パートに個別のMIDIチャンネルをアサインして、1パートずつ多重録音方式で入力していく方法が主流ですが、一度入力したMIDIデータをエディットする際、ボリュームやダンパーペダル、エクスプレッションなどのコントロールチェンジ情報をリアルタイムでオーバーダブ(重ねて録音)していくだけで、簡単にフェードアウトなどの効果を後から入力することができます。ただし、これは使用するシーケンスソフトにオーバーダブの機能があることが前提となります。

データの互換性について

ここでは、いろいろなタイプのミュージックデータの互換性(CVP-79/69/59で録音したデータを他の機器で再生できるかどうか、あるいはその逆、など)について考える上での一般的な基礎知識の一端をご紹介します。実際上は、再生できる場合でも、そのまま再生できる場合、再生するためにいくつかの特殊な作業が必要となる場合など、各機器やデータの特性により異なってきますが、それについてはここでは触れませんので事例ごとに、下記を参考にしてお考えください。

■ ファイル

ちょっと音楽とは離れてしまいますが、コンピューターやワープロで作成した文書のことを文書ファイル、またはテキストファイルなどと呼びます。同様にコンピューターやシーケンサー、電子楽器などを使って作ったソングデータやMIDIデータをソングファイル、MIDIファイルなどと呼びます。このようにコンピューターの世界ではあるデータの集まりをファイルという言葉を使って表現します。
同じミュージックデータのファイルでも、機器により、ファイルのタイプの認識のし方が異なる場合があり、他機器との互換使用を考える場合、ファイルタイプの変換作業が必要になる場合もあります。
通常、これらのファイルは、フロッピーディスクやハードディスクなどのメディア(媒体)に記録されます。

■ フロッピーディスク

現在、多くのMIDIファイル(ソングファイルなど)は、3.5インチのフロッピーディスクに記録された状態で市販されています。3.5インチのフロッピーディスクにはMF2DD(両面倍密度タイプ)とMF2HD(両面高密度タイプ)というタイプがあり、CVP-79/69/59では両タイプのフロッピーディスクを利用することができます。
CVP-79/69/59は、市販されているディスクオーケストラ·コレクションのディスク、スタイルファイルディスク、スタンダードMIDIファイルのディスクなどからいろいろな種類のファイルを読み込んで再生することができます。

■ フロッピーディスクのフォーマット

フロッピーディスクをそれぞれのコンピューターや電子楽器で読み書きできるように(何も記録されていない状態に)初期化することをフォーマットといいます。
フォーマットにはいろいろな種類があり、コンピューターや電子楽器ごとに異なっている場合が多いので、通常そのフロッピーディスクを利用したいコンピューターや電子楽器のフォーマット機能を使って初期化します。
このような理由からCVP-79/69/59でフロッピーディスクを使う場合は、まず最初にCVP-79/69/59のフォーマット機能を使ってフォーマットします。
データの他機器との互換使用を考える場合にも、データの入っているフロッピーディスクのフォーマットが再生しようとする機器で対応しているフォーマットと異なる場合、フォーマット変換作業が必要になります。

■ シーケンスフォーマット

演奏データをファイルとして記述するための書式のことをシーケンスフォーマットといいます。シーケンスフォーマットもメーカーやシーケンサーごとに異なっている場合が多いため、ある機種を使って作られたMIDIファイルを別の機種で再生させようとしても、うまくいかない場合があります。したがって、別の機種を使って作られたMIDIファイルをCVP-79/69/59で再生させたり、逆にCVP-79/69/59で作ったソングファイルを別の機種で利用する場合、ちょっとした注意と知識が必要になります。

このようなシーケンスフォーマットの互換性の問題を解決するために一部のシーケンサーや電子楽器にはシーケンスフォーマットを変換する機能を持っているものがあります。CVP-79/69/59もトランスフォーム機能(P110)を使って、CVP-79/69/59で録音したソングデータを別の機種で再生できるファイルに変換することができます。

前にも述べたSMF(スタンダードMIDIファイル)フォーマットは、今述べてきたような互換性を意識せず、メーカーや機種を越えてMIDIファイルのやり取りが行えるように考案されたシーケンスフォーマットです。
SMFフォーマットには、さらにフォーマット0やフォーマット1といった書式があります。

SMFフォーマット0は、1トラックの中に1〜16チャンネルのMIDIデータを混在させて記録する書式で、CVP-79/69/59をはじめ、ヤマハMDF2、Hello Musicシリーズ、いくつかのシンセサイザーや他社の多くのシーケンサーなどで扱うことができます。

SMFフォーマット1は、トラック数が無制限で、それぞれのトラックに複数のチャンネルのMIDIデータを混在させて記録する書式で、おもにコンピューター用のシーケンスソフトなどで扱うことができます。

市販のMIDIファイルの多くは、誰もが利用しやすいようにSMFファイルとして販売されています。CVP-79/69/59でもSMFファイル(フォーマット0、1)を再生させることができます。コンピューターや外部のMIDIシステムを使って作られたMIDIファイルをSMFファイルとして保存しておけば、CVP-79/69/59で再生させることができます。
また、CVP-79/69/59では、ヤマハの多くの電子楽器で採用されているESEQ(イーシーク)フォーマットのデータも再生することができます。(P81の"他の種類の音楽データの再生"もご参照ください。)

■ 音色配列のフォーマット

ミュージックデータの互換性を考える場合にもう一つ、音色配列のフォーマットを考慮する必要があります。
MIDIでは、プログラムナンバーにより音色を指定しますが、音色配列のフォーマットが異なると、同じプログラムナンバーによって指定され鳴らされる音色がまったく別の音色になってしまいます。
この場合には再生する機器が対応している音色配列のフォーマットに変換する必要があります。
代表的な音色配列のフォーマットとしては、CVP-79/69/59をはじめ、多くの機器で対応しているGM(General MIDI)システムレベル1や、ヤマハのディスクオーケストラ･コレクションなどが準拠しているDOC音色配列などがあります。
CVP-79/69/59では、GMシステムレベル1とDOC音色配列の両方に対応しています。(P81の"他の種類の音楽データの再生"、P119の"ソングリストプライオリティ"もご参照ください。)

■ CVP-79/69/59の各種対応フォーマット

CVP-79/69/59の各種対応フォーマットについてまとめておきますので、他機器やいろいろなミュージックデータとの互換を考える上で、参考にしてください。

● **対応しているディスクのフォーマット:**
MS-DOS 720KB(キロバイト)フォーマットの2DDディスクと、MS-DOS 1.44MB(メガバイト)フォーマットの2HDディスク。

● **シーケンスフォーマット:**
再生できるフォーマットは、SMFフォーマット0と1、ESEQフォーマット。
CVP-79/69/59で録音されるソングデータは、SMFフォーマット0になります。

● **音色配列フォーマット:**
再生できるフォーマットは、GMシステムレベル1、DOC音色配列。
CVP-79/69/59で録音されるソングデータは、GMシステムレベル1を包含しているパネル上の音色配列が使用されます。

■上記のほかにも、機器の仕様や、ミュージックデータの特殊な作り方の部分により、互換を考える場合に考慮を要する項目がある場合もあります。
■P157に、"CVP-79/69/59とソフトの対応一覧"が掲載されていますので、参考にしてください。

MIDIデータフォーマット

本機はXGフォーマットの一部に対応していますが、全パラメーターに対応しているわけではありません。

1. チャンネルメッセージ

1.1 キーオン/キーオフ

受信ノート範囲: C -2〜G 8（発音はA -1〜C 7）
ベロシティ範囲: 1〜127（Velocityはノートオン時のみ受信）

1.2 コントロールチェンジ

ファンクション[MIDI2]の画面で[CONTROL]が[OFF]のとき、送/受信はしない。
（105ページ参照）

1.2.1 Bank Select

Cntrl#	Parameter	Data Range
0	Bank Select MSB	0:Normal, 127:Drum
32	Bank Select LSB	0...127

Program Change を受信するまで、Bank Select の処理は保留される。

1.2.2 Modulation

Cntrl#	Parameter	Data Range
1	Modulation	0...127

1.2.3 Data Entry

Cntrl#	Parameter	Data Range
6	Data Entry MSB	0...127
38	Data Entry LSB	0...127

RPN/NRPNによって指定されたパラメーターの値をきめる。

1.2.4 Main Volume

Cntrl#	Parameter	Data Range
7	Volume MSB	0...127

1.2.5 Pan

Cntrl#	Parameter	Data Range
10	Panpot MSB	0...127 0 = left; 127 = right

1.2.6 Expression

Cntrl#	Parameter	Data Range
11	Expression MSB	0...127

1.2.7 Damper

Cntrl#	Parameter	Data Range
64	Damper MSB	0...127

ハーフペダルの連続データは受信する。

1.2.8 Sostenuto

Cntrl#	Parameter	Data Range
66	Sostenuto	0...127

データレンジの範囲で、0-63はOFF、64-127はON。

1.2.9 Soft Pedal

Cntrl#	Parameter	Data Range
67	Soft Pedal	0...127

ハーフペダルの連続データは受信する。

1.2.10 Harmonic Content

Cntrl#	Parameter	Data Range
71	Harmonic Content	0...127 (0:-64, 64:+0, 127:+63)

音色で設定されているレゾナンス値の設定をおこなう。相対変化のパラメーターであるため、値0〜127の64を、基準中心値=0として-64〜+64まで変化する。
値が大きくなるほど、クセのある音になる。音色により、効果のある範囲が設定できる範囲より狭い場合がある。

1.2.11 Release Time

Cntrl#	Parameter	Data Range
72	Release Time	0...127 (0:-64, 64:+0, 127:+63)

音色で設定されているエンベロープのリリースタイムの設定をおこなう。相対変化のパラメーターであるため、64を基準中心値として増減の指定をする。

1.2.12 Attack Time

Cntrl#	Parameter	Data Range
73	Attack Time	0...127 (0:-64, 64:+0, 127:+63)

音色で設定されているエンベロープのアタックタイムの設定をする。
相対変化のパラメーターであるため、64を基準中心値として増減の指定をする。音色のタイプによってはアタックタイムの変化がほとんど無かったり、全く無い場合もある。

1.2.13 Brightness

Cntrl#	Parameter	Data Range
74	Brightness	0...127 (0:-64, 64:+0, 127:+63)

音色で設定されているカットオフ周波数の設定をおこなう。相対変化のパラメーターであるため、64を基準中心値として増減の指定をする。
値が小さくなるほど柔らかい音色になる。音色により効果のある範囲が設定できる範囲より狭い場合がある。

1.2.14 Portamento Control

Cntrl#	Parameter	Data Range
84	Portamento Control	0...127

ポルタメントコントロールは、発音中のノートオンのキーを指定して送信する。0〜127でポルタメントソースキー番号を指定する。
ポルタメントコントロールを受信すると、発音中の音程は、次に受信する同じチャンネルのノートオンのキーにポルタメント0の速度で変化する。

1.2.15 Effect1 Depth (Reverb Send Level)

Cntrl#	Parameter	Data Range
91	Effect1 Depth	0...127

リバーブエフェクトに対するセンドレベルの設定をする。

1.2.16 Effect3 Depth (Chorus Send Level)

Cntrl#	Parameter	Data Range
93	Effect3 Depth	0...127

コーラスエフェクトに対するセンドレベルの設定をする。

1.2.17 Effect4 Depth (Variation Effect Send Level)

Cntrl#	Parameter	Data Range
94	Effect4 Depth	0...127 when Variation Connection = 1 (System)

バリエーションエフェクトに対するセンドレベルの設定をする。Variation Connection = 0 (Insertion) のときは、効果はない。

1.2.18 Data Increment / Decrement (for RPN)

Cntrl#	Parameter	Data Range
96	RPN Increment	0...127
97	RPN Decrement	0...127

データレンジは無視される。

RPN（レジスタードパラメーターナンバー）で指定されたパラメーターの値の調整をする。このチャンネルメッセージは、ピッチベンドセンシティビティ、ファインチューン、コースチューンのMSBの値を1ステップずつ増減させる。
すでにその値が、最大値/最小値に達しているときには、その範囲を超えて変化させることはできない。ファインチューンを増やしていったら、コースチューンが繰り上がるような動作もしない。

1.2.19 NRPN (Nonregistered parameter number)

Cntrl#	Parameter	Data Range
98	RPN LSB	0...127
99	RPN MSB	0...127

はじめにNRPN（ノンレジスタードパラメーターナンバー）のMSBとLSBを与えて、制御するパラメーターを指定し、その後データエントリーで指定パラメーターの値を設定する。
以下のNRPNを受信することができる。

NRPN MSB	NRPN LSB	Data entry MSB	Data entry LSB	Parameter & Data Range
01H	08H	mmH		Vibrato Rate mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63)
01H	09H	mmH		Vibrato Depth mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63)
01H	0AH	mmH		Vibrato Delay mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63)
01H	20H	mmH		Filter Cutoff Freq. mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63)
01H	21H	mmH		Filter Resonance mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63)
01H	63H	mmH		EG Attack Time mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63)
01H	64H	mmH		EG Decay Time mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63)
01H	66H	mmH		EG Release Time mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63)
14H	rrH	mmH		Drum Filter Cutoff Freq. mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63) rr : drum instrument note number
15H	rrH	mmH		Drum Filter Resonance mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63) rr : drum instrument note number
16H	rrH	mmH		Drum EG Attack Rate mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63) rr : drum instrument note number
17H	rrH	mmH		Drum EG Decay Rate mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63) rr : drum instrument note number (Effects both Decay 1 and Decay 2)
18H	rrH	mmH		Drum Instrument Pitch Coarse mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63) rr : drum instrument note number
19H	rrH	mmH		Drum Instrument Pitch Fine mm : 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63) rr : drum instrument note number
1AH	rrH	mmH		Drum Instrument Level mm : 00H - 7FH (0 to Max) rr : drum instrument note number
1CH	rrH	mmH		Drum Instrument Panpot mm : 00H, 01H - 40H - 7FH (Random, L - C - R) rr : drum instrument note number
1DH	rrH	mmH		Drum Instrument Reverb Send Level mm : 00H - 7FH (0 to Max) rr : drum instrument note number
1EH	rrH	mmH		Drum Instrument Chorus Send Level mm : 00H - 7FH (0 to Max) rr : drum instrument note number
1FH	rrH	mmH		Drum Instrument Variation Send Level mm : 00H - 7FH (0 to Max) rr : drum instrument note number

チャンネルはDrum Modeに設定されていなければならない。
Drum Setup 1か2がそのチャンネルに設定されていること。（基本設定はDrum Setup 1）

注意：CVP79/69/59では3つのDrum Setupがあり（Preset Drum, Drum Setup1, Drum Setup2）Preset Drumのパラメーターは書き換えることはできない。

1.2.20 RPN (Registered parameter number)

Cntrl#	Para1meter	Data Range
100	RPN LSB	0...127
101	RPN MSB	0...127
		Default:7FH 7FH

以下のRPN（レジスタードパラメーター）を受信することができる。

RPN MSB	RPN LSB	Data entry MSB	Data entry LSB	Parameter Data Range
00H	00H	mmH	--	Pitchbend Sensitivity mm: 00-0cH(0-12 semitones:1 octave) 0-12の半音階12ステップで1オクターブとし、初期設定は02H=2半音（1全音）。1オクターブまでセットすることができる。LSBの値は無視する。
00H	01H	mmH	11H	Fine Tuning mm:00H-40H-7FH(-64 - 0 - +63)
00H	02H	mmH	--	Course Tuning mm:28H - 40H - 58H(-24 - +24 semitones) LSBの値は無視する。
7FH	7FH	--	--	RPN Null 現在のRPNおよびNRPN番号の設定をクリヤする。セットされている内部パラメーターの設定値は変更されない。

1.2.21 Channel Mode Messages

以下のチャンネルモードメッセージがサポートされる。ただし、Omni Off , Omni On のチャンネルメッセージはAll Notes Off の、Mono , Poly のチャンネルメッセージはAll Sounds Off のメッセージと同じと見なされる。本機は常にPoly Mode に固定され、変更はできない。

2nd byte		3rd byte
120	0	All Sound Off
121	0	Reset All Controllers
123	0	All Notes Off
124	0	Omni Off
125	0	Omni On
126	0 ~ 16	Mono
127	0	Poly

1.2.21.1 All Sound Off

該当チャンネルの発音中の音を、すべて消音する。ただし、ノートオンやダンパーオンなどのチャンネルメッセージの状態は保持している。

1.2.21.2 Reset All Controllers

以下のようにコントローラーをリセットする。

Controller	Value
Pitchbend change	+-0 (center)
Modulation	0 (off)
Expression	127 (max)
Damper Pedal	0 (off)
Sostenuto	0 (off)
Soft Pedal	0 (off)
Portamento Control	ポルタメントソースキー番号をリセット
RPN	Sets number to null.(内部設定は変更しない)
NRPN	Sets number to null.(内部設定は変更しない)

1.2.21.3 All Notes Off

該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフする。
ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場合は、それらがオフになるまで発音は終了しない。

1.2.21.4 Omni Off

オール・ノート・オフを受信したときと同じ処理を行う。

1.2.21.5 Omni On

オール・ノート・オフを受信したときと同じ処理を行う。

1.2.21.6 Mono

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ処理を行う。

1.2.21.7 Poly

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ処理を行う。

1.3 プログラムチェンジ

ファンクション[MIDI2]の画面で「PROGRAM」の設定が[OFF]のとき、送/受信はしない。（104ページ参照）

1.4 ピッチベンド

2. システムエクスクルーシブメッセージ

2.1 パラメーターチェンジ

CVP79/69/59では以下のパラメーターチェンジのメッセージを受信する。

[UNIVERSAL REALTIME MESSAGE]
1) Master Volume

[UNIVERSAL NON-REALTIME MESSAGE]
3) General MIDI Mode On

[XG NATIVE]
1) XG System on
2) XG System Data parameter change
3) Multi Effect1 Data parameter change
4) Drum Setup Data parameter change

[Others]
1) Master tuning
2) Channel Detune
3) Volume & Expression Realtime Control off

2.1.2 Universal Realtime Message

2.1.2.1 Master Volume

```
11110000 F0   Exclusive status
01111111 7F   Universal Realtime
01111111 7F   ID of target device
00000100 04   Sub-ID #1=Device Control Message
00000001 01   Sub-ID #2=Master Volume
0sssssss SS   Volume LSB
0ttttttt TT   Volume MSB
11110111 F7   End of Exclusive
  または
11110000 F0   Exclusive status
01111111 7F   Universal Realtime
0xxxnnnn XN   When N is received N=0~F, whichever is received.
              When N is transmitted N always=0.
              x = don't care
00000100 04   Sub-ID #1=Device Control Message
00000001 01   Sub-ID #2=Master Volume
0sssssss SS   Volume LSB
0ttttttt TT   Volume MSB
11110111 F7   End of Exclusive
```

全てのチャンネルのVolumeが変更される。

2.1.3 Universal Non-Realtime Message

2.1.3.1 General MIDI Mode On

```
11110000 F0   Exclusive status
01111110 7E   Universal Non-Realtime
01111111 7F   ID of target device
00001001 09   Sub-ID #1=General MIDI Message
00000001 01   Sub-ID #2=General MIDI On
11110111 F7   End of Exclusive
  または
11110000 F0   Exclusive status
01111110 7E   Universal Non-Realtime
0xxxnnnn XN   When N is received N=0~F, whichever is received.
              X = don't care
00001001 09   Sub-ID #1=General MIDI Message
00000001 01   Sub-ID #2=General MIDI On
11110111 F7   End of Exclusive
```

General MIDI mode On のメッセージを受信すると、MIDIシステムは初期値にリセットされる。
このメッセージを実行するために約50ms必要とするので、次のメッセージとの間隔は充分な時間をあけること。

2.1.4 XG Native Parameter Change

```
11110000  F0       Exclusive status
01000011  43       YAMAHA ID
0001nnnn  1N       When N is received n=0~F, whichever is received.
                   When N is transmitted N always=0.
01001100  4C       Model ID of XG
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address High
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address Mid
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address Low
0ddddddd  ddddddd  Data
|         |
11110111  F7       End of Exclusive
```

Data Size が2または4のパラメーターはそのSize分データを送信する。

2.1.4.1 XG System On

```
11110000  F0   Exclusive status
01000011  43   YAMAHA ID
0001nnnn  1N   When N is received N=0~F, whichever is received.
               When N is transmitted N always=0.
01001100  4C   Model ID of XG
0aaaaaaa  00   Address High
0aaaaaaa  00   Address Mid
0aaaaaaa  7E   Address Low
00000000  00   Data
11110111  F7   End of Exclusive
```

XG System ON のメッセージを受信すると、MIDIシステムは初期設定値にリセットされる。
このメッセージを実行するために約50ms必要とするので、次のメッセージとの間隔は充分な時間をあけること。

2.1.4.2 XG System Data parameter change

MIDI Data Format Table 1-1,1-2を参照のこと。（135ページ参照）

2.1.4.3 Multi Effect1 Data parameter change

MIDI Data Format Table 1-1,1-3を参照のこと。（135ページ参照）

2.1.4.4 Multi Part Data parameter change

MIDI Data Format Table 1-1,1-4を参照のこと。（135,136ページ参照）

2.1.4.5 Drum Setup Data parameter change

MIDI Data Format Table 1-1,1-5を参照のこと。（135,136ページ参照）
DRUM SETUP RESET parameter change を受信すると、Drum Setup parameter の値は初期化される。ただしCVP79/69/59のフロントパネルで設定されたセットアップについては初期化されない。

2.1.5 Other Parameter Changes

2.1.5.1 Master Tuning

```
11110000  F0   Exclusive status
01000011  43   YAMAHA ID
0001nnnn  1N   When N is received N=0~F, whichever is received.
               When N is transmitted N always=0.
00100111  27   Model ID
00000001  30   Sub ID
00000000  00
00000000  00
0mmmmmmm  MM   Master Tune MSB
0lllllll  ll   Master Tune LSB
0ccccccc  CC
11110111  F7   End of Exclusive
```

全チャンネルのチューニングを一度に変えられるメッセージ。

2.1.5.2 Channel Detune

```
11110000  F0   Exclusive status
01000011  43   YAMAHA ID
0001nnnn  73   Clavinova ID
00111001  39   CVP-79/69/59 ID
00010001  11   Sub ID
0000nnnn  0N   N = MIDI Channel
01000011  43   Dual Detune
0vvvvvvv  VV   Value  VV: 00H - 40H - 7FH (-64 - 0 - +63)
11110111  F7   End of Exclusive
```

チャンネルディチューンは特定の（N=MIDI Channelで指定された）チャンネルにのみ有効。

2.1.5.3 Volume and Expression Realtime Control Off

```
11110000  F0   Exclusive status
01000011  43   YAMAHA ID
0001nnnn  73   Clavinova ID
00111001  39   CVP-79/69/59 ID
00010001  11   Sub ID
0000nnnn  0n   n = MIDI Channel
01000101  45   Volume and Expression Realtime Control Off
0vvvvvvv  VV   Value  VV: 00H=Off, 7F=On
11110111  F7   End of Exclusive
```

このExclusiveのOnを受信するとその後のVolume, Expressionの変更はキーオン時にのみ有効になる。Offを受信すると通常に戻る。

2.2 バルクダンプ

CVP79/69/59では以下のバルクデータを扱う。

[XG NATIVE]
1) XG Data
2) Multi Effect1 Data
3) Drums Setup Data

2.2.1 XG Native Bulk Data

```
11110000  F0       Exclusive status
01000011  43       YAMAHA ID
0000nnnn  0n       When n is received n=0~F,whichever is received.
                   When n is transmitted n always=0.
01001100  4C       Model ID of XG
0bbbbbbb  bbbbbbb  ByteCount
0bbbbbbb  bbbbbbb  ByteCount
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address High
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address Mid
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address Low
00000000  00       Data
|         |
|         |
0ccccccc  ccccccc  Check sum
11110111  F7       End of Exclusive
```

"Address"と"Byte Count"は、MIDI Data Format Table（133ページ）を参照のこと。Tableでの"TOTAL SIZE"は、連続したデータをシングルバルクダンプに分割している。"address"はバルクデータの最初のバイトになる。
"Check-sum"は、Byte Count, Address, Data, およびCheck-sum自身を加算した値の下位7ビットがゼロになる値である。

一度に大量のバルクデータを受信すると、エラーが発生する場合がある。データの合計は512byte以下の大きさに押さえることが望ましい。適当に512byte以下のパケットに区切り、それぞれ適当な時間間隔（120ms以上）をとって送/受信する。

2.2.1.1 XG System Data bulk dump

MIDI Data Format Table 1-1,1-2を参照のこと。（135ページ参照）

2.2.1.2 Multi Effect1 Data bulk dump

MIDI Data Format Table 1-1,1-3を参照のこと。（135ページ参照）

2.2.1.3 Drums Setup Data bulk dump

MIDI Data Format Table 1-1,1-5を参照のこと。（135,136ページ参照）

2.3 パラメーターリクエスト

CVP79/69/59は以下のように、パラメーターチェンジに対応するパラメーターについて、そのリクエストを扱う。

```
11110000  F0       Exclusive status
01000011  43       YAMAHA ID
0011nnnn  3n       When n is received n=0~F, whichever is received.
                   When n is transmitted n always=0.
01001100  4C       Model ID of XG
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address High
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address Mid
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address Low
11110111  F7       End of Exclusive
```

もしリクエストしたいパラメーターのデータサイズが（1バイトではなく）2または4バイトの場合、そのバルクデータの初めのバイトがそのパラメーターのアドレスになる。

2.4 ダンプリクエスト

CVP79/69/59は以下のように、バルクダンプに対応するデータについてそのダンプリクエストを扱う。

```
11110000  F0       Exclusive status
01000011  43       YAMAHA ID
0010nnnn  2N       When N is received N=0~F, whichever is received.
                   When N is transmitted N always=0.
01001100  4C       Model ID Of XG
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address High
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address Mid
0aaaaaaa  aaaaaaa  Address Low
11110111  F7       End of Exclusive
```

"Address"については、MIDI Data Format Table（135ページ）を参照のこと。Tableでの"TOTAL SIZE"は、連続したデータをシングルバルクダンプに分割している。"address"はバルクデータの最初のバイトになる。

3. リアルタイムメッセージ

3.1 アクティブセンシング

a) 送信
約200ms（200/1000秒）毎に一度送信される。

b) 受信
アクティブセンシングメッセージFE（MIDI接続確認メッセージ）を受信後、約400ms以上MIDI からの信号が来ない場合は、"ALL SOUND OFF"、"ALL NOTES OFF"、"RESET ALL CONTROLLERS"を受信したときと同じ処理をして、その後、FEを一度も受信しない状態に戻る。

3.2 MIDIクロック

a) 送信
1/96（96分音符）の分解能で送信する。

b) 受信
ファンクション[MIDI1]のページで「CLOCK」の設定が[EXT.]になっている場合1/96（96分音符）のタイミングとして受信する。（104ページ参照）

3.3 スタート/ストップ

ファンクション[MIDI2]の画面で「START/STOP」の設定が[OFF]になっている場合、送/受信しない。（105ページ参照）

a) 送信
リズムスタート/リズムストップ信号を送信する。

b) 受信
メッセージを受け取るとリズムまたはソングがスタート/ストップする。

<付表 1-1>

Parameter Base Address
Model ID = 4C

パラメータチェンジ	Address (H)	(M)	(L)	Description
CVP MIDI SYSTEM	00	00	00	System
	00	00	7D	Drum Setup Reset
	00	00	7E	XG System On
	00	00	7F	Reset All Parameters
EFFECT 1	02	01	00	Effect1(Reverb,Chorus,Variation)
DRUM	30	18	00	Drum Setup 1
	31	18	00	Drum Setup 2

→

Address	Parameter
3n 0B 00	note number 13
3n 0C 00	note number 14
:	:
3n 5B 00	note number 91

ノート: CVP 79/69/59はPreset Drum, Drum Setup1, Drum Setup2の3つのドラムセットをもっている。Preset Drumのパラメータを書き換えることはできない。

<付表 1-2>

MIDI Parameter Change table (SYSTEM)

Address (H) (H) (H)	Size	Data	Parameter	Description (H)	Default value	
00 00 00		4	0000 - 07FF	MASTER TUNE	-102.4 - +102.3[cent]	00 04 00 00
01					1st bit3-0 > bit15-12	-400
02					2nd bit3-0 > bit11-8	
03					3rd bit3-0 > bit7-4	
					4th bit3-0 > bit3-0	
04		1	00 - 7F	MASTER VOLUME	0 - 127	7F
06		1	28 - 58	TRANSPOSE	-24 - +24 [semitones]	40
07		1	--	--		
7D			n	DRUM SETUP RESET	n=Drum setup number	
7E			00	XG SYSTEM ON	00=XG sytem ON	
7F			00	RESET ALL PARAMETERS	00=ON (receive only)	
TOTAL SIZE		07				

<付表 1-3>

MIDI Parameter Change table (EFFECT 1)

リバーブ、コーラス、バリエーションのタイプナンバー（下表の" –> Effect MIDI Map"の項）はエフェクトMIDIマップ（137ページ）を参照。
それぞれのパラメーターの詳細について（下表の" –> Effect Parameter List"の項）はエフェクトパラメーターリスト（138ページ）を参照。

Address (H) (H) (H)	Size	Data	Parameter	Description (H)	Default value	
02 01 00		2	00-7F	REVERB TYPE MSB	–> Effect MIDI Map	01(=HALL1)
			00-7F	REVERB TYPE LSB	00 : basic type	00
02		1	00-7F	REVERB PARAMETER 1	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
03		1	00-7F	REVERB PARAMETER 2	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
04		1	00-7F	REVERB PARAMETER 3	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
05		1	00-7F	REVERB PARAMETER 4	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
06		1	00-7F	REVERB PARAMETER 5	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
07		1	00-7F	REVERB PARAMETER 6	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
08		1	00-7F	REVERB PARAMETER 7	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
09		1	00-7F	REVERB PARAMETER 8	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
0A		1	00-7F	REVERB PARAMETER 9	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
0B		1	00-7F	REVERB PARAMETER 10	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
0C		1	00-7F	REVERB RETURN	-∞dB...0dB...+6dB(0...64...127)	40
0D		1	01-7F	REVERB PAN	L63...C...R63(1...64...127)	40
TOTAL SIZE		0E				
02 01 10		1	00-7F	REVERB PARAMETER 11	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
11		1	00-7F	REVERB PARAMETER 12	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
12		1	00-7F	REVERB PARAMETER 13	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
13		1	00-7F	REVERB PARAMETER 14	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
14		1	00-7F	REVERB PARAMETER 15	–> Effect Parameter List	Depends on reverb type
15		1	00-7F	REVERB PARAMETER 16	Refer to Parameter List	Depends on reverb type
TOTAL SIZE		6				
02 01 20		2	00-7F	CHORUS TYPE MSB	–> Effect MIDI Map	41(=CHORUS1)
			00-7F	CHORUS TYPE LSB	00 : basic type	00
22		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 1	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
23		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 2	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
24		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 3	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
25		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 4	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
26		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 5	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
27		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 6	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
28		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 7	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
29		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 8	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
2A		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 9	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
2B		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 10	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
2C		1	00-7F	CHORUS RETURN	-∞dB...0dB...+6dB(0...64...127)	40
2D		1	01-7F	CHORUS PAN	L63...C...R63(1...64...127)	40
2E		1	00-7F	SEND CHORUS TO REVERB	-∞dB...0dB...+6dB(0...64...127)	00
TOTAL SIZE		0F				
02 01 30		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 11	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
31		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 12	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
32		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 13	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
33		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 14	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
34		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 15	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
35		1	00-7F	CHORUS PARAMETER 16	–> Effect Parameter List	Depends on chorus type
TOTAL SIZE		6				

02 01 40	2	00-7F	VARIATION TYPE MSB	–> Effect MIDI Map	05(=DELAY L,C,R)
		00-7F	VARIATION TYPE LSB	00 : basic type	00
42	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 1 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 1 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
44	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 2 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 2 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
46	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 3 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 3 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
48	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 4 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 4 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
4A	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 5 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 5 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
4C	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 5 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 6 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
4E	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 7 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 7 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
50	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 8 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 8 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
52	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 9 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 9 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
54	2	00-7F	VARIATION PARAMETER 10 MSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
		00-7F	VARIATION PARAMETER 10 LSB	–> Effect Parameter List	Depends on Variation type
56	1	00-7F	VARIATION RETURN	-∞dB...0dB...+6dB(0...64...127)	40
57	1	01-7F	VARIATION PAN	L63...C...R63(1...64...127)	40
58	1	00-7F	SEND VARIATION TO REVERB	-∞dB...0dB...+6dB(0...64...127)	00
59	1	00-7F	SEND VARIATION TO CHORUS	-∞dB...0dB...+6dB(0...64...127)	00
5A	1	00-01	VARIATION CONNECTION	0:INSERTION,1:SYSTEM	00
5B	1	00-7F	VARIATION PART	OFF(127) Part 1-16 (0-15)	
5D	1	—	—		
5E	1	—	—		
5F	1	—	—		
60	1	—	—		
TOTAL SIZE	21				

02 01 70	1	00-7F	VARIATION PARAMETER 11	–> Effect Parameter List	Depends on variation type
71	1	00-7F	VARIATION PARAMETER 12	–> Effect Parameter List	Depends on variation type
72	1	00-7F	VARIATION PARAMETER 13	–> Effect Parameter List	Depends on variation type
73	1	00-7F	VARIATION PARAMETER 14	–> Effect Parameter List	Depends on variation type
74	1	00-7F	VARIATION PARAMETER 15	–> Effect Parameter List	Depends on variation type
75	1	00-7F	VARIATION PARAMETER 16	–> Effect Parameter List	Depends on variation type
TOTAL SIZE	6				

* "VARIATION" とは本体パネルでのエフェクトである。

<付表 1-4>

MIDI Parameter Change table (MULTI PART)

Address (H) (H) (H)	Size	Data	Parameter	Description (H)	Default value
08 nn 07	1	00 - 01	PART MODE	0: NORMAL 1: Preset Drum 2 - 3: Drum Setup 1, 2	00 (Part other than 10) 01 (Part10)
nn 11	1	00 - 7F	DRY LEVEL	0 - 127	7F
nn 41	1	00 - 7F	SCALE TUNING C	-64 - +63[cent]	40
nn 42	1	00 - 7F	SCALE TUNING C#	-64 - +63[cent]	40
nn 43	1	00 - 7F	SCALE TUNING D	-64 - +63[cent]	40
nn 44	1	00 - 7F	SCALE TUNING D#	-64 - +63[cent]	40
nn 45	1	00 - 7F	SCALE TUNING E	-64 - +63[cent]	40
nn 46	1	00 - 7F	SCALE TUNING F	-64 - +63[cent]	40
nn 47	1	00 - 7F	SCALE TUNING F#	-64 - +63[cent]	40
nn 48	1	00 - 7F	SCALE TUNING G	-64 - +63[cent]	40
nn 49	1	00 - 7F	SCALE TUNING G#	-64 - +63[cent]	40
nn 4A	1	00 - 7F	SCALE TUNING A	-64 - +63[cent]	40
nn 4B	1	00 - 7F	SCALE TUNING A#	-64 - +63[cent]	40
nn 4C	1	00 - 7F	SCALE TUNING B	-64 - +63[cent]	40

nn = Part Number
ドラムパートでは"SCALE TUNING" パラメーターは効果がかからない。

<付表 1-5>

MIDI Parameter Change table (DRUM SETUP)

Address (H) (H) (H)	Size	Data	Parameter	Description (H)	Default value
3n rr 00	1	00 - 7F	PITCH COARSE	-64 - +63	40
3n rr 01	1	00 - 7F	PITCH FINE	-64 - +63[cent]	40
3n rr 02	1	00 - 7F	LEVEL	0 - 127	Depends on note
3n rr 03	1	—	—		
3n rr 04	1	00 - 7F	PAN	0:random L63...C...R63(1...64...127)	Depends on note
3n rr 05	1	00 - 7F	REVERB SEND	0 - 127	Depends on note
3n rr 06	1	00 - 7F	CHORUS SEND	0 - 127	Depends on note
3n rr 07	1	00 - 7F	VARIATION SEND	0 - 127	7F
3n rr 08	1	—	—		
3n rr 09	1	—	—		
3n rr 0A	1	—	—		
3n rr 0B	1	00 - 7F	FILTER CUTOFF FREQUENCY	-64 - 63	40
3n rr 0C	1	00 - 7F	FILTER RESONANCE	-64 - 63	40
3n rr 0D	1	00 - 7F	EG ATTACK	-64 - 63	40
3n rr 0E	1	00 - 7F	EG DECAY1	-64 - 63	40
3n rr 0F	1	00 - 7F	EG DECAY2	-64 - 63	40
TOTAL SIZE	10				

n: Drum number (0 to 2)
rr: Note number (0D to 54)
"XG System On" または "GM System On"のメッセージを受信するとDRUM SETUPのパラメーターは全て初期化される。
"Drum Setup Reset" のメッセージにより、各DRUM SETUPのパラメーターを初期化することができる。

エフェクトMIDIマップ

リバーブ タイプ

TYPE MSB		TYPE LSB									
DEC	HEX	00	01	02	03~07	08	09	0a	0b	0c	0d~
000	0	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
001	1	Hall1*	Hall3	<——	<——	Hall2*	Hall4	Hall5	<——	<——	<——
002	2	Room4	Room5	Room6	<——	Room1*	Room2*	Room3*	Room7	<——	<——
003	3	Stage3	Stage4	<——	<——	Stage1*	Stage2*	<——	<——	<——	<——
004	4	Plate2	<——	<——	<——	Plate1*	Plate3	<——	<——	<——	<——
005	5	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
:	:	:									
015	F	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
016	10	WhiteRoom*	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
017	11	Tunnel*	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
018	12	Canyon *(79)	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
019	13	Basement*	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
020	14	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
:	:	:									
127	7F	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——

<——.......LSB=00のベーシックエフェクトと同じ　＊.......LCD画面のリバーブスイッチで使用　（79）.......CVP-79のみ

コーラス タイプ

TYPE MSB		TYPE LSB									
DEC	HEX	00	01	02	03~07	08	09	0a	0b	0c	0d~
000	0	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
001	1	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
:	:	:									
064	40	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
065	41	Chorus4	Chorus2	Chorus3	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
066	42	Celeste	Celeste2	Celeste3	<——	Celeste4	Celeste5	Chorus1	<——	<——	<——
067	43	Flanger2	Flanger3	<——	<——	Flanger1	Flanger4	Flanger5	<——	<——	<——
068	44	Symphonic(79)	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
069	45	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
:	:	:									
071	47	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
072	48	Phaser(79)	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
073	49	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
:	:	:									
127	7F	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——

<——.......LSB=00のベーシックエフェクトと同じ　（79）.......CVP-79のみ

バリエーション タイプ

TYPE MSB		TYPE LSB									
DEC	HEX	00	01	02	03~07	08	09	0a	0b	0c	0d~
000	0	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
001	1	Hall1	Hall3	<——	<——	Hall2	Hall4	Hall5	<——	<——	<——
002	2	Room4	Room5	Room6	<——	Room1	Room2	Room3	Room7	<——	<——
003	3	Stage3	Stage4	<——	<——	Stage1	Stage2	<——	<——	<——	<——
004	4	Plate2	<——	<——	<——	Plate1	Plate3	<——	<——	<——	<——
005	5	Delay L, C, R*	<——	<——	<——	Delay2	Delay3	<——	<——	<——	<——
006	6	Delay L, R*	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
007	7	Echo*	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
008	8	CrossDelay*	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
009	9	EarlyRef.1	EarlyRef.2	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
010	A	GateReverb	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
011	B	ReverseGate	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
012	C	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
:	:	:									
019	13	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
020	14	Karaoke1	Karaoke2	Karaoke3	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
021	15	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
:	:	:									
063	3F	No Effect	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
064	40	Thru	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
065	41	Chorus4	Chorus2*	Chorus3*	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
066	42	Celeste*	Celeste2	Celeste3	<——	Celeste4	Celeste5	Chorus1*	Celeste6	<——	<——
067	43	Flanger2	Flanger3	<——	<——	Flanger1*	Flanger4	Flanger5	<——	<——	<——
068	44	Symphonic2	<——	<——	<——	Symphonic*	<——	<——	<——	<——	<——
069	45	RotarySp.Fast*	<——	<——	<——	RotarySp.3	<——	RotarySp.4	RotarySp.5	<——	<——
070	46	Tremolo*	<——	<——	<——	Tremolo2	<——	Tremolo3	Tremolo4	<——	<——
071	47	AutoPan2	<——	<——	<——	AutoPan*	RotarySp.Slow*	AutoPan3	AutoPan4	AutoPan5	<——
072	48	Phaser*	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
073	49	Distortion	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
074	4A	OverDrive	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
075	4B	AmpSim.1	<——	<——	<——	AmpSim.2	AmpSim.3	<——	<——	<——	<——
076	4C	3BandEQ2	<——	<——	<——	BoostHL*	3BandEQ3	<——	<——	<——	<——
077	4D	2BandEQ	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
078	4E	AutoWah2	<——	<——	<——	AutoWah*	<——	<——	<——	<——	<——
079	4F	No Effect or Thru	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
080	50	Detune*(79)	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
081	51	No Effect or Thru	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
082	52	TouchWah* (79)	Wah+Dist (79)	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
083	53	Compressor* (79)	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
084	54	NoizeGate (79)	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
085	55	No Effect or Thru	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
:	:										
127	7F		<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——

<——.......LSB=00のベーシックエフェクトと同じ　＊.......LCD画面のエフェクトスイッチで使用　（79）.......CVP-79のみ

エフェクト パラメーター リスト

ベーシック エフェクト タイプ

CHORUS, CELESTE

No.	Parameter	Data Range	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	LFO Frequency	0.00~39.7Hz	0-127	0-127
2	LFO PM Depth	0~127	0-63	0-127
3	Feedback Level	-63~+63	1-127	1-127
4	Delay Offset	0~127	0-127	0-127
5	—	—	—	—
6	EQ Low Frequency	50Hz~2.0kHz	4-40 32Hz~2.0kHz	8-40
7	EQ Low Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
8	EQ High Frequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
9	EQ High Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	EQ Mid Frequency	100Hz~10.0kHz	14-54	—
12	EQ Mid Gain	-12~+12dB	52-76	—
13	EQ Mid Width	1.0~12.0	10-120	—
14	LFO AM Depth	0~127	0-127	—
15	Input Mode	mono/stereo	—	0-1
16	—	—	—	—

FLANGER

No.	Parameter	Data Range	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	LFO Frequency	0.00~39.7Hz	0-127	0-127
2	LFO Depth	0~127	0-127	0-127
3	Feedback Level	-63~+63	1-127	1-127
4	Delay Offset	0~63	0-63	0-63
5	—	—	—	—
6	EQ Low Frequency	50Hz~2.0kHz	4-40 32Hz~2.0kHz	8-40
7	EQ Low Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
8	EQ High Frequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
9	EQ High Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	EQ Mid Frequency	100Hz~10.0kHz	14-54	—
12	EQ Mid Gain	-12~+12dB	52-76	—
13	EQ Mid Width	1.0~12.0	10-120	—
14	LFO Phase Difference	-180~+180deg	4-124	resoulusion=3deg.
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

SYMPHONIC

No.	Parameter	Data Range	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	LFO Frequency	0.00~39.7Hz	0-127	0-127
2	LFO Depth	0~127	0-127	0-127
3	Delay Offset	0~127	0-127	0-127
4	—	—	—	—
5	—	—	—	—
6	EQ Low Frequency	50Hz~2.0kHz	4-40 32Hz~2.0kHz	8-40
7	EQ Low Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
8	EQ High Frequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
9	EQ High Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	EQ Mid Frequency	100Hz~10.0kHz	14-54	—
12	EQ Mid Gain	-12~+12dB	52-76	—
13	EQ Mid Width	1.0~12.0	10-120	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

ROTARY SPEAKER

No.	Parameter	Data Range	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	LFO Frequency	0.00~39.7Hz	0-127	0-127
2	LFO Depth	0~127	0-127	0-127
3	—	—	—	—
4	—	—	—	—
5	—	—	—	—
6	EQ Low Frequency	50Hz~2.0kHz	4-40 32Hz~2.0kHz	8-40
7	EQ Low Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
8	EQ High Frequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
9	EQ High Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	EQ Mid Frequency	100Hz~10.0kHz	14-54	—
12	EQ Mid Gain	-12~+12dB	52-76	—
13	EQ Mid Width	1.0~12.0	10-120	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

TREMOLO

No.	Parameter	Data Range	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	LFO Frequency	0.00~39.7Hz	0-127	0-127
2	AM Depth	0~127	0-127	0-127
3	PM Depth	0~127	0-127	0-127
4	—	—	—	—
5	—	—	—	—
6	EQ Low Frequency	50Hz~2.0kHz	4-40 32Hz~2.0kHz	8-40
7	EQ Low Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
8	EQ High Frequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
9	EQ High Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
10	—	—	—	—
11	EQ Mid Frequency	100Hz~10.0kHz	14-54	—
12	EQ Mid Gain	-12~+12dB	52-76	—
13	EQ Mid Width	1.0~12.0	10-120	—
14	LFO Phase Difference	-180~+180deg	4-124	resolution=3deg.
15	Input Mode	mono/stereo	—	0-1
16	—	—	—	—

AUTO PAN

No.	Parameter	Data Range	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	LFO Frequency	0.00~39.7Hz	0-127	0-127
2	L/R Depth	0~127	0-127	0-127
3	F/R Depth	0~127	0-127	0-127
4	PAN Direction	L<->R,L->R,L<-R, Lturn,Rturn,L/R	0-5	0-5
5	—	—	—	—
6	EQ Low Frequency	50Hz~2.0kHz	4-40 32Hz~2.0kHz	8-40
7	EQ Low Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
8	EQ High Frequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
9	EQ High Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
10	—	—	—	—
11	EQ Mid Frequency	100Hz~10.0kHz	14-54	—
12	EQ Mid Gain	-12~+12dB	52-76	—
13	EQ Mid Width	1.0~12.0	10-120	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

PHASER

No.	Parameter	Data Range	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	LFO Frequency	0.00~39.7Hz	0-127	0-127
2	LFO Depth	0~127	0-127	0-127
3	Phase Shift Offset	0~127	0-127	0-127
4	Feedback Level	-63~+63	1-127	1-127
5	—	—	—	—
6	EQ Low Frequency	50Hz~2.0kHz	4-40 32Hz~2.0kHz	8-40
7	EQ Low Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
8	EQ High Frequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
9	EQ High Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	Stage	3~10	"3-10 (4,6,8)"	3-10 (6~10 (phaser1) /3~5 (phaser2))
12	Diffusion	Mono/Stereo	0-1	0-1
13	LFO Phase Difference	-180~+180deg.	—	4-124
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

DISTORTION, OVERDRIVE

No.	Parameter	Data Range	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	Drive	0~127	0-127	0-127
2	EQ Low Frequency	50Hz~2.0kHz	4-40 32Hz~2.0kHz	8-40
3	EQ Low Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
4	LPF Cutoff	1.0k~Thru	34-60	34-60
5	Output Level	0~127	0-127	0-127
6	—	—	—	—
7	EQ Mid Frequency	500Hz~10.0kHz	14-54 100Hz~10.0kHz	28-54
8	EQ Mid Gain	-12~+12dB	52-76	52-76
9	EQ Mid Width	1.0~12.0	10-120	10-120
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	Edge (Clip Curve)	0~127	—	0-127
12	—	—	—	—
13	—	—	—	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

No.	Parameter	DataRange	MIDI Value	
			CVP-79	CVP-69/59
	GUITAR AMP SIMULATOR			
1	Drive	0~127	0-127	0-127
2	AMPType	Off,Stack,Combo,Tube	0-3	0-3
3	LPFCutoff	1.0k~Thru	34-60	34-60
4	OutputLevel	0~127	0-127	0-127
5	—	—	—	—
6	—	—	—	—
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	Edge(ClipCurve)	0~127	—	0-127
12	—	—	—	—
13	—	—	—	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—
	MONO EQ (3BAND)			
1	EQLowGain	-12~+12dB	52-76	52-76
2	EQMidFrequency	500Hz~10.0kHz	14-54 100Hz~10.0kHz	28-54
3	EQMidGain	-12~+12dB	52-76	52-76
4	EQ Mid Width	1.0~12.0	10-120	10-120
5	EQHighGain	-12~+12dB	52-76	52-76
6	EQLowFrequency	50Hz~2.0kHz	4-4032Hz~2.0kHz	8-40
7	EQHighFrequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	—	—	—	—
11	—	—	—	—
12	—	—	—	—
13	—	—	—	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—
	STEREO EQ (2BAND)			
1	EQLowFrequency	50Hz~2.0kHz	4-4032Hz~2.0kHz	8-40
2	EQLowGain	-12~+12dB	52-76	52-76
3	EQHighFrequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
4	EQHighGain	-12~+12dB	52-76	52-76
5	—	—	—	—
6	—	—	—	—
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	—	—	—	—
11	EQMidFrequency	100Hz~10.0kHz	14-54	—
12	EQMidGain	-12~+12dB	52-76	—
13	EQ Mid Width	1.0~12.0	10-120	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—
	AUTO WAH			
1	LFOFrequency	0.00~39.7Hz	0-127	0-127
2	LFODepth	0~127	0-127	0-127
3	CutoffFrequencyOffset	0~127	0-127	0-127
4	Resonance	1.0~12.0	10-120	10-120
5	—	—	—	—
6	EQLowFrequency	50Hz~2.0kHz	4-4032Hz~2.0kHz	8-40
7	EQLowGain	-12~+12dB	52-76	52-76
8	EQHighFrequency	500Hz~16.0kHz	28-58	28-58
9	EQHighGain	-12~+12dB	52-76	52-76
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	Drive	0~127	0-127	—
12	—	—	—	—
13	—	—	—	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

No.	Parameter	DataRange	MIDI Value	
			CVP-79	CVP-69/59
	HALL, ROOM, STAGE, PLATE			
1	ReverbTime	0.3~30.0s	0-69	0-69
2	Diffusion	0~10	0-10	0-10
3	Initial Delay	0~63	0-63	0-63
4	HPFCutoff	Thru~8.0kHz	0-52	0-52
5	LPFCutoff	1.0k~Thru	34-60	34-60
6	—	—	—	—
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	RevDelay	0~63	0-63	0-63
12	Density	0~3	“0-4 *REV (0-4), VAR (0-3)”	0-3
13	Er/RevBalance	E63>R~E=R~E<R63	1-127	1-127
14	HighDamp	0.1~1.0	1-10	—
15	FeedbackLevel	-63~+63	—	1-127
16	—	—	—	—
	DELAY L, C, R			
1	LchDelay	0.1~715.0ms	1-7150	1-7150
2	RchDelay	0.1~715.0ms	1-7150	1-7150
3	CchDelay	0.1~715.0ms	1-7150	1-7150
4	FeedbackDelay	0.1~715.0ms	1-7150	1-7150
5	FeedbackLevel	-63~+63	1-127	1-127
6	CchLevel	0~127	0-127	0-127
7	HighDamp	0.1~1.0	1-10	1-10
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	HPFCutoff	Thru~8.0kHz	0-52	—
12	LPFCutoff	1.0k~Thru	34-60	—
13	EQLowFrequency	50Hz~2.0kHz	—	8-40
14	EQLowGain	-12~+12dB	—	52-76
15	EQHighFrequency	500Hz~16.0kHz	—	28-58
16	EQHighGain	-12~+12dB	—	52-76
	DELAY L, R			
1	LchDelay	0.1~715.0ms	1-7150	1-7150
2	RchDelay	0.1~715.0ms	1-7150	1-7150
3	FeedbackDelay1	0.1~715.0ms	1-7150	1-7150
4	FeedbackDelay2	0.1~715.0ms	1-7150	1-7150
5	FeedbackLevel	-63~+63	1-127	1-127
6	HighDamp	0.1~1.0	1-10	1-10
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	HPFCutoff	Thru~8.0kHz	0-52	—
12	LPFCutoff	1.0k~Thru	34-60	—
13	EQLowFrequency	50Hz~2.0kHz	—	8-40
14	EQLowGain	-12~+12dB	—	52-76
15	EQHighFrequency	500Hz~16.0kHz	—	28-58
16	EQHighGain	-12~+12dB	—	52-76
	ECHO			
1	LchDelay1	0.1~355.0ms	1-3550	1-3550
2	LchFeedbackLevel	-63~+63	1-127	1-127
3	RchDelay1	0.1~355.0ms	1-3550	1-3550
4	RchFeedbackLevel	-63~+63	1-127	1-127
5	HighDamp	0.1~1.0	1-10	1-10
6	LchDelay2	0.1~355.0ms	1-3550	1-3550
7	RchDelay2	0.1~355.0ms	1-3550	1-3550
8	Delay2Level	0~127	0-127	0-127
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	HPFCutoff	Thru~8.0kHz	0-52	—
12	LPFCutoff	1.0k~Thru	34-60	—
13	EQLowFrequency	50Hz~2.0kHz	—	8-40
14	EQLowGain	-12~+12dB	—	52-76
15	EQHighFrequency	500Hz~16.0kHz	—	28-58
16	EQHighGain	-12~+12dB	—	52-76

No.	Parameter	DataRange	MIDI Value	
			CVP-79	CVP-69/59
CROSS DELAY				
1	L->R Delay	0.1~355.0ms	1-3550	1-3550
2	R->L Delay	0.1~355.0ms	1-3550	1-3550
3	Feedback Level	-63~+63	1-127	1-127
4	Input Select	L,R,L&R	0-2	0-2
5	High Damp	0.1~1.0	1-10	1-10
6	—	—	—	—
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	HPF Cutoff	Thru~8.0kHz	0-52	—
12	LPF Cutoff	1.0k~Thru	34-60	—
13	EQ Low Frequency	50Hz~2.0kHz	—	8-40
14	EQ Low Gain	-12~+12dB	—	52-76
15	EQ High Frequency	500Hz~16.0kHz	—	28-58
16	EQ High Gain	-12~+12dB	—	52-76
EARLY REF				
1	Type	S-H, L-H, Rdm, Rvs, Plt, Spr	0-5	0-5
2	Room Size	0.1~7.0	0-44	0-44
3	Diffusion	0~10	0-10	0-10
4	Initial Delay	0~63	0-63	0-63
5	Feedback Level	-63~+63	1-127	1-127
6	HPF Cutoff	Thru~8.0kHz	0-52	0-52
7	LPF Cutoff	1.0k~Thru	34-60	34-60
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	Liveness	0~10	0-10	0-10
12	Density	0~3	0-3	0-3
13	High Damp	0.1~1.0	1-10	1-10
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—
GATE REVERB, REVERSE GATE				
1	Type	TypeA, TypeB	0-1	0-1
2	Room Size	0.1~7.0	0-44	0-44
3	Diffusion	0~10	0-10	0-10
4	Initial Delay	0~63	0-63	0-63
5	Feedback Level	-63~+63	1-127	1-127
6	HPF Cutoff	Thru~8.0kHz	0-52	0-52
7	LPF Cutoff	1.0k~Thru	34-60	34-60
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	Liveness	0~10	0-10	0-10
12	Density	0~3	0-3	0-3
13	High Damp	0.1~1.0	1-10	1-10
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

オプション エフェクト タイプ

PITCH CHANGE (CVP-79 のみ)

No.	Parameter	DataRange	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	Pitch	-24~+24	40-88	—
2	Initial Delay	0~127	0-127	—
3	Fine 1	-50~+50	14-114	—
4	Fine 2	-50~+50	14-114	—
5	Feedback Gain	-99~+99%	1-127	—
6	—	—	—	—
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	—
11	Pan 1	L63~R63	1-127	—
12	Output Level 1	0~127	0-127	—
13	Pan 2	L63~R63	1-127	—
14	Output Level 2	0~127	0-127	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

TOUCH WAH, WAH+DIST (CVP-79 のみ)

No.	Parameter	DataRange	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	Sensitive	0~127	0-127	—
2	Cutoff Frequency Offset	0~127	0-127	—
3	Resonance	1.0~12.0	10-120	—
4	—	—	—	—
5	—	—	—	—
6	EQ Low Frequency	32Hz~2.0kHz	4-40	—
7	EQ Low Gain	-12~+12dB	52-76	—
8	EQ High Frequency	500Hz~16.0kHz	28-58	—
9	EQ High Gain	-12~+12dB	52-76	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	—
11	Drive	0~127	0-127	—
12	—	—	—	—
13	—	—	—	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

COMPRESSOR (CVP-79 のみ)

No.	Parameter	DataRange	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	Attack	1~40ms	0-19	—
2	Release	10~680ms	0-15	—
3	Threshold	-48~-6dB	79-121	—
4	Ratio	1.0~20.0	0-7	—
5	Output Level	0~127	0-127	—
6	—	—	—	—
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	—	—	—	—
11	—	—	—	—
12	—	—	—	—
13	—	—	—	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

NOISE GATE (CVP-79 のみ)

No.	Parameter	DataRange	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	Attack	1~40ms	0-19	—
2	Release	10~680ms	0-15	—
3	Threshold	-72~-30dB	55-97	—
4	Output Level	0~127	0-127	—
5	—	—	—	—
6	—	—	—	—
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	—	—	—	—
11	—	—	—	—
12	—	—	—	—
13	—	—	—	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

WHITE ROOM, TUNNEL, CANYON (CVP-79 のみ), BASEMENT

No.	Parameter	DataRange	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	Reverb Time	0.3~30.0s	0-69	0-69
2	Diffusion	0~10	0-10	0-10
3	Initial Delay	0~63	0-63	0-63
4	HPF Cutoff	Thru~8.0kHz	0-52	0-52
5	LPF Cutoff	1.0k~Thru	34-60	34-60
6	Width	0.5~10.2m	0-37	0-37
7	Heigt	0.5~20.2m	0-73	0-73
8	Depth	0.5~30.2m	0-104	0-104
9	Wall Vary	0~30	0-30	0-30
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	Rev Delay	0~63	0-63	0-63
12	Density	0~3	"0-4 *REV (0-4), VAR (0-3)"	0-3
13	Er/Rev Balance	E63>R~E=R~E<R63	1-127	1-127
14	High Damp	0.1~1.0	1-10	—
15	Feedback Level	-63~+63	—	1-127
16	—	—	—	—

KARAOKE1, 2, 3

No.	Parameter	DataRange	MIDI Value CVP-79	MIDI Value CVP-69/59
1	Delay Time	0~127	0-127	0-127
2	Feedback Level	-63~+63	1-127	1-127
3	HPF Cutoff	Thru~8.0kHz	0-52	0-52
4	LPF Cutoff	1.0k~Thru	34-60	34-60
5	—	—	—	—
6	—	—	—	—
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	Dry/Wet	D63>W~D=W~D<W63	1-127	1-127
11	—	—	—	—
12	—	—	—	—
13	—	—	—	—
14	—	—	—	—
15	—	—	—	—
16	—	—	—	—

YAMAHA [Clavinova]
Model CVP-79,69,59 MIDI Implementation Chart

Date : 04/25, 1995
Version : 1.0

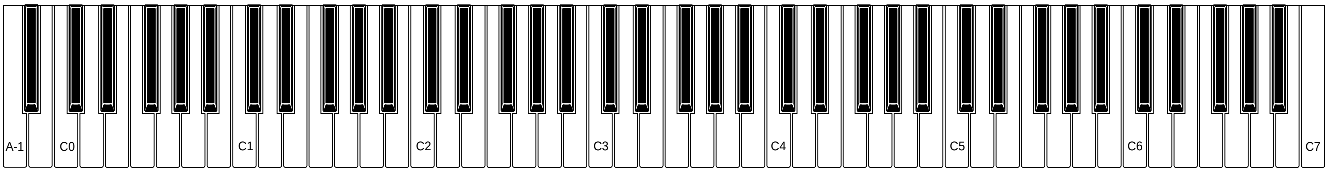
Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default	1	1-16	memorized
	Changed	1-16	1-16	
Mode	Default	3	3 *1	Poly Mode only
	Messages	X	X	
		**************	X	
Note Number		21-108	0-127	
	True voice	**************	21-108	
Velocity	Note on	0 9nH, v=1-127	0 v=1-127	
	Note off	X 9nH, v=0	X	
After Touch	Key's	X	X	
	Ch's	X	X	
Pitch Bender		X *2	0	
Control Change	0, 32	0	0	Bank Select
	1	X *2	0	Modulation
	7, 10, 11	0	0	
	6, 38	0	0	Data entry
	64, 66, 67	0	0	
	71-74	X *2	0	Sound Controller
	84	X *2	0	Portamento Cntrl
	91, 93, 94	0 (#93 X *2)	0	Effect Depth
	96, 97	X	0	Data Entry SW
	98, 99	X *2	0	NRPN LSB, MSB
	100, 101	0	0	RPN LSB, MSB
	120	X	0	All sounds off
	121	X	0	Reset all Cntrls
Program Change		0 0-127	0 0-127	
	True #	*************		
System Exclusive		0	0	
System Common	Song Pos	X	X	
	Song Sel	X	0	
	Tune	X	X	
System Real Time	Clock	0	0	
	Commands	0	0	
Aux Mes-sages	Local ON/OFF	X	X	
	All Notes OFF	0	0 (123-127)	
	Active Sense	0	0	
	Reset	X	X	

Notes : *1 ;Recieve Mode is always multi timbre and Poly mode.
*2 ;Transmitted when "ABC&RHY"or"HARMONY" MIDI send sw is on.

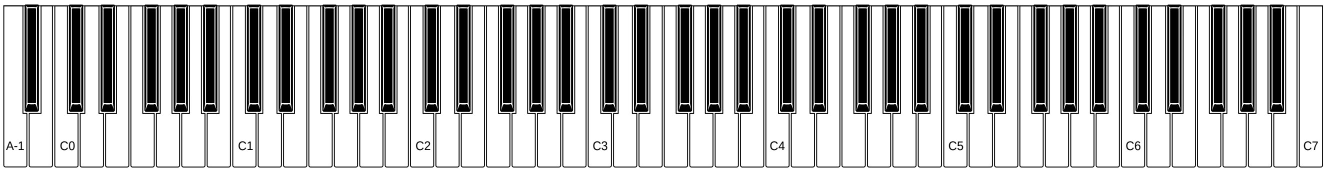
Mode 1 : OMNI ON, POLY Mode 2 : OMNI ON, MONO 0 : Yes
Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF, MONO X : No

音色(ボイス)リスト

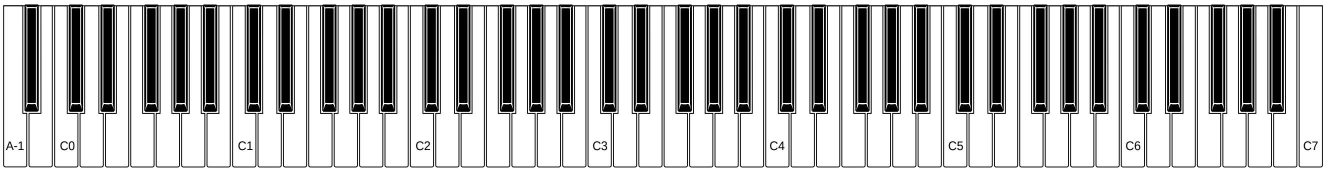
グループ	バンク		プログラムナンバー	音色名			パン	エレメント			推奨音域
	MSB	LSB		CVP-79	CVP-69	CVP-59		CVP-79	CVP-69	CVP-59	
Piano	0	112	1	Grand Piano1	Grand Piano1	Grand Piano1	c	2 (S)	2	2	A-1~C7
	0	113	1	Grand Piano2	Grand Piano2	Grand Piano2	k	1	1	1	A-1~C7
	0	112	2	BrightPiano	BrightPiano	BrightPiano	c	2 (S)	2	2	A-1~C7
	0	0	2	Rock Piano	Rock Piano	Rock Piano	c	1	1	1	A-1~C7
	0	114	1	Mellow Piano	Mellow Piano	Mellow Piano	c	2 (S)	1	1	A-1~C7
	0	116	3	Elec.Grand	—	—	k	2	—	—	A-1~C7
	0	115	3	Piano EP 1	Piano EP 1	Piano EP 1	k	2	2	2	A-1~C7
	0	0	3	Piano EP 2	Piano EP 2	Piano EP 2	c	2	2	2	A-1~C7
	0	0	4	Honky Tonk	Honky Tonk	Honky Tonk	c	2	2	2	A-1~C7
E.Piano	0	0	5	Elec.Piano	Elec.Piano	Elec.Piano	c	2	2	2	C1~C6
	0	112	5	EP Jazz	EP Jazz	EP Jazz	k	2	2	2	C1~C6
	0	116	5	Bell EP	Bell EP	Bell EP	k	2	2	2	C1~C6
	0	0	6	DX EP Pop	DX EP Pop	DX EP Pop	c	2	2	2	C1~C6
	0	115	6	DX EP Modern	DX EP Modern	DX EP Modern	k	1	1	1	C1~C6
	0	116	6	Mallet EP	Mallet EP	Mallet EP	k	2	1	1	C1~C6
	0	117	6	Crystal EP	Crystal EP	Crystal EP	c	2	2	2	C1~C6
	0	117	5	Stage EP	—	—	k	2	—	—	C1~C6
Harpsichord	0	112	7	Harpsichord1	Harpsichord1	Harpsichord1	k	1	1	2	C1~C6
	0	113	7	Harpsichord2	Harpsichord2	Harpsichord2	k	1	1	1	C1~C6
	0	115	7	Grand Harpsi	Grand Harpsi	Grand Harpsi	k	2	2	2	C1~C6
	0	116	7	Harpsi Pop	—	—	k	2	—	—	C1~C6
	0	0	8	Clavi	Clavi	Clavi	c	1	1	1	C1~C6
	0	0	47	Harp	Harp	Harp	c	1	1	1	C1~C6
Vibes	0	112	12	Vibes	Vibes	Vibes	k	2	2	2	F2~F5
	0	0	12	Jazz Vibes	—	—	c	1	—	—	F2~F5
	0	0	9	Celesta	Celesta	Celesta	c	1	1	1	C3~C7
	0	112	9	Celesta 4ft	Celesta 4ft	Celesta 4ft	k	1	1	1	C2~C6
	0	0	10	Glockenspiel	Glockenspiel	Glockenspiel	c	1	1	1	C4~C7
	0	0	11	Music Box	Music Box	Music Box	c	2	2	2	C3~C5
	0	112	13	Marimba	Marimba	Marimba	k	1	1	1	C2~C6
	0	0	14	Xylophone	Xylophone	Xylophone	c	1	1	1	F3~C6
	0	0	15	TubularBells	TubularBells	TubularBells	c	1	1	1	C3~F4
	0	0	16	Dulcimer	Dulcimer	Dulcimer	c	2	2	2	C3~C5
Guitar	0	112	25	Gut Guitar	Gut Guitar	Gut Guitar	k	1	1	1	E1~C5
	0	0	25	Nylon Guitar	Nylon Guitar	Nylon Guitar	c	1	1	1	E1~C5
	0	0	26	Steel Guitar	Steel Guitar	Steel Guitar	c	1	1	1	E1~C5
	0	112	26	Folk Guitar	—	—	k	1	—	—	E1~C5
	0	115	26	12Str Guitar	—	—	c	2	—	—	E1~C5
	0	112	27	J.Gtr Mellow	J.Gtr Mellow	J.Gtr Mellow	k	1	1	1	E1~D5
	0	0	27	Jazz Guitar	Jazz Guitar	Jazz Guitar	c	1	1	1	E1~D5
	0	113	27	J.Gtr Hard	—	—	k	1	—	—	E1~D5
	0	0	28	Rock Guitar1	Rock Guitar	Rock Guitar	c	2	2	2	E1~D5
	0	113	28	Rock Guitar2	—	—	k	1	—	—	E1~D5
	0	112	29	Mute Guitar	—	—	k	1	—	—	E1~D5
	0	0	29	Pick Guitar	Pick Guitar	Pick Guitar	c	1	1	1	E1~D5
	0	0	30	Ovrdr.Guitar	Ovrdr.Guitar	Ovrdr.Guitar	c	1	1	1	E1~D5
	0	0	31	Dist.Guitar	Dist.Guitar	Dist.Guitar	c	1	1	1	E1~D5
	0	0	32	GuitarHarmo.	GuitarHarmo.	GuitarHarmo.	c	1	1	1	E1~D5
	0	0	105	Sitar	Sitar	Sitar	c	1	1	1	C2~F4
	0	0	106	Banjo	Banjo	Banjo	c	1	1	1	C2~C5
	0	0	107	Shamisen	Shamisen	Shamisen	c	1	1	1	D2~G4
	0	0	108	Koto	Koto	Koto	c	1	1	1	G2~C5
	0	0	109	Kalimba	Kalimba	Kalimba	c	1	1	1	C2~G4



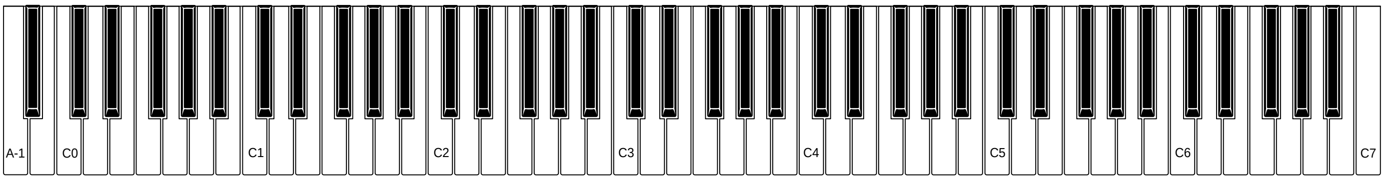
グループ	バンク		プログラムナンバー	音色名			パン	エレメント			推奨音域
	MSB	LSB		CVP-79	CVP-69	CVP-59		CVP-79	CVP-69	CVP-59	
Clavi. tone/ synth	0	112	89	Clavinova T.	Clavinova T.	Clavinova T.	k	2	1	1	C1~C7
	0	0	89	New Age Pad1	New Age Pad1	New Age Pad1	c	2	2	2	C1~C6
	0	115	89	New Age Pad2	New Age Pad2	New Age Pad2	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	90	Warm Pad	Warm Pad	Warm Pad	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	91	PolySynthPad	PolySynthPad	PolySynthPad	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	92	Choir Pad	Choir Pad	Choir Pad	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	93	Bowed Pad	Bowed Pad	Bowed Pad	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	94	Metallic Pad	Metallic Pad	Metallic Pad	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	95	Halo Pad	Halo Pad	Halo Pad	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	96	Sweep Pad	Sweep Pad	Sweep Pad	c	2	2	2	C1~C6
	0	112	102	Cosmic Pad	Cosmic Pad	Cosmic Pad	k	2	2	2	G0~C6
	0	112	93	Ice Pad	Ice Pad	Ice Pad	k	2	2	2	G0~C6
	0	112	95	Techno Pad	Techno Pad	Techno Pad	k	2	2	2	G0~C6
	0	112	97	SynthCrystal	SynthCrystal	SynthCrystal	k	2	2	2	C2~C6
	0	0	97	Rain	Rain	Rain	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	98	SoundTrack	SoundTrack	SoundTrack	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	99	Crystal	Crystal	Crystal	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	100	Atmosphere	Atmosphere	Atmosphere	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	101	Brightness	Brightness	Brightness	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	102	Goblins	Goblins	Goblins	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	103	Echoes	Echoes	Echoes	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	104	Sci-Fi	Sci-Fi	Sci-Fi	c	2	2	2	C1~C6
Organ	0	0	20	Pipe Organ	Pipe Organ	Pipe Organ	c	2 (S)	2 (S)	2 (S)	C0~C6
	0	115	20	Chapel Organ	Chapel Organ	Chapel Organ	k	2	1	1	C1~C6
	0	115	17	Draw 16 Organ	Draw 16 Organ	Draw 16 Organ	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	17	Draw 8 Organ	Draw 8 Organ	Draw 8 Organ	c	1	1	1	C1~C6
	0	0	18	Perc. Organ	Perc. Organ	Perc. Organ	c	1	1	1	C1~C6
	0	0	19	Rock Organ	Rock Organ	Rock Organ	c	2	2	2	C1~C6
	0	112	19	Trem.Organ 1	—	—	k	1	—	—	C1~C6
	0	115	19	Trem.Organ 2	—	—	c	2	—	—	C1~C6
	0	0	21	Reed Organ	Reed Organ	Reed Organ	c	1	1	1	C1~C6
	0	0	22	French Accrd	French Accrd	French Accrd	c	2	2	2	F2~A5
	0	115	22	Accordion	Accordion	Accordion	c	2	2	2	F2~A5
	0	0	24	Tango Accrd.	Tango Accrd.	Tango Accrd.	c	1	1	1	F2~F5
	0	0	23	Harmonica	Harmonica	Harmonica	c	1	1	1	C3~C5
Strings / Choir	0	115	49	Orch.Strings	Orch.Strings	Orch.Strings	c	2	2	2	C0~C6
	0	0	49	Strings	Strings	Strings	k	1	1	1	C0~C6
	0	0	50	Strings Slow	Strings Slow	Strings Slow	k	1	1	1	C0~C6
	0	112	49	Strings Soft	Strings Soft	Strings Soft	k	1	1	1	C0~C6
	0	113	49	Chamber Str	Chamber Str	Chamber Str	k	1	1	1	C1~C6
	0	0	51	Syn.Strings1	Syn.Strings1	Syn.Strings1	c	2	2	2	C0~C6
	0	0	52	Syn.Strings2	Syn.Strings2	Syn.Strings2	c	2	2	2	C0~C6
	0	115	53	Choir	Choir	Choir	c	2	2	2	E1~E5
	0	112	53	Chapel Choir	Chapel Choir	Chapel Choir	k	1	1	1	E1~E5
	0	0	53	Synth Choir	Synth Choir	Synth Choir	c	2	2	2	E1~E5
	0	0	54	Voice Oohs	Voice Oohs	Voice Oohs	c	1	1	1	C2~G4
	0	0	55	Synth Voice	Synth Voice	Synth Voice	c	1	1	1	C2~C5
	0	112	41	Violin 1	—	—	k	1	—	—	G2~C6
	0	0	41	Violin 2	Violin	Violin	c	1	1	1	G2~C6
	0	0	42	Viola	Viola	Viola	c	1	1	1	C2~E5
	0	0	43	Cello	Cello	Cello	c	1	1	1	C1~E4
	0	0	44	Contrabass	Contrabass	Contrabass	c	1	1	1	E0~G2
	0	0	111	Fiddle	Fiddle	Fiddle	c	1	1	1	G2~C6
	0	0	45	Trem.Strings	Trem.Strings	Trem.Strings	c	2	2	2	E0~C6
	0	0	46	Pizzicato	Pizzicato	Pizzicato	c	1	1	1	C1~C6
	0	0	56	OrchestraHit	OrchestraHit	OrchestraHit	c	1	1	1	C2~C4



グループ	バンク		プログラムナンバー	音色名			パン	エレメント			推奨音域
	MSB	LSB		CVP-79	CVP-69	CVP-59		CVP-79	CVP-69	CVP-59	
Brass	0	115	62	BigBnd Brass	—	—	c	2	—	—	C1~C6
	0	112	62	Brass Sect.1	Brass Sect.1	Brass Sect.1	k	1	1	1	C1~C6
	0	0	62	Brass Sect.2	Brass Sect.2	Brass Sect.2	c	1	1	1	C1~C6
	0	113	62	Pop Brass	Pop Brass	Pop Brass	k	1	1	1	C1~C6
	0	0	63	Synth Brass1	Synth Brass1	Synth Brass1	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	64	Synth Brass2	Synth Brass2	Synth Brass2	c	2	2	2	C1~C6
	0	112	63	Analog Brass	—	—	k	1	—	—	C1~C6
	0	0	57	Trumpet	Trumpet	Trumpet	c	1	1	1	A♯2~A♯5
	0	0	58	Trombone	Trombone	Trombone	c	1	1	1	A♯0~D♯4
	0	0	59	Tuba	Tuba	Tuba	c	1	1	1	F0~G2
	0	0	60	MuteTrumpet1	MuteTrumpet1	MuteTrumpet1	c	1	1	1	A♯2~A♯4
	0	112	60	MuteTrumpet2	MuteTrumpet2	MuteTrumpet2	k	1	1	1	F♯2~A5
	0	0	61	French Horn	French Horn	French Horn	c	1	1	1	F1~F4
Sax / Flute	0	115	67	Breath Sax	Breath Sax	Breath Sax	c	2	2	2	F♯1~D♯4
	0	0	66	Alto Sax	Alto Sax	Alto Sax	c	1	1	1	C♯2~G♯4
	0	0	65	Soprano Sax	Soprano Sax	Soprano Sax	c	1	1	1	F♯2~D♯5
	0	0	67	Tenor Sax	Tenor Sax	Tenor Sax	c	1	1	1	F♯1~D♯4
	0	0	68	Baritone Sax	Baritone Sax	Baritone Sax	c	1	1	1	C♯1~G♯3
	0	112	69	Oboe 1	—	—	k	1	—	—	A♯2~G5
	0	0	69	Oboe 2	Oboe	Oboe	c	1	1	1	A♯2~G5
	0	0	70	English Horn	English Horn	English Horn	c	1	1	1	E2~A♯4
	0	0	71	Bassoon	Bassoon	Bassoon	c	1	1	1	A♯0~F4
	0	112	72	Clarinet 1	—	—	k	1	—	—	D2~G5
	0	0	72	Clarinet 2	Clarinet	Clarinet	c	1	1	1	D2~G5
	0	0	73	Piccolo	Piccolo	Piccolo	c	1	1	1	D4~C7
	0	112	74	Flute 1	—	—	k	1	—	—	G2~F♯6
	0	0	74	Flute 2	Flute	Flute	c	1	1	1	C3~C6
	0	0	75	Recorder	Recorder	Recorder	c	1	1	1	C3~C6
	0	0	76	Pan Flute	Pan Flute	Pan Flute	c	1	1	1	C3~C6
	0	0	77	Blown Bottle	Blown Bottle	Blown Bottle	c	2	2	2	C3~C6
	0	0	78	Shakuhachi	Shakuhachi	Shakuhachi	c	1	1	1	G2~C5
	0	0	79	Whistle	Whistle	Whistle	c	1	1	1	C3~C6
	0	0	80	Ocarina	Ocarina	Ocarina	c	1	1	1	C3~C5
	0	0	110	Bagpipe	Bagpipe	Bagpipe	c	2	2	2	C1~F4
	0	0	112	Shanai	Shanai	Shanai	c	2	2	2	C2~C4
	0	0	81	Square Lead	Square Lead	Square Lead	c	2	2	2	A-1~C7
	0	0	82	Saw. Lead	Saw. Lead	Saw. Lead	c	2	2	2	A-1~C7
	0	0	83	CalliopeLead	CalliopeLead	CalliopeLead	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	84	Chiff Lead	Chiff Lead	Chiff Lead	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	85	Charang Lead	Charang Lead	Charang Lead	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	86	Voice Lead	Voice Lead	Voice Lead	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	87	Fifths Lead	Fifths Lead	Fifths Lead	c	2	2	2	C1~C6
	0	0	88	Bass & Lead	Bass & Lead	Bass & Lead	c	2	2	2	A-1~C7
	0	112	83	Synth Wood	Synth Wood	Synth Wood	k	2	2	2	C2~C6



グループ	バンク		プログラムナンバー	音色名			パン	エレメント			推奨音域
	MSB	LSB		CVP-79	CVP-69	CVP-59		CVP-79	CVP-69	CVP-59	
Bass	0	112	33	Acous.Bass 1	Acous.Bass 1	Acous.Bass 1	k	1	1	1	C0~F♯3
	0	0	33	Acous.Bass 2	Acous.Bass 2	Acous.Bass 2	c	1	1	1	E0~G2
	0	115	33	Acous.Bass 3	Acous.Bass 3	Acous.Bass 3	k	1	1	1	E0~G2
	0	112	34	E.Bass Slap	E.Bass Slap	E.Bass Slap	k	2	2	2	E0~G2
	0	0	34	Finger Bass	Finger Bass	Finger Bass	c	1	1	1	E0~G2
	0	113	34	Elec.Bass	—	—	k	1	—	—	E0~G2
	0	114	34	Heavy Bass	—	—	k	1	—	—	E0~G2
	0	0	35	Picked Bass	Picked Bass	Picked Bass	c	1	1	1	E0~G2
	0	0	36	Fretless	Fretless	Fretless	c	1	1	1	E0~G2
	0	0	37	Slap Bass 1	Slap Bass 1	Slap Bass 1	c	1	1	1	E0~G2
	0	0	38	Slap Bass 2	Slap Bass 2	Slap Bass 2	c	1	1	1	E0~G2
	0	115	37	Hammer Bass	—	—	k	1	—	—	E0~G2
	0	0	39	Analog Bass	Analog Bass	Analog Bass	c	1	1	1	E0~G2
	0	0	40	Synth Bass	Synth Bass	Synth Bass	c	1	1	1	E0~G2
Drums/Perc.	127	0	1	Standard Kit	Standard Kit	Standard Kit	d	1	1	1	* 注1
	127	0	9	Room Kit	Room Kit	Room Kit	d	1	1	1	*
	127	0	17	Rock Kit	Rock Kit	Rock Kit	d	1	1	1	*
	127	0	25	Electro kit	Electro kit	Electro kit	d	1	1	1	*
	127	0	26	Analog Kit	Analog Kit	Analog Kit	d	1	1	1	*
	127	0	33	Jazz Kit	Jazz Kit	Jazz Kit	d	1	1	1	*
	127	0	41	Brush Kit	Brush Kit	Brush Kit	d	1	1	1	*
	127	0	49	Classic Kit	Classic Kit	Classic Kit	d	1	1	1	*
	0	0	48	Timpani	Timpani	Timpani	c	1	1	1	E0~C2
	0	0	113	Tinkle Bell	Tinkle Bell	Tinkle Bell	c	2	2	2	C3~C5
	0	0	114	Agogo	Agogo	Agogo	c	1	1	1	C2~C5
	0	0	115	Steel Drums	Steel Drums	Steel Drums	c	1	1	1	C2~C5
	0	0	116	Woodblock	Woodblock	Woodblock	c	1	1	1	C3~C4
	0	0	117	Taiko Drum	Taiko Drum	Taiko Drum	c	1	1	1	C3~C4
	0	0	118	Melodic Tom	Melodic Tom	Melodic Tom	c	1	1	1	C3~C4
	0	0	119	Synth Drum	Synth Drum	Synth Drum	c	1	1	1	C3~C4
	0	0	120	Reverse Cym.	Reverse Cym.	Reverse Cym.	c	1	1	1	C3~C4
	0	0	121	Fret Noise	Fret Noise	Fret Noise	c	1	1	1	C3~C4
	0	0	122	Breath Noise	Breath Noise	Breath Noise	c	1	1	1	C3~C4
	0	0	123	Seashore	Seashore	Seashore	c	2	2	2	C3~C4
	0	0	124	Bird Tweet	Bird Tweet	Bird Tweet	c	2	2	2	C3~C4
	0	0	125	Telephone	Telephone	Telephone	c	1	1	1	C3~C4
	0	0	128	Gunshot	Gunshot	Gunshot	c	1	1	1	C3~C4
	0	0	126	Helicopter	Helicopter	Helicopter	c	2	2	2	C3~C4
	0	0	127	Applause	Applause	Applause	c	2	2	2	C3~C4



* （注1）ドラムキットリスト（147ページ）をご覧ください。

● バンクLSBが"0"の音色はGMシステムレベル1の音色です。上の表に載っていないGM音色はパネル上では選択できませんが、それぞれのプログラムナンバーを受信すると発音します。
● パンの"c"はセンター、"k"はキーボードの音階に合わせた定位、"d"はドラムキット用の定位を表します。
● エレメントの(S)はステレオ音色を表します。

ドラムキットリスト

Keyboard Note	MIDI Note#	MIDI Note	Key off	Alternate assign	Standard Kit	Room Kit	Rock Kit	Electro Kit	Analog Kit	Jazz Kit	Brush Kit	Classic Kit
C#1	13	C#-1		3	Surdo Mute	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
D1	14	D-1		3	Surdo Open	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
D#1	15	D#-1			Hi Q	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
E1	16	E-1			Whip Slap	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
F1	17	F-1		4	Scratch Push	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
F#1	18	F#-1		4	Scratch Pull	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
G1	19	G-1			Finger Snap	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
G#1	20	G#-1			Click Noise	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
A1	21	A-1			Metronome Click	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
A#1	22	A#-1			Metronome Bell	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
B1	23	B-1			Seq Click L	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
C2	24	C0			Seq Click H	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
C#2	25	C#0			Brush Tap	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
D2	26	D0	○		Brush Swirl L	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
D#2	27	D#0			Brush Slap	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
E2	28	E0	○		Brush Swirl H	<——	<——	Reverse Cymbal	Reverse Cymbal	<——	<——	<——
F2	29	F0	○		Snare Roll	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
F#2	30	F#0			Castanet	<——	<——	Hi Q	Hi Q	<——	<——	<——
G2	31	G0			Snare L	<——	SD Rock M	Snare M	SD Rock H	<——	Brush Slap L	<——
G#2	32	G#0			Sticks	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
A2	33	A0			Bass Drum L	<——	Bass Drum M	Bass Drum H4	Bass Drum M	<——	<——	<——
A#2	34	A#0			Open Rim Shot	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
B2	35	B0			Bass Drum M	<——	Bass Drum H3	BD Rock	BD Analog L	<——	<——	<——
C3	36	C1			Bass Drum H	BD Room	BD Rock	BD Gate	BD Analog H	BD Jazz	BD Soft	Gran Cassa
C#3	37	C#1			Side Stick	<——	<——	<——	Analog Side Stick	<——	<——	<——
D3	38	D1			Snare M	<——	SD Rock	SD Rock L	Analog Snare L	<——	Brush Slap	<——
D#3	39	D#1			Hand Clap	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
E3	40	E1			Snare H	<——	SD Rock Rim	SD Rock H	Analog Snare H	<——	Brush Tap	<——
F3	41	F1			Floor Tom L	Room Tom1	Rock Tom1	E Tom1	Analog Tom1	Jazz Tom1	Brush Tom1	Jazz Tom1
F#3	42	F#1		1	Hi-Hat Closed	<——	<——	<——	Analog HH Closed1	<——	<——	<——
G3	43	G1			Floor Tom H	Room Tom2	Rock Tom2	E Tom2	Analog Tom2	Jazz Tom2	Brush Tom2	Jazz Tom2
G#3	44	G#1		1	Hi-Hat Pedal	<——	<——	<——	Analog HH Closed2	<——	<——	<——
A3	45	A1			Low Tom	Room Tom3	Rock Tom3	E Tom3	Analog Tom3	Jazz Tom3	Brush Tom3	Jazz Tom3
A#3	46	A#1		1	Hi-Hat Open	<——	<——	<——	Analog HH Open	<——	<——	<——
B3	47	B1			Mid Tom L	Room Tom4	Rock Tom4	E Tom4	Analog Tom4	Jazz Tom4	Brush Tom4	Jazz Tom4
C4	48	C2			Mid Tom H	Room Tom5	Rock Tom5	E Tom5	Analog Tom5	Jazz Tom5	Brush Tom5	Jazz Tom5
C#4	49	C#2			Crash Cymbal1	<——	<——	<——	Analog Cymbal	<——	<——	Hand Cym.Open L
D4	50	D2			High Tom	Room Tom6	Rock Tom6	E Tom6	Analog Tom6	Jazz Tom6	Brush Tom6	Jazz Tom6
D#4	51	D#2			Ride Cymbal1	<——	<——	<——	<——	<——	<——	Hand Cym.Closed L
E4	52	E2			Chinese Cymbal	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
F4	53	F2			Ride Cymbal Cup	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
F#4	54	F#2			Tambourine	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
G4	55	G2			Splash Cymbal	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
G#4	56	G#2			Cowbell	<——	<——	<——	Analog Cowbell	<——	<——	<——
A4	57	A2			Crash Cymbal2	<——	<——	<——	<——	<——	<——	Hand Cym.Open H
A#4	58	A#2			Vibraslap	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
B4	59	B2			Ride Cymbal2	<——	<——	<——	<——	<——	<——	Hand Cym.Closed H
C5	60	C3			Bongo H	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
C#5	61	C#3			Bongo L	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
D5	62	D3			Conga H Mute	<——	<——	<——	Analog Conga H	<——	<——	<——
D#5	63	D#3			Conga H Open	<——	<——	<——	Analog Conga M	<——	<——	<——
E5	64	E3			Conga L	<——	<——	<——	Analog Conga L	<——	<——	<——
F5	65	F3			Timbale H	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
F#5	66	F#3			Timbale L	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
G5	67	G3			Agogo H	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
G#5	68	G#3			Agogo L	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
A5	69	A3			Cabasa	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
A#5	70	A#3			Maracas	<——	<——	<——	Analog Maracas	<——	<——	<——
B5	71	B3	○		Samba Whistle H	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
C6	72	C4	○		Samba Whistle L	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
C#6	73	C#4			Guiro Short	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
D6	74	D4	○		Guiro Long	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
D#6	75	D#4			Claves	<——	<——	<——	Analog Claves	<——	<——	<——
E6	76	E4			Wood Block H	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
F6	77	F4			Wood Block L	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
F#6	78	F#4			Cuica Mute	<——	<——	Scratch Push	Scratch Push	<——	<——	<——
G6	79	G4			Cuica Open	<——	<——	Scratch Pull	Scratch Pull	<——	<——	<——
G#6	80	G#4		2	Triangle Mute	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
A6	81	A4		2	Triangle Open	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
A#6	82	A#4			Shaker	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
B6	83	B4			Jingle Bell	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——
C7	84	C5			Bell Tree	<——	<——	<——	<——	<——	<——	<——

●「<——」はStandard Kitと同じであることを示します。
●ドラムキットの音色はMIDI NOTE#（ノートナンバー）によって他のMIDI機器と送/受信を行います。
●Key Off に「○」がついているものは鍵盤を離したときに発音が止まります。
●Alternate Assign の番号はグループを表し、同じグループ番号の中で、1つの楽器を発音させると同じグループの中の他の楽器の発音が止まります。

伴奏スタイルリスト

グループ	スタイル名	拍子
POP	Pop Ballad 1	4/4
	Pop Ballad 2	4/4
	Light Pop	4/4
	Piano Ballad	4/4
	Organ Ballad	4/4
	8Beat	4/4
	Folk	4/4
	Pop Rhumba	4/4
	NewAge	4/4
16BEAT	16Bt Ballad1	4/4
	16Bt Ballad2	4/4
	16Bt Ballad3	4/4
	16Beat Pop	4/4
	Funk	4/4
	Fusion	4/4
	Fusion Balad	4/4
	Fusion Shffl	4/4
	Funky Jazz	4/4
DANCE POP	Dance Pop1	4/4
	Dance Pop2	4/4
	Eurobeat	4/4
	Techno	4/4
	Synth Boogie	4/4
	Disco Soul	4/4
	Party Pop	4/4
	Tropical	4/4
ROCK	Upbeat Pop	4/4
	Rock Ballad	4/4
	Rock & Roll	4/4
	Rock Shuffle	4/4
	Pop Shuffle	4/4
	Jazz Rock	4/4
	Twist	4/4
	Soul	4/4
	Rhythm&Blues	4/4

グループ	スタイル名	拍子
BALLAD	Jazz Ballad1	4/4
	Jazz Ballad2	4/4
	Slow Rock 1	4/4
	Slow Rock 2	4/4
	Blues	4/4
	BigBandBalad	4/4
	Gospel	3/4
	Enka	4/4
	Pops Enka	4/4
JAZZ	Swing	4/4
	Cool Jazz	4/4
	Uptempo Jazz	4/4
	Bigband Jazz	4/4
	Dixieland	4/4
	Boogie	4/4
	Charleston	4/4
	2Beat Swing	4/4
	Foxtrot	4/4
	Trad. Swing	4/4
LATIN	Rhumba 1	4/4
	Rhumba 2	4/4
	Mambo	4/4
	Tango	4/4
	Cha Cha	4/4
	Bolero	4/4
	Beguine	4/4
	Merengue	4/4
	Son	4/4
LATIN POP	Bossanova1	4/4
	Bossanova2	4/4
	Pop Bossa	4/4
	Reggae	4/4
	Pop Reggae	4/4
	Samba 1	4/4
	Samba 2	4/4
	Jazz Samba	4/4
	Salsa	4/4

グループ	スタイル名	拍子
TRADITIONAL	March 1	4/4
	March 2	4/4
	Polka	4/4
	6/8 March	4/4
	Tarantella	4/4
	Showtune	4/4
	Show Time	4/4
	Overture	4/4
	Ragtime	2/4
COUNTRY	Bluegrass	4/4
	8Beat Cntry	4/4
	Country Rock	4/4
	Country Pop	4/4
	Folk Rock	4/4
	Country Shfl	4/4
	Cntry 2 Step	4/4
	Cntry Ballad	4/4
	CowboyBoogie	4/4
WALTZ	Trad. Wlatz1	3/4
	Trad. Waltz2	3/4
	CntryT.Waltz	3/4
	Vienna Waltz	3/4
	Flamenco	3/4
	Jazz Waltz	3/4
	Swing Waltz	3/4
	Cntry Waltz	3/4
	Slow Waltz	3/4
	Gospel Waltz	3/4

バックアップ項目一覧表

	ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ	リコール	初期設定（初期値）
音色に関する設定			**バックアップ off**
手弾きの音色	○	○	Grand Piano 1
手弾きの音量	○	○	100
スプリットポイント	○	○	F♯2
デュアルモード	―	○	Off
スプリットモード	―	○	Off
第2音色	○	○	Strings Slow
左領域音色	○	○	Acous. Bass 1
デュアル音量バランス	○	○	同音量
スプリット音量バランス	○	○	同音量
デチューンの深さ	○	○	5
リバーブ On/Off	○	○	On
リバーブタイプ	○	○	Hall 1
リバーブデプス （トータル, リズム, ベース, コード, 鍵盤の手弾き音）	○	○	50
エフェクト On/Off	○	○	音色ごとに異なる設定値
エフェクトタイプ	○	○	音色ごとに異なる設定値
エフェクトデプス （第1/右領域音色） （第2/左領域音色）	○	○	 音色ごとに異なる設定値 50
タッチセンシティビティ	○	○	Normal
第1/右領域 オクターブシフト	○	○	0
左領域 オクターブシフト	○	○	+1
第2音色 オクターブシフト	○	○	0
第1/右領域 パン	○	○	中央
左領域 パン	○	○	中央
第2音色 パン	○	○	中央
トランスポーズ	○	○	0
音色グループ内 の音色選択	○	○	各音色グループの 最初の音色
伴奏スタイルに関する設定			**バックアップ off**
自動伴奏 On/Off	―	○	Off
スモール ABC On/Off	―	○	Off
ハーモニー On/Off	―	○	Off
ハーモニー タイプ	○	○	Trio
伴奏スタイル	○	○	Pop Ballad 1
メイン A/B	―	○	Main A
テンポ	○	○	伴奏スタイルごとのテンポ
リズム ボリューム	○	○	90
ベース ボリューム	○	○	90
コード ボリューム	○	○	90
パッド ボリューム	○	○	90
フレーズ ボリューム	○	○	90
ハーモニー ボリューム	○	○	90
メトロノーム	○	○	Normal
ワンタッチセッティングの 設定選択 (CVP-79/69)	○	○	LCD画面のリストの 最初のセッティング
スタイルグループ内の スタイル選択	○	○	各スタイルグループの 最初の伴奏スタイル
ソングに関する設定			**バックアップ off**
ソングリストプライオリティ	○	○	DOC
ガイドモード	○	○	Next Note
パート割り当て	○	○	Part1=Track1, Part2=Off

	ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ	リコール	初期設定（初期値）
音色に関する設定			**バックアップ off**
送信チャンネル（第1/右領域）	○	○	1 ch
送信チャンネル（左領域）	○	○	Off
ローカルコントロール On/Off	○	○	On
クロック 内部/外部	○	○	Int.（内部）
プログラムチェンジの 送信と受信 /Off	○	○	Send & Receive
コントロールチェンジの 送信と受信 /Off	○	○	Send & Receive
スタート/ストップの 送信と受信 /Off	○	○	Send & Receive
トランスポーズの受信 On/Off	○	○	On
トランスポーズの送信 On/Off	○	○	Off
自動伴奏とリズムの送信 On/Off	○	○	Off
ハーモニーの送信 On/Off	○	○	Off
チューン/マイクロチューニング			**バックアップ off**
チューン	○	―	440.0
マイクロチューニング	○	―	0
ペダル			**バックアップ off**
レフトペダル機能	○	―	Soft
ダンパーレンジ	○	―	R
ダンパーモード（CVP-79）	○	―	Continuous
ポップアップとアラート			**バックアップ on**
音色/伴奏スタイルの表示時間	○	―	8
その他のポップアップ表示時間	○	―	8
アラート音色	○	―	Steel Drums
アラートボリューム	○	―	50
自動伴奏（ABC）モード			**バックアップ on**
ABCの種類	○	―	Single Finger
REGISTRATION	○	○	Backup On
ALL SETUP	―	○	―

*** "REGISTRATION" は25個（CVP-79/69）または15個（CVP-59）のすべてのレジストレーションメモリーに登録されている内容の一式です。登録内容については69ページの「レジストレーション機能を使う」をご覧ください。**
*** "ALL SETUP" は表のすべてのパラメーター("ー"のマークの項目も含む）と "REGISTRATION" のデータを含みます。**

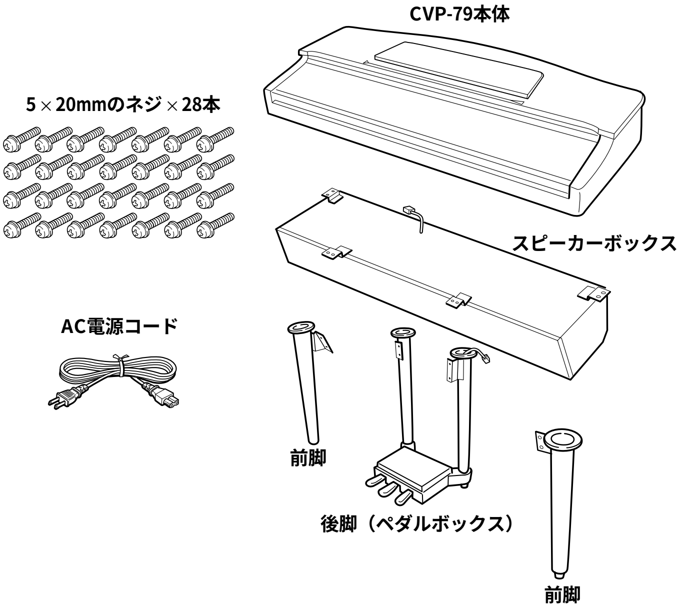
*** LCDコントラスト、ヘルプの言語、そしてこのバックアップのON/OFFの設定自体は常にバックアップされています。**
*** LCDコントラスト、ヘルプの言語、バックアップのON/OFFの設定は、リコール機能を使っても初期値（工場出荷時の設定）には戻りません。これらの設定も含めたすべての設定を初期値に戻すには、C7（一番右の鍵盤）を押しながら【POWER】をONにします。なお、初期値はLCDコントラスト=10、ヘルプの言語=英語、になっています。**

CVP-79の組み立て方

ご注意

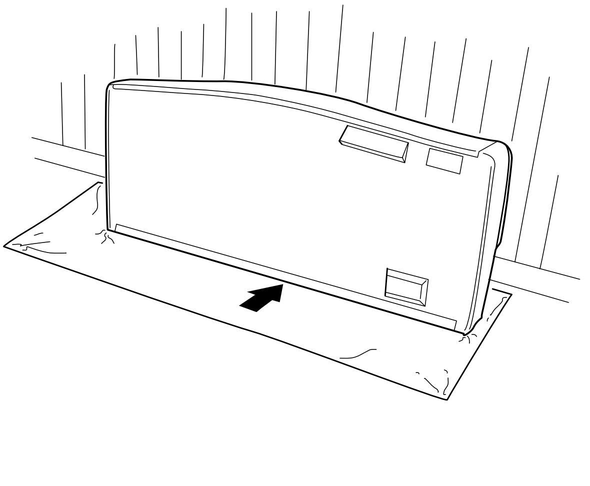
■部品を間違えたり、向きを間違えないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
■組み立ては必ず2人以上で行ってください。
■組み立て前に＋（プラス）のドライバーをご用意ください。
■ネジは付属の指定サイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
■ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
■解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

1 箱を開けて部品を取り出します。部品がすべてそろっているか確かめてください。

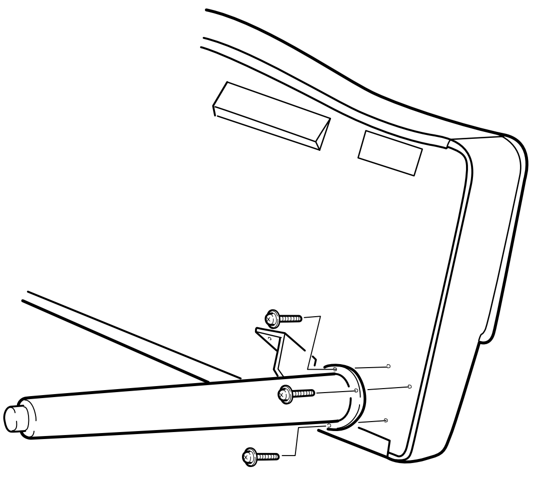


2 キーカバーを閉めたまま、本体を床に置きます。

毛布などの柔らかい布を床に敷いて、図のように本体を床に置きます。このとき、本体が倒れないように壁に立てかけてください。



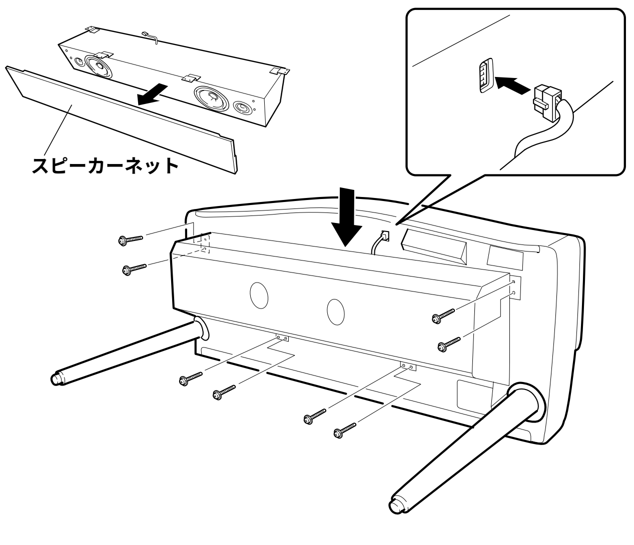
3 左右の前脚を取り付けます。



3本ずつのネジで取り付けます。

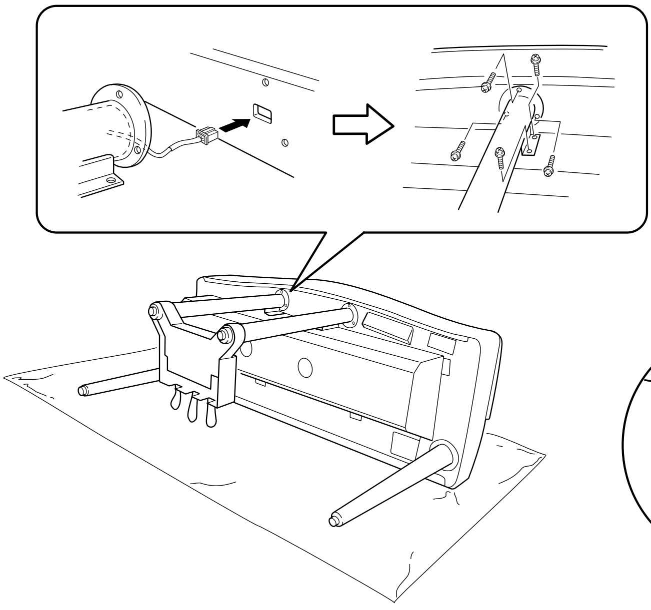
4 スピーカーボックスを取り付けます。

スピーカーボックスから、マジックテープで付いているスピーカーネットを外します。スピーカーに直接手を触れないように注意してください。
スピーカーボックスを前脚の金具にそっとのせて、スピーカーコードがボックスの後ろからきちんと出ていることを確かめます。８本のネジで止めます。
コネクターを本体に差し込みます。（ツメの位置は左）



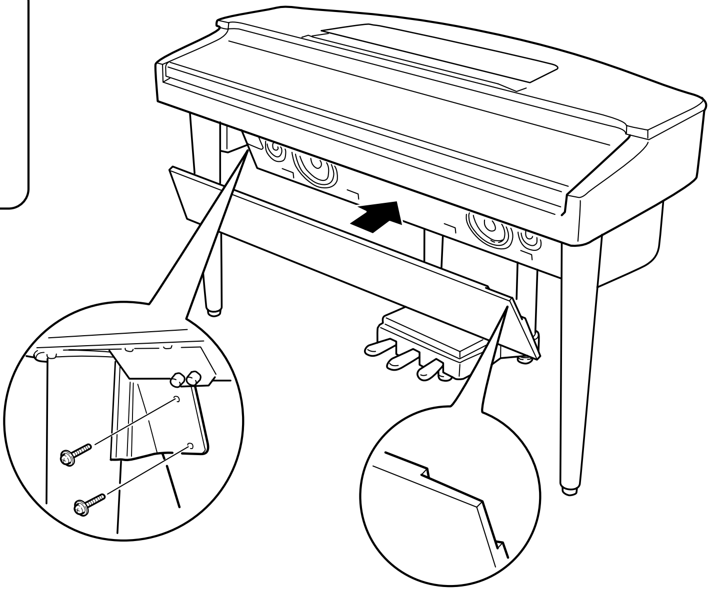
5 後脚（ペダルボックス）を取り付けます。

ネジで後脚を取り付ける前に、コネクターを本体に差し込みます。（ツメの位置は上）
余ったコードを脚の中に入れて、5本ずつのネジでしっかり固定します。

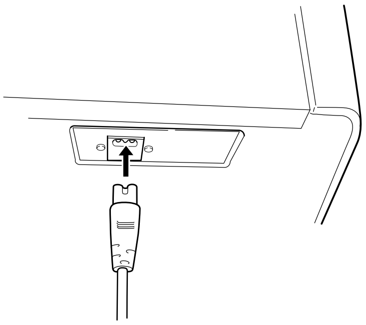


6 スピーカーボックスの保護をします。

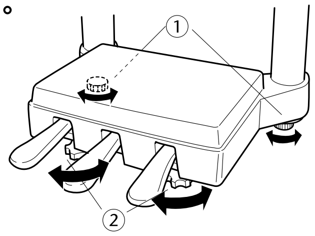
本体を起こして脚で立たせます。
前脚の金具とスピーカーボックスを左右2本ずつのネジで止めます。ネジ穴の位置が合わないときは、前脚の他のネジを少しゆるめて合わせます。スピーカーボックスをしっかり固定したら、前脚のネジをしっかり増し締めします。
マジックテープでスピーカーネットを取り付けます。スピーカーネットの切り欠き部分を上にしてください。



7 電源コードを本体に差し込みます。



8 ①本体が、がたつかないよう後部のアジャスター2つを調節します。②その後ペダルのアジャスター2つを床にあたるまでまわします。



ご注意
組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

■部品が余っていませんか？
▶組み立て手順を再確認してください。

■部屋のドアなどがクラビノーバに当たりませんか？
▶クラビノーバを移動してください。

■クラビノーバをゆすると、がたがたしませんか？
▶ネジを確実に締めてください。

■ペダルを踏むとペダルボックスがガタガタしませんか？
▶アジャスターを回して床にぴったりつけてください。

■ペダルコードのコネクターが確実に本体に差し込まれていますか？
▶確認してください。

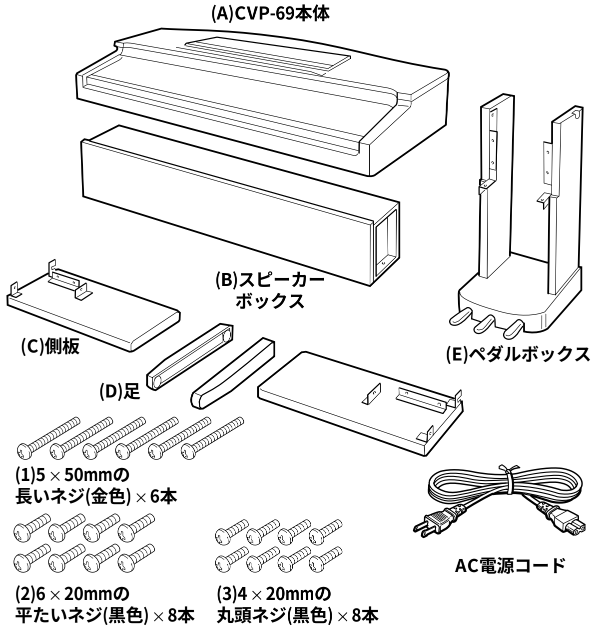
■使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらつくなどの症状が出たら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

CVP-69の組み立て方

ご注意

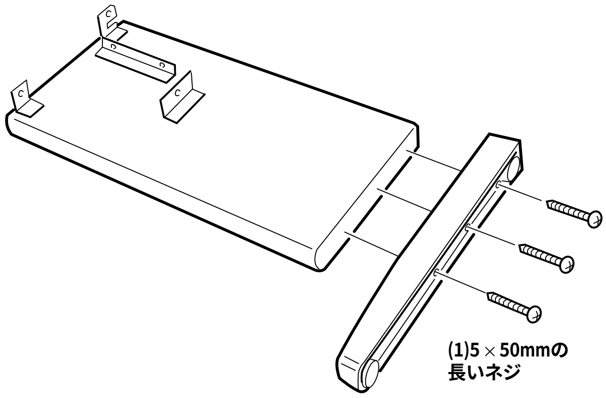
■部品を間違えたり、向きを間違えないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
■組み立ては必ず2人以上で行ってください。
■組み立て前に＋(プラス)のドライバーをご用意ください。
■ネジは付属の指定サイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
■ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
■解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

1 箱を開けて部品を取り出します。部品がすべてそろっているか確かめてください。



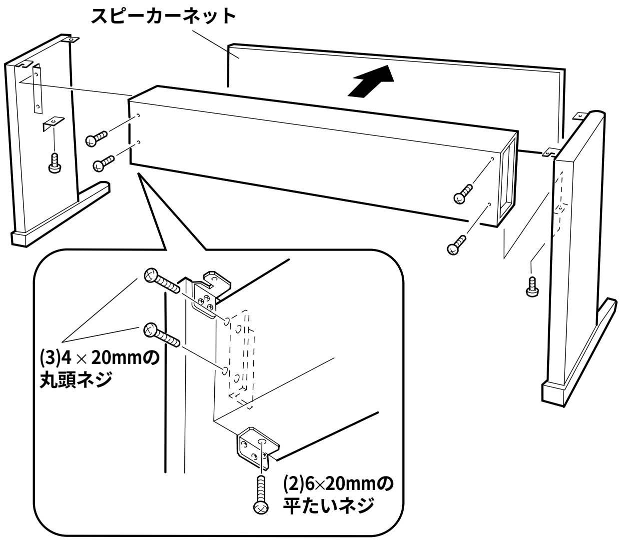
2 足(D)を側板(C)に取り付けます。

5×50mmの長い金色ネジ(1)を片側3本ずつ使って固定します。側板の角の丸い方と足の傾斜のついた側が、同じ方向にくるようにします。



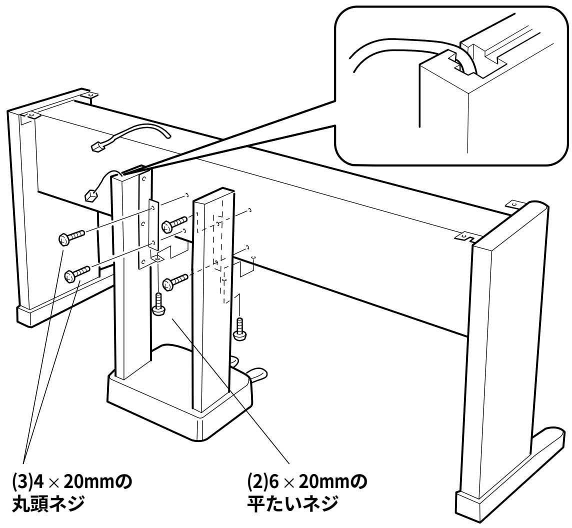
3 スピーカーボックス(B)を側板(C)に取り付けます。

スピーカーボックスから、マジックテープで付いているスピーカーネットを外します。スピーカーに直接手を触れないように注意してください。スピーカーボックスを側板に合わせます。スピーカーボックスの側面にあたる金具はスピーカーボックスの内側に来るようにします。
6×20mmの平たいネジ(2)を底面の金具に、4×20mmの丸頭ネジ(3)を側面の金具に固定します



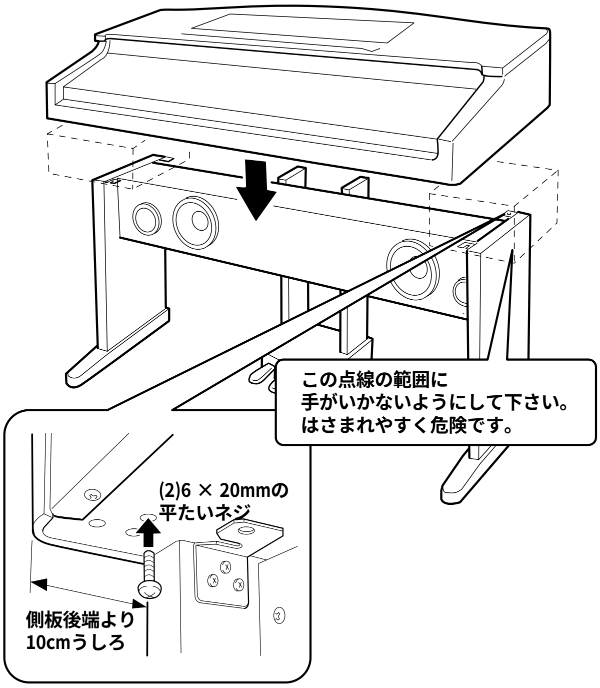
4 ペダルボックス(E)をスピーカーボックス(B)に取り付けます。

6×20mmの平たいネジ(2)を底面の金具に、4×20mmの丸頭ネジ(3)を後面の金具に固定します。
ペダルコードがくぼみから外へ、スピーカーコードが後ろへ出ていることを確かめてください。



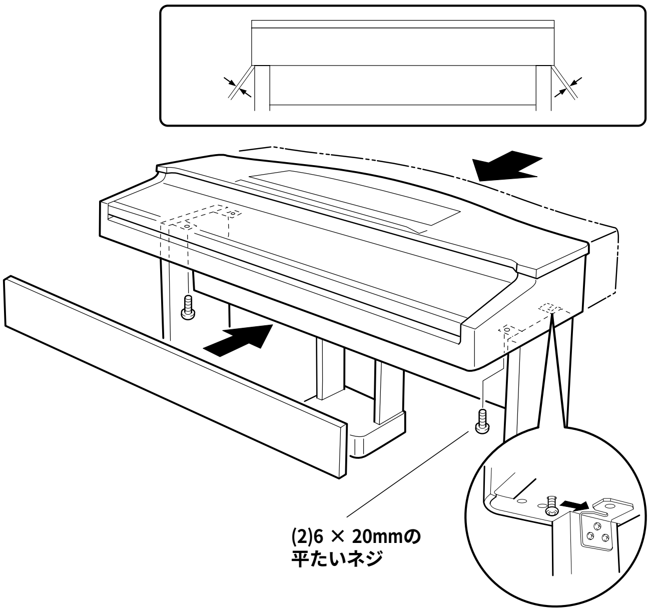
5 CVP69本体(A)を取り付けます。（その1）

CVP69本体(A)をスピーカーボックス(B)の上に、手をはさまれないように十分注意しながらゆっくり載せます。このとき側板後端より本体が10cmうしろに出る位に置きます。
6×20mmの平たいネジ(2)を、本体底面の一番内側のネジ穴に1cm位残してねじ込みます。



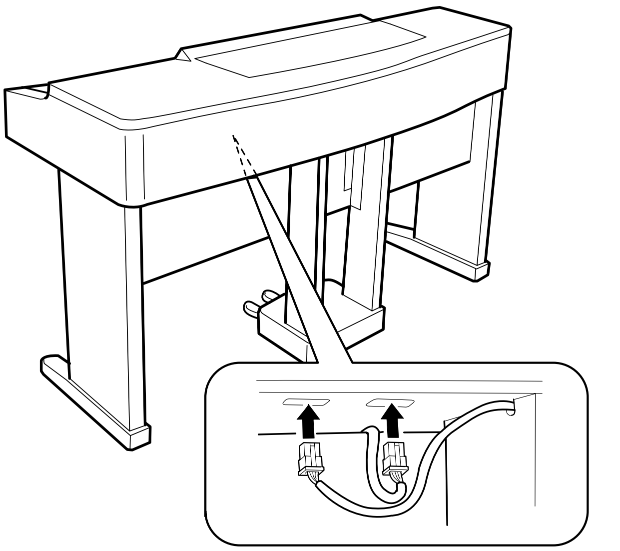
6 CVP69本体(A)を取り付けます。（その2）

1cm残してねじ込んだネジの頭が、側板の後部の金具のみぞの奥に突き当たるまで本体を前にずらします。
側板の前部の金具の穴に本体のネジ穴が合うように、また、このとき本体が左右に同じくらい出るように中央を合わせます。
前部の金具に6×20mmの平たいネジ(2)を、また、後部の1cm残してるネジをしっかり締めて固定します。
スピーカーネットの上端を本体の底面にぴったり合わせて、マジックテープで固定します。

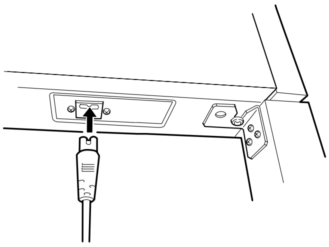


7 スピーカーコードとペダルコードを接続します。

スピーカーコードを右側（ペダルに近いほう）に、ペダルコードを左側に差し込みます。このときコネクターのつめが、両方とも本体の背面に向くようにします。



8 AC電源コードを差し込みます。



ご注意

組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

■部品が余っていませんか？
▶組み立て手順を再確認してください。

■部屋のドアなどがクラビノーバに当たりませんか？
▶クラビノーバを移動してください。

■クラビノーバをゆすると、がたがたしませんか？
▶ネジを確実に締めてください。

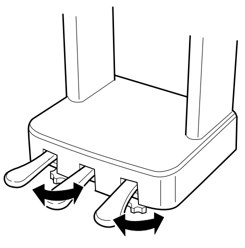
■ペダルを踏むとペダルボックスがガタガタしませんか？
▶アジャスターを回して床にぴったりつけてください。

■ペダルコードのコネクターが確実に本体に差し込まれていますか？
▶確認してください。

■使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらつくなどの症状が出たら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

9 ペダルボックスの下に付いているアジャスターを緩めて、床につけます。

クラビノーバの設置が終わったら、ペダルを動作させても、がたがたしないように床にアジャスターがしっかり当たるまで回します。

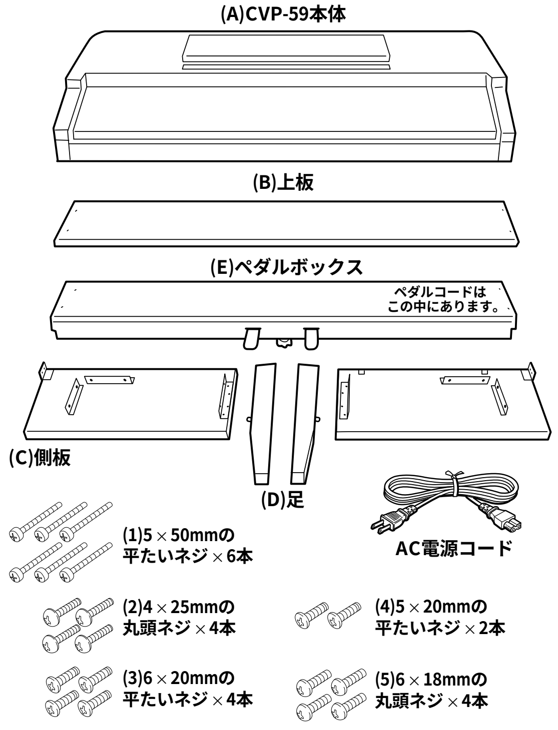


CVP-59の組み立て方

ご注意

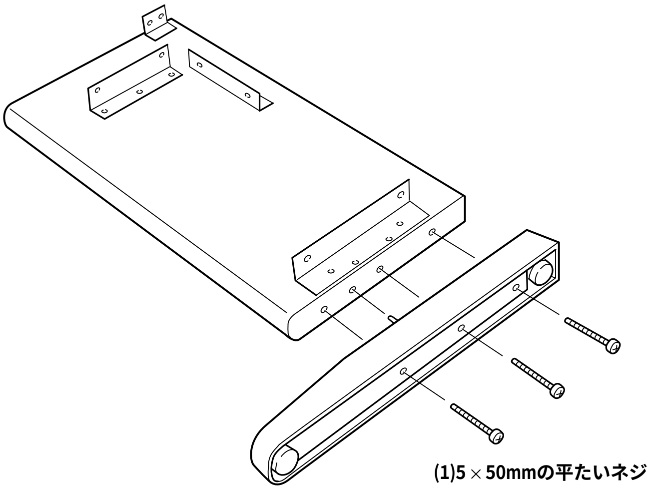
■部品を間違えたり、向きを間違えないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
■組み立ては必ず2人以上で行ってください。
■組み立て前に＋（プラス）のドライバーをご用意ください。
■ネジは付属の指定サイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
■ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
■解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

1 箱を開けて部品を取り出します。部品がすべてそろっているか確かめてください。



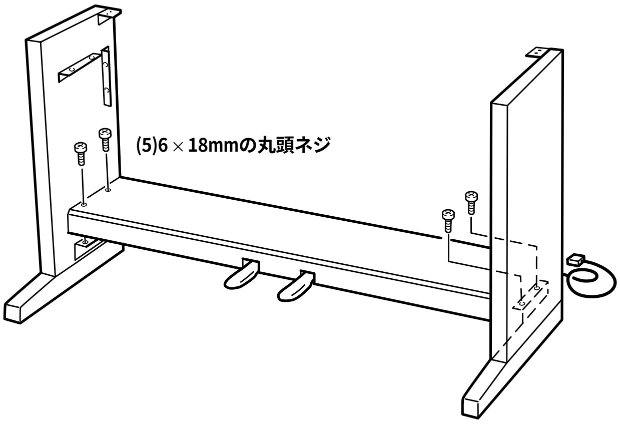
2 足(D)を側板(C)に取り付けます。

5×50mmの平たいネジ(1)を片側3本ずつ使って固定します。側板の角の丸い方と足の傾斜のついた側が同じ方向にくるようにします。



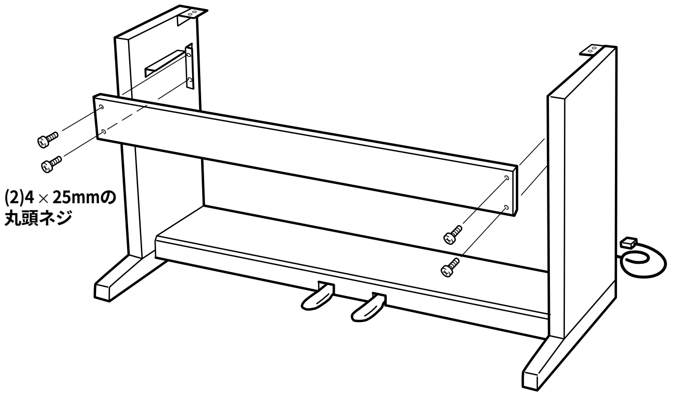
3 側板(C)をペダルボックス(E)に取り付けます。

取り付ける前に、ペダルボックスのコードを外に伸ばします。
側板(C)の金具の上にのせ、6×18mmの丸頭ネジ(5)を片側2本ずつ使って固定します。ペダルが前を向くようにしてください。



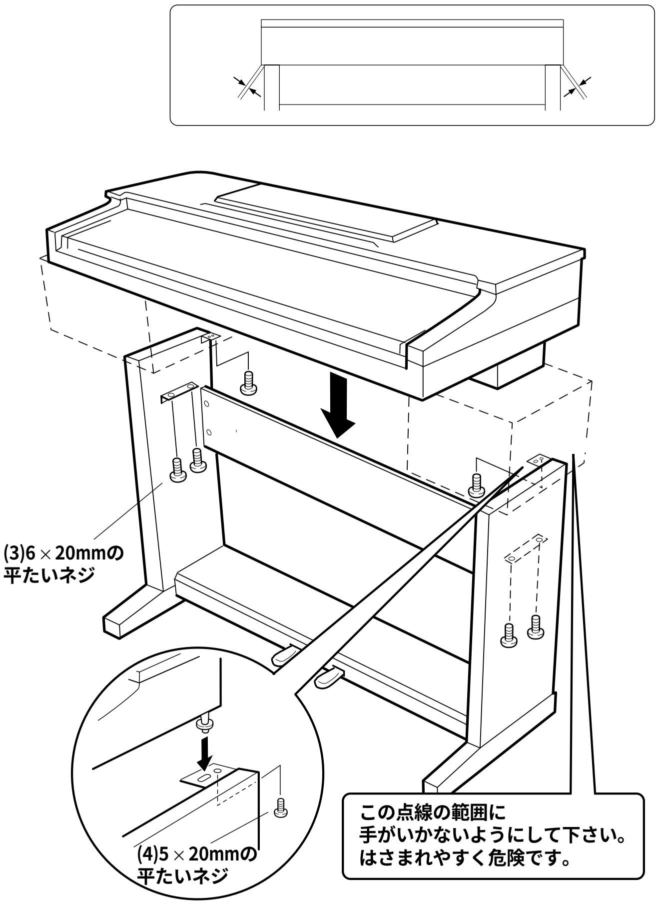
4 上板(B)を側板(C)に取り付けます。

側板(C)の垂直の金具に、4×25mmの丸頭ネジ(2)で上板(B)を固定します。



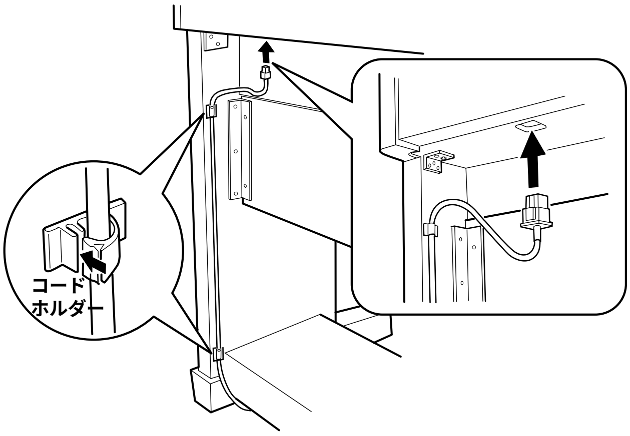
5 CVP59本体(A)を取り付けます。

本体(A)を側板(C)の上に、手をはさまれないように十分注意しながら、本体底部突起を側板の止め金具の穴に合わせてゆっくり載せます。
本体が左右に同じくらい出るように中央を合わせます。
本体前側は6×20mmの平たいネジ(3)4本で、本体うしろ側は5×20mmの平たいネジ(4)2本でしっかり固定します。

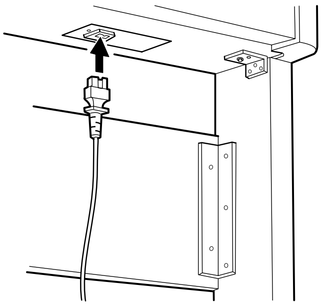


6 ペダルコードを接続します。

側板の2つのコードホルダーを通して、ペダルコードを本体に接続します。
コネクターのつめが、本体の背面に向くように差し込みます。
コードホルダーを閉じてコードをしっかり固定します。

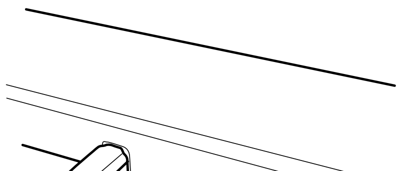


7 電源コードを本体に差し込みます。



8 ペダルボックスの下に付いているアジャスターを緩めて、床につけます。

クラビノーバの設置が終わったら、ペダルを動作させても、がたがたしないように床にアジャスターがしっかり当たるまで回します。



ご注意

組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

■部品が余っていませんか？
▶組み立て手順を再確認してください。

■部屋のドアなどがクラビノーバに当たりませんか？
▶クラビノーバを移動してください。

■クラビノーバをゆすると、がたがたしませんか？
▶ネジを確実に締めてください。

■ペダルを踏むとペダルボックスがガタガタしませんか？
▶アジャスターを回して床にぴったりつけてください。

■ペダルコードのコネクターが確実に本体に差し込まれていますか？
▶確認してください。

■使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらつくなどの症状が出たら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

仕様

		CVP-79	CVP-69	CVP-59
鍵盤		88鍵（A-1～C7）		
音源		AWM音源		
音色		音色グループ：ピアノ、エレクトリックピアノ、ハープシコード、ギター、クラビノーバトーン/シンセ、オルガン、ストリングス/クワイア、ブラス、 サックス/フルート、ベース、ドラムス/パーカッション（CVP-79=192種類、CVP-69/59=172種類） デュアル、スプリット、エフェクト(CVP-79=20種類. CVP-69/59=17種類)、リバーブ(ホール1、ホール2、ルーム1、ルーム2、ルーム3、ステージ1、ステージ2、 プレート、ホワイトルーム、トンネル、キャニオン(CVP-79のみ)、ベースメント)		
キーボードパーカッション		8ドラムキット（各ドラムキットに72種類の音色）		
伴奏スタイル		スタイルグループ：ポップ、16ビート、ダンスポップ、ロック、バラード、ジャズ、ラテン、ラテンポップ、トラディショナル、カントリー、ワルツ（100種類） ディスク/カスタム コントロール：スタート/ストップ、タップ、シンクロ、イントロ A/フィル トゥー A、イントロ B/フィル トゥー B、メインA、メインB、エンディング、 メトロノーム、テンポ-/+		
自動伴奏(ABC)		シングルフィンガー、フィンガード、フルキーボード、スモールABC、ハーモニー、ワンタッチセッティング、コードアシスト、パート別ボリュームコントロール		
レジストレーション		バンクA–E(CVP-79/69)×5メモリー=25種類、バンクA–C(CVP-59)×5メモリー=15種類、ABCフリーズ		
ソングプレイモード		ガイド機能、リピート機能、パート別ボリュームコントロール コントロール：プレイ、ガイド、巻き戻し、早送り、一時停止、スタート/ストップ		
ソングレコードモード		クイック録音、マルチトラック録音、コードシーケンス録音、トラックエディット、イニシャルエディット		
LCD/コントロールスイッチ		240×64ドット液晶ディスプレイ、コントラスト、ビート、ファンクション、ミキサー、ページ◀/▶、ディスプレイホールド、 5 LCDボタン、ダイアル、-/+、エグジット		
ボリューム		マスターボリューム、ABC/ソング ボリューム		
デモ/ヘルプ		25デモ曲、4ヘルプ言語（英、日、独、仏）		
ディスクドライブ		3.5インチ マイクロ フロッピー ディスクドライブ（2DD, 2HD）		
ペダルコントロール	**右ペダル**	ダンパー		
	センターペダル	ソステヌート		——
	左ペダル	マルチファンクション：ソフト、スタート/ストップ、ハーモニー オン/オフ、レジストレーション+、イントロ A/フィル トゥー A、 イントロ B/フィル トゥー B、エンディング/リット、ブレイク、ソステヌート（CVP-59 のみ）		
付属端子		ヘッドフォン端子×2、AUX出力端子（L/L+R, R）、エクスプレッション端子（CVP-79のみ）、AUX入力端子(L/L+R.R)		
MIDI端子		MIDI IN/OUT/THRU		MIDI IN/OUT
入力/出力仕様		AUX OUT：出力インピーダンス 600Ω/AUX IN：入力インピーダンス 10kΩ、入力感度：-10dBm		
メインアンプ		120W (60W×2)	120W (60W×2)	60W (30W×2)
スピーカー		(16cm + 5cm)×2、5cm×2	(16cm + 5cm)×2、5cm×2	16cm×2、5cm×2
定格電源		AC100V　50/60Hz		
消費電力		80W		45W
寸法　[間口×奥行×高さ] **（　）内は譜面立てを立てた場合**		1417mm×590mm×847mm (1417mm×590mm×1023mm)	1417mm×590mm×848mm (1417mm×590mm×1019mm)	1417mm×543mm×848mm (1417mm×543mm×1019mm)
重量		70.0kg	71.5kg	67.5kg

＊仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

オプション(別売品)のご紹介

フットコントローラー　FC7 (CVP-79のみ)
¥6,000

ヘッドフォン　HPE-160
¥5,500

ディスクオーケストラ・コレクション

オーケストラ音源をバックにピアノプレイが楽しめます。
(各巻¥3,000～¥5,000)

ピアノプレーヤ・ソフト

ピアノソロ鑑賞用としてお楽しみいただけます。
(アーティストシリーズ各巻¥5,500より)
(リスニングシリーズ他、各巻¥4,000より)

ピアノ・ア・ラ・モード

クラビノーバ、ピアノプレーヤ共用のアンサンブルソフトです。
(各巻税込み価格¥1,854～¥1,869)

スタイルファイルディスク

いろいろな伴奏スタイルがお楽しみいただけます。

●表示の価格には、消費税は含まれていません。

CVP-79/69/59とソフトの対応一覧　(○…再生可能、×…再生不可)

ソフト名称		再生
ディスクオーケストラ・コレクション(DOC)	YAMAHA	○
ピアノプレーヤ・ソフト	YAMAHA	○　注1)
ピアノ・ア・ラ・モード	YAMAHA	○
ピアノプレーヤ・アンサンブルソフト	YAMAHA	○
キーボードジャム	YAMAHA	○　注2)
COMPUTER MUSIC COLLECTION	YAMAHA	○
GMソフト(SMFフォーマット)	一般	○　注3)
エレクトーン専用ソフト	YAMAHA	×

注1) 一部タイトルを除く。(詳しくはカタログをご覧ください。)
注2) 通常はDOCデータが再生される。モードを切り替えると("ソングリストプライオリティ"、P119)GMデータも再生可能。
注3) 再生できるのは、MS-DOS720KB(ｷﾛﾊﾞｲﾄ)フォーマットの2DDディスクと、MS-DOS1.44MB(ﾒｶﾞﾊﾞｲﾄ)フォーマットの2HDディスク。
＊上記YAMAHAソフトに関してのお問い合わせは、お買い上げ店または下記へ、ご連絡ください。
(株)ヤマハミュージックメディア
〒150　東京都渋谷区桜丘町8-27　TEL 03-3462-6212(代表)

索引

A

A-B REPEAT 80
A-Bリピート 80
ABC FREEZE 71
ABC ON 46
ABC/SONG VOLUME 17
ABC&RHY 84
ABC固定 71
ABCハーモニー 52
ABCモード 46
ALERT SOUND 119
ALL 73
ALL DELETE 92
ALL LOAD 66

B

BACKUP 117
BAL 29
BANK 70
BASS 34, 49
BEAT 41, 56

C

c.del 60, 109
c.set 60, 109
CHECK PLAY 92
CHORD 34, 49
CHORD ASSIST 51
CHORD SEQ. 90
CHORD SEQUENCE 90
CLOCK 104
CONTRAST 21
CONTROL 105
CURSOR 90
CUSTOM STYLE 55
CVP MEMORY 98
CVP PERFORMANCE 110

D

DAMPER MODE 102
DAMPER RANGE 102
DELETE 92, 94, 110, 113, 116
DEPTH 1(R) 36
DEPTH 2(L) 36
DETUNE DEPTH 29
DISK 1-1 111
DISK 1-2 111
DISK/CUSTOM 55
DISK/CUSTOM STYLE 66
DISPLAY HOLD 20
DUAL 28

E

EFFECT 35, 62
END 92
END MARK 92
ENDING 56
EXIT 21
EXP PEDAL 18

F

FF 80
FILL IN 56
FINGER CHORD 46
1ST KEY 89
FORMAT 107
FULL KBD 46
FUNCTION 99

G

GM(General MIDI) 127
GUIDE 78

H

HARMONY 50, 52

I

INITIAL EDIT 96
INITIAL EDIT[SONG] 96
INITIAL EDIT[TRACK] 96
INTRO 56
INTRO A/FILL TO A 40, 42
INTRO B/FILL TO B 42

K

KBD 34, 50, 84
KEY TOUCH 101
KEYBOARD 100

L

L&R VOICE 76
LCD画面 19
LCDボタン 19
LEFT 74, 101
LEFT PEDAL 102
LEFT VOICE 30
LISTEN 67
LOAD 109, 116
LOAD SINGLE 66
LOCAL 104

M

MAIN A 40, 56
MAIN B 40, 56
MASTER VOLUME 17
MEAS 57
MEMORY 67, 70
METRONOME 44
MICRO TUNING 114
MIDI 1 103
MIDI 2 104
MIDI 3 105
MIDI FILTER 104
MIDI受信 103
MIX 93
MIXER 17, 21, 49, 76
MOMORY NO. 63

N

NEXT NOTE 77

O

OCTAVE SHIFT 100
ORCH 74
OTHERS 74

P

PAD 49
PAGE 20
PAN 62, 101
PART 1 .... 74, 75
PART 2 .... 74, 75
PAUSE 80
PEDAL 89, 102
PHRASE 49, 79
PIANO FORMAT 1 110
PIANO FORMAT 2 110
PLAY 72
POPUP TIME 118
PRESET 50
PROGRAM 104
PUNCH IN/OUT 88

Q

QUICK RECORD 83

R

RANDOM 73
REC 58
RECALL 118
RECALL SECTION 61
REGISTRATION 70, 108
RENAME 60, 95, 109, 116
REPEAT MODE 79
REVERB 33, 62
REVERB PART DEPTH 34
REW 80
RHYTHM 34, 49
RHYTHM OFF 92
RHYTHM ON 92
RIGHT 74
RIGHT/1 101
ROOT 51, 90
ROTATE 51

S

SAVE 109, 115
2ND 101
SEND CH 103
SINGLE FINGER 46
SMALL ABC 50
SMF(Standard MIDI File) 129
SOLO 75
SONG 73, 83
SONG COPY 111
SONG DELETE 113
SONG LIST PRIORITY 119
SONG PLAY[LIST] 73
SONG PLAY[MAIN] 73, 75, 78
SONG PLAY[PART ASSIGN] 75
SONG PLAY[REPEAT] 79
SONG PLAY[TRACK PLAY] 74
SOUND 77, 101
SPLIT 30
SPLIT POINT 50
START 73
START/STOP 40, 105
STORE 61
STYLE 38
STYLE CLEAR 62
Style File Format 66
STYLE FILE LOAD 66
STYLE SELECT 38
SYNCHRO 41

T

TAP 41
TEMPO 39
TOTAL DEPTH 34
TRACK 74
TRACK DELETE 94
TRACK MIX 93
TRACK QUANTIZE 94
TRACK RECORD 86
TRANS. 100
TRANSFORM 110
TRANSPOSE 105
TRK A 93
TRK B 93
TRK C 93
TUNE 101, 114
TYPE 51, 90

U

UNDO 59, 93

V

VOICE 26
VOICE EFFECT 35
VOLUME 62

ア

アラートサウンド 119

イ

一時停止 80
イニシャルエディット 96
イニシャルエディット[ソング] 96
イニシャルエディット[トラック] 96
イントロ 40
イントロA/フィルトゥーA 40, 42
イントロB/フィルトゥーB 42

エ

エフェクト 35, 62
エフェクトタイプリスト 35
エフェクトデプス 36

オ

オクターブシフト 100
音色 26
音量バランス 29, 31

カ

カーソル 90
ガイド機能 77
カスタムスタイル 55
画面送り 20
画面固定 20

キ

キーボード 100
キーボードパーカッション 27

ク

クイック録音 83
クオンタイズ 59, 94
クリア 62
クロック 104

コ

コード 49
コードアシスト 51
コードシーケンス 90
コードのタイプ 51
コードのルート音 51
コントラスト 21
コントロール 105

サ

再生 72
最大同時発音数 27
サウンド 101

シ

ジェネラルMIDI 127
自動伴奏(ABC) 45
シングルフィンガー 47
シンクロスタート 41

ス

スタート／ストップ 40, 105
スタイルセレクト 38
スタイルファイルディスク 66
スタイルファイルロード 66
スタンダードMIDIファイル 129
ストア 61
スプリット機能 30
スプリットポイント 30, 50
スモールABC 50

セ

セーブ 63

ソ

送信チャンネル 103
ソステヌートペダル 37
ソフトペダル 37
ソング 82
ソングコピー 111
ソングデリート 113
ソングナンバー 73
ソングプレイ[トラックプレイ] 74
ソングプレイ[パートアサイン] 75
ソングプレイ[メイン] 73, 75, 78
ソングプレイ[リスト] 73
ソングプレイ[リピート] 79
ソングプレイモード 72
ソングリストプライオリティ 119

タ

第2音色 28
タッチセンシティビティ 101
タップスタート 41
ダンパーペダル 37
ダンパーモード 102
ダンパーレンジ 102

チ

チューン 101

テ

ディスク／カスタムスタイル 66
ディスクオーケストラ・コレクション 72
デチューン 29
デモ演奏 24
デュアル機能 28
展開コード 51
テンポ 39

ト

トータルデプス 34
トラッククオンタイズ 94
トラックデリート 94
トラックミックス 93
トラックレコード 86
トランスフォーム 110
トランスポーズ 100
トランスポーズの送／受信 105

ニ

日本語表示への切り替え 22

ハ

ハーモニー 52
バックアップ 117
パッド 49
早送り 80
パン 62, 101
伴奏スタイル 38
パンチイン／アウト 88

ヒ

ビート 41
左手＆右手 音色 76
拍子 44

フ

ファンクション 99
フィルイン 42
フィンガード 47
フォーマット 107
フルキーボード 48
フレーズ 49
フレーズリピート 79
ブレイク 42
プログラム 104

ヘ

ベース 49
ペダル 102
ヘルプ機能 21

ホ

ボイスエフェクト 35
ポップアップタイム 118
ボリューム 62
ボリューム調節 44, 49, 76

マ

マイクロチューニング 114
マイクロチューニングファイル 115
巻き戻し 80
マスターボリューム 17
マルチトラック録音 86

ミ

ミキサー 21, 76

メ

メインA 40
メインB 40
メトロノーム 44
メモリーバックアップ 23

リ

リコール 118
リコールセクション 61
リズム 49
リタルダンド 43
リネーム 60, 95
リバーブ 33, 62
リバーブタイプリスト 33
リバーブパートデプス 34
リピート 79

レ

レジストレーション 69, 108
レジストレーションバンク 70
レフトペダル 102

ロ

ローカルコントロール 104

ワ

1ソングリピート 79
ワンタッチセッティング 54

メモ

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から１年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリューム コントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後８年です。

●修理のご依頼

まず本書の「故障かな？と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスセンター	〒064	札幌市中央区南10条西1丁目1-50　ヤマハセンター内	TEL.(011)513-5036
仙台サービスセンター	〒983	仙台市若林区卸町5-7　仙台卸商共同配送センター３Ｆ	TEL.(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211	川崎市中原区木月1184	TEL.(044)434-3100
東京サービスステーション＊ （＊お持ち込み修理のみお取扱い）	〒108	東京都港区高輪2-17-11	TEL.(03)5488-6625
浜松サービスセンター	〒435	浜松市上西町911　ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2　ヤマハ(株)名古屋流通センター３Ｆ	TEL.(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565	吹田市新芦屋下1-16　ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.（06)877-5262
四国サービスステーション	〒760	高松市丸亀町8-7　ヤマハ(株)高松店内	TEL.(0878)22-3045
広島サービスセンター	〒731-01	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL.(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL.(092)472-2134
[本社]			
カスタマーサービス部	〒435	浜松市上西町911　ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053)465-1158

*住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

北海道支店／営業課	**〒064　札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内** **TEL. (011) 512-1550**
仙台支店／営業課	**〒980　仙台市青葉区大町2-2-10　住友生命青葉通りビル** **TEL.(022) 222-6144**
東京支店／営業推進課	**〒108　東京都港区高輪2丁目17-11** **TEL.(03) 5488-5464**
関東支店／営業推進課	**〒108　東京都港区高輪2丁目17-11** **TEL.(03) 5488-1680**
名古屋支店／営業推進課	**〒460　名古屋市中区錦1-18-28** **TEL.(052) 201-5145**
大阪支店／営業推進課	**〒542　大阪市中央区南船場3-12-9　心斎橋プラザビル東館** **TEL .(06) 252-2390**
広島支店／営業推進課	**〒730　広島市中区紙屋町1-1-18** **TEL.(082) 244-3748**
九州支店／営業推進課	**〒812　福岡市博多区博多駅前2-11-4** **TEL.(092) 472-2152**
電子楽器営業部／クラビノーバ営業課	**〒430　浜松市中沢町10-1** **TEL.(053) 460-3275**

***住所および電話番号は変更になる場合があります。**

クラビノーバお客様相談窓口　営業時間：月〜土　10:00〜17:00

フリーダイヤル 0120-834808

M.D.G., EMI Division ©Yamaha Corporation 1995